高知県香南市発掘調査報告書　第21集

西野遺跡Ⅲ

（にしの）

―宅地開発に伴う発掘調査報告書―

2024.2

香南市教育委員会

西野（にしの）遺跡Ⅲ

―宅地開発に伴う発掘調査報告書―

2024.2

香南市教育委員会

序

本書は、香南市野市町西野字ルノ丸地区における宅地開発に伴い、香南市教育委員会が令和３年度に発掘調査を実施した西野遺跡の発掘調査報告書です。

香南市の西端を南下し太平洋に注ぐ一級河川である物部川の流域では、古くは弥生時代前期に集落が形成され、以来生活の拠点や交通の要衝として人々の活動が連綿と営まれてきました。その痕跡を残す遺跡がこれまでに多く発見されており、平成 18 年の町村合併以前から旧野市町や高知県により発掘調査が行われてきました。西野遺跡はその中でも重要な遺跡の一つです。

西野遺跡の発掘調査は、宅地造成を契機として平成 17 年度に初めて行われました。その結果、弥生時代から古墳時代へと移り変わる時期の建物跡、古墳時代後期の建物跡をはじめ、平安時代以降に至る時期の遺構や遺物が確認され、規模や形態を変えながらも断続的に生活が営まれてきた土地であることが明らかになりました。本書は西野遺跡の六次調査の成果を収めた発掘調査報告書です。

本書が多くの方々の目に触れ、地域の歴史を探求する上での資料となり、埋蔵文化財を記録保存という形で後世に伝承することの一助となることを願ってやみません。刊行に至るまでに賜りました地域の方々のご理解と関係諸氏のお力添えに対し敬意を表するとともに、厚くお礼を申し上げます。

令和６年２月

高知県香南市教育委員会
教育長　入野　博

例　言

1. 本書は、香南市野市町西野字ルノ丸地区における宅地開発に伴い、令和３年度に香南市教育委員会が実施した西野遺跡の発掘調査報告書である。
2. 西野遺跡は、高知県香南市野市町西野1549番地他に所在する。
3. 発掘調査は5ヵ月と2週間にわたって実施し、発掘調査面積は1,316.27㎡である。
4. 調査期間は、令和3年4月1日から同年9月10日にかけて発掘調査を行い、併せて基礎整理を令和3年度に行った。また、本報告書の執筆・編集及び整理業務を令和4年4月1日から令和5年9月30日にかけて実施した。
5. 発掘調査・整理作業時の香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係の体制は以下の通りである。

令和３年度	課　長	猪原　加江	会計年度任用職員	齋藤　美幸
	係　長	竹中　ちか		高橋　加奈
	主査調査員	横山　藍		高橋　由香
	再任用職員	澤田　秀幸		藤原　ゆみ
	会計年度任用職員	松井　喬行		山崎　佐世
		松田　克純		依光　美佐子
令和４年度	課　長	猪原　加江	会計年度任用職員	齋藤　美幸
	係　長	竹中　ちか		高橋　加奈
	主幹調査員	横山　藍		高橋　由香
		松井　喬行		藤原　ゆみ
	会計年度任用職員	澤田　秀幸		山崎　佐世
		岡林　真史		依光　美佐子
		小松　雅子		
令和５年度	課　長	山崎　正博	会計年度任用職員	齋藤　美幸
	係　長	竹中　ちか		高橋　加奈
	主幹調査員	横山　藍		高橋　由香
		松井　喬行		藤原　ゆみ
	会計年度任用職員	澤田　秀幸		山崎　佐世
		岡林　真史		依光　美佐子
		森　信輔		

6. 本書の刊行に係る作業につき、令和３年度の発掘調査における土層の観察及び写真撮影については松井が行い、遺構の実測及び測量は松井・松田が行った。令和4年度に遺物の実測は齋藤・高橋・高橋・藤原・山崎・依光が行った。遺物の観察・写真撮影、本文の執筆・編集は松井が行った。
7. 遺構については、ST（竪穴建物跡）、SB（掘立柱建物跡）、SK（土坑）、SD（溝跡）、SX（性格不明遺構）、P（ピット）と略号を付し、遺構番号は通し番号を付した。掲載している遺構図の縮尺は基本的に、STについてはS=1/60で作成し、SBをS=1/100、SK・SD・SXをS=1/60で作成した。
方位(N)は世界標準座標方眼北である。

8. 各種遺構図・土層図、及び本文中に記載された高さを示す数値は、T.P.（東京湾平均海面）を基準とする標高値である。
9. 遺物については、弥生土器は縮尺1/4、その他の遺物は縮尺1/3を基本として掲載し、各挿図にはスケールを表記している。
10. 弥生時代後期末～古墳時代初頭の時期に所属する土器については、「弥生土器」に統一した。
11. 発掘調査作業及び整理作業を行っていただいた方々に感謝する。また、報告書作成にあたっては香南市文化財センター諸氏の協力と援助を得た。
12. 発掘作業に際しては、以下の発掘作業員の方々の助力を得た。記して謝意を表する。
岩崎 啓・植田 秀夫・川村 正廣・小池 美知子・島内 洋子・宗圓 良一・田中 召子・林 正彦
山下 啓・吉川 すみ子　（敬称略、五十音順）
13. 出土遺物について、池澤俊幸氏（（公財）高知県埋蔵文化財センター）、松村信博氏の助言を賜った。記して謝意を表する。
14. 調査の実施にあたっては、地域の方々の多大な協力と援助を得た。
15. 出土遺物は、略号を「21－1NNR」と註記し、実測図・写真資料ともに香南市文化財センターにおいて保管している。

本文目次

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過 1
第１節　調査に至る経緯 1
第２節　西野遺跡の過年度調査成果 1
第Ⅱ章　地理的・歴史的環境 3
第１節　地理的環境 3
第２節　歴史的環境 4
第Ⅲ章　調査成果 7
第１節　調査の方法と基本層序 7
1. 調査の方法 7
2. 遺構平面図 8
3. 基本層序 15
第２節　北区 17
1. 竪穴建物跡 17
2. 掘立柱建物跡 21
3. 土坑 22
4. 溝跡 41
5. 性格不明遺構 48
6. ピット 51
7. 遺物包含層・撹乱出土遺物 53
第３節　南区 55
1. 竪穴建物跡 55
2. 掘立柱建物跡 76
3. 土坑 81
4. 溝跡 92
5. 性格不明遺構 97
6. ピット 97
7. 遺物包含層出土遺物 103
第Ⅳ章　考察 107
第１節　主な遺構の所属時期 107
第２節　弥生時代後期末から古墳時代初頭の土器 108
附章　昭和期の土木工事で採集された西野遺跡の土器 113

挿図目次

図1　四国における西野遺跡……1
図2　西野遺跡調査地位置図……2
図3　西野遺跡周辺の地形分類……3
図4　西野遺跡周辺の遺跡……5
図5　調査区グリッド図……7
図6　遺構平面図（S=1/400）……8
図7　北区遺構平面図1（S=1/100）……9
図8　北区遺構平面図2（S=1/100）……10
図9　北区遺構平面図3（S=1/100）……11
図10　南区遺構平面図1（S=1/100）……12
図11　南区遺構平面図2（S=1/100）……13
図12　南区遺構平面図3（S=1/100）……14
図13　北区　東壁・西壁　セクション図……15
図14　北区　北壁　セクション図……16
図15　南区　東壁・西壁・南壁　セクション図……16
図16　ST1　平面図・断面図……17
図17　ST1　出土遺物実測図1……18
図18　ST1　出土遺物実測図2……19
図19　ST2　平面図・断面図……19
図20　ST2　出土遺物実測図1……20
図21　ST2　出土遺物実測図2……21
図22　SB1　平面図・エレベーション図……21
図23　SB2　平面図・エレベーション図……22
図24　SB2　出土遺物実測図……22
図25　SB3　平面図・エレベーション図……22
図26　SK1　出土状態図・断面図……23
図27　SK1　出土遺物実測図1……24
図28　SK1　出土遺物実測図2……25
図29　SK1　出土遺物実測図3……26
図30　SK2　平面図・断面図……26
図31　SK2　出土遺物実測図……26
図32　SK4　平面図・断面図……26
図33　SK4　出土遺物実測図……27
図34　SK6　平面図・断面図……27
図35　SK6　出土遺物実測図……27
図36　SK7　平面図・断面図……27

図37　SK7　出土遺物実測図 27
図38　SK9　平面図・断面図 28
図39　SK9　出土遺物実測図 28
図40　SK10　出土状態図・断面図 28
図41　SK10　出土遺物実測図 29
図42　SK11　平面図・断面図 29
図43　SK11　出土遺物実測図 29
図44　SK12　出土遺物実測図 29
図45　SK14　平面図・断面図 30
図46　SK14　出土遺物実測図 30
図47　SK15　平面図・断面図 30
図48　SK15　出土遺物実測図 31
図49　SK17　平面図・断面図 31
図50　SK17　出土遺物実測図 31
図51　SK18　平面図・断面図 32
図52　SK18　出土遺物実測図 32
図53　SK20　出土遺物実測図 32
図54　SK21　平面図・断面図 32
図55　SK21　出土遺物実測図 32
図56　SK22　平面図・断面図 33
図57　SK22　出土遺物実測図 33
図58　SK23　平面図・断面図 33
図59　SK24　平面図・断面図 33
図60　SK25　断面図 34
図61　SK25　出土遺物実測図 34
図62　SK26　断面図 34
図63　SK26　出土遺物実測図 34
図64　SK27　平面図・断面図 35
図65　SK27　出土遺物実測図 35
図66　SK28　平面図・断面図 35
図67　SK28　出土遺物実測図 36
図68　SK29　平面図・断面図 36
図69　SK29　出土遺物実測図 36
図70　SK30　平面図・断面図 36
図71　SK31　平面図・断面図 37
図72　SK31　出土遺物実測図 37
図73　SK32　平面図・断面図 37
図74　SK33　平面図・断面図 37

図75　SK34　平面図・断面図……37
図76　SK36　平面図・断面図……38
図77　SK37　平面図・断面図……38
図78　SK37　出土遺物実測図……38
図79　SK38　平面図・断面図……38
図80　SK39　平面図・断面図……38
図81　SK41　平面図・断面図……38
図82　SK42　平面図・断面図……39
図83　SK43　平面図・断面図……39
図84　SK44　平面図・断面図……39
図85　SK45　平面図・断面図……40
図86　SK46　平面図・断面図……40
図87　SK46　出土遺物実測図……40
図88　SK47　平面図・断面図……41
図89　SK48　平面図・断面図……41
図90　SD1（北区）　断面図……41
図91　SD1（北区）・SD2　断面図……41
図92　SD1（北区）　出土遺物実測図……42
図93　SD2 西部　断面図……42
図94　SD2 東部　断面図……42
図95　SD2　出土遺物実測図 1……42
図96　SD2　出土遺物実測図 2……43
図97　SD3　断面図……43
図98　SD3　出土遺物実測図……43
図99　SD5　出土遺物実測図……44
図100　SD7　断面図……44
図101　SD8　断面図……44
図102　SD8　出土遺物実測図……44
図103　SD9　断面図……44
図104　SD9　出土遺物実測図……44
図105　SD10　断面図……45
図106　SD11　断面図……45
図107　SD12　断面図……45
図108　SD13　断面図……45
図109　SD14　断面図……46
図110　SD15　断面図……46
図111　SD16　断面図……46
図112　SD17　断面図……46

図113　SD17　出土遺物実測図……46
図114　SD18　断面図……46
図115　SD18　出土遺物実測図……47
図116　SD19　断面図……47
図117　SD21　断面図……47
図118　SD21　出土遺物実測図……47
図119　SD22　断面図……48
図120　SD22　出土遺物実測図……48
図121　SD23　断面図……48
図122　SD24　断面図……48
図123　SD25　断面図……48
図124　SX1　断面図……49
図125　SX1　出土遺物実測図……49
図126　SX2　断面図……50
図127　SX2　出土遺物実測図……50
図128　SX3　断面図……50
図129　SX3　出土遺物実測図……50
図130　SX4　断面図……50
図131　SX4　出土遺物実測図……50
図132　北区 ピット　出土遺物実測図 1……51
図133　北区 ピット　出土遺物実測図 2……52
図134　北区 Ⅲ層　出土遺物実測図……53
図135　北区 Ⅲ・Ⅳ層　出土遺物実測図……53
図136　北区 Ⅳ層　出土遺物実測図……54
図137　北区 Ⅱ′層　出土遺物実測図……54
図138　北区 攪乱　出土遺物実測図……54
図139　ST3　平面図・断面図……55
図140　ST3　遺物出土状態図……56
図141　ST3　出土遺物実測図 1……56
図142　ST3　出土遺物実測図 2……57
図143　ST3　出土遺物実測図 3……58
図144　ST3　出土遺物実測図 4……59
図145　ST3　出土遺物実測図 5……60
図146　ST3　出土遺物実測図 6……61
図147　ST3　出土遺物実測図 7……62
図148　ST4・5　平面図・断面図……62
図149　ST4　出土遺物実測図 1……63
図150　ST4　出土遺物実測図 2……64

図151　ST5 カマド　平面図・断面図 65
図152　ST5　出土遺物実測図 1 65
図153　ST5　出土遺物実測図 2 66
図154　ST6　平面図・断面図 67
図155　ST6 カマド　出土状態図 67
図156　ST6　出土遺物実測図 1 68
図157　ST6　出土遺物実測図 2 69
図158　ST7　平面図・断面図 69
図159　ST7　出土遺物実測図 1 70
図160　ST7　出土遺物実測図 2 71
図161　ST8　平面図・断面図 72
図162　ST8　出土遺物実測図 1 72
図163　ST8　出土遺物実測図 2 73
図164　ST8　出土遺物実測図 3 74
図165　ST8　出土遺物実測図 4 75
図166　ST9　平面図・断面図 75
図167　ST9　出土遺物実測図 75
図168　SB4　平面図・エレベーション図 76
図169　SB4　出土遺物実測図 76
図170　SB5　平面図・エレベーション図 77
図171　SB6　平面図・エレベーション図 77
図172　SB7　平面図・断面図・エレベーション図 78
図173　SB7　出土遺物実測図 78
図174　SB8　平面図・断面図・エレベーション図 79
図175　SB8　出土遺物実測図 79
図176　SB9　平面図・エレベーション図 80
図177　SB9　出土遺物実測図 80
図178　SB10　平面図・エレベーション図 80
図179　SB11　平面図・エレベーション図 81
図180　SB11　出土遺物実測図 81
図181　SK49　出土遺物実測図 81
図182　SK50　平面図・断面図 82
図183　SK50　出土遺物実測図 82
図184　SK51　平面図・断面図 82
図185　SK51　出土遺物実測図 82
図186　SK52　平面図・断面図 83
図187　SK52　出土遺物実測図 83
図188　SK53　平面図・断面図 83

図189　SK53　出土遺物実測図……83
図190　SK54　平面図・断面図……84
図191　SK54　出土遺物実測図……84
図192　SK55　平面図・断面図……84
図193　SK55　出土遺物実測図……84
図194　SK56　平面図・断面図……84
図195　SK56　出土遺物実測図……85
図196　SK57　平面図・断面図……85
図197　SK58　平面図・断面図……85
図198　SK58　出土遺物実測図……85
図199　SK59　平面図・断面図……85
図200　SK59　出土遺物実測図……85
図201　SK60　平面図・断面図……86
図202　SK60　出土遺物実測図……86
図203　SK61　平面図・断面図……86
図204　SK61　出土遺物実測図……86
図205　SK62　出土遺物実測図……86
図206　SK63　平面図・断面図……86
図207　SK63　出土遺物実測図……86
図208　SK64　平面図・断面図……87
図209　SK65　平面図・断面図……87
図210　SK65　出土遺物実測図……87
図211　SK66　断面図……88
図212　SK66　出土遺物実測図……88
図213　SK67　平面図・断面図……88
図214　SK67　出土遺物実測図……88
図215　SK68　出土遺物実測図……89
図216　SK69　出土遺物実測図……89
図217　SK70　平面図・断面図……90
図218　SK70　出土遺物実測図……90
図219　SK71　出土遺物実測図……90
図220　SK74　平面図・断面図……91
図221　SK75　平面図・断面図……91
図222　SK76　出土遺物実測図……91
図223　SK77　出土遺物実測図……91
図224　SK78　平面図・断面図……92
図225　SK78　出土遺物実測図……92
図226　SD1（南区）　断面図……92

図227　SD1（南区）　出土遺物実測図１…… 92
図228　SD1（南区）　出土遺物実測図２…… 93
図229　SD26　断面図…… 93
図230　SD26　出土遺物実測図…… 93
図231　SD27　断面図…… 93
図232　SD29　出土遺物実測図…… 94
図233　SD30　断面図…… 94
図234　SD30　出土遺物実測図…… 94
図235　SD31　断面図…… 95
図236　SD31　出土遺物実測図…… 95
図237　SD32　断面図…… 95
図238　SD33　断面図…… 95
図239　SD33　出土遺物実測図…… 95
図240　SD34　断面図…… 96
図241　SD34　出土遺物実測図…… 96
図242　SD35　断面図…… 96
図243　SD35　出土遺物実測図…… 96
図244　SD36　断面図…… 96
図245　SD36　出土遺物実測図…… 96
図246　SD37　断面図…… 96
図247　SX5　断面図…… 97
図248　SX5　出土遺物実測図…… 97
図249　南区 ピット　出土遺物実測図１…… 99
図250　南区 ピット　出土遺物実測図２…… 100
図251　南区 ピット　出土遺物実測図３…… 101
図252　南区 ピット　出土遺物実測図４…… 102
図253　南区 ピット　出土遺物実測図５…… 103
図254　南区 Ⅲ層　出土遺物実測図…… 103
図255　南区 Ⅲ・Ⅳ層　出土遺物実測図…… 104
図256　南区 Ⅳ層　出土遺物実測図１…… 104
図257　南区 Ⅳ層　出土遺物実測図２…… 105
図258　南区 Ⅳ層　出土遺物実測図３…… 106
図259　主な遺構の時期概念図…… 107
図260－１　甕・壺の様相…… 111
図260－２　鉢・高杯・支脚の様相…… 112
図261　昭和期における西野遺跡の土器採集地位置図…… 113
図262　昭和期における西野遺跡の採集土器実測図…… 114

表目次

表1　北区　ピット計測表……51
表2　南区　ピット計測表1……97
表3　南区　ピット計測表2……98
表4　南区　ピット計測表3……99
表5　土器の分類……109
表6　昭和期における西野遺跡の採集土器観察表……114
遺物観察表……115

写真図版目次

図版1　北区　遺構完掘状態(垂直)
図版2　調査区周辺　空中写真(南より)
　　調査区周辺　空中写真(北東より)
図版3　北区 西部　遺構完掘状態(南より)
　　北区 中部　遺構完掘状態(南より)
図版4　北区 東部　遺構完掘状態(南より)
　　北区　北壁セクション(南西より)
図版5　ST1　セクション(南より)
　　ST2　遺物出土状態(北より)
図版6　SK1　セクション・遺物(64他)出土状態(東より)
　　SK1　遺物出土状態(東より)
図版7　SK10　遺物(113・115・118他)出土状態(南東より)
　　SK25　セクション(西より)
図版8　SK26　円礫出土状態(南東より)
　　SK35　機能面検出状態(北より)
図版9　SD1(北区) 検出面　石列出土状態(南より)
　　SD1(北区)　セクション(南より)
図版10　南区　遺構完掘状態(垂直)
図版11　南区　遺構検出状態(垂直)
　　南区 南部　遺構完掘状態(南より)
図版12　南区 西部　遺構完掘状態(北より)
　　南区 東部　遺構完掘状態(垂直)
図版13　南区 西部　南壁セクション(北西より)
　　ST3　遺物出土状態(南より)
図版14　ST3　北半セクション(東より)

図版14　ST4　セクション(南より)
図版15　ST5　遺物(444・445・457)出土状態(東より)
　　ST6 カマド　遺物(460・464)出土状態(西より)
図版16　ST6 カマド　半裁状態(南西より)
　　ST7　北半セクション(西より)
図版17　ST8　西半セクション(南より)
　　ST9　セクション(西より)
図版18　SD1(南区)　セクション(南より)
　　P282　遺物(689)出土状態(南より)
図版19　P829　遺物(780)出土状態(西より)
　　南区 Ⅳ層　遺物(846)出土状態(南西より)
図版20　出土遺物写真(64)
図版21　出土遺物写真(27～31・73)
図版22　出土遺物写真(307・310・311・314～316)
図版23　出土遺物写真(317・327・385・442・444・458)
図版24　出土遺物写真(460・463・464・470・476・520)
図版25　出土遺物写真(582・586・612・615・616・660)
図版26　出土遺物写真(689・708・717・720・732・846)
図版27　出土遺物写真(6・9・10・15・23～26)
図版28　出土遺物写真(40・48・67・69・82・88・90・96)
図版29　出土遺物写真(99・182～184・192・203・204・213)
図版30　出土遺物写真(229・230・233・260・266・279・280・284)
図版31　出土遺物写真(290・292・295・305・325・328・330)
図版32　出土遺物写真(331・342・350・357・360・377・380・382)
図版33　出土遺物写真(387・399・408・420・426・427・429・436)
図版34　出土遺物写真(441・445・446・456・465・468・469・471)
図版35　出土遺物写真(485・498・506・509・513・521・523・524)
図版36　出土遺物写真(532・537・540・550・567・609・659・677)
図版37　出土遺物写真(737・738・780・781・785・786・790・845)
図版38　出土遺物写真(12・19・33・41～44・50・52・60)
図版39　出土遺物写真(62・66・75・85～87・89・97・110・113)
図版40　出土遺物写真(115・118・137・153・176・190・191・197・205・217)
図版41　出土遺物写真(224・226・231・235・267・276・281～283・285)
図版42　出土遺物写真(293・298・299・301・303・340・343・346・354・355)
図版43　出土遺物写真(359・361・362・364・365・368・369・372～374)
図版44　出土遺物写真(375・378・381・383・388・391・409・411・414・421)
図版45　出土遺物写真(422・425・431・433・439・440・448・450・452・467)
図版46　出土遺物写真(484・486・492・502・519・525・526・531・535・536)

図版47　出土遺物写真(538・544・545・552・562・563・576・580・588・610・624)
図版48　出土遺物写真(631・633・639・653・654・661・668・680・682・683)
図版49　出土遺物写真(693・697・701～703・706・710・724・740・748)
図版50　出土遺物写真(756・782・761・766・787・789・792～795・797)
図版51　出土遺物写真(798・800・803～808・815・817)
図版52　出土遺物写真(818・819・821・823・828・830～832・842～844)
図版53　①昭和47年(1972年)採集遺物(弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、土製品、丸瓦)
　　②昭和49年(1974年)採集遺物(弥生土器)
図版54　③昭和57年(1982年)採集遺物(弥生土器、土師器、須恵器)
　　④昭和60年(1985年)採集遺物(弥生土器、土師器)

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

香南市野市町西野字ルノ丸において令和３年度に計画された民間による宅地開発に伴い、香南市教育委員会が主体となり、令和２年９月８日～ 18 日に試掘調査を実施した。調査地点は、西野遺跡の範囲の中心からやや南東部に位置する。

調査対象地周辺では、平成 17・18・19 年度及び 22 年度に、宅地開発に伴う発掘調査が計５回にわたり旧野市町教育委員会及び香南市教育委員会により実施されており、弥生時代後期末～古墳時代初頭、古墳時代後期を主体とする竪穴建物跡などの遺構が多数確認された地域である。このため、今回の対象地においても当該期の埋蔵文化財が遺存する可能性が高いことが予想された。

試掘調査は、調査対象地の内、宅地の区画道路が敷設される範囲において、計４箇所に一辺 4m のトレンチを掘削した。調査の結果、表土下 20cm前後において層厚 15cm前後の遺物包含層が確認され、掘削及び精査の結果、遺構が多数検出された。出土遺物は、器面にタタキ目調整のある弥生土器の他、土師器や須恵器などである。この結果を受けて、開発計画範囲内の道路敷設予定範囲全面において発掘調査を行う必要があると判断された。なお、試掘調査においては遺構の検出のみとし、遺物包含層から出土した遺物は、本調査出土遺物との接合関係を確認後、本調査における出土遺物と合わせて本報告書に掲載した。

西野遺跡の本発掘調査は六次調査であり、香南市教育委員会が主体となり実施した。

第２節　西野遺跡の過年度調査成果

西野遺跡の発掘調査は宅地開発に伴うものであり、事前に実施された試掘調査により埋蔵文化財の遺存を確認した後、永久構造物である道路敷設範囲及び浄化槽設置範囲につき本調査を実施した。

一次調査は平成 17 年度に実施され、平成 24 年度に発掘調査報告書『西野遺跡ルノ丸地区 2005 年度調査』が刊行された。調査面積は 564㎡である。弥生後期末～古墳初頭の竪穴建物跡４棟や土

図１　四国における西野遺跡

坑などが検出された。土坑から出土したＵ字形鍬・鋤先が注目される。他の時期では、古墳後期、古代、古代末～中世前期の遺構が検出された。

二次調査及び三次調査は平成18年度に実施された。二次調査は平成18年度の約１年間実施され、調査面積は4,500㎡である。三次調査は平成18年度の10月から約６ヵ月間実施され、調査面積は3,000㎡である。二次調査の報告書は令和５年度に『西野遺跡Ⅱ』として公刊された。遺構・遺物の所属時期は第一次調査と概ね共通し、弥生後期末～古墳初頭、及び古墳後期の竪穴建物跡等が多く検出された。三次調査では調査区南西部の竪穴建物跡から青銅器銅矛再加工品が出土した。

四次調査は平成19年度に実施された。調査範囲は二次調査の調査区の南東部で、浄化槽設置範囲の170㎡を調査した。調査区は北区と南区に分かれる。遺構・遺物の所属時期は二次調査と共通し、竪穴建物跡３棟等が検出された。

五次調査は平成22年度に２ヵ月余りの期間で実施された。調査面積は約700㎡である。遺構・遺物の所属時期は基本的には以前の調査と共通するが、弥生前期末の土坑と溝跡、及び弥生後期前半の土器が検出されたことが特徴的である。

六次調査は令和３年度に５ヵ月と２週間の期間で実施された。調査区は北区と南区に分かれ、面積は合計1,316.27㎡である。弥生後期末～古墳初頭、古墳後期の竪穴建物跡のほか、古代～中世と考えられる遺構・遺物も検出された。調査成果の全ては本書に収録されている。

図２　西野遺跡調査地位置図

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

西野遺跡は物部川左岸の段丘上段に立地する。同左岸に接し、標高が４～5m低い段丘下段の自然堤防上には下ノ坪遺跡が近接し、北側には深渕遺跡が所在する。西野遺跡と同じ段丘上段には、南側に北地遺跡が近接する。下ノ坪遺跡や深渕遺跡では、弥生時代後期に形成された集落跡や、奈良・平安時代に地方官衙の施設が存在したことを示唆する大型の掘立柱建物跡、物部川河口を経由した海運の要衝であったことを示す遺構や遺物が確認されており、各時代において生業活動の拠点となった地域といえる。

物部川は剣山系の白髪山（1,770m）に源を発し渓谷をほぼ南西に流れ、高知平野東部を貫流して土佐湾に注ぐ幹川であり、流長71km、流路面積508㎢の一級河川である。上流は深いＶ字形の渓谷をなし、中流部は段丘地形が発達して香北町美良布付近では河岸段丘が続き、下流部の土佐山田町神母ノ木（いげのき）辺りからは急激に開けて広い扇状地を形成し、香長平野となって広がっている。下流部は物部川の氾濫によって運ばれた厚い表土に覆われた沖積層からなり、肥沃な土地と気候条件によって豊富な農作物を産出している。かつての物部川は扇状地の要にあたる山田堰（野中兼山により1664年に築造）付近から河口まで扇状地面上を現河道の東岸一帯にわたって幾条にも分かれ、屈曲・蛇行・分流・合流を繰り返しながら南下し、洪水のたびごとに主流路の変わる荒れ川であったと考えられている。西野遺跡は現河口から約2km上流の地点で、川面の海抜はおよそ10mである。なお、調査地の調査前地表面標高は18.8m前後、遺構検出面標高は18.5m前後となっている。

西野遺跡を擁する野市町付近の地質は、仏像構造線を境に北側に秩父帯南帯の三宝山層群（上部三畳系～下部ジュラ系）が分布し、南側に四万十帯北帯の北側にある新庄川層群（白亜系）が分布している。西野遺跡は三宝山層群の範囲に入る。野市町周辺における三宝山層群の特徴は、石灰岩やチャートの岩塊の卓越層である。仏像構造線自体は鮮新世以降の動きはなく、古い時代の断層であって活断層ではないと評価される。西野遺跡は、上記のような基盤の上に形成された更新世段丘（約１万年より前に形成された古い段丘）上に展開した集落遺跡である。

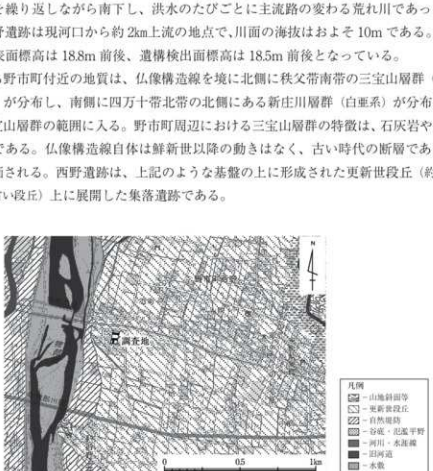


図３　西野遺跡周辺の地形分類

第２節　歴史的環境

物部川は下流域において中・上流域の狭量・急峻な谷地形から扇状地状に遷移し、川幅を広げて幾筋もの河道が時代によりその姿を変えてきたと考えられる。香長平野に至り川幅を広げる地点、すなわち物部川下流の起点は、現在の香美市土佐山田町楠目・神母ノ木付近である。ここから河口までの約 10㎞の下流域において、弥生時代～古墳時代にかけて集落が形成され、その後も古代～近世に至るまで生活や輸送等の拠点として機能したことが発掘調査により明らかになっている。

物部川下流の起点付近から土佐山田町戸板島や野市町西佐古付近までは左岸・右岸とも集落が形成されるが、それより下流は河口に至るまで左岸のみに形成されたと考えられる。右岸は洪水が起こるたびに流路が大きく変わり、居住地として定着し難かったためである。

土佐山田町林田・加茂（物部川左岸）に所在する林田遺跡では、昭和 58 年と平成 12 年に発掘調査が実施され、弥生後期～古墳初頭の竪穴建物跡が合計 9 棟検出された。竪穴建物廃絶時の祭祀行為と考えられる礫及び土器の集中を伴う事例も確認されている。

林田遺跡の北側に隣接する林田シタノヂ遺跡では平成 4 年に発掘調査が実施され、縄文後期～晩期の土器の出土が注目されたが、弥生についてもⅣ様式期と考えられる凹線文土器が出土している。調査地周辺は近世の開墾を受けており、弥生の小規模集落が存在した可能性は残る。

土佐山田町山田（物部川右岸）に所在する稲荷前遺跡では平成元年に発掘調査が実施され、中期後半末に比定される竪穴建物跡が検出された。そのほかの遺構・遺物の残存状況から、弥生中期～後期に至るまで集落が存続していたと考えられている。

稲荷前遺跡の南西約 800m に所在する原南遺跡では平成 20 年に発掘調査が実施され、流路や遺物包含層から弥生後期と考えられる土器が出土した。古墳後期以降と考えられる隅丸方形の竪穴建物跡 1 棟が検出された。

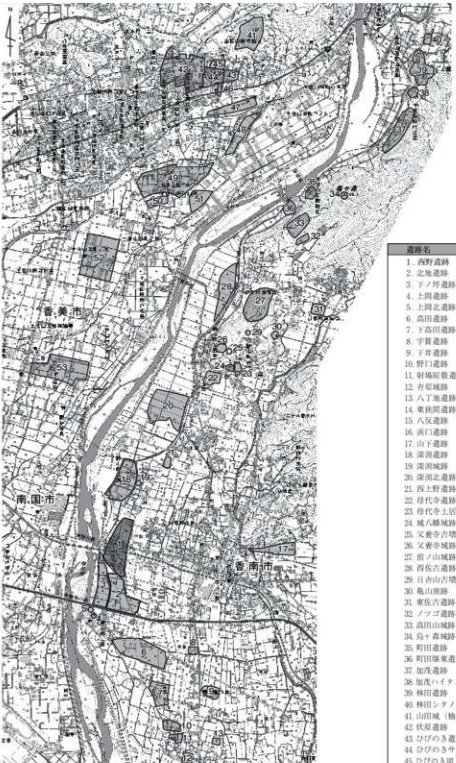
南国市福船（物部川右岸）に所在する岩村遺跡群では平成 7 ～ 10 年にかけて発掘調査が実施され、弥生前期後葉の土坑をはじめ、弥生後期～古墳初頭の竪穴建物跡が 13 棟検出された。ここより下流の物部川右岸には弥生集落が見られない。

物部川左岸、岩村遺跡群の対岸付近に所在する深渕遺跡では昭和 62･63 年に発掘調査が実施され、弥生後期の円形及び方形竪穴建物跡のほか、壺棺も検出されており、集落とそれに伴う墓域の検出事例となった。古墳時代では、建物内部にカマドを伴う大型の方形竪穴建物跡が検出された。

下ノ坪遺跡では平成 7・8 年に発掘調査が実施され、弥生後期の円形及び隅丸方形の竪穴建物跡が複数検出された。建物の床面から多くのガラス小玉が出土した例も注目される。古墳時代では、建物内部にカマドを伴う方形竪穴建物跡が複数検出された。

北地遺跡では平成 15 年に発掘調査が実施され、弥生中期初頭～中葉を主体とする竪穴建物跡や土坑が多く検出された。当該期の土器のほか、石器や祭祀関連遺物が出土した。弥生後期前半の竪穴建物跡から青銅鏡（破鏡）が出土したことも注目される。また、令和 3 年に実施された発掘調査では、弥生中期と考えられる遺物包含層から線刻を有する人形土製品の頭部が出土し注目を集めた。

物部川下流域において弥生集落が最も活発に展開する西野遺跡・北地遺跡、及び下ノ坪遺跡・深渕遺跡を含む一帯からやや南に所在する上岡遺跡では、平成 8 年ほかに実施された発掘調査で弥生後期中葉の竪穴建物跡 2 棟等が検出された。周辺は弥生時代以降の河川の氾濫や近世・近代の堤防築堤の影響を受けており、集落の規模はより大きかった可能性がある。



遺跡名	時代／種別
1. 西野遺跡	弥生～古代／集落跡
2. 北加遺跡	弥生～中世／集落跡
3. ドノ坪遺跡	弥生～古代／集落跡
4. 上岡遺跡	弥生・古代／散布地
5. 上岡北遺跡	弥生／散布地
6. 高田遺跡	弥生～中世／集落跡
7. 下高田遺跡	古代・中世／集落跡
8. 宇賀遺跡	弥生～中世／集落跡
9. 下芳遺跡	古代・中世／散布地
10. 野口遺跡	弥生～中世／散布地
11. 射場原散遺跡	弥生・古代～近世／集落跡
12. 吉原城跡	中世／城跡
13. 八丁地遺跡	古代／集落跡
14. 東挑間遺跡	弥生・古代・中世／集落跡
15. 八反遺跡	中世／散布地
16. 浜口遺跡	弥生・古墳／散布地
17. 山下遺跡	古代・中世／集落跡
18. 深渕遺跡	縄文～中世／集落跡
19. 深渕城跡	中世／城跡
20. 深渕北遺跡	弥生～中世／散布地
21. 西上野遺跡	弥生／散布地
22. 母代寺遺跡	古代・中世／散布地
23. 母代寺土居屋敷遺跡	中世／集落跡
24. 城ノ越城跡	中世／城跡
25. 父兼寺古墳	古墳／古墳
26. 父兼寺城跡	中世／城跡
27. 前ノ山城跡	中世／城跡
28. 西佐古遺跡	古代・中世／散布地
29. 日吉山古墳群	古墳／古墳
30. 亀山窯跡	弥生・古代・中世／窯跡
31. 東佐古遺跡	弥生／散布地
32. ノツゴ遺跡	弥生・古代／散布地
33. 高田山城跡	中世／城跡
34. 烏ヶ森城跡	中世／城跡
35. 町田遺跡	弥生～中世／散布地
36. 町田原東遺跡	縄文～中世／散布地
37. 加茂遺跡	古墳～中世／散布地
38. 加茂ハイタノクボ遺跡	古代／窯跡
39. 林田遺跡	縄文～中世／集落跡
40. 林田シタノボ遺跡	縄文～近世／集落跡
41. 山田城（楠目城）跡	中世／城跡
42. 伏原遺跡	弥生～古代・近世／集落跡
43. ひげのき遺跡	弥生・古墳／集落跡
44. ひげのきサウジ遺跡	弥生・中世・近世／集落跡
45. ひげのき岡／神母遺跡	弥生～中世／集落跡
46. 大塚遺跡	弥生・中世／集落跡
47. 楠目遺跡	弥生～近世／集落跡
48. 稲荷前遺跡	弥生～近世／集落跡
49. 原遺跡	弥生～近世／集落跡
50. 原南遺跡	弥生～近世／集落跡
51. 高柳遺跡	弥生～中世／散布地
52. 大朝遺跡	古墳～中世／散布地
53. 岩村遺跡群	弥生～近世／集落跡

図４　西野遺跡周辺の遺跡

物部川河口付近、香南市吉川町吉原に所在する東狭間遺跡では平成29年に発掘調査が実施され、弥生後期後葉の竪穴建物跡が2棟検出された。建物跡はいずれも中型の隅丸方形状であり、内1棟は床面中央に燃焼施設の可能性のある土坑を伴う。近隣には時期や形態の共通する竪穴建物跡が検出された射場屋敷遺跡が所在し、水域からやや内陸域までの集落の広がりを想起させる。

高知平野における中小集落は、弥生後期末～古墳初頭に水域から距離を隔てた場所に営まれるものと、弥生後期中葉に成立して前者よりも存続時期がやや長く、水運に密接な立地状況を示し搬入土器を伴うものに二分されるが（出原恵三 1997）、上述のうち林田遺跡は前者に属し、岩村遺跡群・深渕遺跡・下ノ坪遺跡は後者の条件を満たしている。西野遺跡は前者に属すと考えられるが、搬入土器も一定程度出土する。また古墳後期に至ると再び集落を拡大し、断続的であるが長期継続性を見せる遺跡である。

参考文献

国土交通省四国地方整備局、2003、「川と人との歴史ものがたり」『四国地方の古地理に関する調査報告書』

谷田澁ほか（株）エイトコンサルタント、『高知県野市町付近における仏像構造線周辺の断層と地質』

日本地質学会 編、2016、『日本地方地質誌7 四国地方』、朝倉書店

日本の地質「四国地方」編集委員会、1991、『日本の地質8 四国地方』、共立出版

小林麻由、2009、『原南遺跡』、香美市教育委員会

更谷大介・溝渕真紀、2005、『上岡遺跡』、野市町教育委員会

高橋啓明・出原恵三・吉原達生、1989、『深渕遺跡発掘調査報告書』、野市町教育委員会

出原恵三、2002、『林田遺跡Ⅱ』、（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター

出原恵三・池澤俊幸・小松大洋・行藤たけし、1997、『下ノ坪遺跡Ⅰ』、野市町教育委員会

松村信博・藤方正治、2013、『西野遺跡ルノ丸地区 2005年度調査　高知県香南市発掘調査報告書 第10集』、香南市教育委員会

松村信博・宮地啓介、2011、『北地遺跡　高知県香南市発掘調査報告書 第5集』、香南市教育委員会

三谷民雄・武市義浩・西村直也・西山直利、1997、『岩村遺跡群Ⅱ』、南国市教育委員会

宮地啓介、2016、『射場屋敷遺跡　高知県香南市発掘調査報告書 第12集』、香南市教育委員会

宮地啓介、2019、『東狭間遺跡　高知県香南市発掘調査報告書 第14集』、香南市教育委員会

宮地啓介、2021、『東狭間遺跡　高知県香南市発掘調査報告書 第18集』、香南市教育委員会

森田尚宏・吉原達生、1990、『稲荷前遺跡発掘調査報告書』、土佐山田町教育委員会

第Ⅲ章　調査成果

第１節　調査の方法と基本層序

1. 調査の方法

発掘調査を実施した範囲は、宅地開発が計画される範囲内において区画道路が敷設される位置である。図５に示すように、調査区は北区と南区に分かれる。調査面積は、北区が596.38㎡、南区が719.89㎡、合計1316.27㎡である。

調査に際しては、調査範囲の区画の形状に沿う形で東西及び南北の軸線を設定し、一辺4mの格子（グリッド）により調査区を細分した。グリッド軸は真北方向より5.5°東に振る方向である。東西軸を北から南へアルファベットのＡ～Ⅴ、南北軸を西から東へアラビア数字の１～13とし、各グリッドの左上の交点をグリッド番号とし、A1、B2、…のように呼称した。出土遺物の取り上げ及び遺構平面図等の実測は、このグリッドを基準に行った。

令和２年９月に実施した試掘調査では、本グリッドにおけるE4、E11、N7、T4に相当する位置を調査し、遺物包含層及び遺構が検出された。試掘調査の結果を基に表土を機械掘削し、出土遺物に注意しつつ包含層下層の深さまで掘り下げた。以下は人力により掘削・精査を行い、遺構を検出した。遺構の掘削についてもすべて人力により行った。各遺構については掘削後（出土遺物の多い遺構については出土段階で）写真撮影を行い、平面図と、必要に応じて断面図を任意縮尺により作成した。また、各調査区全体の遺構完掘後、空中写真を撮影した。

遺構名は、検出及び調査順に連番を付した。北区から調査を開始し、続けて南区を調査したが、遺構名は一連の通し番号とし、調査時に付した遺構名で報告した。調査の過程で統合された遺構や、種類の認識の変更により欠番となった遺構については、本報告では欠番のままとした。SBについては、掘立柱建物跡に復元可能と考えられるものにつき、整理作業時に番号を付した。

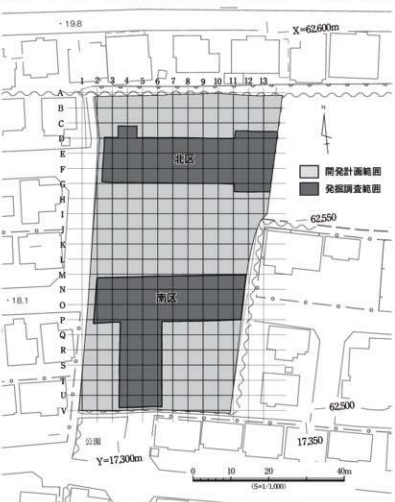


図５　調査区グリッド図

2. 遺構平面図

本発掘調査において検出した遺構の完掘平面図を以下に示す。

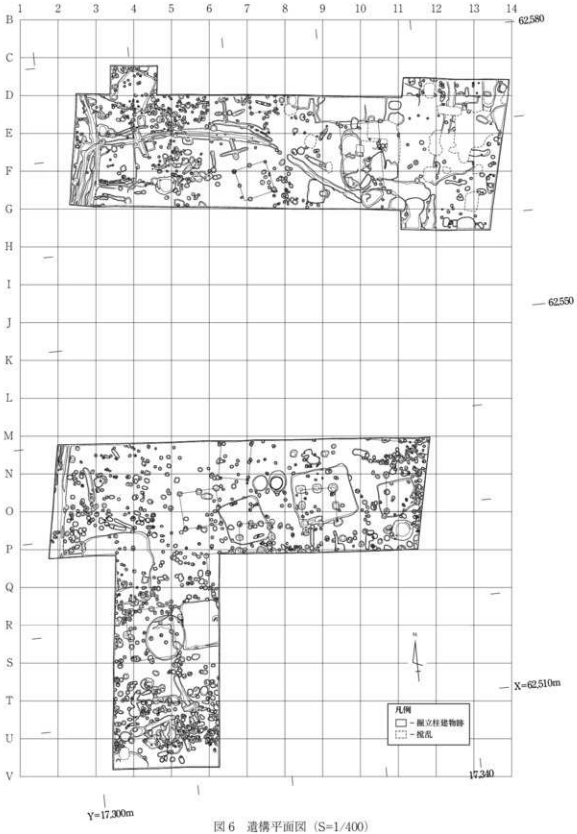
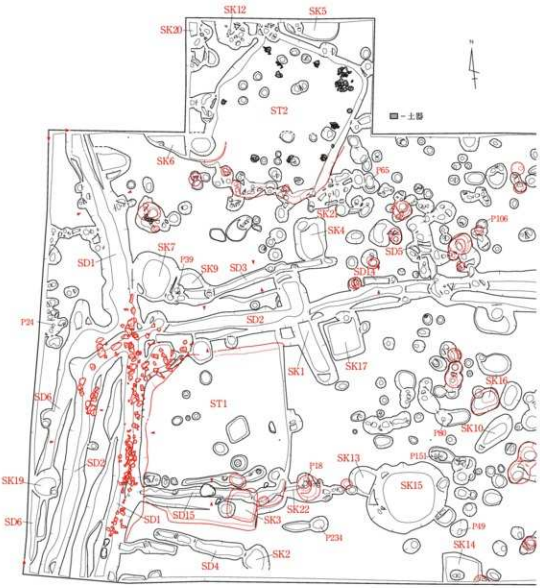
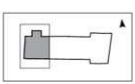


図6　遺構平面図（S=1/400）





凡例
1 「► ◄」は、セクションポイントを示す。
2 赤色の線は、調査の過程で形状が失われた遺構、
及び上層で検出した石列を示す。

0　1　2　4m
(S=1/100)

図7　北区遺構平面図1（S=1/100）

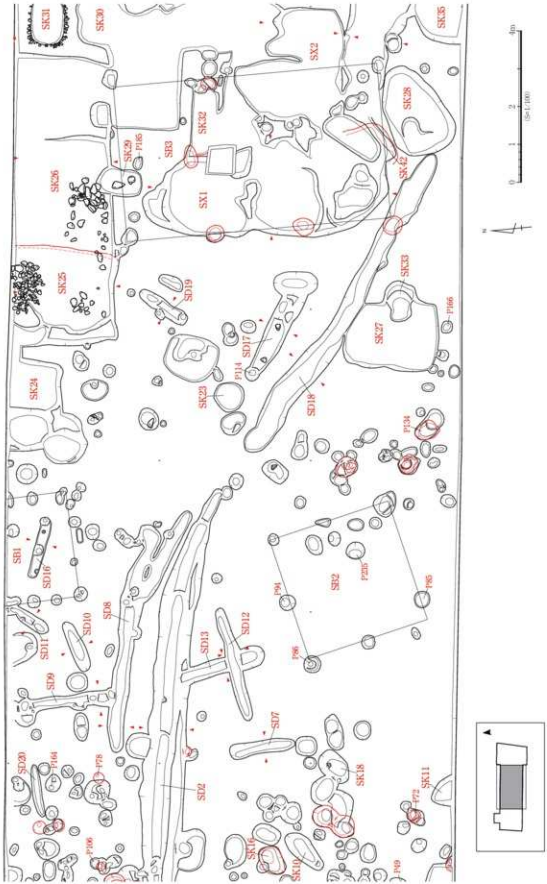


図８　北区遺構平面図２（S=1/100）

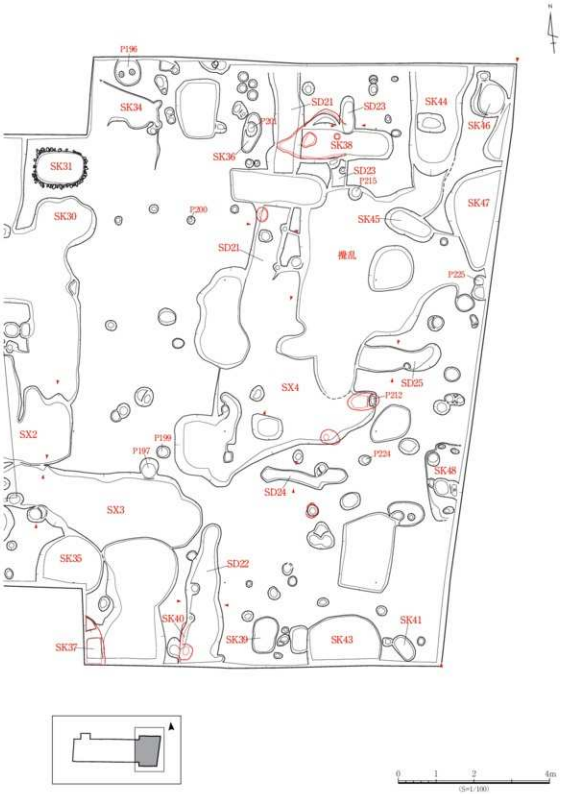


図９　北区遺構平面図３（S=1/100）

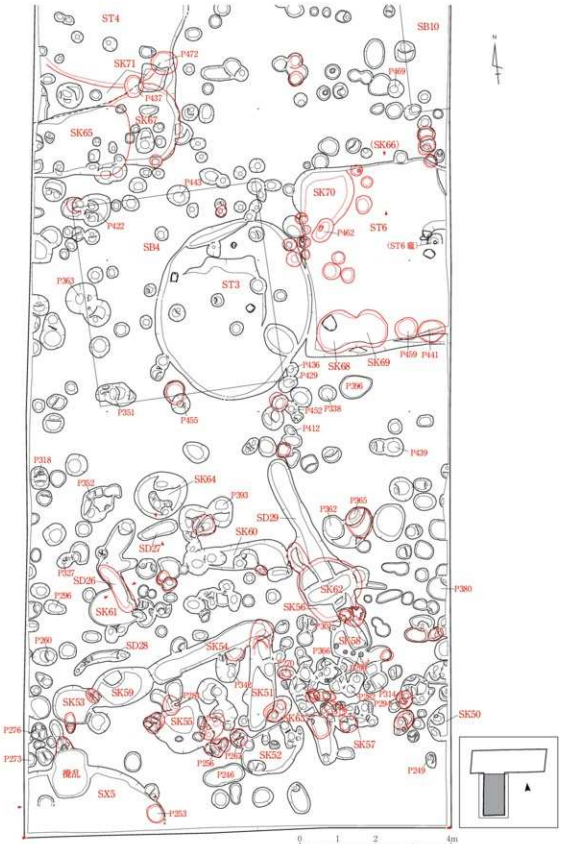


図10　南区遺構平面図1（S=1/100）

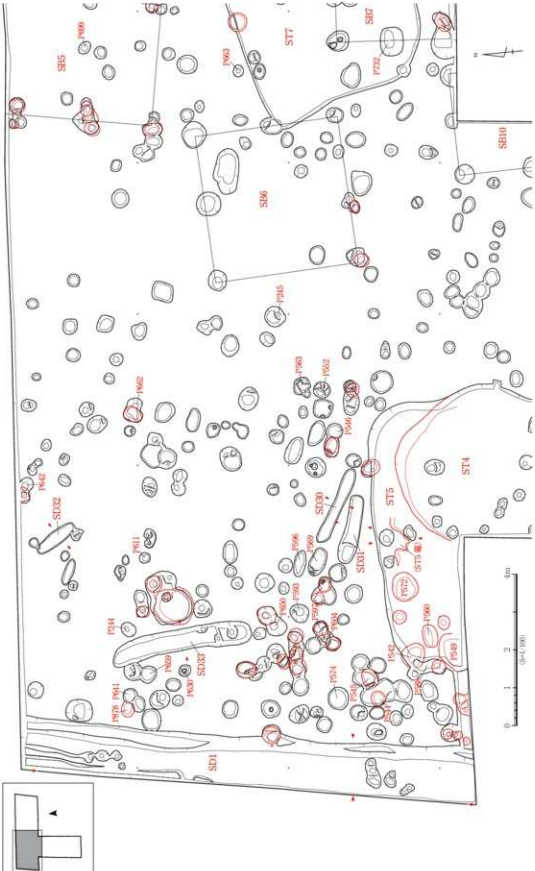


図 11　南区遺構平面図 2（S=1/100）

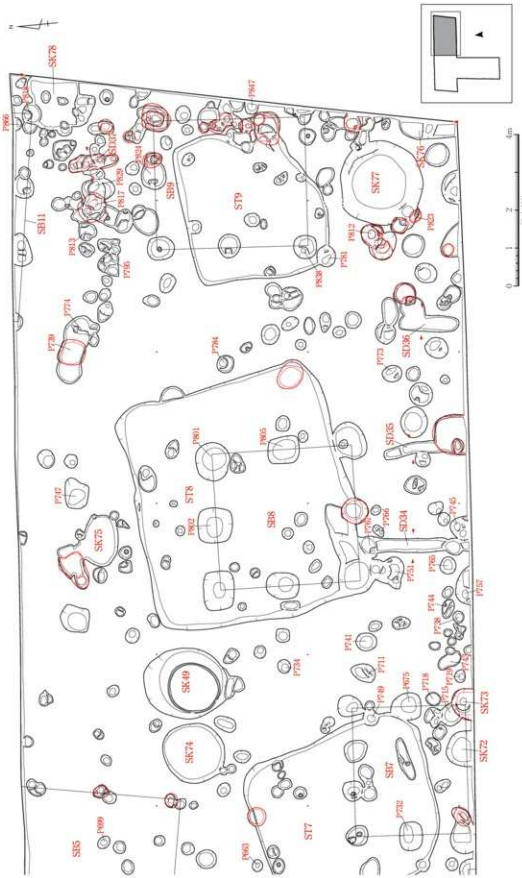


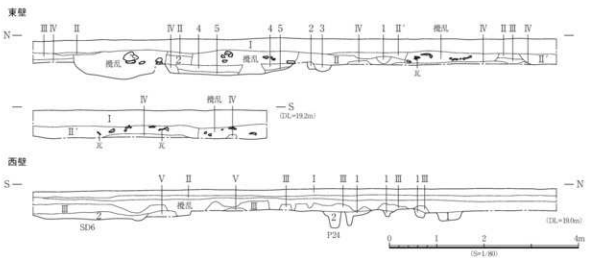
図12　南区遺構平面図3（S=1/100）

3. 基本層序

調査区の基本層序は、北区では東壁・西壁・北壁で確認し、南区では東壁・西壁・南壁で確認して図示した。調査地全体の概観としては、ほぼ一様な水平堆積をなしており、地表下 25 ～ 30cm程度は耕作土の堆積、以下は層厚 15 ～ 35cm程度の遺物包含層（以下包含層と呼ぶ）が堆積する状況である。旧地形の起伏により、包含層が厚く堆積する部分と、河原石（円礫）が多く露出し包含層の堆積が浅い部分が南北方向の帯状に分布する。遺構は基本的に包含層下層において、同一面で検出した。層位は上から順にローマ数字を付し、遺構埋土はアラビア数字を付した。

北区の第Ⅰ層は暗褐色（7.5YR3/3）シルト層で耕作土（表土）、第Ⅱ層は明黄褐色（10YR6/8）シルトブロックが混じる暗褐色（10YR3/4）シルト層、第Ⅲ層は灰黄褐色（10YR4/2）シルトが斑に混じる黒褐色（10YR2/2）シルト層で包含層、第Ⅳ層は黒褐色（10YR2/3）シルト層で包含層であり、第Ⅴ層は黄褐色（10YR5/6）粘土質シルト層を主体とする地山である。包含層は調査区の西半部に厚く堆積し、東半部は薄い。第Ⅳ層は西半部のみの堆積である。また、北区は東部が部分的に近現代の攪乱を受けており、この近現代層を第Ⅱ´層とした。第Ⅱ´層は、5 ～ 20cm 大の円礫を含む暗褐色（10YR3/4）シルト層である。

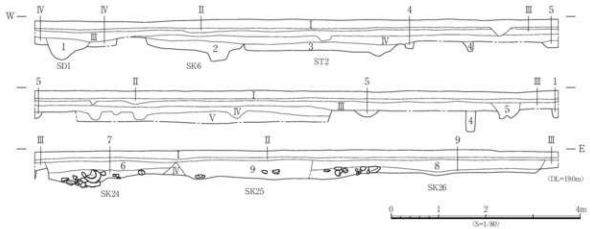
南区の第Ⅰ層は黒褐色（10YR3/2）細砂混じりシルト層の耕作土（表土）、第Ⅱ層は暗褐色（10YR3/2）粘土質シルトが斑に混じる黒褐色（10YR2/3）シルト層、第Ⅲ層は灰黄褐色（10YR4/2）シルトが斑に混じる黒褐色（10YR2/2）シルト層で包含層、第Ⅳ層は黒褐色（10YR2/3）シルト層で包含層、第Ⅴ層は黄褐色（10YR5/6）粘土質シルト層で地山である。北区同様、包含層の堆積は西側で厚く、第Ⅳ層の堆積は西半部のみである。



層位
第Ⅰ層　暗褐色（7.5YR3/3）シルト（耕作土）
第Ⅱ層　暗褐色（10YR3/4）シルトに
明黄褐色（10YR6/8）シルトブロックが混じる
第Ⅱ´層　暗褐色（10YR3/4）シルトに5～20cm 大の円礫を含む
第Ⅲ層　黒褐色（10YR2/2）シルトに灰黄褐色（10YR4/2）シルトが
斑に混じる（包含層）
第Ⅳ層　黒褐色（10YR2/3）シルト（包含層）
第Ⅴ層　黄褐色（10YR5/6）粘土質シルト（地山）

遺構埋土
1. 黒褐色（10YR2/3）シルト
2. 黒褐色（10YR2/3）シルトににぶい黄褐色（10YR5/4）シルトが
斑に混じる
3. 暗褐色（10YR3/3）シルトに褐色（10YR4/4）シルトが粒状に混じる
4. 黒褐色（10YR2/2）シルト
5. 黒褐色（10YR2/3）シルトに褐色（10YR4/4）シルトが混じる

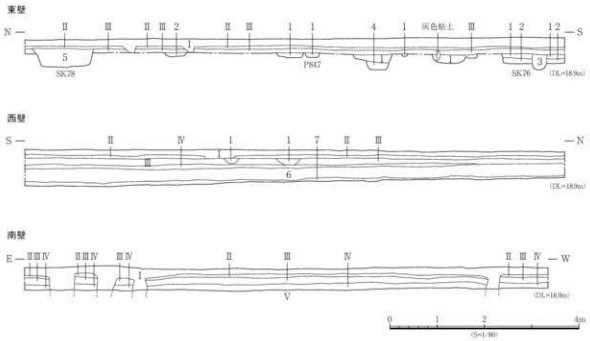
図 13　北区　東壁・西壁　セクション図



層位
第Ⅰ層　暗褐色（7.5YR3/3）シルト（耕作土）
第Ⅱ層　暗褐色（10YR3/4）シルトに明黄褐色（10YR6/8）シルトブロックが混じる
第Ⅲ層　黒褐色（10YR2/2）シルトに灰黄褐色（10YR4/2）シルトが斑に混じる（包含層）
第Ⅳ層　黒褐色（10YR2/3）シルト（包含層）
第Ⅴ層　黄褐色（10YR5/6）粘土質シルト（地山）

遺構理土
1. 暗褐色（10YR3/3）シルトに0.5～2cm大の小礫が混じる
2. 黒褐色（10YR2/2）シルトに黄褐色（10YR5/6）砂質シルトが混じる
3. 黒褐色（10YR2/3）シルトに明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトが粒状に混じる
4. 黒褐色（10YR2/3）シルトににぶい黄褐色（10YR5/4）シルトが斑に混じる
5. 黒褐色（10YR2/3）シルト黒褐色（10YR3/2）シルト
6. 暗褐色（10YR3/3）シルトに黄褐色（10YR5/6）シルトが混じる
7. 黒褐色（10YR2/3）シルトに5～25cm大の円礫を多く含む
8. 黒褐色（10YR3/2）シルト
9. 暗褐色（10YR3/3）シルトに黄褐色（10YR5/6）砂質シルトが混じる

図14　北区　北壁　セクション図



層位
第Ⅰ層　黒褐色（10YR3/2）細砂混じりシルト（耕作土）
第Ⅱ層　黒褐色（10YR2/3）シルトに暗褐色（10YR3/2）粘土質シルトが斑に混じる
第Ⅲ層　黒褐色（10YR2/2）シルトに灰黄褐色（10YR4/2）シルトが斑に混じる（包含層）
第Ⅳ層　黒褐色（10YR2/3）シルト（包含層）
第Ⅴ層　黄褐色（10YR5/6）粘土質シルト（地山）

遺構理土
1. 黒褐色（10YR2/3）シルトに褐色（10YR4/4）シルトが粒状に混じる
2. 褐色（10YR4/4）シルトに暗褐色（10YR3/3）シルトが混じる
3. 黒褐色（10YR2/3）シルト
4. 暗褐色（10YR3/3）シルトに黒褐色（10YR2/2）シルト及び褐色（10YR4/4）シルトが斑に混じる
5. 黒褐色（10YR2/3）シルトに黄褐色（10YR5/6）砂質シルトが粒状に混じり炭化物を含む
6. 黒褐色（10YR2/3）シルトに暗褐色（10YR3/4）シルトが混じる（SD1）
7. 暗褐色（10YR3/3）シルトに黄褐色（10YR5/6）砂質シルトが斑に混じる（SD1）

図15　南区　東壁・西壁・南壁　セクション図

第２節　北区

1. 竪穴建物跡

ST1（図16～18）

ST1は、北区西部（E3グリッド他）で検出した平面形が方形と推測される竪穴建物跡である。残存は比較的良好であるが、西側をSD1に、北側をSD2に切られるため、遺構の立ち上がりは確認できない。長軸4.25mないし4.65m（検出長）、短軸3.98 m（検出長）を測る。床面積は17.0㎡以上である。主軸方向はN－5°－Eである。検出面から床面までの深さは約17㎝である。埋土は褐色（10YR4/4）シルトが斑に混じる黒褐色（10YR2/3）シルト他である。床面でピットを複数検出したが、中央ピットや主柱穴と判断できるものは確認されなかった。図16の平面図中に記載の遺構名は床面遺構名である。床面は概ね平坦である。南側には立ち上がりがやや不明瞭であるが、張り出しが認められる。また、南側の輪郭に沿うように炭化物が帯状に検出され、40㎝大の扁平な円礫が1石検出された。燃焼施設が存在した可能性も考えられる。床面から土師器高杯2点と須恵器高杯1点

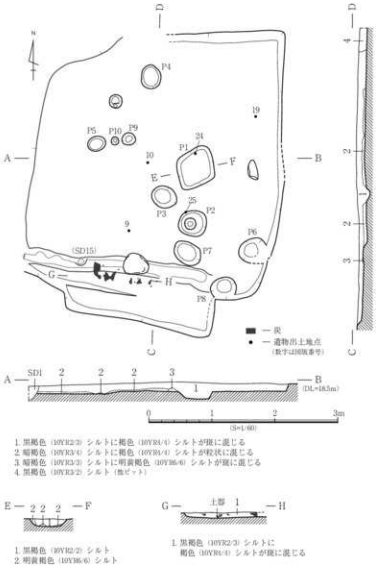


図16　ST1　平面図・断面図

が伏せられた状態で出土した。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土製品、石製品が出土し、弥生土器の甕（1・2）・壺か甕（3）・鉢（4）、土師器の甕（5～8）・高杯（9～11）・皿（12）・杯（13・14）、須恵器の甕（15～17）・高杯（18・19）・蓋（20）・杯（21・22）、土製品の支脚（23）、石製品の叩石（24）、砥石（25）を図示した。なお、図示した各出土遺物の法量・特徴等については遺物観察表にまとめて記載している（以下すべての図示した出土遺物についても同様）。

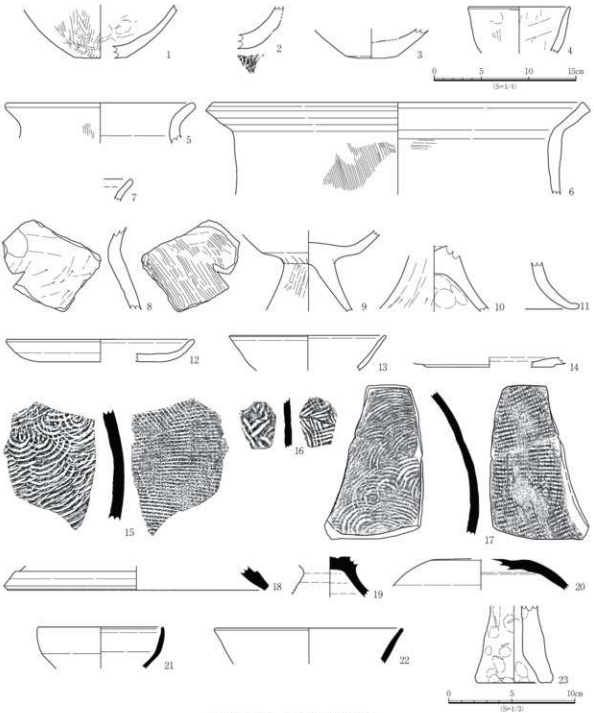


図17　ST1　出土遺物実測図1

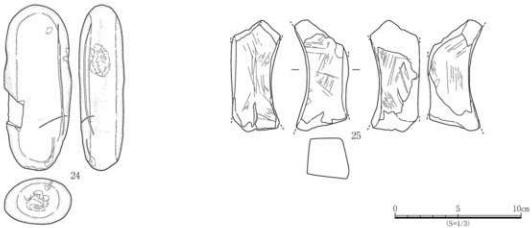


図18　ST1　出土遺物実測図2

ST2（図19～21）

ST2は、北区西北部（C3グリッド他）で検出した平面形が隅丸長方形の竪穴建物跡である。遺構南西部から南側を土坑や多くのピットに切られるため、南側の立ち上がりは不明瞭である。長軸4.30m、短軸3.67mを測り、床面積は15.8㎡である。主軸方向はN－30°－Eである。検出面から床面までの深さは約23cmである。埋土は明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトが粒状に混じる黒褐色（10YR2/3）シルト他である。床面の壁際を中心にピットを複数検出した（遺物を伴うものは12個）。図19中に記載の遺構名は床面遺構名である。主柱穴や中央ピットと判断されるものは見出されなかった。床面は概ね平坦である。床面から比較的残存状態の良い土器が複数点出土した。出土位置は壁際に多く分布する傾向が示される。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土製品が出土し、弥生土器の壺（26）・甕（27～39）・壺か甕（40）・鉢（41～49）・高杯（50～52）・器台（53）、土師器の皿（54・55）・杯（56・57）、須恵器の蓋（58）・杯（59）、土製品の支脚（60）を図示した。

図示した出土遺物のうち、弥生土器の壺・甕・鉢の底部及び口縁端部形態ついて整理する。壺1点、甕13点、壺か甕1点、鉢9点である。底部形態について、甕が、尖気味の丸底3点、丸底1点であり、壺か甕が、丸底指向1点、鉢が、平底3点、

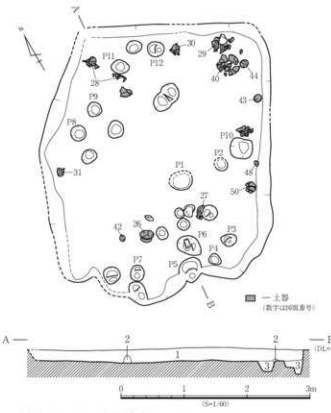


図19　ST2　平面図・断面図

台付き1点、手捏ね1点である。口縁端部形態について、壺が、面取り1点、甕が、面取り6点、丸3点、細仕上げ1点、鉢が、面取り2点、丸4点、細仕上げ3点である。これらから次の傾向が見出される。底部形態は、甕については丸底を指向する形態が多く、完全な丸底もみられる。口縁端部形態は、甕については面取りが多く、鉢はいずれの形態もみられるが丸く収めるものがやや多い。

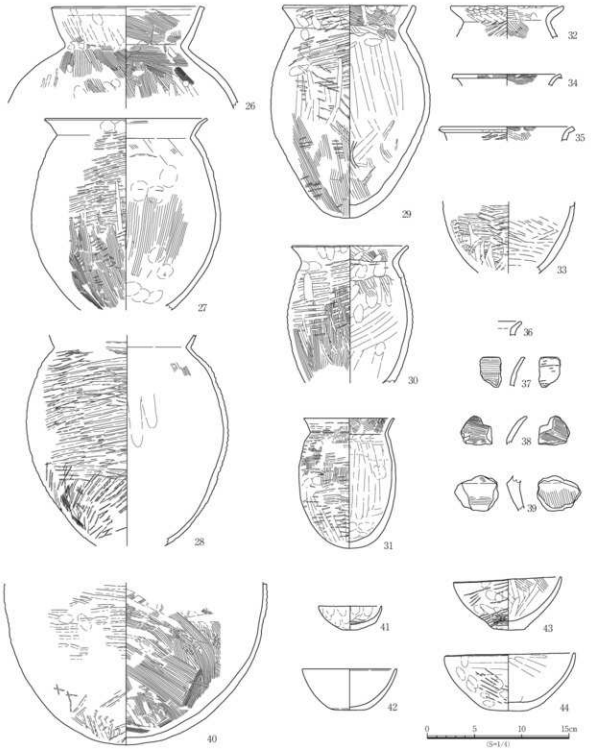


図20　ST2　出土遺物実測図1

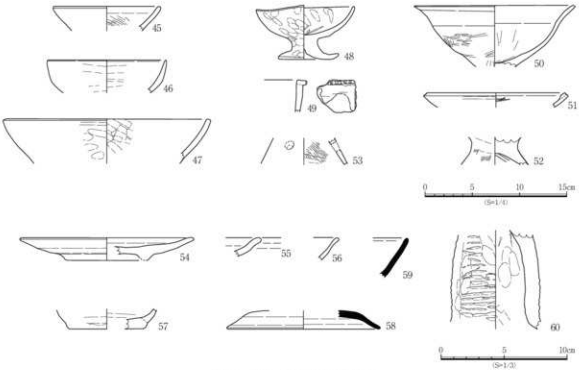


図21　ST2　出土遺物実測図2

2. 掘立柱建物跡

SB1（図22）

SB1は、北区中部北壁際（D7グリッド）で検出した桁行3間（2.0m）以上、梁行3間（2.8m）の南北棟と推測される建物跡である。主軸方向はN－12°－Wである。柱間寸法は、桁行が0.6～0.9m、梁行が0.8～1.1mである。柱穴は直径30cm前後の円形ないし楕円形であり、検出面からの深さは9～26cmである。床面積は5.3㎡以上である。

遺物は土師器が出土した。

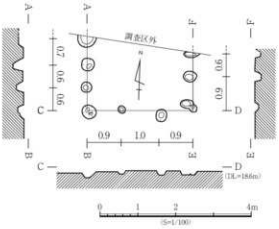


図22　SB1　平面図・エレベーション図

SB2（図23・24）

SB2は、北区中部南寄り（F6グリッド他）で検出した桁行2間（3.3m）、梁行2間（3.3m）のほぼ方形の建物跡である。主軸方向はN－13°－Wである。柱間寸法は、桁行が1.7m、梁行が1.5～1.8mである。柱穴は直径40cm前後の円形ないし楕円形であり、検出面からの深さは10～40cmである。床面積は10.9㎡である。

遺物は弥生土器、土師器が出土し、弥生土器の甕（61）・鉢（62・63）を図示した。

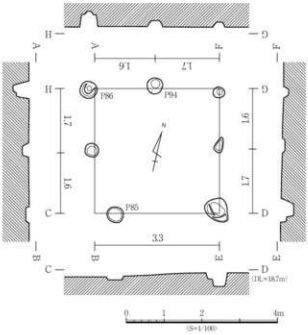


図23　SB2　平面図・エレベーション図

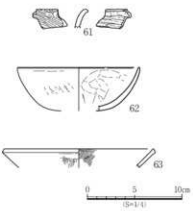


図24　SB2　出土遺物実測図

SB3（図25）

SB3は、北区中東部（E9グリッド他）で検出した桁行3間（7.0 m）、梁行1間（4.1 m）の南北棟の建物跡である。主軸方向はN－0°である。柱間寸法は、桁行が2.3～2.4m、梁行が4.3mである。柱穴は直径50cm前後の円形であり、検出面からの深さは7～34cmである。床面積は28.7㎡である。SX1と平面規模や主軸方向が共通しており、関連する遺構の可能性がある。

遺物は土師器が出土した。

3. 土坑

SK1（図26～29）

SK1は、北区西部（E4グリッド）で検出した溝状（あるいは舟形）の土坑である。中央やや北寄りを東西に延びる溝跡SD2に切られる。長軸3.23m、短軸0.57～0.67mを測り、検出面からの深さは約35cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－16°－W

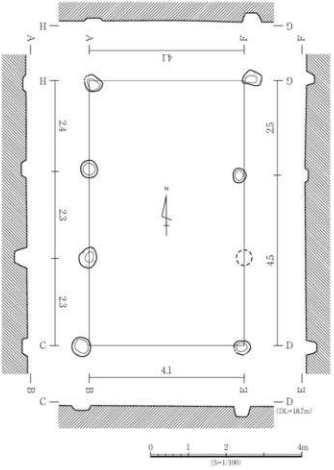


図25　SB3　平面図・エレベーション図

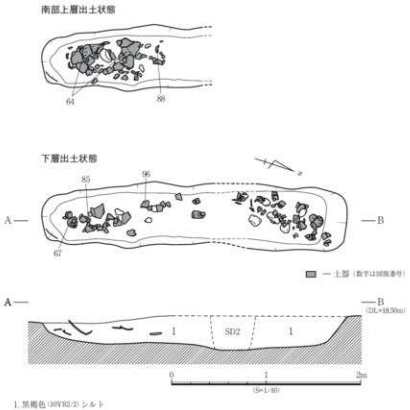


図 26　SK1　出土状態図・断面図

である。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルトである。埋土中から多量の遺物が集中して出土した。SD2に切られる部分は遺物が少なかったが、遺構の北側から南側まで万遍なく遺物が充填される状況であった。埋土は単純１層であり、遺物の出土は埋土の上層から下層まで見られた。出土遺物は多量であるが、その器形は壺・甕・鉢及び支脚に限定される。遺構南側から大型の壺（64）が、底部を下に向け直立する形で出土した。法量や器形は土器棺に使用される壺と類似するが、壺内部の埋土からは別個体の土器片と円礫が数点出土したのみであり、その用途や、埋納状況あるいは廃棄状況を推察しうる遺物は含まれなかった。

遺物は弥生土器、土製品、炭化物が出土し、弥生土器の壺（64 ～ 66）・甕（67 ～ 83）・壺か甕（84）・鉢（85 ～ 95）、土製品の支脚（96・97）を図示した。

図示した出土遺物のうち、弥生土器の壺・甕・鉢の底部及び口縁端部形態について整理する。壺３点、甕 17 点、壺か甕１点、鉢 11 点である。底部形態について、壺が、つぶれた円盤状１点、甕が、丸底指向２点、丸底１点、壺か甕が、平底１点、鉢が、丸みを帯びた平底１点、粗雑な平底１点、突出２点、尖気味の丸底１点、丸底１点である。口縁端部形態について、壺が、面取り２点、甕が、面取り 10 点、細仕上げ１点、鉢が、面取り７点、丸２点、細仕上げ１点、粗放１点である。これらから次の傾向が見出される。底部形態は、甕が丸底を指向する形態が主体で、鉢は様々な形態が均等にみられる。口縁端部形態は、甕が、薄いものも含めほぼ面取りが占め、鉢は、多様な形態がみられるが面取りが主体である。総じて丸底指向、口縁端部面取りが主体といえる。

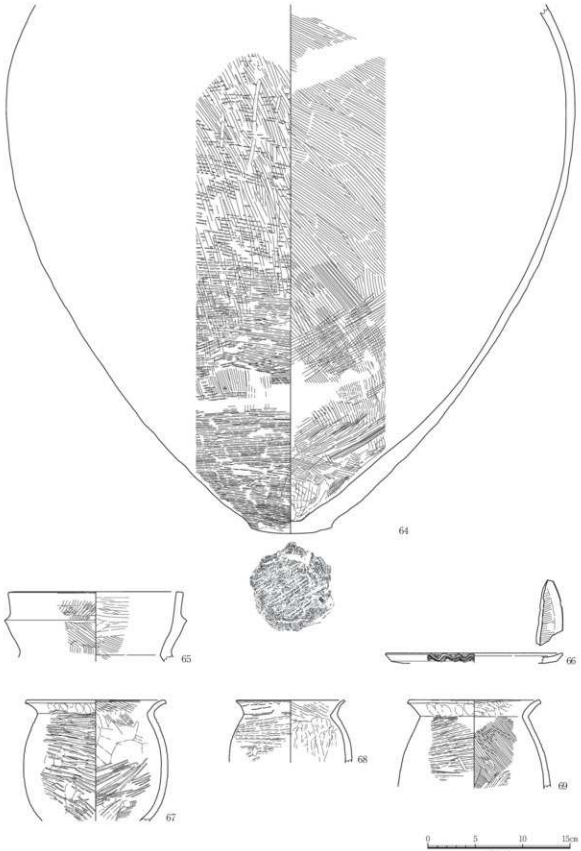


図27　SK1　出土遺物実測図1

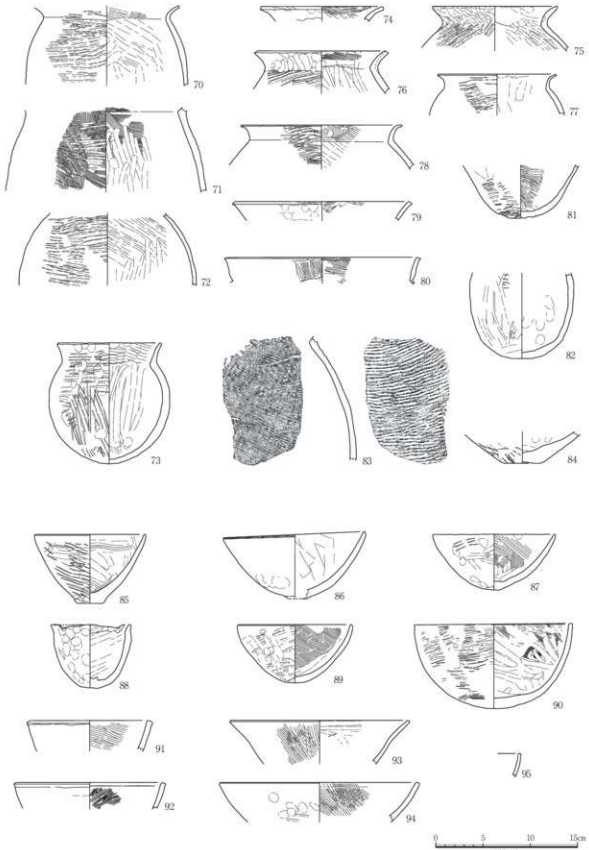


図28　SK1　出土遺物実測図2

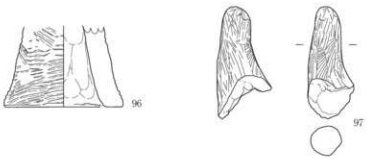


図29　SK1　出土遺物実測図3

SK2（図30・31）

SK2は、北区西南部（F3グリッド）で検出した平面形が不整円形の土坑である。長軸0.73m、短軸0.6mを測り、検出面からの深さは14cmである。断面形は舟底形である。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルトである。検出面及び埋土から遺物が出土した。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土し、弥生土器の甕（98）・壺か甕（99）、土師器の甕（100）を図示した。

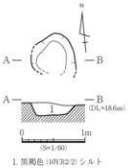


図30　SK2　平面図・断面図

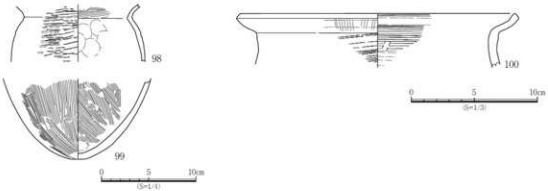


図31　SK2　出土遺物実測図

SK3

SK3は、北区西南部（F3グリッド）、ST1南張り出し部の上面で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸0.87m、短軸0.76mを測り、検出面からの深さは9cmである。断面形はU字形である。主軸方向はN－15°－Eである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は出土していない。

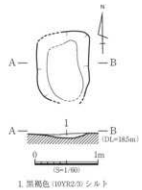


図32　SK4　平面図・断面図

SK4（図32・33）

SK4は、北区西北部（D4グリッド）で検出した平面形が楕円形

の土坑である。長軸 1.09m、短軸 0.81 mを測り、検出面からの深さは 12cmである。断面形は皿状である。主軸方向は N － 2° － E である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器、須恵器が出土し、須恵器の杯（101）を図示した。

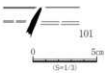


図 33　SK4　出土遺物実測図

SK5

SK5 は、北区西北拡張部（C4 グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸 1.45m、短軸 0.48m（検出長）を測り、検出面からの深さは 16 ～ 34cmである。断面形は皿状である。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は弥生土器が出土した。

SK6（図 34・35）

SK6 は、北区西北部（D3 グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。ST2 を切る。長軸 2.20m（検出長）、短軸 0.63m（検出長）を測り、検出面からの深さは 14 ～ 38cmである。断面形は舟底形である。主軸方向は N － 71° － W と推測される。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。床面中央にピット状の掘り込みがある。

遺物は弥生土器、炭化物が出土し、弥生土器の甕（102 ～ 104）・鉢（105）を図示した。

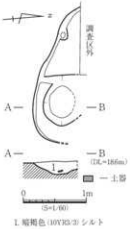


図 34　SK6　平面図・断面図

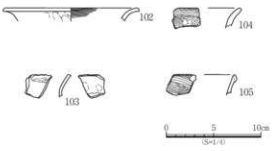


図 35　SK6　出土遺物実測図

SK7（図 36・37）

SK7 は、北区西部（D3 グリッド他）で検出した平面形がやや不整な円形の土坑である。長軸 1.25m、短軸 1.25m を測り、検出面からの深さは 27cmである。断面形はＵ字形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。床面で直径 10 ～ 35cm大の円礫を検出した。

遺物は土師器、須恵器が出土し、

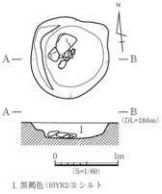


図 36　SK7　平面図・断面図

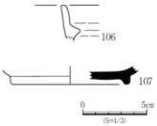


図 37　SK7　出土遺物実測図

土師器の羽釜（106）、須恵器の杯（107）を図示した。

SK9（図38・39）

SK9は、北区西部（D3グリッド他）で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。西側の立ち上がりをSK7に切られる。長軸1.14m（検出長）、短軸0.95mを測り、検出面からの深さは18cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－73°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器が出土し、土師器の杯（108）、黒色土器の杯（109）、瓦質土器の鍋（110）を図示した。

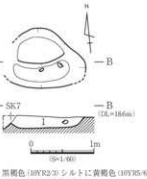


図38　SK9　平面図・断面図

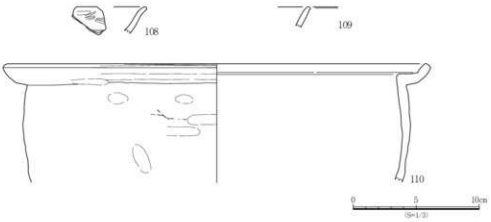


図39　SK9　出土遺物実測図

SK10（図40・41）

SK10は、北区中西部（E5グリッド他）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸1.28m、短軸0.58mを測り、検出面からの深さは21cmである。断面形は舟形である。主軸方向はN－47°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルトである。埋土中から弥生土器がある程度まとまって出土した。

遺物は弥生土器が出土し、壺（111）・甕（112～114）・鉢（115～118）を図示した。

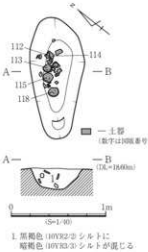


図40　SK10　出土状態図・断面図

SK11（図42・43）

SK11は、北区中西部南壁際（F5グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸0.53 m（検出長）、短軸0.82 mを測り、検出面からの深さは15cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－0°と推測される。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。

遺物は弥生土器が出土し、甕（119）を図示した。

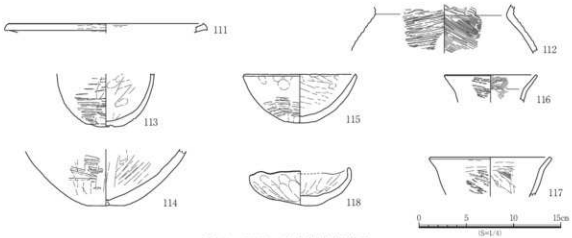


図 41　SK10　出土遺物実測図

SK12（図 44）

SK12 は、北区西北拡張部（C3 グリッド）で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸 1.08m（検出長）、短軸 0.70 m（検出長）を測り、検出面からの深さは最深部が 45cmである。断面形は不整形であり、床面は凹凸を呈する。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は土師器、須恵器が出土し、土師器の杯か椀（120）を図示した。

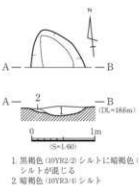


図 42　SK11　平面図・断面図

SK13

SK13 は、北区西南部（F4 グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。東側を SK15 に切られる。長軸 0.67 m（検出長）、短軸 0.75 mを測り、検出面からの深さは 6cmである。断面形は皿状である。主軸方向は N － 59° － W である。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は土師器、須恵器が出土した。

図 43　SK11　出土遺物実測図

SK14（図 45・46）

SK14 は、北区中西部南壁際（F5 グリッド）で検出した平面形が長方形と推測される土坑である。長軸 0.75 m（検出長）、短軸 1.02 mを測り、検出面からの深さは 23 ～ 35cmである。断面形は舟底形である。主軸方向は N － 5° － E である。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。

遺物は弥生土器が出土し、鉢（121）を図示した。

図 44　SK12　出土遺物実測図

SK15（図 47・48）

SK15 は、北区西南部（F4 グリッド他）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸 2.22 m、

短軸1.80 mを測り、検出面からの深さは64cmである。断面形はU字形である。主軸方向はN－74°－Eである。埋土は黒色（10YR2/1）シルト他である。埋土中から土師器・須恵器を主体とする遺物が多く出土した。

遺物は土師器、須恵器、黒色土器が出土し、土師器の壺（122）・甕（123～125）・壺か甕（126）・高杯か杯（127）・皿（128～131）・杯（132～139）、黒色土器の杯か椀（140）、須恵器の杯（141）を図示した。

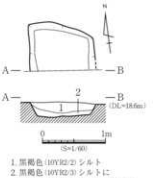


図45　SK14　平面図・断面図

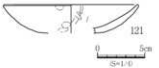


図46　SK14　出土遺物実測図

SK16

SK16は、北区中西部（E5グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸0.79 m、短軸0.57 mを測り、検出面からの深さは13cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－72°－Eである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

SK17（図49・50）

SK17は、北区西部（E4グリッド）、SK1の東隣で検出した平面形が方形の土坑である。長軸1.00 m、短軸0.95 mを測るほぼ正方形であり、検出面からの深さは28cmである。断面形はU字形であり、床面は平坦である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器、須恵器が出土し、土師器の皿（142）・杯（143～146）、須恵器の高杯（147・148）を図示した。

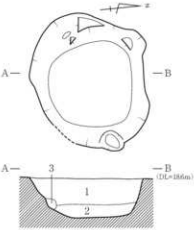


図47　SK15　平面図・断面図

SK18（図51・52）

SK18は、北区中西部（F5グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸0.96 m、短軸0.65 mを測り、検出面からの深さは31cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－51°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。

遺物は弥生土器が出土し、甕（149・150）、鉢（151）・高杯（152）を図示した。

SK19

SK19は、北区西南部（F2グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。SD6を切る。長軸0.86 m、短軸0.64 mを測り、検出面からの深さは25cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－30°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は出土していない。

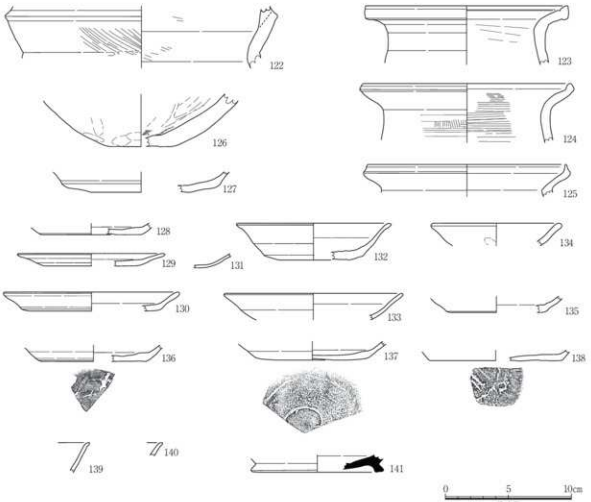


図 48　SK15　出土遺物実測図

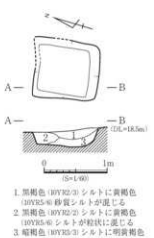


図 49　SK17　平面図・断面図

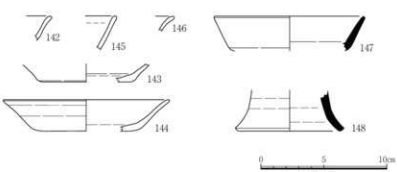


図 50　SK17　出土遺物実測図

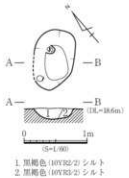


図51　SK18　平面図・断面図

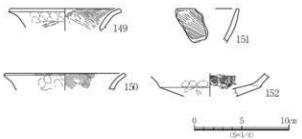


図52　SK18　出土遺物実測図

SK20（図53）

SK20は、北区西北拡張部（C3グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸0.68 m（検出長）、短軸0.35 m（検出長）を測り、検出面からの深さは29 ～ 38cmである。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

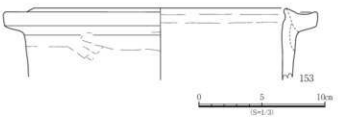


図53　SK20　出土遺物実測図

遺物は土師器が出土し、羽釜（153）を図示した。

SK21（図54・55）

SK21は、北区西北部（D4グリッド）で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸1.15 m、短軸0.80 mを測り、検出面からの深さは39cmである。断面形は不整形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土し、羽釜（154）を図示した。

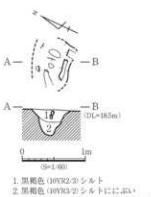


図54　SK21　平面図・断面図

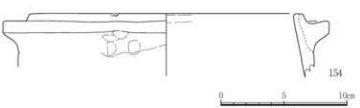


図55　SK21　出土遺物実測図

SK22（図56・57）

SK22は、北区西南部（F4グリッド）で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸0.39m（検出長）、短軸0.42mを測り、検出面からの深さは15cmである。断面形は舟底形である。埋土は黒褐

色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器が出土し、杯（155）を図示した。

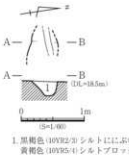


図 56　SK22　平面図・断面図

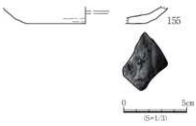


図 57　SK22　出土遺物実測図

SK23（図 58）

SK23 は、北区中部（E8 グリッド）で検出した平面形が円形の土坑である。直径 0.78 m を測り、検出面からの深さは 16cmである。断面形は逆台形である。黒褐色（10YR3/2）細砂混じりシルトである。

遺物は土師器が出土した。

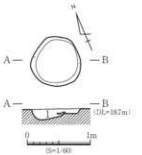


図 58　SK23　平面図・断面図

SK24（図 59）

SK24 は、北区中部北壁際（D8 グリッド）で検出した平面形が隅丸方形と推測される土坑である。長軸 2.43 m、短軸 1.39 m（検出長）を測り、検出面からの深さは 22 ～ 35cmである。断面形は逆台形であり、西側が深く落ち込む。主軸方向は N － 80° － W と推測される。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土した。

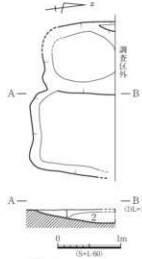


図 59　SK24　平面図・断面図

SK25（図 60・61）

SK25 は、北区中部北壁際（D9 グリッド他）で検出した平面形が長方形と推測される土坑である。東側でSK26 を切る。長軸 2.60m（検出長）、短軸 2.65 m を測り、検出面からの深さは 29cmである。断面形は逆台形である。主軸方向は N － 6° － E と推測される。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。床面から 5 ～ 20cm大の円礫が集中して出土した。

遺物は土師器、須恵器、黒色土器、青磁、磁器、鉄製品が出土し、土師器の杯（156・157）・羽釜（158）、須恵器の甕（159）・杯（160）、黒色土器の椀（161）、青磁の碗（162）、磁器の碗（163）、不明鉄製品（164）を図示した。

SK26（図 62・63）

SK26 は、北区中部北壁際（D9・10 グリッド）で検出した平面形が長方形と推測される大型の竪

穴状の土坑である。西側をSK25に切られる。長軸5.10m（検出長）、短軸2.58（検出長）を測り、検出面からの深さは24cmである。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR3/2）シルト他である。床面南側から10～30cm大の円礫が集中して出土した。

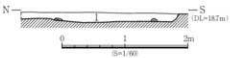


図60　SK25　断面図

遺物は土師器、須恵器、磁器が出土し、土師器の甕(165)・杯（166～168）・羽釜（169）、須恵器の甕（170）・杯（171）を図示した。

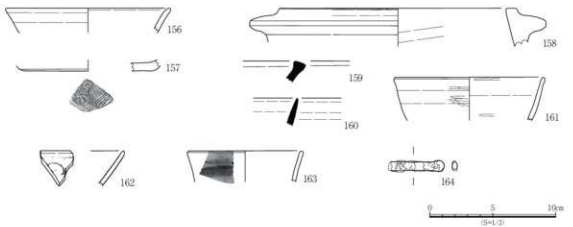


図61　SK25　出土遺物実測図

SK27（図64・65）

SK27は、北区中南部（F8グリッド）で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸2.49 m、短軸1.96 mを測り、検出面からの深さは25cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－6°－Eである。埋土は暗褐色（10YR3/4）シルト他である。

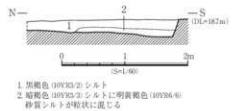


図62　SK26　断面図

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、土製品、炭化物が出土し、弥生土器の甕（172）・壺か甕（173）、青磁の皿（174）、白磁の碗（175）、土製品の支脚（176）を図示した。

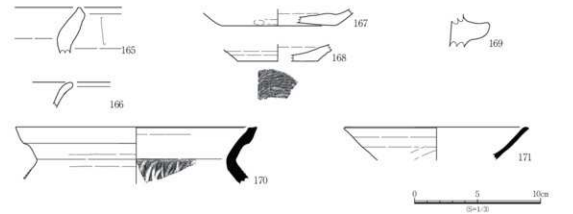


図63　SK26　出土遺物実測図

SK28（図66・67）

SK28は、北区中東部南寄り（F10グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸2.50m、短軸1.55mを測り、検出面からの深さは20cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－61°－Eである。埋土は黒褐色（10YR3/2）シルト他である。

遺物は土師器、須恵器が出土し、須恵器の甕（177）を図示した。

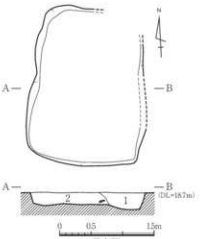


図64　SK27　平面図・断面図

SK29（図68・69）

SK29は、北区中東部北寄り（D9グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。北側をSK26に切られる。長軸1.15m、短軸0.74mを測り、検出面からの深さは33cmである。断面形はU字形である。主軸方向はN－11°－Eである。埋土は黒褐色（10YR3/2）シルトである。床面から20cm大、35cm大の円礫が出土した。

遺物は土師器、須恵器が出土し、土師器の甕（178）、須恵器の蓋（179）・器台（180）を図示した。

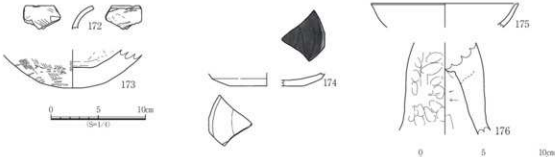


図65　SK27　出土遺物実測図

SK30（図70）

SK30は、北区中東部北寄り（D10グリッド他）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸1.14m、短軸0.63m（検出長）を測り、検出面からの深さは9cmである。断面形は皿状である。主軸方向はN－74°－Wである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は土師器、磁器が出土した。

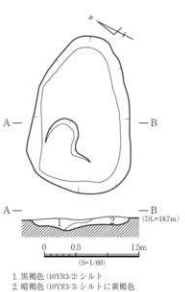


図66　SK28　平面図・断面図

SK31（図71・72）

SK31は、北区中東部北寄り（D10グリッド他）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸1.30m、短軸0.89mを測り、検出面からの深さはハンダが26cm、掘方が64cmである。断面形はU字形である。主軸方向はN－81°－Wである。埋土は暗褐色（10YR3/3）細砂混じりシルト他である。ハンダ土坑で

ある。土坑上端の周囲に5～15cm大の円礫を巡らせ補強する。深さ26cmに厚さ1～2cmの固いハンダ土による床を貼り、その下の掘方は36cm程度の深さである。

遺物は陶器、磁器、石製品、魚骨が出土し、陶器の鉢（181）、磁器の碗（182・183）、石製品の砥石（184）を図示した。

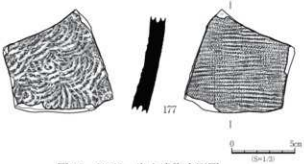


図67　SK28　出土遺物実測図

SK32（図73）

SK32は、北区中東部（E10グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸1.84 m、短軸0.66 mを測り、検出面からの深さは22cmである。断面形はU字形である。主軸方向はN－80°－Wである。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルトである。

遺物は土師器、須恵器、磁器が出土した。

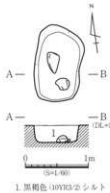


図68　SK29　平面図・断面図

SK33（図74）

SK33は、北区中南部（F9グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。西側をSK27に切られる。長軸1.07 m（検出長）、短軸0.85 mを測り、検出面からの深さは34cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－80°－Wである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土した。

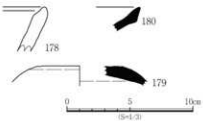


図69　SK29　出土遺物実測図

SK34（図75）

SK34は、北区東北部（C11グリッド）で検出した平面形が方形と推測される土坑である。南側は浅く、立ち上がりが不明瞭である。長軸1.90 m（検出長）、短軸1.55 m（検出長）を測り、検出面からの深さは8cmである。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

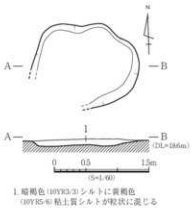


図70　SK30　平面図・断面図

SK35

SK35は、北区東南部（F10グリッド他）で検出した平面形が円形と推測される土坑である。長軸18.1 m、短軸1.26 m（検出長）を測り、掘方の検出面からの深さは84cmである。断面形はU字形である。埋土は暗褐色（10YR3/3）細砂混じりシルトである。ハンダ土坑である。側面は10～20cm大の円礫

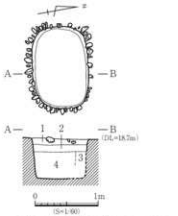
を敷き詰めて補強し、側面及び床面に厚さ5cm程度のハンダ土を固めて機能面とする。

遺物は土師器、須恵器、炉器、漆喰が出土した。

SK36（図76）

SK36は、北区東北部（C12グリッド他）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸1.08 m、短軸0.48 mを測り、検出面からの深さは6cmである。断面形は皿状である。主軸方向はN－18°－Eである。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト他である。

遺物は土師器が出土した。



1. 暗褐色(10YR3/3)細砂混じりシルトに橙色(5YR6/8)シルトが混じる
2. 橙色(5YR6/8)シルトに漆喰を含む
3. 明黄褐色(10YR6/8)粘土質シルトに細礫を含む
4. にぶい黄褐色(10YR6/3)砂質シルトに5～15cm大の円礫を多く含む

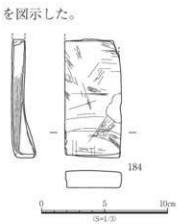
図71　SK31　平面図・断面図

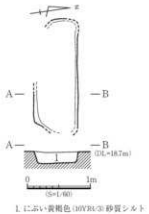
SK37（図77・78）

SK37は、北区東部南壁際（G11グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸1.24m（検出長）、短軸0.48 m（検出長）を測り、検出面からの深さは43cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－5°－Eと推測される。埋土は暗褐色（10YR3/4）シルト他である。埋土下層で20cm大の亜円礫を検出した。

遺物は土師器、須恵器、黒色土器が出土し、黒色土器の椀（185）を図示した。

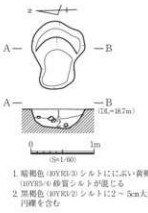
図72　SK31　出土遺物実測図





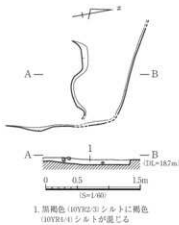
1. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト

図73　SK32　平面図・断面図



1. 暗褐色(10YR3/3)シルトににぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルトが混じる
2. 黒褐色(10YR3/2)シルトに2～5cm大の円礫を含む

図74　SK33　平面図・断面図



1. 黒褐色(10YR2/3)シルトに黄褐色(10YR4/4)シルトが混じる

図75　SK34　平面図・断面図

SK38（図79）

SK38は、北区東北部（D12グリッド他）で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸3.04 m、短軸1.28 mを測り、検出面からの深さは5～11cmである。断面形は皿状である。主軸方向はN－81°－Wである。埋土は黒褐色（10YR3/3）粘土質シルトである。

遺物は土師器、須恵器が出土した。

SK39（図80）

SK39は、北区東南部（G12グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸0.97 m、短軸0.66 mを測り、検出面からの深さは12cmである。断面形はU字形である。主軸方向はN－10°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

SK40

SK40は、北区東南部（G11グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。東側の大部分をSD22に切られる。長軸1.07 m（検出長）、短軸0.39 m（検出長）を測り、検出面からの深さは13～16cmである。断面形は舟底形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

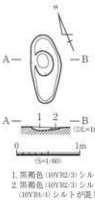


図76　SK36　平面図・断面図

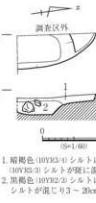


図77　SK37　平面図・断面図

図78　SK37　出土遺物実測図

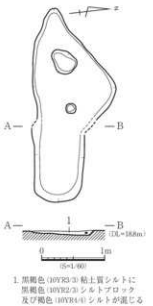


図79　SK38　平面図・断面図

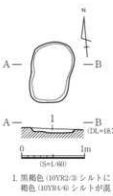


図80　SK39　平面図・断面図

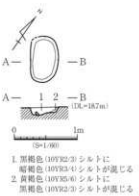


図81　SK41　平面図・断面図

SK41（図81）

SK41は、北区東南部（G13グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸0.74 m、短軸0.44 mを測り、検出面からの深さは15cmである。断面形はU字形である。主軸方向はN－32°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

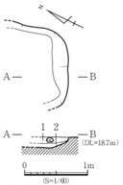


図82　SK42　平面図・断面図

SK42（図82）

SK42は、北区中東部南寄り（F10グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。大部分をSX1に切られる。長軸1.28 m（検出長）、短軸0.84 m（検出長）を測り、検出面からの深さは32cmである。主軸方向はN－30°－Eと推測される。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土した。

SK43（図83）

SK43は、北区東南部南壁際（G12グリッド）で検出した平面形が円形と推測される土坑である。長軸1.95 m、短軸1.18 m（検出長）を測り、検出面からの深さは65cmである。断面形はU字形である。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルト他である。ハンダ土坑の掘方の形状を呈するが、ハンダ土や礫は見られない。

遺物は土師器、陶器、磁器が出土した。

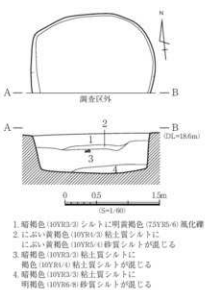


図83　SK43　平面図・断面図

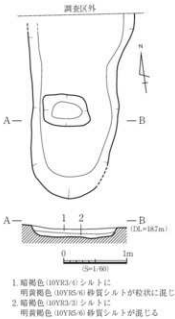


図84　SK44　平面図・断面図

SK44（図84）

SK44は、北区東北部（C13グリッド他）で検出した平面形が長楕円形の土坑である。長軸2.90 m（検出長）、短軸1.67 m（検出長）を測り、検出面からの深さは21cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－9°－Eである。埋土は暗褐色（10YR3/4）シルト他である。

遺物は土師器、陶器、磁器が出土した。

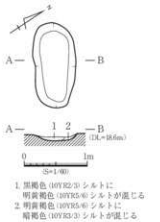


図85　SK45　平面図・断面図

SK45（図85）

SK45は、北区東北部（D13グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。上層は攪乱による削平を受ける。長軸1.34 m、短軸0.67 mを測り、検出面からの深さは13cm（残存深さ）である。断面形は皿状である。主軸方向はN－55°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器、須恵器が出土した。

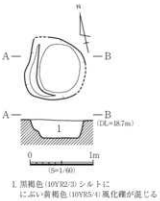


図86　SK46　平面図・断面図

SK46（図86・87）

SK46は、北区東北部（C13グリッド）で検出した平面形が円形の土坑である。直径0.90～0.98 mを測り、検出面からの深さは28cmである。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器、須恵器、瓦器が出土し、瓦器の椀(186)を図示した。

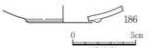


図87　SK46　出土遺物実測図

SK47（図88）

SK47は、北区東北部東壁際（D13グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。南側の上層は攪乱による削平を受ける。長軸2.54 m、短軸1.50 m（検出長）を測り、検出面からの深さは26cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－5°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。

遺物は土師器が出土した。

SK48（図89）

SK48は、北区東部東壁際（F13グリッド）で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸2.05 m、短軸0.92 m（検出長）を測り、検出面からの深さは16～26cmである。断面形は舟底形である。床面でピット状の掘り込みを多数検出した。主軸方向はN－1°－Wである。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト他である。

遺物は土師器、磁器が出土した。

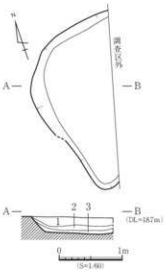


図 88　SK47　平面図・断面図

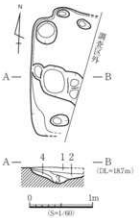


図 89　SK48　平面図・断面図

4. 溝跡

SD1（北区）（図 90 ～ 92）

SD1 は、北区西端（D2 グリッド他）で検出した南北方向の溝跡である。平面形は東に張るようにやや湾曲する。長さ約 11.9 m（検出長）、幅 61 ～ 127cmを測り、検出面からの深さは 35 ～ 45cmである。断面形は舟底形である。床面は谷状に落ち込み、平坦でない。主軸方向は南側で N － 11° － E、北側で N － 8° － W 程度である。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルト他である。南区西端においても同規模の南北方向の溝跡を検出しており、これらは 1 条の南北方向の溝跡である可能性が高い（南区は後述）。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、石製品、平瓦が出土し、弥生土器の壺（187）、土師器の羽釜（188）、須恵器の高杯（189）・杯（190）、石製品の石包丁（191）、平瓦（192）を図示した。

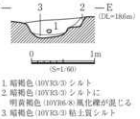


図 90　SD1（北区）　断面図

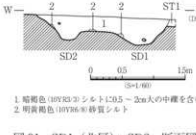


図 91　SD1（北区）・SD2　断面図

SD2（図 93 ～ 96）

SD2 は、北区西端から中部（E3 グリッド他）に延長する東西方向の溝跡である。平面形は、調査区西端で南北方向に延び、屈曲した後 SD1 と切り合い北に張るように湾曲して東方に延びる。長さ約 26.0 m（検出長）、幅 45 ～ 119cmを測り、検出面からの深さは 19 ～ 36cmである。西側が深く、東に向かい深さを減じる。断面形は舟底形である。主軸方向は、南北方向は SD1 にほぼ並行し、東西方向は N － 87° － E から N － 52° － W 程度で北に凸の緩やかな弧を描く。埋土は黒褐色

(10YR2/2) シルトないし黒褐色 (10YR3/2) シルトである。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器、炻器、平瓦が出土し、弥生土器の甕 (193・194)、土師器の甕 (195)・皿 (196)・杯 (197～200)・椀 (201)、須恵器の甕 (202・203)・鉢 (204)・高杯 (205)・蓋 (206)・杯 (207・208)、瓦質土器の羽釜 (209～211)、平瓦 (212・213) を図示した。

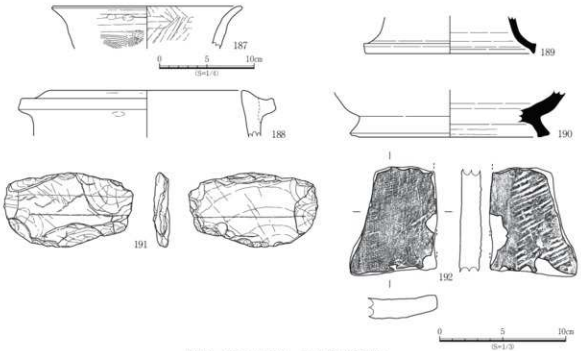


図92　SD1 (北区)　出土遺物実測図

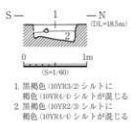


図93　SD2 西部　断面図

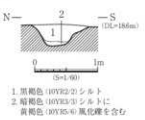


図94　SD2 東部　断面図

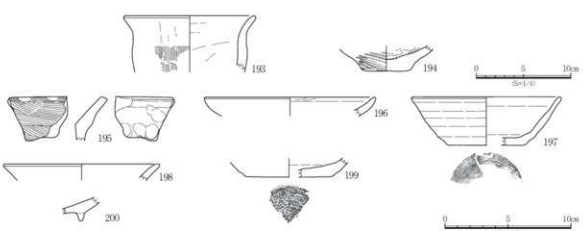


図95　SD2　出土遺物実測図1

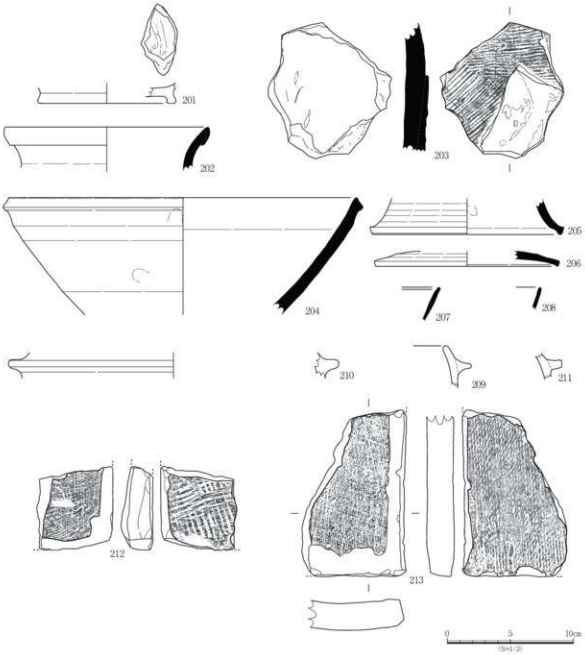


図96　SD2　出土遺物実測図2

SD3（図97・98）

SD3は、北区西部（D3グリッド他）で検出した東西方向の溝跡である。西側をSK9に切られる。長さ3.35 m（検出長）、幅24～33cmを測り、検出面からの深さは18cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－80°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土し、皿（214）を図示した。

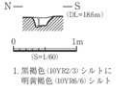


図97　SD3　断面図

図98　SD3　出土遺物実測図

SD4

SD4は、北区西南部（F3グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。長さ2.44 m、幅26～44cmを測り、検出面からの深さは12cmである。断面形は不整形であり、床面は凹凸を呈する。主軸方向はN－72°－Wである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

SD5（図99）

SD5は、北区中西部北寄り（D4グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。長さ1.66 m、幅50cmを測り、検出面からの深さは15～47cmである。断面形は不整形であり、床面はピット状の深い掘り込みが多数みられる。主軸方向はN－2°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は弥生土器、土師器が出土し、弥生土器の壺か甕（215）、土師器の杯（216）を図示した。

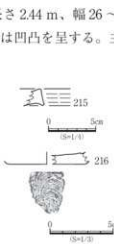


図99　SD5　出土遺物実測図

SD6

SD6は、北区西部西壁際（F2グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。SK19に切られる。長さ4.21 m（検出長）、幅40cmを測り、検出面からの深さは16cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－18°－Eである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

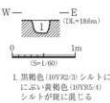


図100　SD7　断面図

SD7（図100）

SD7は、北区中西部（E6グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。長さ1.75 m、幅35cmを測り、検出面からの深さは23cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－4°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

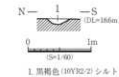


図101　SD8　断面図

SD8（図101・102）

SD8は、北区中部（D6グリッド他）で検出した東西方向の溝跡である。平面形は北側に張るようにやや湾曲する。長さ7.47 m、幅33～87cmを測り、検出面からの深さは12cmである。断面形は舟底形である。主軸方向は概ねN－74°－W程度である。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルトである。

遺物は土師器、須恵器が出土し、須恵器の瓶（217）を図示した。

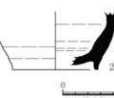


図102　SD8　出土遺物実測図

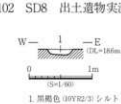


図103　SD9　断面図

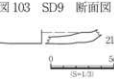


図104　SD9　出土遺物実測図

SD9（図 103・104）

SD9 は、北区中部北寄り（D6 グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。南側を SD8 に切られる。長さ 2.52 m（検出長）、幅 41cmを測り、検出面からの深さは 12cmである。断面形は皿状である。主軸方向は N － 3° － W である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器が出土し、杯（218）を図示した。

SD10（図 105）

SD10 は、北区中部北寄り（D6 グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。長さ 1.41 m、幅 40cmを測り、検出面からの深さは 9cmである。断面形は皿状である。主軸方向は N － 73° － E である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土した。

図 105　SD10　断面図

SD11（図 106）

SD11 は、北区中部北寄り（D6 グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。長さ 1.00 m、幅 33cmを測り、検出面からの深さは 13cmである。断面形は逆台形である。主軸方向は N － 39° － E である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土した。

図 106　SD11　断面図

SD12（図 107）

SD12 は、北区中部（E6 グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。長さ 3.06 m、幅 43cmを測り、検出面からの深さは 16cmである。断面形は逆台形である。主軸方向は N － 80° － E である。埋土は暗褐色（10YR3/4）砂質シルトである。

遺物は土師器が出土した。

図 107　SD12　断面図

SD13（図 108）

SD13 は、北区中部（E6 グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。SD2・12 に切られる。長さ 2.30 m、幅 57cmを測り、検出面からの深さは 13cmである。断面形は舟底形である。主軸方向は N － 11° － W である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は出土していない。

図 108　SD13　断面図

SD14（図 109）

SD14 は、北区西部（D4 グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。南側の立ち上がりを SD2 に切られる。長さ 0.89 m、幅 18cm（検出長）を測り、検出面からの深さは 5 ～ 17cmである。東端でピット状に落ち込む。断面形は皿状である。主軸方向は N － 82° － W である。埋土は黒褐色（10YR2/3）

シルトである。

遺物は土師器、瓦質土器が出土した。

SD15（図 110）

SD15は、北区西南部（F3グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。上層をST1に切られる。西側をSD1に切られ、東側でSK22と切り合う。長さ2.94 m（検出長）、幅29cmを測り、検出面からの深さは12cm（残存深さ）である。断面形は逆台形である。主軸方向はN－80°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。溝跡中央付近の検出面に炭化物が斑に分布していた。ST1との関連は不明である。

遺物は土師器が出土した。

SD16（図 111）

SD16は、北区中部北寄り（D7グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。長さ1.62 m、幅26cmを測り、検出面からの深さは5～24cmである。床面でピット状の掘り込みを複数検出した。断面形は皿状である。主軸方向はN－70°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は出土していない。

SD17（図 112・113）

SD17は、北区中部（E8グリッド他）で検出した東西方向の溝跡である。西側をP114に切られ、東側は攪乱を受ける。長さ2.13 m（検出長）、幅57cmを測り、検出面からの深さは15～35cmである。東側でピット状に落ち込む。断面形は逆台形である。主軸方向はN－56°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器、須恵器、炭化物、鉄片が出土し、土師器の杯（219）・供膳具（220）を図示した。

SD18（図 114・115）

SD18は、北区中部（E8グリッド他）で検出した東西方向の溝跡である。SK27と一部切り合う。長さ9.20m、幅39～68cmを測り、検出面からの深さは26cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－53°－Wである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。SD2の東側延長部である可能性も考えられる。

遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、炭化物が出土し、土師器の杯（221～223）を図示した。

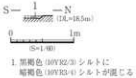


図 109　SD14　断面図

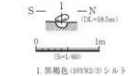


図 110　SD15　断面図

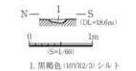


図 111　SD16　断面図

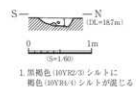


図 112　SD17　断面図

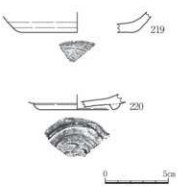


図 113　SD17　出土遺物実測図

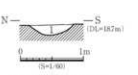


図 114　SD18　断面図

SD19（図116）

SD19は、北区中部（E8グリッド他）で検出した南北方向の溝跡である。ピットに切られる。長さ1.45 m、幅36cmを測り、検出面からの深さは24～39cmである。北側で深くなる。断面形は舟底形である。主軸方向はN－38°－Eである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

SD20

SD20は、北区中西部北寄り（D5グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。長さ1.40 m、幅24cmを測り、検出面からの深さは6cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－86°－Eである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

SD21（図117・118）

SD21は、北区東部（C12グリッド他）で検出した南北方向の溝跡である。平面形は東に張るように僅かに湾曲する。南側は大部分をSX4に切られるとともに攪乱を受けるが、SX4の西側で一部が検出された。長さ13.7 m（検出長）、幅66～90cmを測り、検出面からの深さは15～24cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－5～17°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器、須恵器が出土し、土師器の杯（224・225）を図示した。

SD22（図119・120）

SD22は、北区東南部（F11グリッド他）で検出した南北方向の溝跡である。長さ3.75 m、幅48～100cmを測り、検出面からの深さは9～17cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－11°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。北側は浅くなるが、SD21の南側延長部である可能性も考えられる。

遺物は土師器、土製品が出土し、土製品の支脚（226）を図示した。

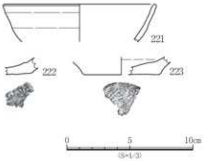


図115　SD18　出土遺物実測図

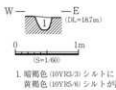


図116　SD19　断面図

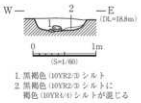


図117　SD21　断面図

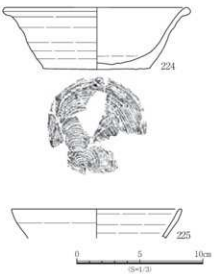


図118　SD21　出土遺物実測図

SD23（図121）

SD23は、北区東北部（C12グリッド他）で検出した南北方向の溝跡である。SK38に切られ、南側は攪乱を受ける。長さ2.38 m、幅34 ～ 45cmを測り、検出面からの深さは7 ～ 10cmである。断面形は皿状である。主軸方向はN － 9° － Eである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

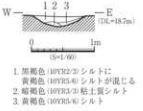


図119　SD22　断面図

SD24（図122）

SD24は、北区東部（F12グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。一部が屈曲する。長さ2.31 m、幅25 ～ 42cmを測り、検出面からの深さは7cmである。断面形は皿状である。主軸方向はN － 84° － Wである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は出土していない。

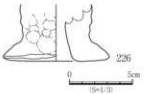


図120　SD22　出土遺物実測図

SD25（図123）

SD25は、北区東部（E13グリッド他）で検出した東西方向の溝跡である。西側は攪乱を受ける。長さ2.21 m（検出長）、幅48 ～ 68cmを測り、検出面からの深さは15cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN － 84° － Wである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

遺物は土師器、須恵器が出土した。

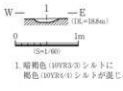


図121　SD23　断面図

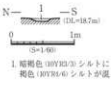


図122　SD24　断面図

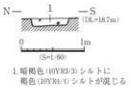


図123　SD25　断面図

5. 性格不明遺構

SX1（図124・125）

SX1は、北区中東部（E9グリッド他）で検出した不整楕円形を呈する大型の遺構である。長軸6.51 m、短軸2.59 mを測り、検出面からの深さは26 ～ 33cmである。床面は起伏があり、北側が比較的浅く中央及び南側が深い。長軸方向はN － 1° － Eである。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルト他である。遺構の外形を覆うように主軸方向及び平面規模が近い掘立柱建物跡SB3が重複する。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、青磁、陶器、磁器、鉄製品が出土し、弥生土器の甕か鉢（227）、土師器の皿（228）、須恵器の甕（229）、青磁の碗（230・231）、陶器の碗（232）、磁器の碗（233・234）、不明鉄製品（235）を図示した。

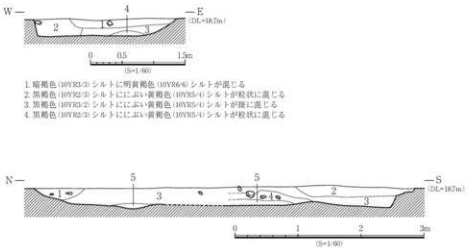


図 124　SX1　断面図

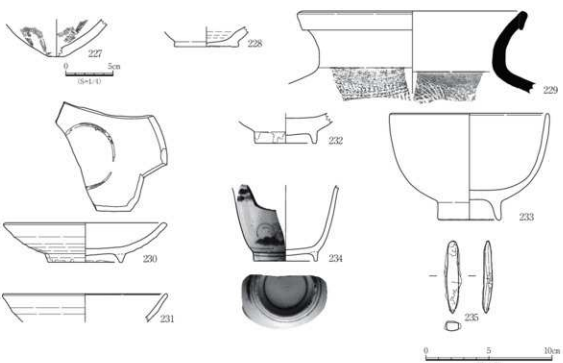


図 125　SX1　出土遺物実測図

SX2（図 126・127）

SX2 は、北区中東部（E10 グリッド他）で検出した平面形が不整方形の遺構である。北側の上層は攪乱による削平を受ける。長軸 3.04 m、短軸 2.86 m を測り、検出面からの深さは 20 ～ 28cm である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器、須恵器、磁器、土製品が出土し、土師器の供膳具（236）、須恵器の杯（237）、土製品の支脚（238）を図示した。

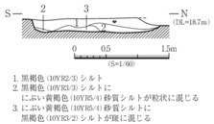


図 126　SX2　断面図

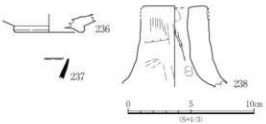


図 127　SX2　出土遺物実測図

SX3（図 128・129）

SX3 は、北区東南部（F11 グリッド他）で検出した平面形が不整楕円形の遺構である。南側を SK35 に切られ、攪乱を受ける。長軸 6.54 m、短軸 0.97 ～ 2.04 m（検出長）を測り、検出面からの深さは 12 ～ 21cm である。中央が深く東側は浅くなる。長軸方向は N － 77° － W である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器、須恵器、青磁、陶器、磁器、瓦が出土し、土師器の杯（239）、須恵器の杯（240・241）、陶器の鉢（242）、磁器の碗（243）を図示した。

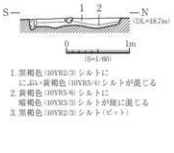


図 128　SX3　断面図

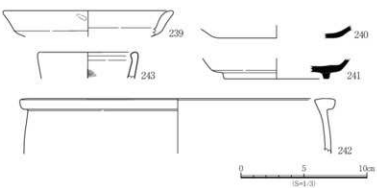


図 129　SX3　出土遺物実測図

SX4（図 130・131）

SX4 は、北区東部（E12 グリッド他）で検出した平面形が不整形の遺構である。攪乱を受け、形状は不明瞭である。長軸 5.46 m（検出長）、短軸 4.25 m（検出長）を測り、検出面からの深さは 14 ～ 20cm である。中央が浅く南側はやや深い。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器、磁器が出土し、土師器の杯（244）・皿か杯（245）を図示した。

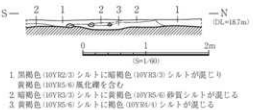


図 130　SX4　断面図

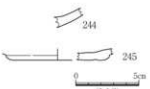


図 131　SX4　出土遺物実測図

6. ピット

北区で検出したピットのうち、図示しうる遺物を出土したものにつき、ピット計測表にまとめて掲載した。掘立柱建物跡を構成する柱穴の出土遺物については、「2. SB」の項に掲載した。

計測表の位置欄にはグリッド番号（図6参照）を記載している。

計測表の埋土欄に記載のアルファベット記号の対応は以下の通りである。

A：黒褐色（10YR2/2）シルト

B：黒褐色（10YR2/3）シルト

C：暗褐色（10YR3/3）シルト

D：黒褐色（10YR2/3）シルト（にぶい黄褐色シルトが混じる）

図示した出土遺物は、246 ～ 275 に示す、弥生土器の甕・鉢、土師器の壺・甕・鉢・高杯・皿か杯・杯・椀、須恵器の甕・蓋・杯、土製品の支脚・土錘、石製品の砥石である。

表1　北区　ピット計測表

遺構名	位置	平面形状	規模		埋土
			直径（m）	深さ（cm）	
P18	F4	円形	0.66	19	B
P24	E2	楕円形か	(0.40) × 0.37	56	B
P39	E3	円形	0.30	25	B
P49	F5	円形	0.47	28	C
P65	D4	楕円形	0.56 × (0.44)	40	B
P72	F5	円形	0.35	29	C
P78	D5	円形	0.29	8	C
P80	E5	楕円形	0.91 × 0.43	12	C
P85	F7	円形	0.43	10	C
P86	E6・F6	円形	0.45	41	A
P94	E7	円形	0.43	16	A
P106	D5	円形か	0.3 × (0.2)	6	C
P114	E8	円形	0.38	25	D
P134	F8	楕円形	0.92 × 0.48	54	A
P151	F5	楕円形	(0.68) × 0.39	36	C
P164	D5	楕円形	0.46 × 0.39	32	B
P166	F8	円形	0.30	15	A
P185	D9	楕円形	0.36 × 0.24	14	C
P196	C11	円形	0.70 × (0.66)	11	B
P197	F11	楕円形	(0.55) × 0.49	31	A
P199	F11	円形	0.35	38	B
P200	D11	円形	0.21	20	B
P201	C12・D12	楕円形	0.40 × 0.29	25	C
P212	E12	楕円形	0.84 × 0.47	14	C
P215	D12	円形	0.38	(23)	C
P224	F12	円形	0.30	16	B
P225	E13	円形か	(0.30) × (0.26)	10	B
P234	F4	楕円形	0.49 × 0.40	35	C
P235	F7	円形	0.47	58	C

※括弧内数字は残存値を示す

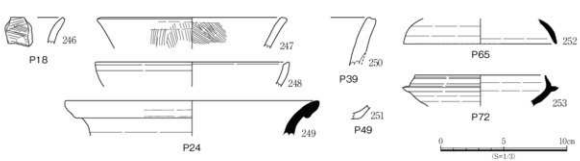


図 132　北区 ピット　出土遺物実測図 1

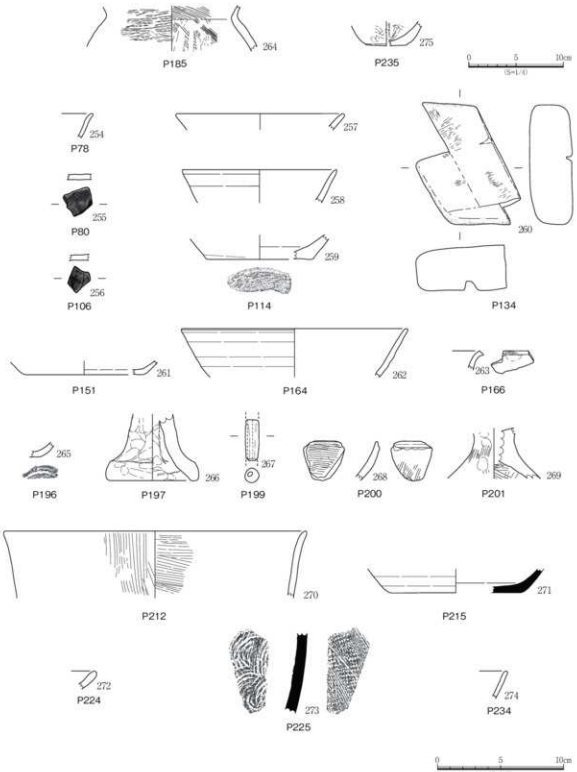


図133　北区 ピット　出土遺物実測図2

7. 遺物包含層・攪乱出土遺物

図示した出土遺物は、276 ～ 297 である。276 ～ 280 は第Ⅲ層、281 ～ 285 は第Ⅲ・Ⅳ層、286 ～ 292 は第Ⅳ層の出土遺物である。包含層の層位は、図 13・14 に対応する。293 ～ 295 は、北区東部に分布する近現代層からの出土遺物であり、296・297 は攪乱からの採集遺物である。器種は、弥生土器の壺、土師器の甕・鉢・皿・杯・椀、須恵器の壺・甕・高杯・蓋・椀、黒色土器の杯、緑釉陶器、磁器の皿・碗・人形、平瓦、石製品の砥石・硯である。

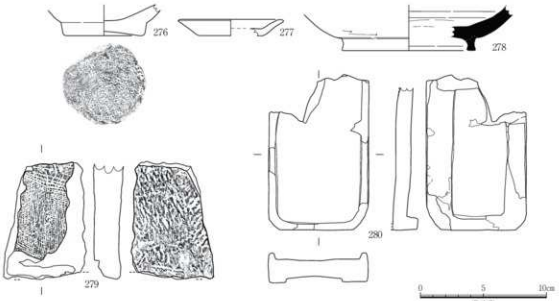


図 134　北区 Ⅲ層　出土遺物実測図

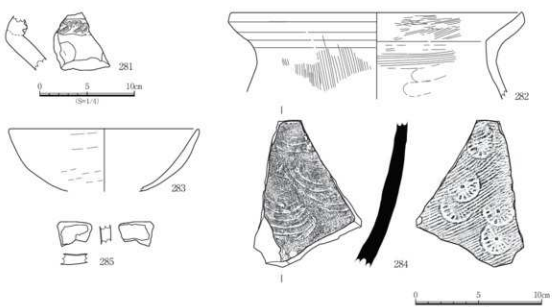


図 135　北区 Ⅲ・Ⅳ層　出土遺物実測図

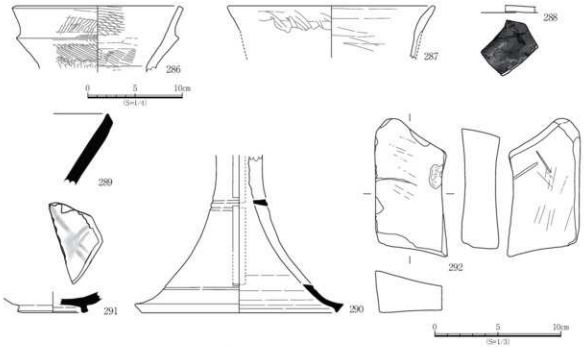


図 136　北区 Ⅳ層　出土遺物実測図

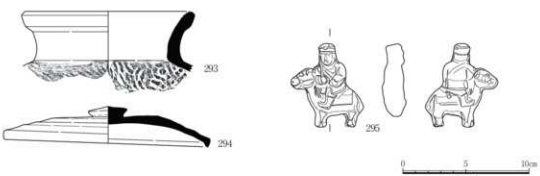


図 137　北区 Ⅱ′層　出土遺物実測図

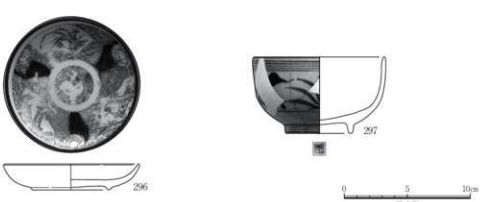


図 138　北区 攪乱　出土遺物実測図

第3節　南区

1. 竪穴建物跡

ST3（図139～147）

ST3は、南区中南部（R4グリッド他）で検出した平面形が円形ないし楕円形の竪穴建物跡である。東端の一部をST6に切られる。ほぼ円形であるが南北にやや長く、長軸4.78 m、短軸4.17 mを測る。床面積は約15.7㎡である。主軸方向はN－6°－Eである。検出面からの深さは15～27㎝であり、中央から北西寄りがやや深くなる。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。図139中に記載の遺構名は床面遺構名である。床面の北壁際の一部で壁溝の可能性のある溝を検出した。溝の深さは床面から8㎝であり、断面形は舟底形である。建物床面の主に北側で主柱穴の可能性のあるピットを複数検出した。床面東側で検出した比較的規模の大きな遺構（ST3－SK1）は、長軸1.05m、短軸0.74m、深さ18㎝であり、遺物は出土していない。ST3の遺構埋土からは遺物及び円礫が集中して出土した。遺物は中央より西側から南西及び南側に集中しており、多くは床面から5～10㎝程度高い埋土中から出土した。また、建物の中心付近から直径5～25㎝大の円礫が集中して出土した。円礫も遺物と同様に床面からやや高い埋土中に集中していた。円礫集中の中に含まれる遺物は比較的少なかった。

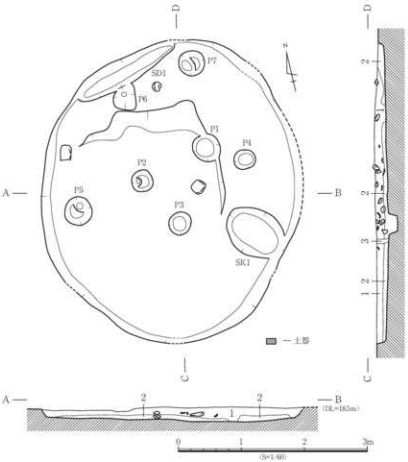


図139　ST3　平面図・断面図

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土製品、石製品が出土し、弥生土器の壺（298～306）・甕（307～357）・壺か甕（358）・鉢（359～377）・有孔鉢（378）・高杯（379～382）、土師器の甕（383）、須恵器の鉢（384）、土製品の支脚（385～387）、石製品の石包丁（388・389）を図示した。

図示した出土遺物の構成についてまとめると、甕が51点で全体の57%、鉢が20点で22%、壺が9点で10%等となっている。

図示した出土遺物のうち弥生土器の壺・甕・鉢の底部及び口縁端部形態について整理する。底部形態について、壺が、尖気味の丸底1点、甕が、平底2点、丸底指向の狭い平底15点、尖底2点、尖気味の丸底4点、丸底1点、突出2点、壺か甕が、平底とみられるもの1点、鉢が、平底2点、

丸みを帯びた平底2点、丸底指向の狭い平底2点、丸底2点、突出9点となっている。口縁端部形態について、壺が、面取り6点、丸みを帯びた面1点、丸1点であり、面取りは複合口縁・二重口縁各1点を含む。甕が、面取り21点、丸2点、細仕上げ1点、鉢が、面取り5点、丸みを帯びた面1点、丸5点、細仕上げ5点、丸と面を併せ持つ例外的なもの1点がある。これらから次の傾向が見出される。底部形態は、甕については丸底指向の狭い平底が15点で全体の60%を占める。その他の形態も尖り気味の丸底など、丸底を指向するものが多い一方、平底や丸底は僅少である。鉢については、突出する底部が9点と過半数を占め、その他は平底や丸底が少数存在する。口縁端部形態は、壺及び甕については面取りが約80%を占め、丸く収めるものと細く仕上げるものが僅かに存在する。一方で鉢は、面取り、丸、細仕上げがそれぞれ均等に存在する。

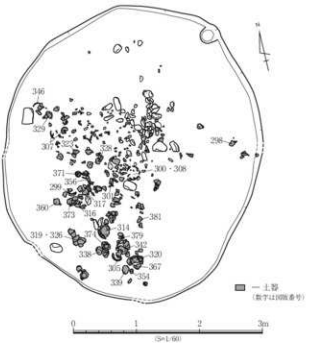


図140　ST3　遺物出土状態図

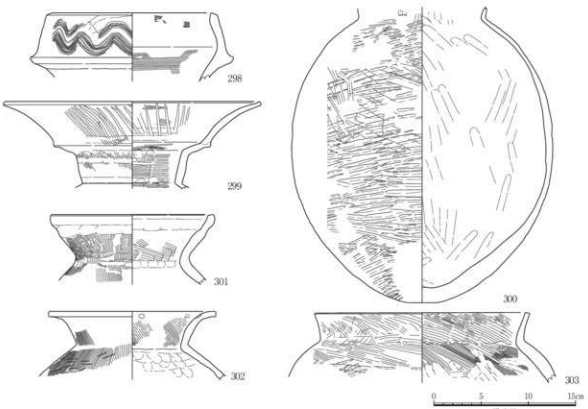


図141　ST3　出土遺物実測図1

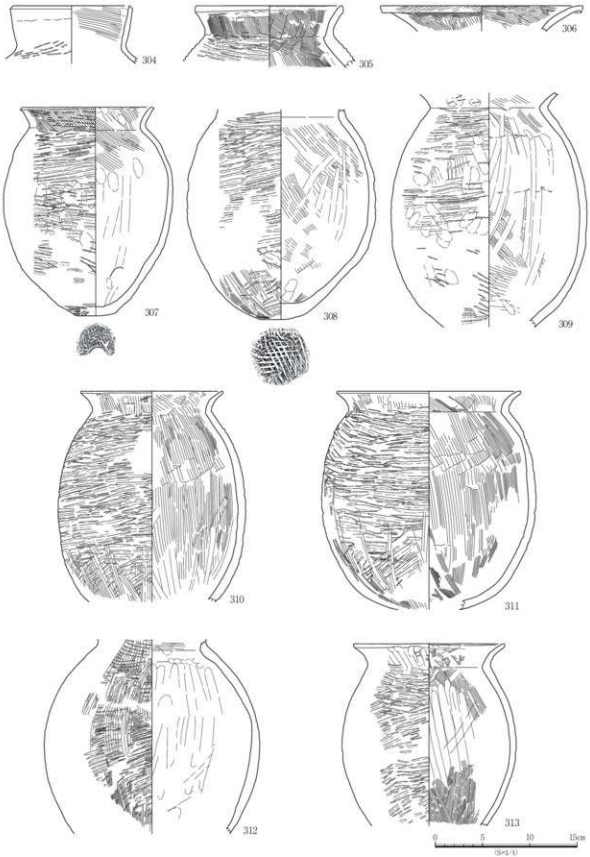


図 142　ST3　出土遺物実測図 2

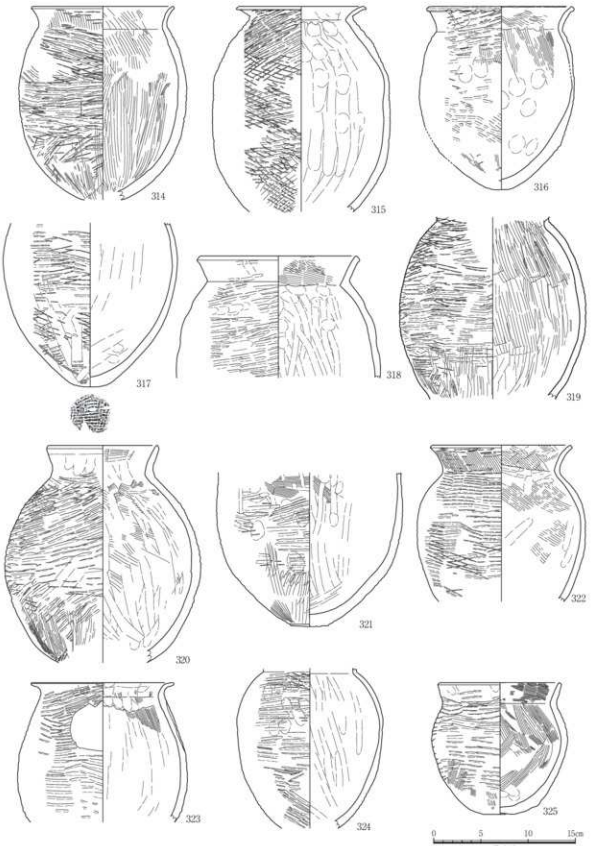


図143　ST3　出土遺物実測図3

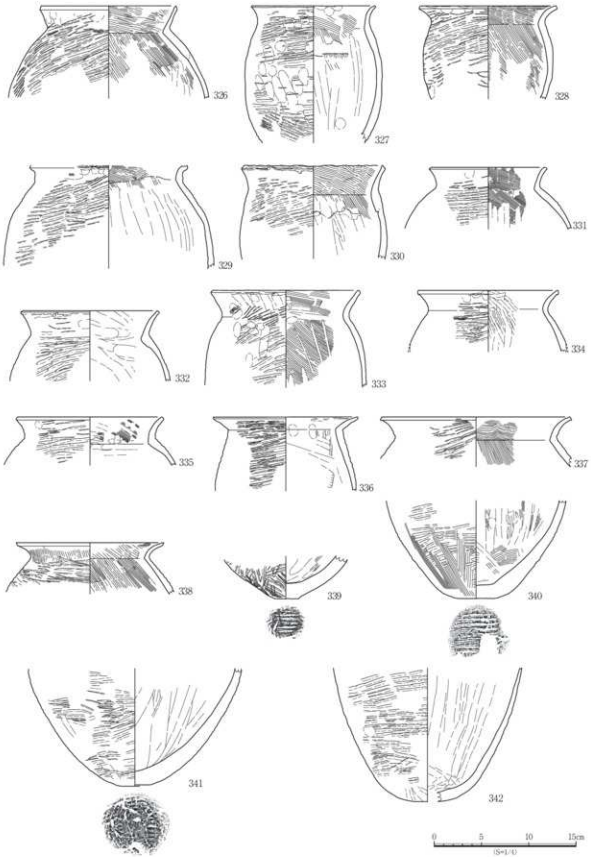


図 144　ST3　出土遺物実測図 4

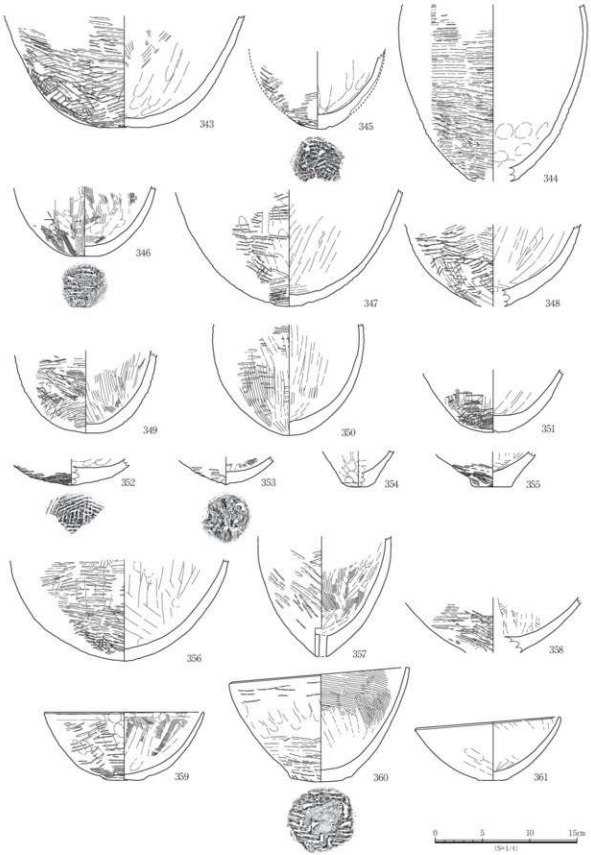


図145　ST3　出土遺物実測図5

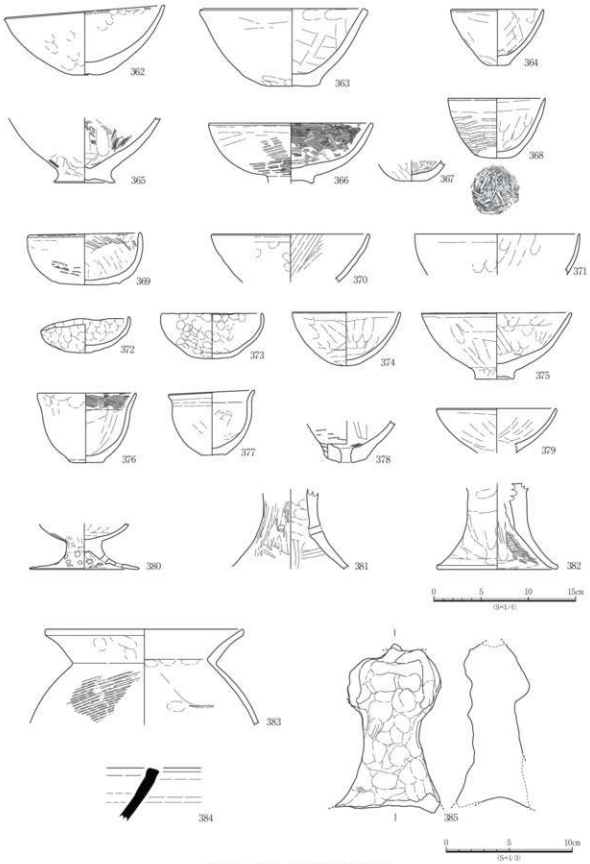


図146　ST3　出土遺物実測図6

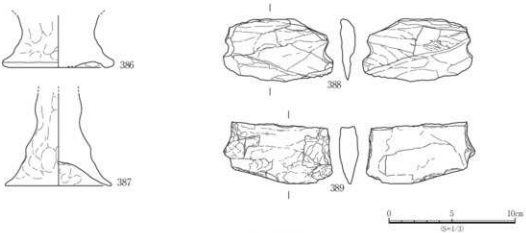
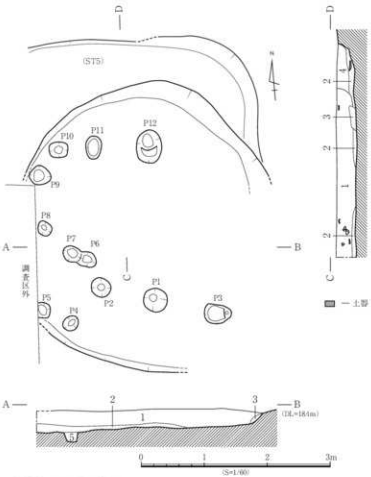


図147　ST3　出土遺物実測図7

ST4（図148～150）

ST4は、南区中西部（P3グリッド他）で検出した竪穴建物跡である。ST5と重複し検出が困難であったが、埋土の相違から複数の遺構が存在したとみられる。ST4はST5を切る円形の竪穴建物跡である可能性が考えられる。長軸4.62 m、短軸4.06 m（検出長）を測る。床面積は14.7㎡以上と推測される。検出面からの深さは25 cm程度と推測される。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルトである。床面において建物に付随すると考えられるピットを複数検出した。図148中に記載の遺構名は床面遺構名である。出土遺物によると、ST4は弥生時代の遺構と重複関係にあったことが想定されるが、埋土の観察から他の遺構を確認することはできなかった。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土製品、炭化物が出土し、弥生土器の壺（390・391）・甕（392～401・404～412）・壺か甕（403）・



1. 黒褐色（10YR2/2）シルト（ST4）
2. 黒褐色（10YR2/3）シルトに明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトが混じる（ST5）
3. 暗褐色（10YR3/3）シルトに明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトが混じる（ST5）
4. 黒褐色（10YR2/3）シルトに黄褐色（10YR5/6）砂質シルトが粒状に混じる（ST5）
5. 黒褐色（10YR2/3）シルトに褐色（10YR4/4）シルトが粒状に混じる（ST4～P7）

図148　ST4・5　平面図・断面図

甕か鉢（413～416）・鉢（402・417～420）・高杯（421・422）・器台（423）、土師器の杯（424）・羽釜（425）、須恵器の壺（426）・甕（427・428）・高杯（429）・蓋（430・431）・杯（432～435）、土製品の支脚（436・437）を図示した。

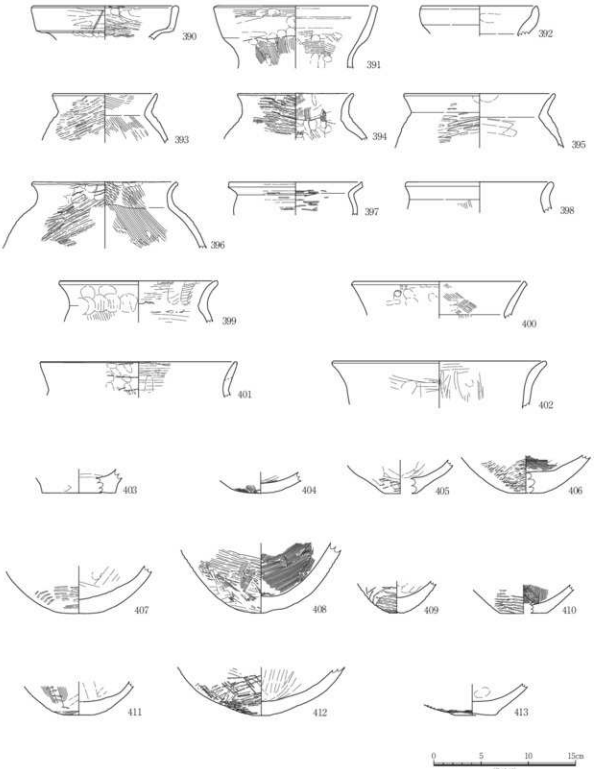


図 149　ST4　出土遺物実測図 1

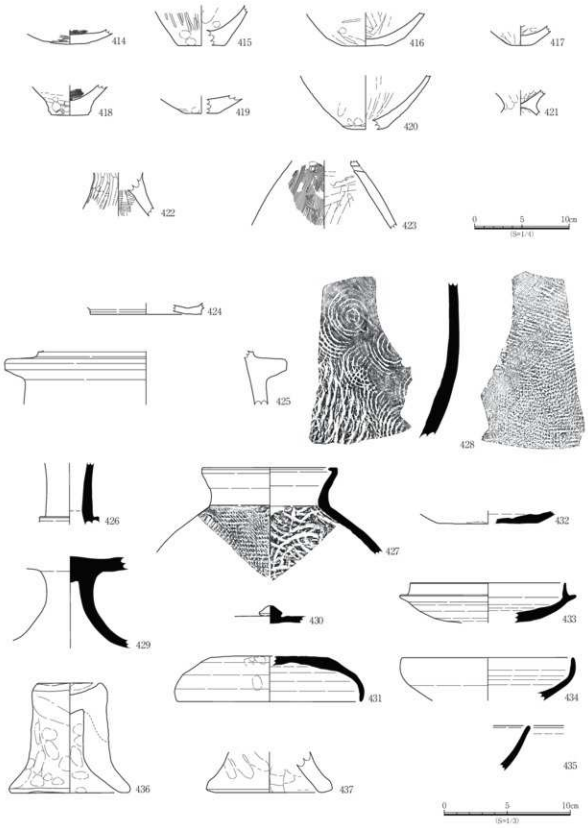


図150　ST4　出土遺物実測図2

ST5（図 151 ～ 153）

ST5 は、南区中西部（O3 グリッド他）で検出した平面形が方形と推測される竪穴建物跡である。建物中央の土層を ST4 に切られる。南側の立ち上がりは土坑等との切り合いにより不明瞭である。長軸（東西）7.35 m、短軸 5.75 m（検出長）を測る。床面積は 42.3㎡以上と推測される。検出面からの深さは 35㎝程度である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。建物内部の北壁際中央付近においてカマドの下部構造とみられる土及び焼土を検出した。また、カマド内において土師器の甕（443）等が設置された状態で出土した。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土製品が出土し、弥生土器の甕（438･439）、土師器の壺（440･441）･甕（442 ～ 446）･鉢（447 ～ 452）･高杯（453）･甑（454）、須恵器の蓋（455 ～ 457）、土製品の支脚（458）を図示した。

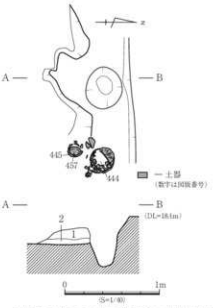


図 151　ST5 カマド　平面図・断面図

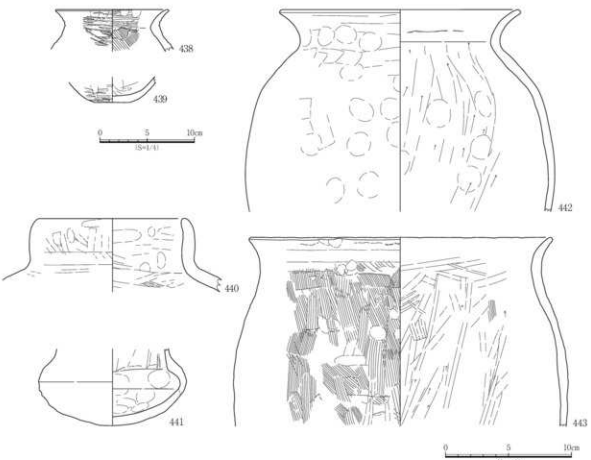


図 152　ST5　出土遺物実測図 1

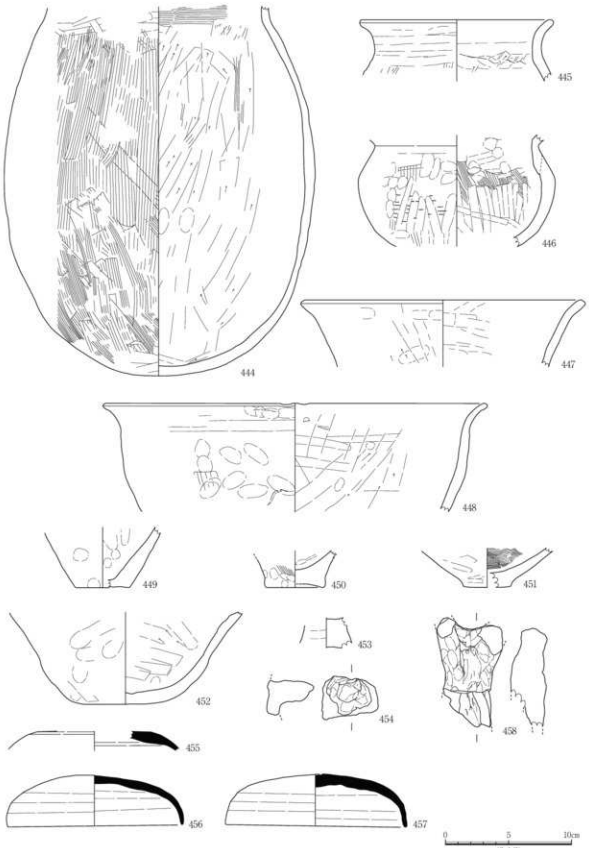
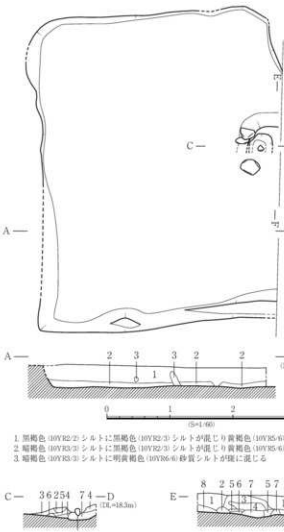


図153　ST5　出土遺物実測図2

ST6（図 154 ～ 157）

ST6 は、南区中南部（Q5 グリッド他）で検出した平面形が方形の竪穴建物跡である。東端は調査区外であるが、北東隅で東側立ち上がりの一部が確認された。長軸 5.00 m、短軸 3.80m（検出長）を測る。床面積は 19.0㎡余りである。主軸方向は N － 3° － E である。検出面からの深さは 40cm 程度である。床面は概ね平坦である。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。床面において建物に付随する遺構は確認されなかった。建物内部の東壁際中央付近において、比較的残存状態の良いカマドが検出された。カマドは粘土質の構造土をドーム状に築き、砂岩の円礫を袖石としてカマド前部に設置する。カマドに正対して左右の外側に 40cm 大の円礫をハの字状に角度をつけて埋設し、左の内側にやや小さい 20cm 大の円礫（甯石）を設置した状態であった。カマド中心をやや掘り窪めて砂岩の自然礫を支脚（470）として設置していた。支脚は礫固有の水平面を上方に向け、その直上に土師器の甕等を設置した状態であった。焼土と炭化物を含むカマドの構造土を取り除くと、建物床面から 3cm 程度深さの掘方が確認された。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石製品、鉄製品、炭化物が出土し、土師器の甕（459 ～ 464）・甕か鉢（465）・供膳具（466）、須恵器の高杯（467）・杯（468）、土製品の支脚（469）、石製品の支脚（470）、鉄製品の鉄鎌（471）を図示した。



1. 黒褐色（10YR2/2）シルトに黒褐色（10YR2/3）シルトが混じり黄褐色（10YR5/6）風化礫が軟状に混じる
2. 暗褐色（10YR3/3）シルトに黒褐色（10YR2/3）シルトが混じり黄褐色（10YR5/6）砂質シルトが混じる
3. 暗褐色（10YR3/3）シルトに明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトが斑に混じる

1. 黒褐色（10YR2/2）シルトに黒褐色（10YR2/3）シルトが混じり黄褐色（10YR5/6）風化礫が軟状に混じる
2. 黒褐色（10YR2/2）シルトに褐色（10YR4/4）シルトが混じる
3. 暗褐色（10YR3/3）シルトに明褐色（7.5YR5/6）シルトが混じる
4. 明褐色（7.5YR5/6）シルトに橙色（5YR6/8）シルトが軟状に混じる（焼土）
5. 暗褐色（10YR3/3）シルトに黄褐色（10YR5/6）シルトが混じる
6. 褐色（10YR4/4）シルト質粘土
7. 黒褐色（10YR2/2）粘土質シルトに明黄褐色（10YR6/6）粘土質シルトが混じり炭化物を含む
8. 褐色（10YR4/4）シルトに暗褐色（10YR3/3）シルトが混じり黄褐色（10YR5/6）シルトが混じる

図 154　ST6　平面図・断面図

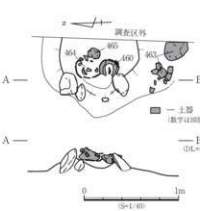


図 155　ST6 カマド　出土状態図

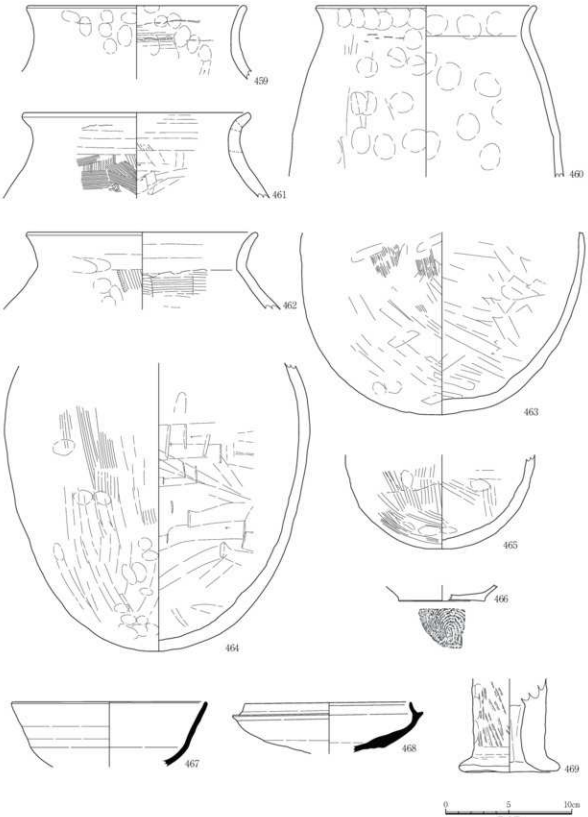


図156　ST6　出土遺物実測図1

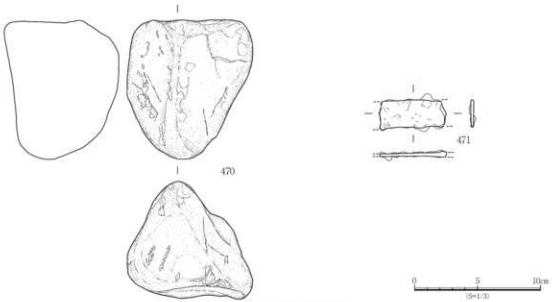


図 157　ST6　出土遺物実測図 2

ST7（図 158 ～ 160）

ST7 は、南区中部（O6 グリッド他）で検出した平面形が方形の竪穴建物跡である。南側を SB7 に切られる。長軸 4.78m、短軸 4.30m を測る。床面積は 20.6㎡である。主軸方向は N － 15° － W である。検出面からの深さは 12㎝前後である。床面は概ね平坦である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。床面において建物に付随すると考えられる溝 1 条とピットを複数検出した。図 158 中に記載の遺構名は床面遺構名である。建物内部の北壁際中央付近において、残存状態の不良なカマドと考えられる燃焼施設跡を検出した。検出した部分は焼土及び炭化物を含む土の僅かな高まりである。

遺物は土師器、須恵器、土製品（支脚）が出土し、土師

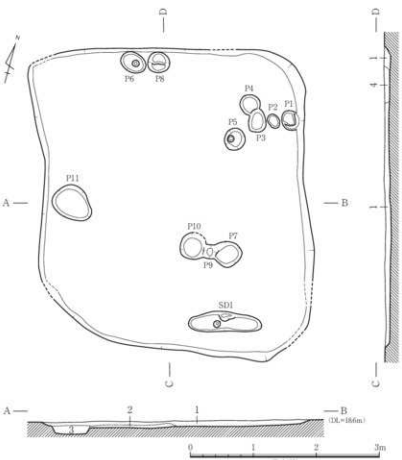


図 158　ST7　平面図・断面図

器の甕（472～477）・鉢（478・479）・高杯（480）・杯（481・482）・杯か椀（483）・羽釜（484）、須恵器の壺（485）・鉢（486）・高杯（487）・蓋（488～490）・杯（491・492）を図示した。

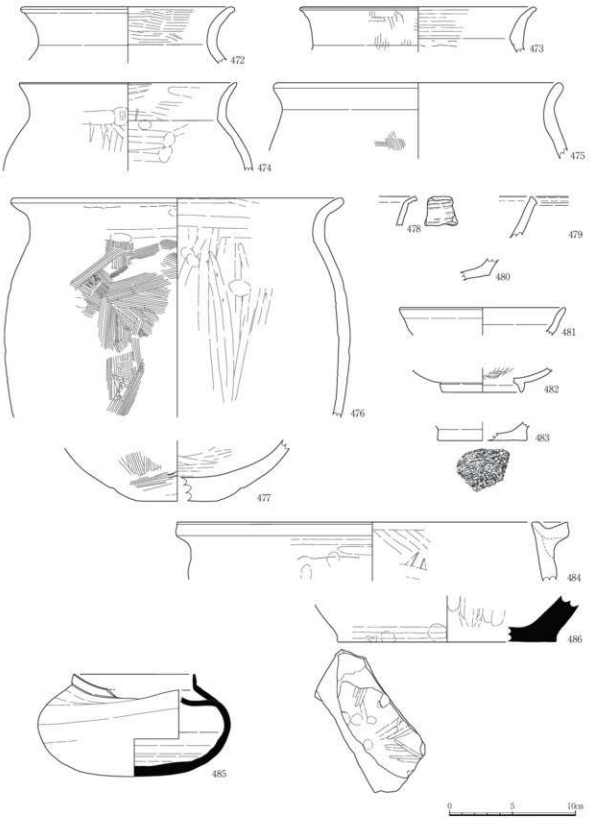


図159　ST7　出土遺物実測図1

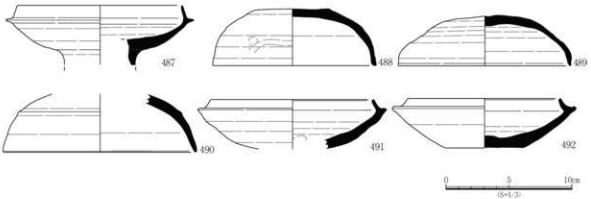


図 160　ST7　出土遺物実測図 2

ST8（図 161 ～ 165）

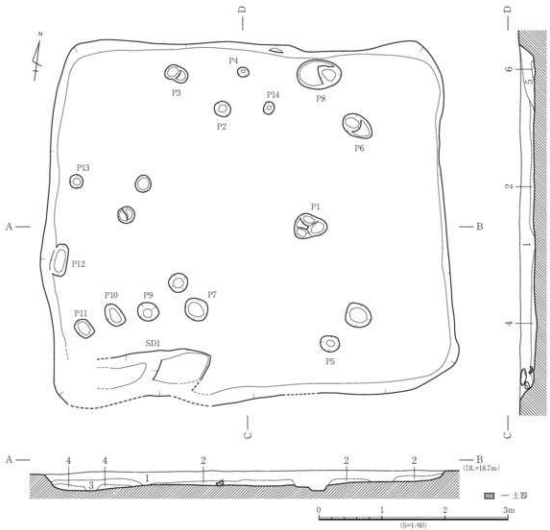
ST8 は、南区中東部（N8 グリッド他）で検出した平面形が方形の竪穴建物跡である。南西寄りを SB8 に切られる。長軸 6.41 m、短軸 5.66 m を測る。床面積は 36.3㎡である。主軸方向は N － 80° － E である。検出面からの深さは 26 ～ 33㎝である。床面は概ね平坦であるが、西側がやや深くなる。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルト他である。床面において建物に付随すると考えられる溝 1 条及び小規模なピットを複数検出した。図 161 中に記載の遺構名は床面遺構名である。建物内部の北壁際中央付近において、残存状態不良のカマドと考えられる燃焼施設跡を検出した。検出した部分は焼土及び炭化物を含む土の高まりである。この周辺からは土師器の煮炊具や須恵器の杯などが一定のまとまりをもって出土した。

遺物は土師器、須恵器、緑釉陶器、土製品、石製品が出土し、土師器の甕（493 ～ 500）・壺か甕（501）・鉢（502・503）・甕か鉢（504）・高杯（505 ～ 509）・皿（510）・杯（511 ～ 514）・皿か杯（515・516）・杯か椀（517・518）・供膳具（519）・甑（520 ～ 523）・鍋（524）、須恵器の甕（525）・高杯（526）・蓋（527 ～ 530）・杯（531 ～ 534）、緑釉陶器の皿（535）、土製品の土錘（536）、石製品の台石（537）を図示した。なお、ST8 出土遺物の中には、重複関係にある SB8 に帰属する遺物が含まれる可能性がある。513 や 535 がその例と考えられる。

ST9（図 166 ～ 167）

ST9 は、南区東部（N10 グリッド他）で検出した平面形が不整方形の竪穴建物跡である。SB9 に切られる。長軸 3.93 m、短軸 3.74 m を測る。床面積は約 14.7㎡である。主軸方向は N － 83° － E である。検出面からの深さは 17㎝である。床面は概ね平坦である。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルト他である。床面において建物に付随すると考えられるピットを検出した。図 166 中に記載の遺構名は床面遺構名である。建物内部の北壁際中央付近において、焼土及び炭化物を含む土を検出した。

遺物は土師器、須恵器、炭化物が出土し、土師器の壺（538・539）・甑（540）、須恵器の蓋（541）を図示した。



1. 暗褐色（10YR3/3）シルトに黒褐色（10YR2/3）シルトが混じる
2. 暗褐色（10YR3/3）シルトに黄褐色（10YR5/6）シルトが粒状に混じる
3. 黒褐色（10YR2/3）シルトに黄褐色（10YR5/6）シルトが粒状に混じる
4. 黄褐色（10YR5/6）砂質シルトに暗褐色（10YR3/3）シルトが混じる
5. 褐色（10YR4/6）シルトににぶい黄褐色（10YR5/4）シルトが混じる（地土）
6. 暗褐色（10YR3/3）シルトに褐色（10YR4/6）シルトが混じる

図161　ST8　平面図・断面図

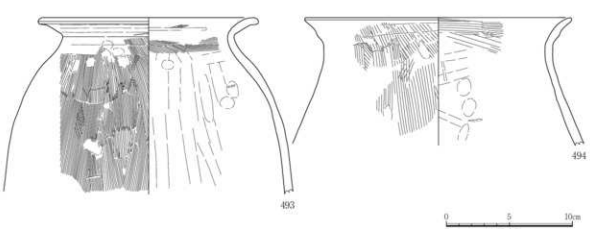


図162　ST8　出土遺物実測図1

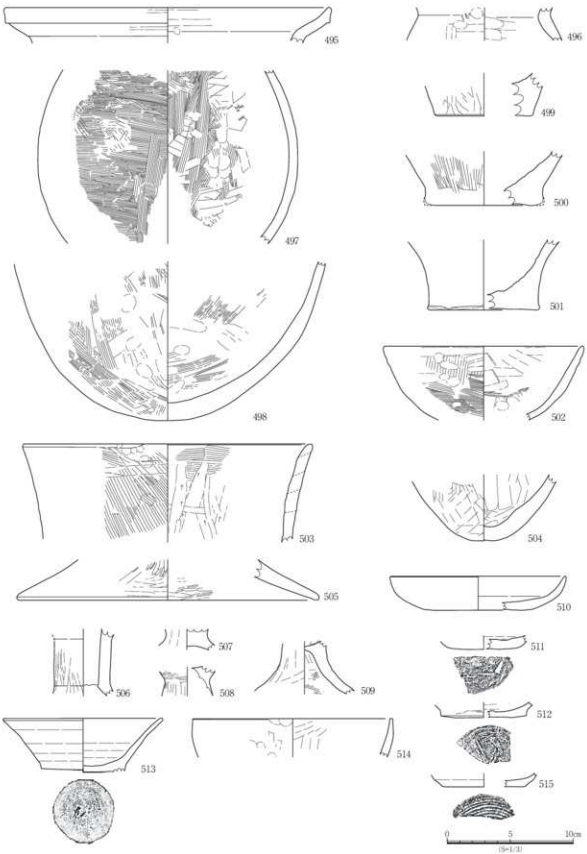


図 163　ST8　出土遺物実測図 2

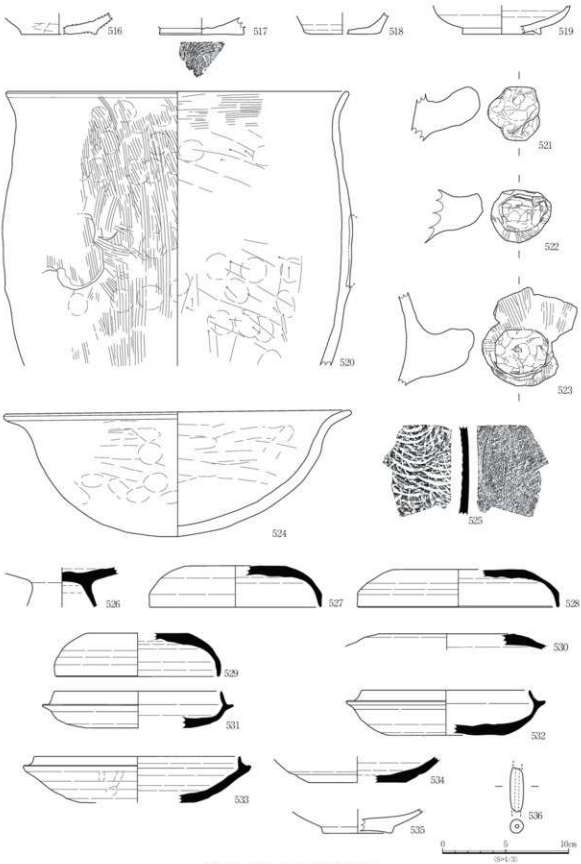


図164　ST8　出土遺物実測図3

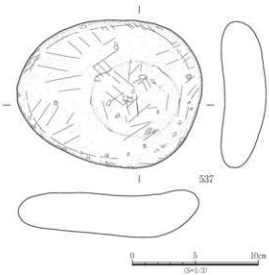
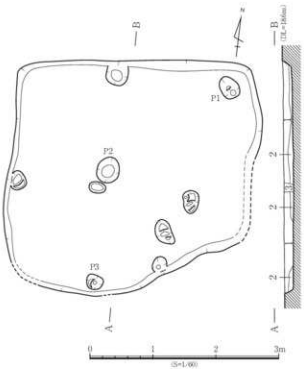


図 165　ST8　出土遺物実測図 4



1. 暗褐色(10YR3/3) シルトに褐色(10YR4/4) シルトが粒状に混じる
2. 褐色(10YR4/4) シルトに暗褐色(10YR3/3) シルトが斑状に混じる
3. 明黄褐色(10YR6/6)砂質シルトに暗褐色(10YR3/3) シルトが混じる

図 166　ST9　平面図・断面図

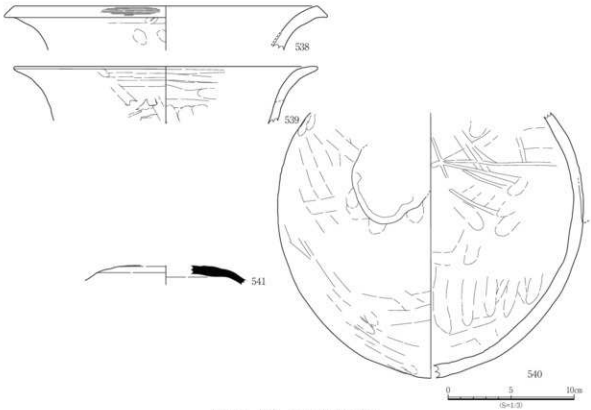


図 167　ST9　出土遺物実測図

2. 掘立柱建物跡

SB4（図168・169）

SB4は、南区中南部（Q4グリッド他）で検出した桁行3間（5.3m）、梁行3間（4.9m）の南北棟の建物跡である。主軸方向はN－3°－Wである。柱間寸法は、桁行が1.4～2.4m、梁行が1.4～2.0mである。柱穴は直径45～80cmの円形ないし楕円形であり、検出面からの深さは15～62cmである。床面積は26.0㎡である。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土し、弥生土器の甕か鉢（542）、土師器の甕（543）、須恵器の杯（544～546）を図示した。

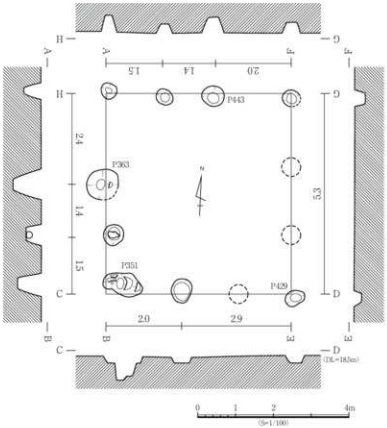


図168　SB4　平面図・エレベーション図

SB5（図170）

SB5は、南区中部北寄り（M6グリッド他）で検出した桁行2間（3.8m）以上、梁行1間（3.2m）の南北棟の建物跡である。主軸方向はN－10°－Eである。柱間寸法は、桁行が1.7～1.9m、梁行が3.2mである。柱穴は直径22～52cmの円形ないし楕円形であり、検出面からの深さは29～50cmである。床面積は12.2㎡以上である。検出した柱穴はいずれも柱を抜き取った穴を伴い、2～4個のピットが切り合う状況であった。

遺物は土師器、須恵器が出土した。

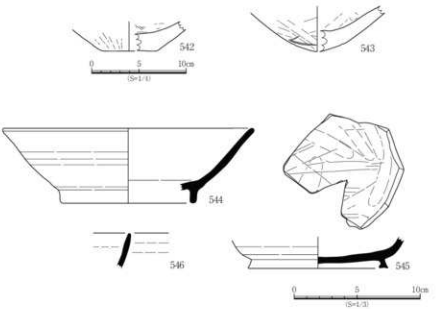


図169　SB4　出土遺物実測図

SB6（図171）

SB6は、南区中部（N5グリッド他）で検出した桁行2間（3.9m）、梁行2間（3.8m）の東西棟の建物跡である。主軸方向はN－87°－Eである。柱間寸法は、桁行が1.7～2.2m、梁行が1.8～2.0mである。柱穴は直径38～64cmの円形ないし楕円形であり、検出面からの深さは26～35cmである。床面積は14.8㎡である。

遺物は土師器が出土した。

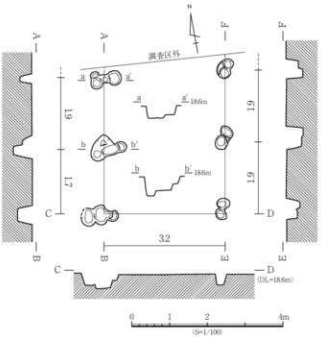


図170　SB5　平面図・エレベーション図

SB7（図172・173）

SB7は、南区中部（O6グリッド他）で検出した桁行3間（3.4m）、梁行2間（3.0m）の東西棟の建物跡である。主軸方向はN－86°－Wである。柱間寸法は、桁行が1.1～1.2m、梁行が1.4m～1.6mである。柱穴は直径52～80cm以上の円形ないし楕円形であり、検出面からの深さは17～54cmである。埋土は黒褐色（10YR2/3）他である。床面積は10.2㎡である。

遺物は土師器、須恵器が出土し、土師器の壺(547)・甕(548･549)・高杯(550)・杯(551)、須恵器の鉢(552)を図示した。

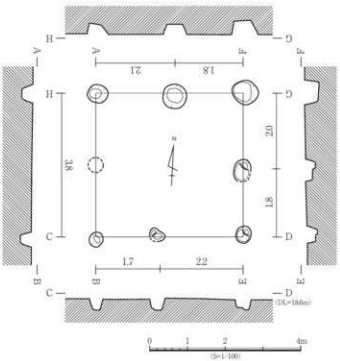


図171　SB6　平面図・エレベーション図

SB8（図174・175）

SB8は、南区中東部（N8グリッド他）で検出した桁行2間（3.7m）、梁行2間（3.6m）の南北棟の建物跡である。主軸方向はN－2°－Eである。柱間寸法は、桁行が1.8～1.9m、梁行が1.7～1.9mである。柱穴は直径71～102cmの円形または隅丸方形であり、検出面からの深さは34～60cmである。埋土は黒褐色（10YR2/3）他である。ST8の内部で検出した柱穴は、ST8の掘削過程で埋土上層の一部が削平された。床面積は13.3㎡である。

遺物は土師器、須恵器、石製品が出土し、土師器の甕（553）、須恵器の甕（554）・杯（555）、石製品の叩石（556）を図示した。

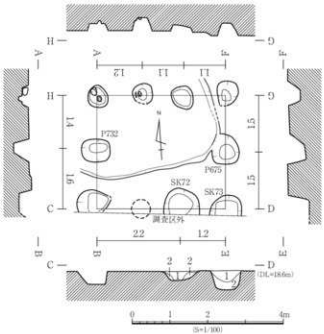


図172　SB7　平面図・断面図・エレベーション図

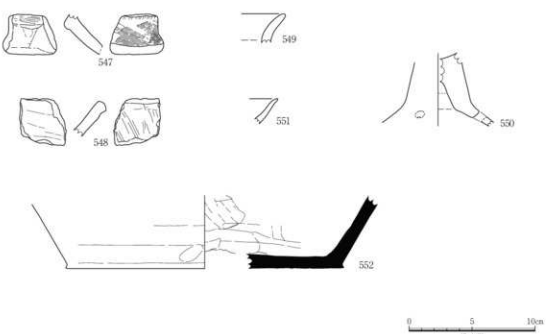
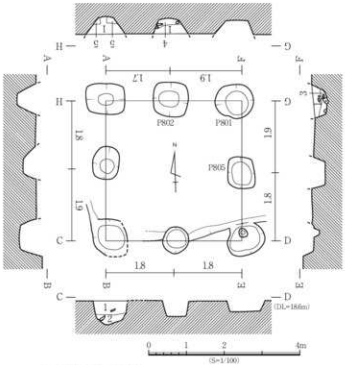


図173　SB7　出土遺物実測図



1. 黒褐色(10YR2/3) シルト
2. 暗褐色(10YR3/3) シルトに黄褐色(10YR5/6)砂質シルトが混じる
3. 暗褐色(10YR3/3) シルトに黄褐色(10YR5/6) シルトが斑に混じる
4. 褐色(10YR4/4) シルトに暗褐色(10YR3/3) シルトが混じる
5. 暗褐色(10YR3/3) シルトに明黄褐色(10YR6/6) シルトが混じる

図 174　SB8　平面図・断面図・エレベーション図

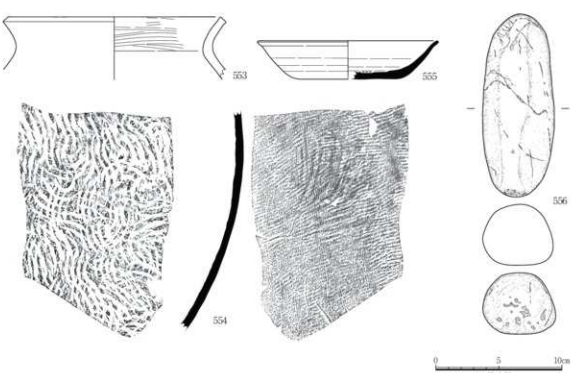


図 175　SB8　出土遺物実測図

SB9（図176・177）

SB9は、南区東部（N10グリッド他）で検出した桁行2間（4.0 m）、梁行2間（3.4 m）の南北棟の建物跡である。主軸方向はN－4°－Eである。柱間寸法は、桁行が1.9～2.1 m、梁行が1.5～1.9 mである。柱穴は直径38～76cmの円形であり、検出面からの深さは24～37cmである。床面積は13.6㎡である。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、炭化物が出土し、弥生土器の甕（557）、須恵器の蓋（558）を図示した。

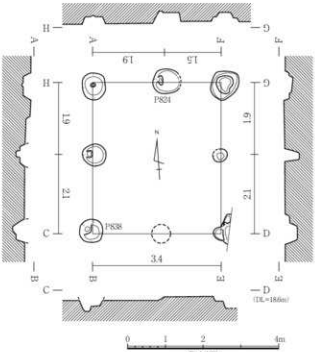


図176　SB9　平面図・エレベーション図

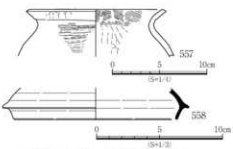


図177　SB9　出土遺物実測図

SB10（図178）

SB10は、南区中部（P6グリッド他）で検出した桁行2間（3.6 m）、梁行2間（2.7 m）の南北棟の建物跡である。主軸方向はN－1°－Wである。柱間寸法は、桁行が1.7～1.9 m、梁行が1.3～1.4 mである。柱穴は直径40～55cmの円形であり、検出面からの深さは19～40cmである。床面積は9.7㎡である。

遺物は土師器が出土した。

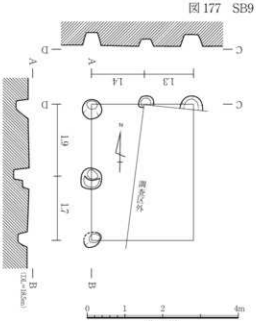


図178　SB10　平面図・エレベーション図

SB11（図 179・180）

SB11 は、南区東北部（M10 グリッド他）で検出した桁行 3 間（5.5 m）、梁行 1 間以上の東西棟の建物跡と考えられる。主軸方向は N － 81° － W である。柱間寸法は、桁行が 1.8 ～ 1.9 m である。柱穴は直径 50 ～ 85cm の円形ないし楕円形であり、検出面からの深さは 25 ～ 49cm である。

遺物は土師器、須恵器、炭化物が出土し、須恵器の壺（559）を図示した。

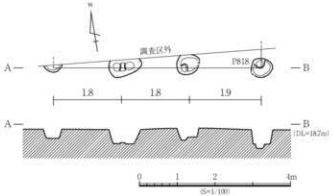


図 179　SB11　平面図・エレベーション図

図 180　SB11　出土遺物実測図

3. 土坑

SK49（図 181）

SK49 は、南区中東部（N7 グリッド他）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸 2.20 m、短軸 1.87 m を測り、検出面からの深さは 46cm である。断面形は逆台形である。主軸方向は N － 5° － E である。埋土は黒褐色（10YR3/3）シルトであり、中～上層に直径 20 ～ 30cm 大の円礫が充填される。床面の中央からやや西寄りに直径 1.30 m 程度、深さ 1 ～ 2cm の環状の細い溝が検出された。溝の幅は 5 ～ 7cm である。床面に桶などの埋設物を設置した痕跡の可能性が考えられる。木質遺物などは出土していない。

遺物は土師器、須恵器、陶器、磁器が出土し、陶器の鉢（560）、磁器の碗（561）を図示した。

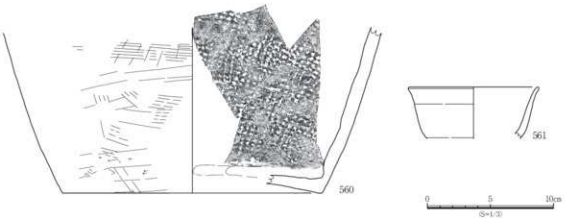


図 181　SK49　出土遺物実測図

SK50（図182・183）

SK50は、南区南部東壁際（U6グリッド他）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸0.71 m（検出長）、短軸0.67 m（検出長）を測り、検出面からの深さは15～43cmである。断面形は逆台形と推測される。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。床面にピット状の掘り込みがある。

遺物は土師器、土製品が出土し、土製品の土錘（562）を図示した。

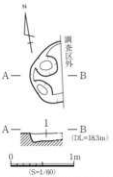


図182　SK50　平面図・断面図

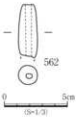


図183　SK50　出土遺物実測図

SK51（図184・185）

SK51は、南区南部（T4グリッド他）で検出した平面形が長楕円形の土坑である。長軸2.94 m、短軸0.75 mを測り、検出面からの深さは28～40cmである。断面形は舟底形である。主軸方向はN－7°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器、須恵器、土製品が出土し、土製品の土錘（563）を図示した。

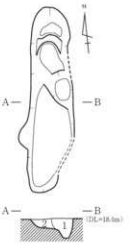


図184　SK51　平面図・断面図

SK52（図186・187）

SK52は、南区南部（U5グリッド他）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸1.85 m、短軸1.20 mを測り、検出面からの深さは13～41cmである。断面形は皿状である。主軸方向はN－62°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。床面でピット状の掘り込みを複数検出した。

遺物は弥生土器、土師器が出土し、弥生土器の甕（564）を図示した。

SK53（図188・189）

SK53は、南区南部西寄り（T3グリッド他）で検出した平面形が円形の土坑である。長軸1.10 m、短軸1.01 mを測り、検出面からの深さは33cmである。断面形は舟底形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器、須恵器が出土し、土師器の羽釜（565）を図示した。

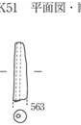


図185　SK51　出土遺物実測図

SK54（図190・191）

SK54は、南区南部（T4グリッド他）で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸3.46 m、短軸0.63 mを測り、検出面からの深さは25～37cmである。東側がやや深い。断面形は舟底形である。主軸

方向はＮ－71°－Ｅである。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。東端をSK51に切られる。

遺物は土師器、須恵器、石製品、炭化物が出土し、土師器の杯（566）、石製品の叩石（567）を図示した。

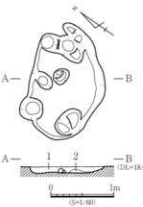


図186　SK52　平面図・断面図

SK55（図192・193）

SK55は、南区南部（U4グリッド他）で検出した平面形が不整方形の土坑である。長軸1.35ｍ、短軸1.26ｍを測り、検出面からの深さは31cmである。断面形は逆台形であり、床面はやや凹凸を呈する。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器、須恵器が出土し、土師器の皿（568）・杯（569）を図示した。

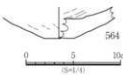


図187　SK52　出土遺物実測図

SK56（図194・195）

SK56は、南区南部（T5グリッド）で検出した平面形が不整円形の土坑である。長軸1.76ｍ、短軸1.63ｍを測り、検出面からの深さは10cmである。断面形は皿状である。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。床面でSK62・SD29を検出した。

遺物は弥生土器、土師器が出土し、弥生土器の甕（570）を図示した。

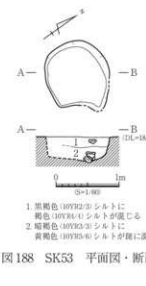


図188　SK53　平面図・断面図

SK57（図196）

SK57は、南区南部（T5グリッド他）で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸1.07ｍ、短軸0.65ｍを測り、検出面からの深さは27～38cmである。断面形は不整形であり、床面は凹凸を呈する。主軸方向はＮ－78°－Ｅである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土した。

SK58（図197・198）

SK58は、南区南部（T5グリッド）で検出した平面形が円形の土坑である。長軸1.10ｍ、短軸1.05ｍを測り、検出面からの深さは20cmである。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は弥生土器、土師器が出土し、弥生土器の甕（571・572）を図示した。

SK59（図199・200）

SK59は、南区南部（T3グリッド他）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸1.59ｍ、

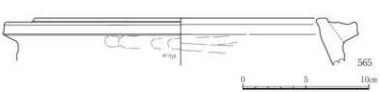


図189　SK53　出土遺物実測図

短軸1.02 mを測り、検出面からの深さは42cmを測る。断面形は逆台形である。主軸方向はN－74°－Eである。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト他である。

遺物は土師器、須恵器、青磁が出土し、土師器の杯（573）・皿か杯（574）、須恵器の杯（575）、青磁の碗（576）を図示した。

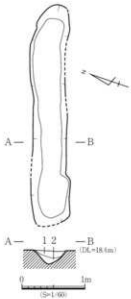


図190　SK54　平面図・断面図

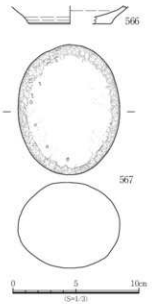


図191　SK54　出土遺物実測図

SK60（図201・202）

SK60は、南区南部（S4グリッド他）で検出した平面形が長楕円形の土坑である。長軸2.72 m、短軸0.90 mを測り、検出面からの深さは11～29cmである。断面形は皿状である。主軸方向はN－87°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。床面の中央及び西側がピット状に深くなる。

遺物は弥生土器、土師器が出土し、弥生土器の甕（577）を図示した。

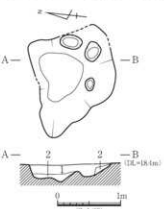


図192　SK55　平面図・断面図

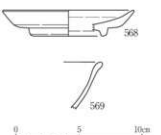


図193　SK55　出土遺物実測図

SK61（図203・204）

SK61は、南区南部（T3グリッド他）で検出した平面形が円形の土坑である。東側をSD26に切られる。長軸1.19 m、短軸1.00 mを測り、検出面からの深さは19cmである。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土し、甕（578）を図示した。

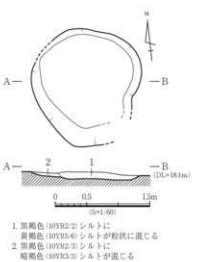


図194　SK56　平面図・断面図

SK62（図205）

SK62は、南区南部（T5グリッド）、SK56の床面で検出した平面形が楕円形の土坑である。SD29を切る。長軸1.42 m、短軸0.63 mを測り、検出面からの深さは34cmである。

断面形は舟底形である。主軸方向はN－71°－Eである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

遺物は弥生土器、土師器が出土し、弥生土器の甕（579）を図示した。

SK63（図206・207）

SK63は、南区南部（T5グリッド他）で検出した平面形が長楕円形の土坑である。長軸1.10 m、短軸0.41 mを測り、検出面からの深さは18～49cmである。床面北側は凹凸を呈し深くなる。断面形は舟底形である。主軸方向はN－21°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器、土製品が出土し、土製品の土錘（580）を図示した。

SK64（図208）

SK64は、南区南部（S4グリッド）で検出した平面形が円形の土坑である。長軸1.43 m、短軸1.21 mを測り、検出面からの深さは15～36cmである。床面中央は凹凸を呈し深くなる。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。

遺物は土師器が出土した。

SK65（図209・210）

SK65は、南区中西部（Q3グリッド他）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。SK67を切る。長軸2.48 m（検出長）、短軸1.75 mを測り、検出面からの深さは32cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－90°である。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。床面において土坑に付随すると考えられるピットを複数検出した。ピットは直径25～46cmの円形ないし楕円形であり、床面からの深さは3～38cmである。

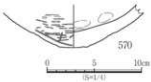


図195　SK56　出土遺物実測図

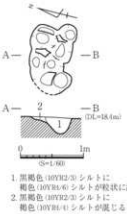


図196　SK57　平面図・断面図

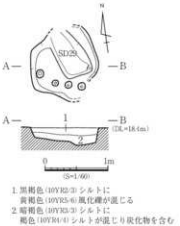


図197　SK58　平面図・断面図

図198　SK58　出土遺物実測図

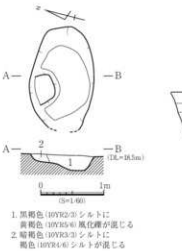


図199　SK59　平面図・断面図

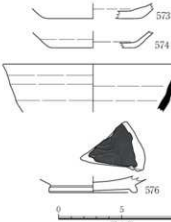


図200　SK59　出土遺物実測図

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土製品、炭化物が出土し、弥生土器の甕（581～585）・甕か鉢（586・587）、土師器の甕（588）・鉢（589・590）・杯か椀（591）、須恵器の蓋（592）・杯（593）、土製品の支脚（594）を図示した。

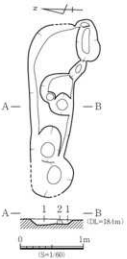


図201　SK60　平面図・断面図

図202　SK60　出土遺物実測図

SK66（図211・212）

SK66は、南区中南部（Q5グリッド）で一部を検出した土坑である。長軸2.0 m以上、短軸0.8 m以上と推定され、検出面からの深さは18 cmである。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルトである。

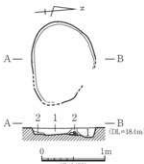


図203　SK61　平面図・断面図

遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土し、弥生土器の甕（595）、土師器の鉢（596・597）を図示した。

SK67（図213・214）

SK67は、南区中西部（Q4グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。西側をSK65に切られる。長軸2.05 m、短軸1.37 m（検出長）を測り、検出面からの深さは33cmである。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。床面において土坑に付随すると考えられるピットを複数検出した。図213中に記載の遺構名は床面遺構名である。ピットは直径25～60cmの円形ないし楕円形であり、床面からの深さは6～27cmである。

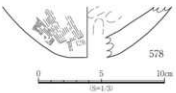


図204　SK61　出土遺物実測図

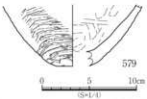


図205　SK62　出土遺物実測図

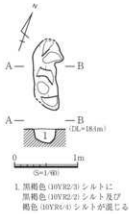


図206　SK63　平面図・断面図

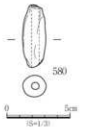


図207　SK63　出土遺物実測図

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土製品、炭化物が出土し、弥生土器の甕（598・599）、土師器の甕（600～602）・鉢（603～607）・高杯（608）・椀（609）、土製品の土錘（610）を図示した。

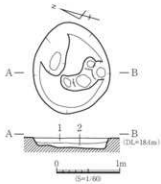


図 208　SK64　平面図・断面図

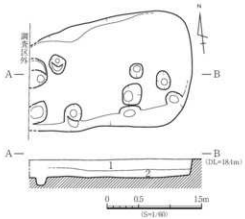


図 209　SK65　平面図・断面図

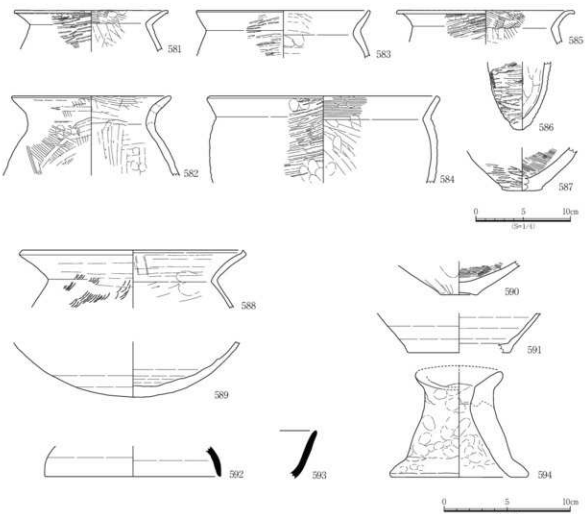
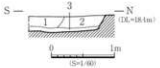


図 210　SK65　出土遺物実測図



1. 黒褐色(10YR2/2)シルトに明黄褐色(10YR6/8)
砂質シルトが粒状に混じる(ST6)
2. 黒褐色(10YR2/3)シルトに
暗褐色(10YR3/3)シルトが混じる(ST6)
3. 暗褐色(10YR3/3)シルトに明黄褐色(10YR6/8)
砂質シルトが混じる(SE66)

図211　SK66　断面図

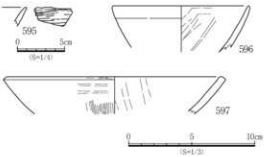
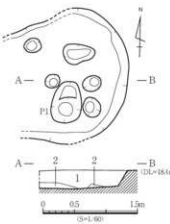


図212　SK66　出土遺物実測図



1. 黒褐色(10YR2/3)シルトに
黒褐色(10YR2/2)シルトが混じる
2. 黒褐色(10YR2/2)シルトに
黄褐色(10YR5/6)シルトが斑に混じる

図213　SK67　平面図・断面図

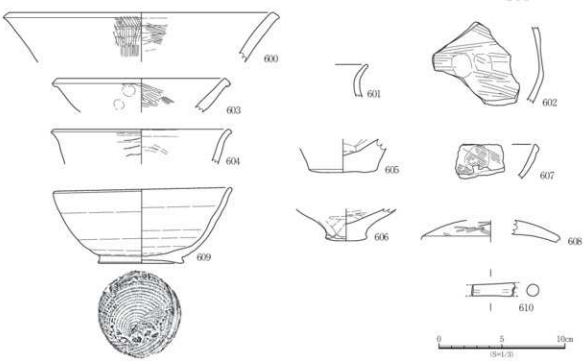


図214　SK67　出土遺物　実測図

SK68（図215）

SK68は、南区中南部（R5グリッド）で検出した平面形が円形と推測される土坑である。SK69と切り合う。長軸1.12 m、短軸0.98 m（検出長）を測り、検出面からの深さは38cmである。断面形はU字形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。床面において直径40cm大の扁平な円礫を検出した。

遺物は弥生土器、土師器が出土し、弥生土器の甕（611）、土師器の器台（612）・椀（613）を図示した。

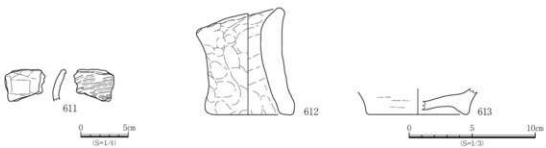


図215　SK68　出土遺物実測図

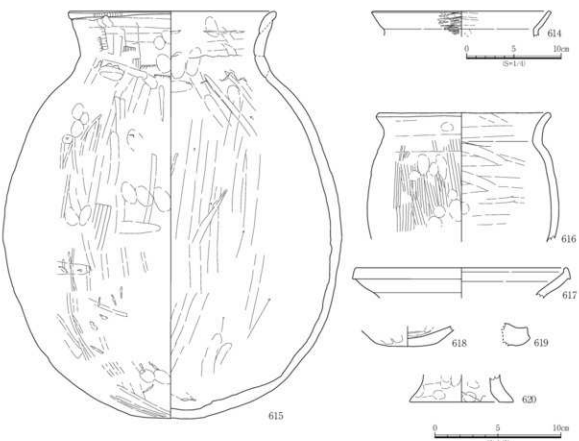


図216　SK69　出土遺物実測図

SK69（図216）

SK69は、南区中南部（R5グリッド）で検出した平面形が円形と推測される土坑である。SK68と

切り合う。長軸0.99 m、短軸0.81 m（検出長）を測り、検出面からの深さは44cmである。断面形はU字である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は弥生土器、土師器、土製品が出土し、弥生土器の甕(614)、土師器の甕(615～617)・甕か鉢(618)・羽釜（619）、土製品の支脚（620）を図示した。

SK70（図217・218）

SK70は、南区中南部（Q5グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸1.82m、短軸1.61mを測り、検出面からの深さは43cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－10°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土し、弥生土器の甕（621）、土師器の鉢（622・623）を図示した。

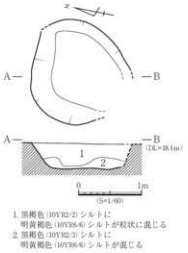


図217　SK70　平面図・断面図

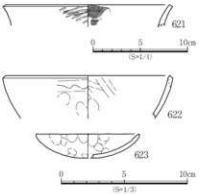


図218　SK70　出土遺物実測図

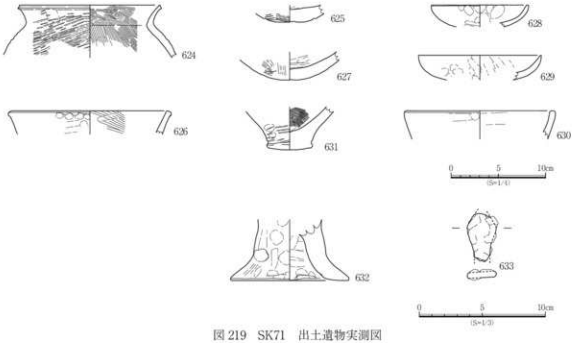


図219　SK71　出土遺物実測図

SK71（図219）

SK71は、南区中西部（P4グリッド）で検出した土坑である。ST4の南側とSK65・67の北側の間で遺構埋土を確認した。平面形や規模の詳細は不明である。長軸3.5 m以上、短軸1.5 m以上を測り、検出面からの深さは33cmである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は弥生土器、須恵器、土製品、鉄製品が出土し、弥生土器の甕（624～627）・鉢（628～630）・甕か鉢（631）、土製品の支脚（632）、鉄製品の鉄鏃（633）を図示した。

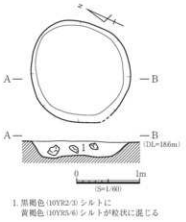


図220　SK74　平面図・断面図

SK74（図220）

SK74は、南区中部（N7グリッド）で検出した平面形が円形の土坑である。SK49の西側に隣接する。長軸1.63 m、短軸1.58 mを測り、検出面からの深さは27cmである。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。埋土中及び床面において直径15～30cm大の礫を20個程度検出した。

遺物は土師器が出土した。

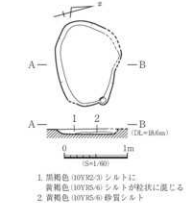


図221　SK75　平面図・断面図

SK75（図221）

SK75は、南区中東部北寄り（M8グリッド）で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸1.35 m、短軸1.02 mを測り、検出面からの深さは17cmを測る。断面形は皿状である。主軸方向はN－82°－Wである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土した。

SK76（図222）

SK76は、南区東部東壁際（O11グリッド）で検出した平面形が楕円形と推測される土坑である。中央をビットに切られる。長軸1.47 m、短軸0.43 m（検出長）を測り、検出面からの深さは20cmである。断面形は逆台形である。主軸方向はN－5°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土し、杯（634）を図示した。

図222　SK76　出土遺物実測図

SK77（図223）

SK77は、南区東部（O11グリッド他）で検出した平面形が円形の土坑である。長軸2.23 m、短軸2.18 mを測り、検出面からの深さは55cmである。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。検出面から埋土上層まで（深さ約30cm）に直径20～30cm大の円礫が充填されている状態であった。

遺物は土師器、須恵器、磁器が出土し、磁器の皿（635）を図示した。

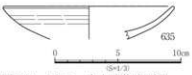


図223　SK77　出土遺物実測図

SK78（図 224・225）

SK78は、南区東部東壁際（M11グリッド）で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸 1.37 m、短軸 1.26 m（検出長）を測り、検出面からの深さは 32cmである。断面形は逆台形である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。床面において土坑に付随すると考えられるピットを2個検出した。ピットの直径は 30cm程度の楕円形であり、床面からの深さは 9 ～ 16cmである。

遺物は土師器が出土し、甕（636・637）を図示した。

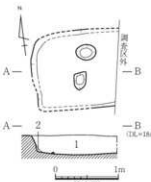


図 224　SK78　平面図・断面図

図 225　SK78　出土遺物実測図

4. 溝跡

SD1（南区）（図 226 ～ 228）

SD1は、南区西端（M2グリッド他）で検出した南北方向の溝跡である。西側の立ち上がりは調査区外である。平面形は直線的に延長する。長さ約 11.9 m（検出長）、幅 144cm（検出長）を測り、検出面からの深さは 25 ～ 40 cmである。断面形は舟底形である。床面は概ね平坦であるが、ピット状の窪みがあり一部凹凸を呈する。主軸方向は N － 10° － E である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。溝跡は調査区外の南北に延長する。

遺物は土師器、須恵器、平瓦、石製品が出土し、土師器の甕（638）・鉢（639・640）・高杯（641）・杯（642 ～ 644）・杯か椀（645）、須恵器の鉢（646）・蓋（647）・杯（648 ～ 651）・椀（652）、平瓦（653）、石製品の石包丁（654）を図示した。

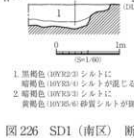


図 226　SD1（南区）　断面図

SD26（図 229・230）

SD26は、南区南部（T4グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。長さ 1.43 m、幅 45cmを測り、検出面からの深さは 14cmである。断面形は逆台形である。主軸方向は N － 21° － W である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。床面で直径 15cm大の亜円礫を検出した。

遺物は土師器が出土し、甕（655）を図示した。

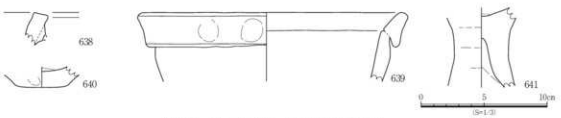


図 227　SD1（南区）　出土遺物実測図 1

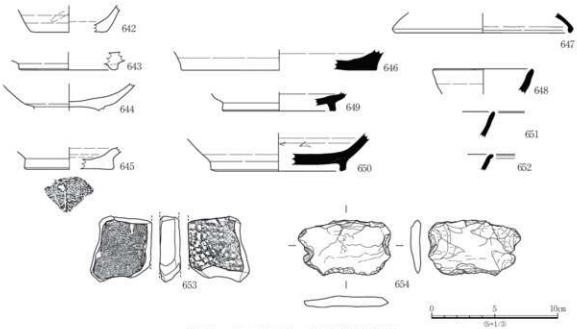


図 228　SD1（南区）　出土遺物実測図 2

SD27（図 231）

SD27 は、南区南部（S4 グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。長さ 1.08 m、幅 39cmを測り、検出面からの深さは 10cmである。断面形は皿状である。主軸方向は N － 75° － E である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器、須恵器が出土した。

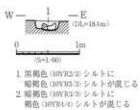


図 229　SD26　断面図

SD28

SD28 は、南区南部（T3 グリッド他）で検出した東西方向の溝跡である。平面形は北側に張るようにやや湾曲する。長さ約 1.19 m、幅 31cmを測り、検出面からの深さは 12 ～ 29cmである。断面形は逆台形である。主軸方向は概ね N － 85° － E である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。床面にピット状の掘り込みがある。

遺物は出土していない。

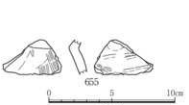


図 230　SD26　出土遺物実測図

SD29（図 232）

SD29 は、南区南部（S5 グリッド他）で検出した南北方向の溝跡である。SK62 に切られる。長さ 5.46 m、幅 49 ～ 55cmを測り、検出面からの深さは 16 ～ 20cmである。断面形は舟底形である。主軸方向は N － 20° － W である。埋土は暗褐色（10YR3/3）シルトである。

図 231　SD27　断面図

遺物は土師器、須恵器が出土し、土師器の壺（656）・甕（657）、須恵器の甕（658）を図示した。

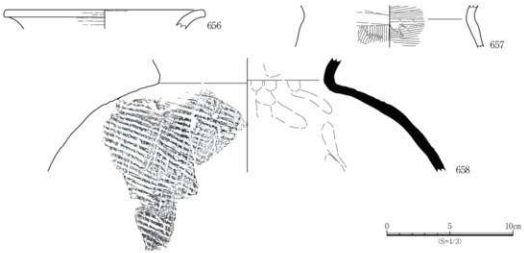


図 232　SD29　出土遺物実測図

SD30（図 233・234）

SD30 は、南区西部（O3 グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。長さ 2.14 m、幅 27 ～ 34cmを測り、検出面からの深さは 14 ～ 16cmである。断面形は逆台形である。主軸方向は N － 60° － W である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は弥生土器、土師器が出土し、弥生土器の壺（659）、土師器の甕（660 ～ 662）を図示した。

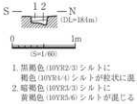


図 233　SD30　断面図

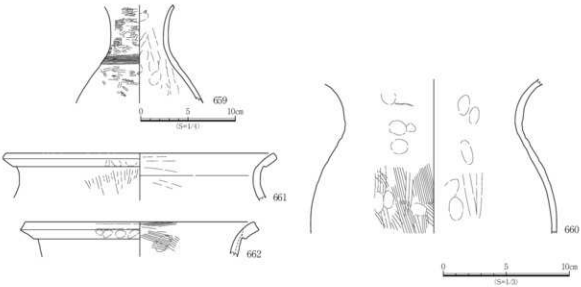


図 234　SD30　出土遺物実測図

SD31（図 235・236）

SD31 は、南区西部（O3 グリッド）で検出した東西方向の溝跡である。長さ 1.83 m、幅 39 ～ 48 cmを測り、検出面からの深さは 14 ～ 31cmである。断面形は皿状である。主軸方向は N － 73° － W である。埋土は暗褐色（10YR3/4）シルトである。床面西側にピット状の掘り込みがある。

遺物は土師器が出土し、壺（663）・甕（664）・鉢（665）を図示した。

SD32（図 237）

SD32 は、南区西部北寄り（M3 グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。長さ 1.19 m、幅 37cmを測り、検出面からの深さは 9cmである。断面形は皿状である。主軸方向は N － 31° － W である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器が出土した。

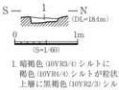


図 235　SD31　断面図

SD33（図 238・239）

SD33 は、南区西部（N2・M2 グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。長さ 3.73 m、幅 55 ～ 63cmを測り、検出面からの深さは 8 ～ 27cmを測る。断面形は皿状である。床面は凹凸を呈し、北側が浅く南側に傾斜して深くなる。主軸方向は N － 5° － W である。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト他である。床面南側にピット状の掘り込みがある。

遺物は土師器が出土し、甕（666）・皿（667）を図示した。

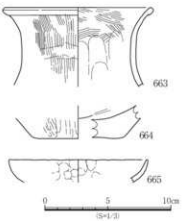


図 236　SD31　出土遺物実測図

SD34（図 240・241）

SD34 は、南区中東部（O8 グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。北側及び南側の立ち上がりをピットに切られる。長さ 2.43 m（検出長）、幅 37cmを測り、検出面からの深さは 10cmである。断面形は舟底形である。主軸方向は N － 5° － E である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルトである。

遺物は土師器が出土し、鉢（668）・杯（669・670）を図示した。

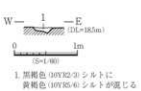


図 237　SD32　断面図

SD35（図 242・243）

SD35 は、南区東部（O9 グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。平面形は東に張るように僅かに湾曲する。南側をピットに切られる。長さ 1.45 m（検出長）、幅 32cmを測り、検出面からの深さは 9 ～ 14cmである。断面形は逆台形である。主軸方向は概ね N － 4° － W である。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルトである。

遺物は土師器、須恵器が出土し、土師器の杯（671）を図示した。

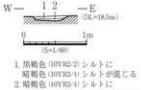


図 238　SD33　断面図

SD36（図 244・245）

SD36 は、南区東部（O10 グリッド）で検出した南北方向の溝跡である。長さ 1.59 m、幅 43cmを測り、検出面からの深さは 13cmである。断面形は逆台形である。主軸方向は N － 7° － E である。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。

遺物は土師器が出土し、杯（672・673）を図示した。

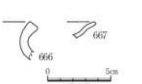


図 239　SD33　出土遺物実測図

SD37（図246）

SD37は、南区東北部(M11グリッド)で検出した南北方向の溝跡である。長さ1.34 m、幅41cmを測り、検出面からの深さは10～30cm程度である。断面形は不整形である。床面は凹凸を呈する。主軸方向はN－3°－Eである。埋土は黒褐色（10YR2/3）他である。

遺物は土師器、須恵器が出土した。

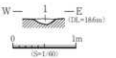


図240　SD34　断面図

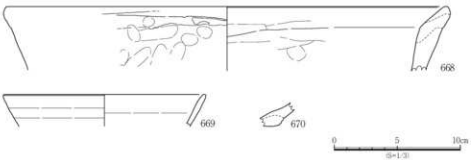


図241　SD34　出土遺物実測図

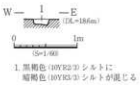


図242　SD35　断面図

図243　SD35　出土遺物実測図

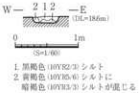


図244　SD36　断面図

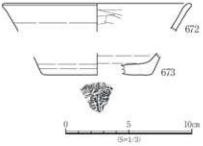


図245　SD36　出土遺物実測図

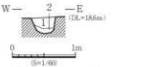


図246　SD37　断面図

5. 性格不明遺構

SX5（図247・248）

SX5は、南区南部南西端（U3グリッド他）で検出した円形ないし楕円形と推測される遺構である。北側の一部は攪乱を受ける。長軸3.35 m（検出長）、短軸1.39 m（検出長）を測り、検出面からの深さは23～32cmである。埋土は黒褐色（10YR2/3）シルト他である。埋土の中～下層から炭化した木片及び炭化物小片が多く出土した。

遺物は弥生土器が出土し、壺（674）・甕（675）を図示した。

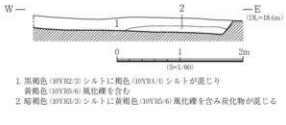


図247　SX5　断面図

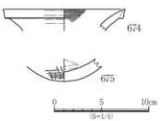


図248　SX5　出土遺物実測図

6. ピット

南区で検出したピットのうち、図示しうる遺物を出土したものにつき、ピット計測表にまとめて掲載した。掘立柱建物跡を構成する柱穴の出土遺物については、「2. SB」の項に掲載した。

計測表の位置欄にはグリッド番号（図6参照）を記載している。

計測表の埋土欄に記載のアルファベット記号の対応は以下の通りである。

A：黒褐色（10YR2/2）シルト

B：黒褐色（10YR2/3）シルト

C：暗褐色（10YR3/3）シルト

D：黒褐色（10YR2/3）シルト（にぶい黄褐色シルトが混じる）

図示した出土遺物は、676～785に示す、弥生土器の壺・甕・鉢・ミニチュア土器、土師器の壺・甕・鉢・高杯・器台・皿・杯・椀・供膳具・蓋・羽釜、須恵器の壺・甕・鉢・杯、黒色土器の供膳具、土製品の支脚・土錘、平瓦、鉄製品の鉄鏃である。

表2　南区　ピット計測表1

遺構名	位置	平面形状	規模		埋土
			直径（m）	深さ（cm）	
P244	M2	楕円形	0.42 × 0.34	36	C
P245	N4・5	円形	0.56	24	C
P246	U4	楕円形	1.12 × 0.48	12	B
P249	U6	楕円形	0.43 × 0.27	21	C
P253	U4	円形	0.49	25	A
P256	U4	不整楕円形	0.72 × 0.46	24	B
P260	T3	楕円形	0.66 × 0.47	36	C
P267	U4	楕円形	0.51 × 0.41	26	C

遺構名	位置	平面形状	規模		埋土
			直径（m）	深さ（cm）	
P270	T5	円形	0.30	28	B
P273	U3	楕円形か	(0.40) × (0.22)	12	C
P276	U3	円形	0.46	25	C
P282	T5	円形か	0.43 × (0.30)	36	B
P284	T4	楕円形	0.50 × 0.43	36	C
P294	T5	円形	0.48	45	B
P296	T3	楕円形	0.60 × 0.37	29	C
P299	T5	円形	0.38	37	C

表3　南区　ピット計測表2

遺構名	位置	平面形状	規模		埋土
			直径（m）	深さ（cm）	
P301	T5	円形	0.32	31	C
P314	T5	楕円形	0.69 ×（0.41）	16	B
P318	S3	楕円形	0.59 × 0.48	27	B
P327	S3・T3	楕円形	（0.45）× 0.37	27	B
P338	R5	円形	0.45	12	C
P342	T4	円形	0.56	50	B
P351	R4	楕円形	1.05 × 0.63	63	C
P352	S3	円形	0.26	13	C
P362	S5	円形	0.66	18	D
P363	R3	円形	0.84	74	C
P365	S5	楕円形	0.80 × 0.70	22	B
P366	T5	不整楕円形	0.70 × 0.56	35	B
P380	T6	楕円形か	（0.52）× 0.65	13	C
P393	S4	楕円形	0.81 × 0.63	40	C
P396	R5	楕円形	0.89 × 0.62	14	B
P412	S5	楕円形	（0.28）× 0.28	9	B
P422	Q3	楕円形	0.91 × 0.74	53	C
P429	R5	楕円形	0.54 × 0.39	20	C
P436	R5	円形	0.34	12	B
P437	P4	楕円形	0.58 × 0.48	38	C
P439	S5	円形	0.58	27	C
P441	R6	楕円形	0.73 × 0.59	43	B
P443	Q4	円形	0.57	42	C
P452	R5	円形	0.31	10	B
P455	R4	円形	0.52	38	C
P459	R5	円形	0.59	48	B
P462	Q5	楕円形	0.68 × 0.43	52	C
P469	P5	円形	0.45	31	C
P472	P4	円形	0.66	37	C
P542	O2	円形	0.67	9	B
P544	O2	円形	0.39	21	B
P545	O2	円形	0.46	21	C
P546	O4	円形か	0.42 ×（0.37）	28	B
P549	P2	円形か	1.00 ×（0.62）	36	C
P552	O4	円形	0.44	21	B

遺構名	位置	平面形状	規模		埋土
			直径（m）	深さ（cm）	
P560	O2	楕円形	0.61 × 0.39	35	B
P563	O4	円形	0.44	9	B
P569	O3	楕円形	0.76 × 0.42	28	C
P572	O3	円形	0.74	30	C
P574	O2	円形	0.57	21	C
P588	O2	不明	（0.60）×（0.40）	32	B
P593	O3	円形	0.49	24	C
P596	O3	楕円形	0.71 × 0.31	14	C
P597	O2	円形	0.40	17	B
P604	O2	円形か	（0.29）×（0.28）	34	B
P611	N3	円形	0.28	16	C
P630	N2	円形	0.32	27	C
P641	M2	円形	0.40	10	C
P642	M3	円形か	（0.39）× 0.36	31	C
P650	N2	円形か	0.54 ×（0.38）	28	B
P659	N2	円形	0.46	24	C
P662	M4	円形か	0.38 ×（0.25）	20	C
P663	N6	円形	0.30	18	C
P675	O7	円形	0.77	52	B
P699	M6	楕円形	0.38 × 0.28	22	C
P711	O7	楕円形	0.67 × 0.46	32	B
P715	O7	楕円形か	（0.44）× 0.54	17	C
P718	O7	円形	0.36	8	C
P719	P7	円形	0.32	43	C
P732	O6	楕円形	0.76 × 0.61	40	B
P734	N7	円形	0.35	46	B
P738	P8	円形	0.30	46	B
P739	M9・10	隅丸方形	0.68	17	A
P741	O8	円形	0.52	31	B
P743	O7	楕円形	0.67 × 0.37	6	C
P744	O8	楕円形	0.52 × 0.31	18	B
P745	O8	円形か	0.65 ×（0.46）	47	B
P747	M9	円形	0.74	51	B
P749	O7	円形	0.43	38	C
P751	O8	円形か	0.73 ×（0.50）	29	C

表4　南区　ピット計測表3

遺構名	位置	平面形状	規模		埋土
			直径（m）	深さ（cm）	
P757	P8	楕円形か	(1.03) × (0.37)	37	C
P765	O8	円形	0.44	44	B
P766	O8	楕円形	0.35 × 0.22	15	B
P767	O8	円形か	(0.45) × (0.43)	25	C
P773	O9	楕円形	0.52 × 0.43	55	C
P774	M10	円形か	0.72 × (0.66)	22	A
P781	O10	円形	0.57	54	B
P784	N9	円形	0.46	21	B
P795	M10	円形か	0.90 × (0.43)	35	C
P801	N9	円形	0.97	39	C
P802	N8	隅丸方形	0.92	39	C
P805	N9	隅丸長方形	0.83 × 0.72	36	B

遺構名	位置	平面形状	規模		埋土
			直径（m）	深さ（cm）	
P812	O10	円形	0.45	59	B
P813	M10	円形	0.47	24	B
P817	M11	円形	0.77 × 0.68	52	B
P818	M11	円形	0.63	49	B
P823	O10	円形	0.32	23	B
P824	M11・N11	円形か	(0.58) × 0.66	28	B
P829	M11	楕円形	0.87 × (0.53)	60	C
P838	N10	円形	0.61	30	B
P847	N11	円形か	0.36 × (0.27)	9	C
P866	M11	円形か	0.36 × (0.17)	18	B
P878	M2	楕円形	(0.38) × 0.35	7	C

※括弧内数字は残存値を示す

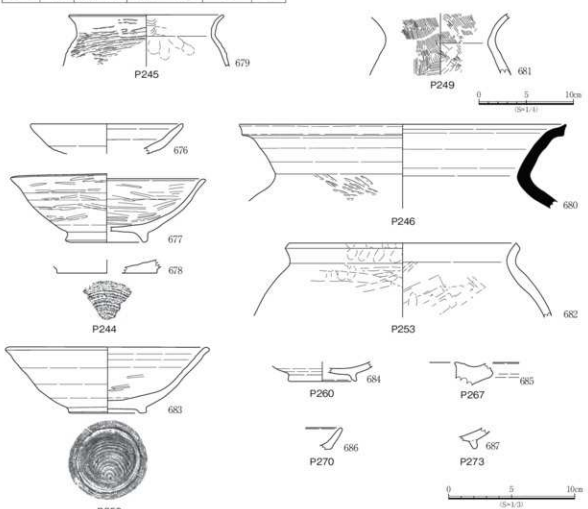


図249　南区 ピット　出土遺物実測図1

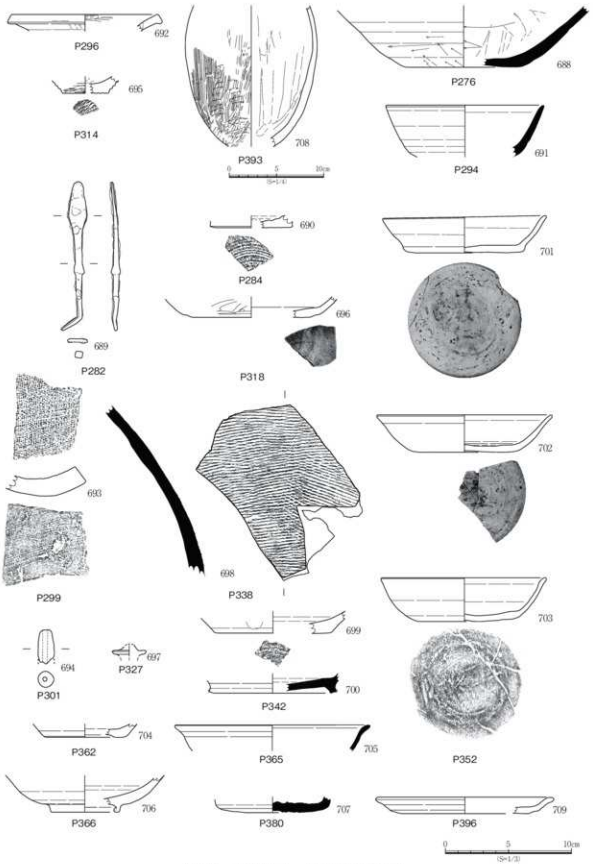


図250　南区 ピット　出土遺物実測図2

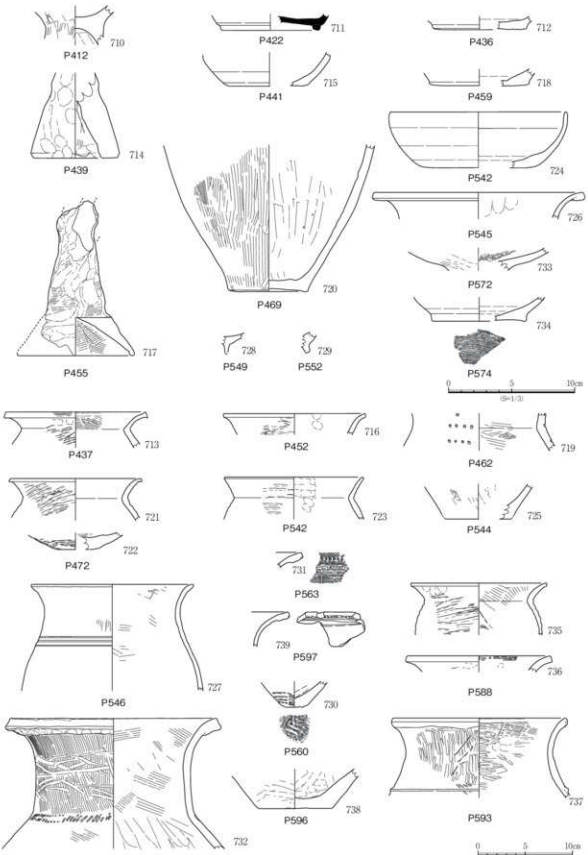


図 251　南区 ピット　出土遺物実測図 3

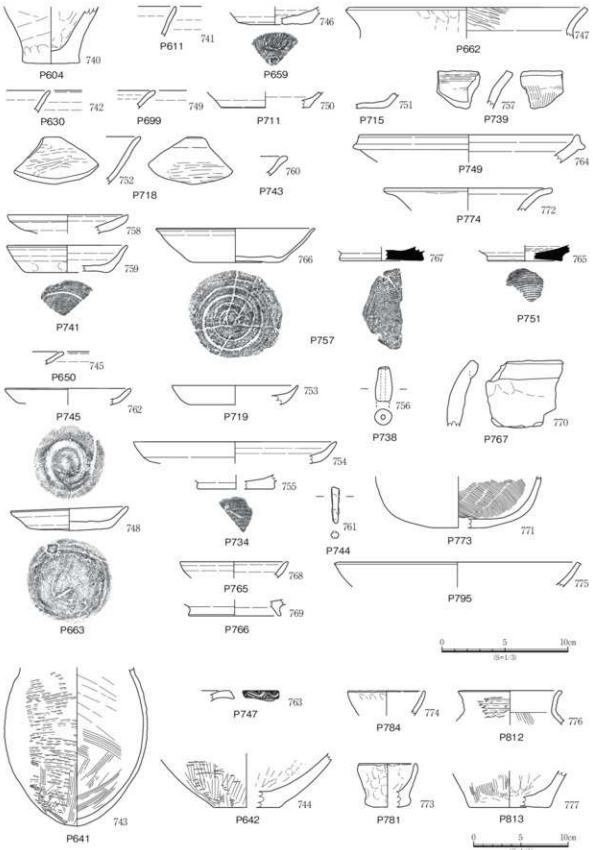


図252　南区 ピット　出土遺物実測図4

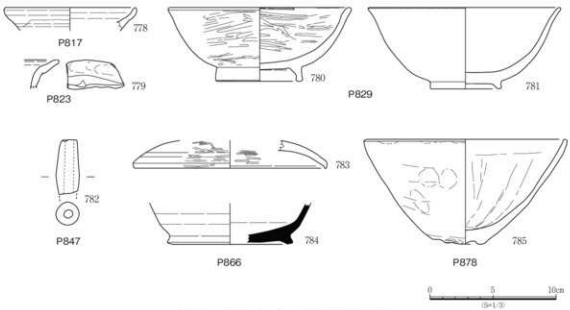


図 253　南区 ピット　出土遺物実測図 5

7. 遺物包含層出土遺物

図示した出土遺物は、786 ～ 793 は第Ⅲ層、794 ～ 808 は第Ⅲ・Ⅳ層、809 ～ 846 は第Ⅳ層の出土遺物である。包含層の層位は、図 15 に対応する。器種は、弥生土器の壺・甕・鉢・有孔鉢・高杯・ミニチュア土器、土師器の壺・甕・高杯・皿・杯・椀・供膳具・甑・羽釜、須恵器の壺・鉢・蓋・杯・椀、製塩土器、青磁の碗、白磁の碗、土製品の支脚・土錘、石製品の石包丁・石斧・砥石、鉄製品の鉄鎌である。

なお、809・811・812・813・839・840・844 は、ST3 直上で出土した遺物であり、ST3 埋没時に廃棄された遺物である可能性を含んでいる。

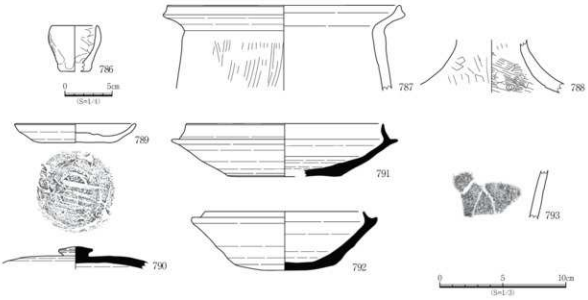


図 254　南区 Ⅲ層　出土遺物実測図

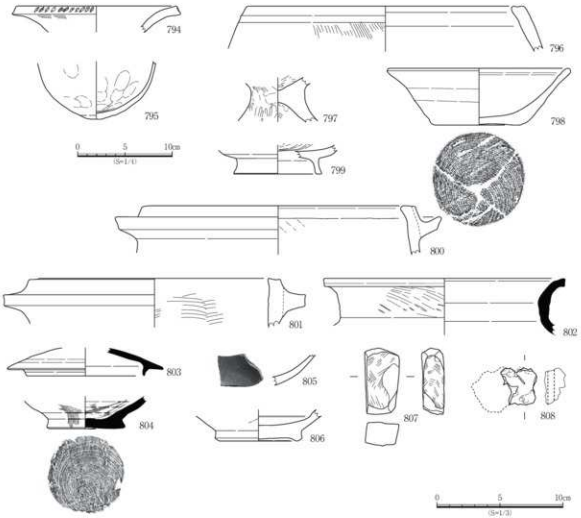


図255　南区 Ⅲ・Ⅳ層　出土遺物実測図

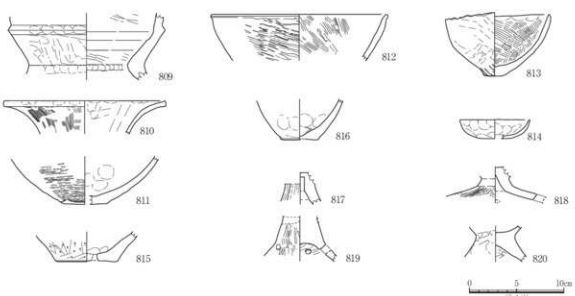


図256　南区 Ⅳ層　出土遺物実測図1

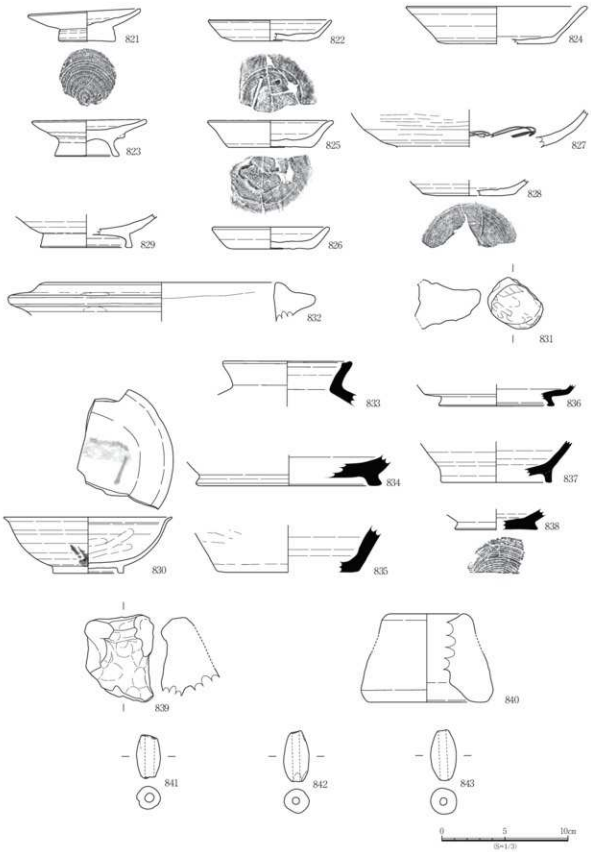


図 257　南区 Ⅳ層　出土遺物実測図 2

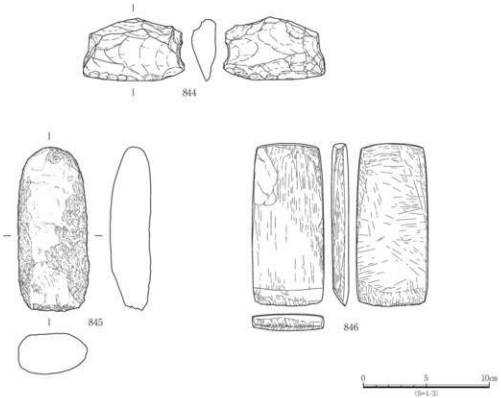


図258　南区Ⅳ層　出土遺物実測図3

第Ⅳ章　考察

第１節　主な遺構の所属時期

本編で報告した西野遺跡の六次調査において検出した遺構のうち、所属時期を判別可能とする一定の遺物を出土した主な遺構の分布から、西野遺跡における本調査地の様相を概観する。

過年度調査成果から、西野遺跡は弥生時代後期後半～古墳時代前期の時期、そして古墳時代後期の時期という、２時期を主体とする集落が形成されたことが想定される（弥生時代後期以前の遺物も少量出土する）。その後は、平安時代後期～末にかけて同区域の一部が居住の可能性を含む何らかの用途に利用されたことが、掘立柱建物跡を含む検出遺構や出土遺物の様相から明らかになっている。

六次調査において検出した建物跡は、竪穴建物跡が９棟、掘立柱建物跡が11棟である。このうち、出土遺物等から時期がある程度判別可能なものは、竪穴建物跡８棟、掘立柱建物跡１棟である。このほか、土坑４基、溝跡２条についても時期がある程度判別可能であるため本節で取りあげる。検出した遺構は、過年度調査成果と概ね適合する３時期にまとめることができる。これらの時期を本節において便宜的に１期～３期と呼称する。１期は弥生時代後期末～古墳時代初頭、２期は古墳時代後期（6c 後半～7c 前半）、３期は平安時代後期～末（10c ～ 12c 前半）に該当する。

１期の遺構は、北区のST2、SK1・10、南区のST3、SK65である。過年度の調査成果を俯瞰すると、西野遺跡の最盛期は弥生時代後期後半～古墳時代前期すなわち本節における１期であることが想定されるが、本調査区においては１期の遺構はやや希薄な分布であり、調査区の西側に散在する程度である。出土土器の形態的特徴から判断すると、これらの遺構の所属時期はいずれもヒビノキⅢ式[1]期主体と考えられる（ST3はヒビノキⅡ式期から存続した可能性がある）。各遺構は存続期間に差異があるとみられるが、廃絶時期はいずれもヒビノキⅢ式新段階の時期であり、後続する馬場末式期には至らないと考えられる。なお、１期の土器の詳細については、次節で述べる。ST2は床面から比較的保存状態の良好な土器が10点以上出土しており、廃絶時期の確度は比較的高い。出土土器はヒビノキⅢ式古段階及び新段階が混在する状況であり、両者の移行期に機能し廃絶した遺構であることが推察される。ST3は、１期の遺物を最も多く出土した遺構である。ST2出土遺物の大半が床面出土であるのに対し、ST3出土遺物の大半は床面から数cm高い位置の埋土中から出土したため、建物が機能した正確な時期と結びつけることは難しいが、多量の遺物のほとんどは前述の時期に収斂する。土器等の遺物と円礫の集中状況から、ST3は建物の廃絶行為が行われた可能性が考えられる。次に、注目すべき土坑としてSK1があげられる。平面形は溝状あるいは舟形であり、弥生時代後期末のこのような形状の土坑は稀な例といえるが、高知市春野町馬場末遺跡ⅡＤ区SK3[2]にやや類似する例がみられる。SK1から出土した土器棺を想起させる壺（64）は、用途や埋設時の状況を推測するに足る情報を欠くが、器形・調整の特徴から他のSK1出土遺物と同時期のものと考えられる。法量が比

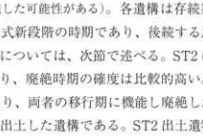


図 259　主な遺構の時期概念図

較的小さい甕・鉢が多く出土したこともSK1固有の特徴である。

以上に述べた1期から3世紀ほど時期を隔てた2期が、本調査区における集落の最盛期と考えられる。平面方形ないし長方形の竪穴建物跡6棟が確認され、残存状況の不良なものも含めると、その全てにおいて建物内部の壁際にカマドとみられる火処の痕跡を伴っていた。火処の設置方位は北壁際が主とみられるが、ST1の南壁際、ST6の東壁際が例外的である。カマドとしての残存状況が最も良好であるST6は、東壁際にカマドを設置しており県内では希少な例といえるが、古墳時代のカマド付き竪穴建物跡4棟を検出した隣接の下ノ坪遺跡D区ST4[3]に類例を求めることができる。本調査区におけるこれらの竪穴建物跡は、主に出土須恵器の形態から6世紀後半～7世紀前半に所属すると考えられる。ST8・9が6世紀後半、ST7が6世紀末、ST5・6が6世紀末～7世紀初頭、ST1が7世紀前半と想定されるが、重複を伴わない配置（ST7・8・9など）から、これらの建物は同時併存する時期があった可能性が高いことを推し量ることができる。

2期からさらに3世紀ほど時期を隔てた3期に至り、同区域において何らかの人為的活動が行われた可能性があることが、検出遺構により示唆される。調査区の西端を南北に延長する溝跡SD1と、比較的規模の大きい円形の土坑SK15、2期のST8と位置を重複させるSB8が、10世紀前後に所属する遺構であることが想定される。SB8に関連する遺物とみられる土師器の杯（513）などは、この時期に所属するものである。掘立柱建物跡については、計11棟が復元可能であるが、いずれも出土遺物が僅少であり、SB8の他に時期について言及できるものはない。また、12世紀と考えられる須恵器の鉢（204）を伴う遺構として、SD2があげられる。この溝跡の存続時期は判然としないが、西野遺跡における最も新しい時期の遺構の一例として提示することができる。

第2節　弥生時代後期末から古墳時代初頭の土器

西野遺跡の本調査区における1期の遺構出土土器は、前述の通りヒビノキⅡ式新段階～ヒビノキⅢ式新段階の時期にほぼ収斂する。この時期の土器について詳細な検討がなされた東野土居遺跡出土資料の考察において、土器の形態的特徴からヒビノキⅠ～Ⅲ式がそれぞれ古段階と新段階に細分されたが[1]、西野遺跡においても一定のまとまりをもつ当該期の資料から、同水準の細分が可能と考えられる。一括性を持つ土器を出土した遺構に着目し、最も構成比率の高い甕を基準に、共伴関係から各器種の所属時期及び変遷を検討する。土器を抽出した遺構は、ST2・3、SK1・10・65である。なお、遺構の性格等を考慮すると、各時期に所属する土器各個体が示す多様性は、経時的変化とともに変容性に起因する可能性を念頭に置く必要がある。本節で示す内容により、当該期の土器様相の明瞭化と、時期の共通する周辺遺跡との対応関係あるいは相違を明らかにするための一資料としたい。

ⅰ 土器の分類

本節で扱う資料が有する特徴につき、表5に示す通り分類する。器形は、甕、壺、鉢、高杯、支脚である。

ⅱ ヒビノキ式土器

ヒビノキ式土器の各段階における形態的特徴は、東野土居遺跡における編年試案に準拠する。図260に示した各器種の様相から、各段階の様相と変遷過程を俯瞰する。抽出した土器はすべてヒビノキⅡ式新段階～ヒビノキⅢ式新段階に収まるものであり、本節で取りあげなかった本調査区全体

における当該期の土器を見ても、ほぼ同様のことがいえる。以下、各段階の様相について記述する。

表5　土器の分類

甕	
法量による分類	
A 類	器高 25cm以上 30cm未満の大型甕
B 類	器高 20cm以上 25cm未満の中型甕
C 類	器高 20cm未満の小型甕
口縁部形態による分類	
A 類	口縁端部を面取りし拡張するもの
B 類	口縁端部を面取りし断面方形をなすもの
C 類	口縁端部を丸く収めるもの
D 類	口縁端部を細く仕上げるもの
E 類	口縁端部を上方に摘み上げるもの
胴部形態による分類	
A 類	長胴形
B 類	球形
底部形態による分類	
A 類	平底
B 類	擬丸底
C 類	丸底
壺	
A 類	広口壺：球形または球形を指向する胴部から大きく外反する口縁部を有するもの
B 類	直口壺：口縁部が直線的または緩やかに外反しながら立ち上がるもの
C 類	二重口縁壺：広口壺の口縁端に口縁部を付加し二重に外反する口縁部を持つもの

鉢	
A 類	鉢形を呈し主にタタキ成形によるもの
B 類	椀形をなすもの
C 類	皿形をなすもの
D 類	コップ状またはそれに類するもの
E 類	椀形に台または脚の付くもの
F 類	半球形の胴部から口縁部が屈曲して外上方に短く上がるもの
高杯	
A 類	有稜高杯
B 類	椀形高杯
支脚	
A 類	角状の受部を持つもの
B 類	鼓形のもの
C 類	筒形のもの

ヒビノキⅡ式新段階

ヒビノキⅡ式から甕は平底が姿を消して底部径が縮小し、丸底を指向するようになる。胴部最大径の位置は一貫して低下傾向である。古段階と新段階の主な違いは、底部径がさらに小さくなり丸底への指向度が増すことと、胴部最大径の位置がやや上位からほぼ中央まで下がり、やや胴が張る傾向を示すという特徴に現れる。調整では外面ハケ調整の及ぶ範囲が縮小し、半分以下のものが主となる。鉢にはF類が出現する。高杯にはB類が認められる。当段階の土器はST3に少数がみられる。

ヒビノキⅢ式古段階

東野土居遺跡では最盛期に当たるとされ、本遺跡においても資料数は急増する。甕は底部が擬丸底にほぼ統一される。胴部は長胴形が主であるが、丸底を指向することにより胴部下位が張る器形をなすものがみられる。外面ハケ調整が及ぶ範囲はさらに縮小し、胴部下位のみとするものが多くを占める。内面調整は、ハケ主体のものとナデ主体のものに二分されるようである。また、庄内式土器がみられるようになる。壺には広口壺であるA類と直口壺であるB類が存在する。鉢に椀形であるB類、皿形であるC類が出現する。これは当該期を示す大きな特徴であり、東野土居遺跡の様相とも共通する。また、台付きであるE類も出現する。鉢の器形が多様化する時期といえる。高杯には、有稜高杯であるA類が存在する。また、支脚には角状の受部を持つA類と鼓形である

B 類がみられる。

ヒビノキⅢ式新段階

前段階に引き続き多くの資料がみられる。存続する遺構数や資料数からみると、六次調査の調査区における最盛期は当段階であると考えられる。甕は、底部が擬丸底または丸底、胴部がほぼ球形のものがみられるようになる。外面ハケ調整は胴部下位のみか、全く施さないものとなる。内面調整は前段階と同様である。壺には前段階に加えて二重口縁壺である C 類がみられる。鉢は前段階のものが引き続き存在する。鉢形である A 類はこの段階まで普遍的に存在するとみられるが、タタキ成形によらないもの（86）や、特徴的な半球形を呈するもの（90）などもみられる。支脚には筒形のものが存在する。

ⅲ まとめ

西野遺跡における当該期の土器の様相を把握するため、近隣（約 3km 東）において近い時期に繁栄した集落跡である東野土居遺跡出土資料による編年試案に準拠しつつ、本調査区の主要な遺構の出土資料に限定して分類を試みた。本調査区出土資料にはヒビノキⅡ式古段階以前及びヒビノキⅢ式新段階に後続する馬場末式以降のものはほぼ存在しないとみられる。本調査区の該当段階においても甕に代表される通り、その変遷過程は漸移的である。鉢の新器形の登場や搬入土器の出現といった、ヒビノキⅡ式からヒビノキⅢ式への画期は東野土居遺跡と共通するとみられ、これらの遺跡を包摂する地域における当該期の土器編年観を補強する例となる。本調査区における当該期の資料からみた集落の繁栄時期はヒビノキⅢ式期にほぼ集約され、その中でも新段階の時期に最盛期を迎えたことが推察される。この短い時期における土器の変化、すなわちヒビノキⅢ式古段階から新段階に至る変化を積極的に評価するなら、甕において胴部形態が長胴主体の段階からほぼ球形のものが現れ始める段階への推移、すなわち球形指向が一層強まる段階と捉えられる。また、六次調査の調査区出土資料の特徴として、鉢が豊富であることがあげられ、その中でも A 類に属するものの形態的特徴及び整形技法の多様性が指摘できる。これは、資料の増加により西野遺跡特有の鉢の特徴及び変遷過程が表出する可能性を含んでいる。

本節は西野遺跡の一部の調査区における出土資料に依拠したが、同遺跡内の近接地区の調査成果の整理を経て、出土資料から西野遺跡全体を俯瞰することで、当該期の集落及び土器の様相が明瞭化するとともに、周辺遺跡との対応関係を反映したより高次の分析が可能になることが期待される。

註

(1) ヒビノキ式土器は、岡本健児氏により昭和 49 年に行われた土佐山田町ひびのき遺跡の調査において設定された型式である（岡本健児・廣田典夫 1977『高知県ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会）。そこでは弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての編年案として、ヒビノキⅠ・Ⅱ式を弥生土器、ヒビノキⅢ式を土師器に該当させた。出原恵三氏は弥生時代後期土器編年を７つの小期に時期区分し、後期５をヒビノキⅠ式、後期６をヒビノキⅡ式前半、後期７をヒビノキⅡ式後半の段階にあてた。その後の整理を経て、後期様式Ⅴ－１～５、Ⅵ－１･２の７区分のうち、Ⅴ－５をヒビノキⅠ式、Ⅵ－１をヒビノキⅡ式古、Ⅵ－２をヒビノキⅢ式新として、それに続くものとして馬場末式（岡本健児・廣田典夫 1976『山根・石屋敷遺跡（付）馬場末遺跡』春野町教育委員会）が設定された。出原恵三氏の見解（1990）によると、「ヒビノキⅢ式を古式土師器Ⅰ期とすれば馬場末式がⅡ期」とされている。

(2) 出原恵三、2004、『馬場末遺跡』、（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター

(3) 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋・行藤たけし、1997、『下ノ坪遺跡Ⅰ』、野市町教育委員会

(4) 筒井三菜・久家隆芳・矢野雅子・下村裕・白石純・パリノ・サーヴェイ㈱、2018、『東野土居遺跡Ⅳ』、（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 232-244 頁

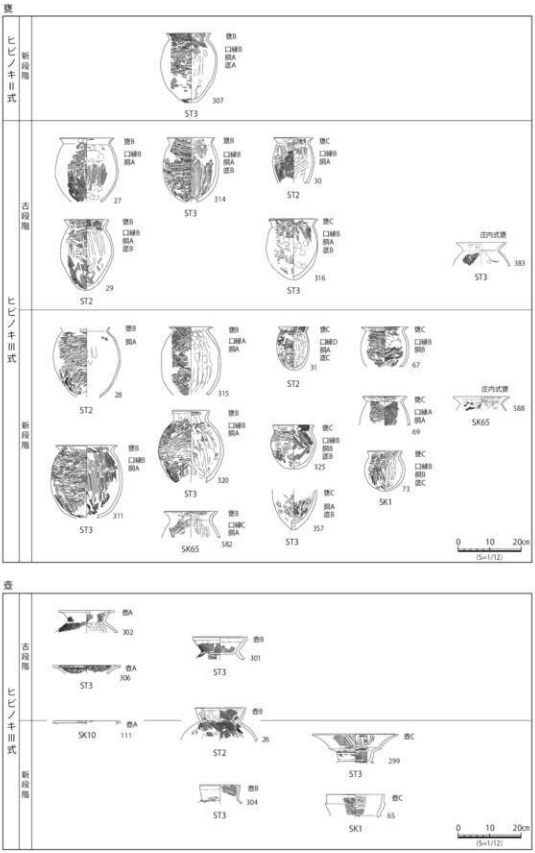
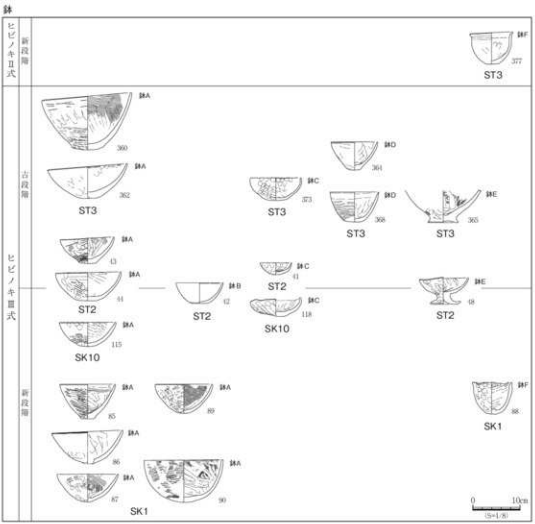


図 260 － 1　甕・壺の様相



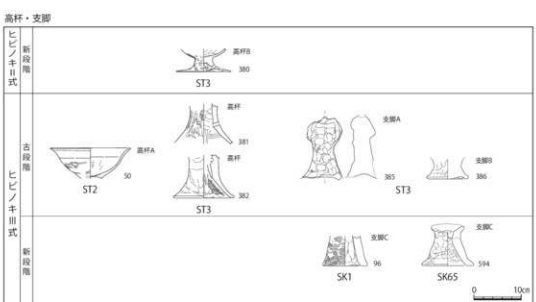


図 260 － 2　鉢・高杯・支脚の様相

附章　昭和期の土木工事で採集された西野遺跡の土器

西野遺跡は昭和53年(1978年)に濱田眞尚氏により土器の散布が確認され、発見された遺跡である。同年10月、同氏及び岡本健司氏・宅間一之氏・旧野市町教育委員会が現地踏査を実施し、物部川左岸段丘上に弥生・古墳期の遺物が出土する遺跡が存在することが確認された。当初の範囲は現在の西野遺跡と北地遺跡を含む広範囲という認識であった。この時報告された出土地点及び土器の時期は、次に示すとおりである。野市町下井605番地（弥生：大篠式・田村式）、野市町西野1309番地1（弥生：大篠式・田村式・ヒビノキⅡ式）、野市町西野1509番地（弥生：大篠式・田村式・神西式、古墳後期：須恵器）。

平成4年（1992年）に刊行された『野市町史 上巻』において、廣田典夫氏により次に示す出土地点及び土器の時期が示され、西野遺跡の出土土器として掲載されている。野市町西野1530番地（弥生中期：田村式、古墳初頭：ヒビノキⅢ式）、野市町西野1514番地（古墳初頭：ヒビノキⅢ式、古墳後期：須恵器、平安前期：土師器羽釜）。

平成17年（2005年）に、民間による宅地開発に伴い旧野市町教育委員会が実施した試掘調査の結果を受け、西野遺跡は現在の範囲となった。

本章に掲載する土器は、香南市文化財センターに寄贈され保管している出土土器のうち、現在の西野遺跡範囲内において昭和期に行われた土木工事の際に出土したものである。記録に示される土器の出土地点及び出土年から、次に示す四つのブロックに分けられる。① 昭和47年（1972年）6月に野市町西野1514番地において採集された土器、② 昭和49年（1974年）3月に野市町西野1509番地において採集された土器、③ 昭和57年（1982年）7月に野市町西野1530番地において採集された土器、④ 昭和60年（1985年）8月に野市町西野1514番地で採集された土器。これらの土器は、写真図版の図版53・54に掲載し、図化したものについては、附1～附7という番号を付して図262及び表6に掲載した。

図261　昭和期における西野遺跡の土器採集地位置図

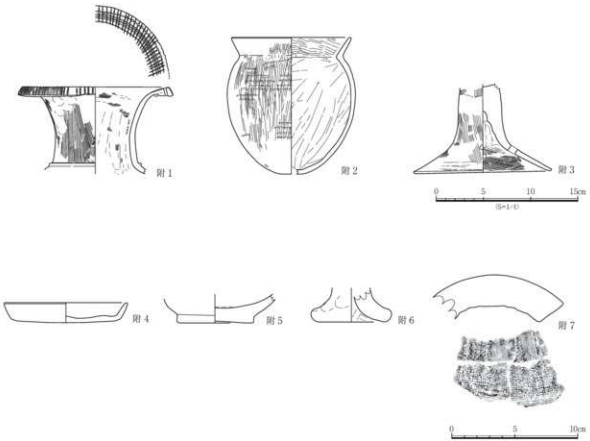


図 262　昭和期における西野遺跡の採集土器実測図

表 6　昭和期における西野遺跡の採集土器観察表

番号	採集年（西暦）	採集地点	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等
附1	昭和57年（1982）	表採	弥生土器 壺	15.5	(9.2)	–	にぶい橙色 〃 〃	①ハケ・ナデ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③外面頸部下位に突帯。口縁端部は面をなし、外側を肥厚させる。口縁端部にハケ押圧による文様。口縁部に内側からの穿孔による孔列文。内面口縁部に沈線及びハケ押圧による放射状の直線文。
附2	昭和60年（1985）	〃	弥生土器 甕	12.6	14.5	–	橙色 にぶい橙色 灰色	①ナデ。器側部ヘラケズリ。口縁部ハケ。②頸部タテ位擬位ハケ。口縁部ナデ一部ハケ。③丸底を部分するが、僅かな平坦面を残す。胴部最大径を上位に持つ。頸部は〈の字状。口縁部は直線的に上がり、端部は丸く収める。外面胴部に煤付着。
附3	昭和60年（1985）	〃	弥生土器 高杯	–	(9.5)	14.4	灰白色 〃 褐灰色	①ハケ・ナデ。脚部に絞り目。②ハケ・ナデ。③脚部は中空。裾部は直線的に下がり、端部は丸く収める。裾部上位に直径7mm程度の外側からの焼成前穿孔を4つ施す。
附4	昭和47年（1972）	〃	土師器 皿	9.6	1.6	8.7	浅黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。口縁端部は丸く収める。内面底部外縁に回転による整形時の凹みが明瞭に残る。底部切り離しは回転糸切りによるとみられる。
附5	昭和60年（1985）	〃	土師器 椀	–	(2.3)	6.1	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③低い柱状高台。高台はほぼ垂直に下がる。内面底部は僅かに凸状に隆起する。体部立ち上がりの角度が異なる。底部回転糸切り痕。
附6	昭和47年（1972）	〃	土製品 支脚	–	(2.7)	5.3	明赤褐色 橙色 にぶい橙色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③脚部片。脚部は垂直に下がり、裾部は外側に開いて接地面を形成する。裾部端部は丸く収める。
附7	昭和47年（1972）	〃	丸瓦	全長（6.2）	全幅（10.4）	全厚2.5	にぶい橙色 〃 橙色	①凹面布目圧痕。②凸面ナデ。③胎土微細ガラスを含む。

遺物観察表

凡例

1. 法量は土器を基準に口径（cm）、器高（cm）、底径（cm）で示し、土製品のうち土錘及び平瓦、石製品、鉄製品については、全長（cm）、 全幅（cm）、全厚（cm）で示している。
2. （　）内の数値は残存値を示している。なお、石製品については（　）を用いない。
3. 土製品、石製品、鉄製品については、表の後方にまとめて掲載している。
4. 瓦については、内面を凹面、外面を凸面と読み替える。
5. 色調は標準土色帖を基準としている。
6. 出土層位は、第Ⅲ章 図 13・14・15 に対応する。

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）			色調	特徴	備考
				口径	器高	底径	内面・外面・断面	①内面調整 ②外面調整 ③形状等	
1	北区	ST1 － P1	弥生土器 **壺**	－	(5.6)	5.6	にぶい橙色 〃 灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ハケ・ナデ。③やや突出する狭い平底。胎土はやや粗で微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
2	〃	ST1	弥生土器 **甕か**	－	(4.4)	－	橙色 灰褐色 褐灰色	①ナデ。②タタキ。底部にタタキ目が残る。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胴部は内湾して上がる。	
3	〃	〃	弥生土器 **壺か甕**	－	(3.1)	5.3	灰色 橙色 灰色	①②ナデ。③やや丸みを帯びた平底。胴部は内湾気味に上がる。胎土はやや粗で微細な白色砂粒を含む。	
4	〃	〃	弥生土器 **鉢**	10.6	(4.9)	－	にぶい橙色 〃 〃	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は外上方に上がり、端部は丸く収める。胎土はやや粗で 0.7mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
5	〃	〃	土師器 **甕**	14.7	(3.2)	－	にぶい黄橙色 〃 橙色	①ナデ。②ハケ。頸部～口縁部回転ナデ。③頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は外上方に短く上がる。口縁端部は丸く収める。胎土はやや粗。	
6	〃	〃	土師器 **甕**	29.2	(7.3)	－	にぶい黄褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	①ナデ。頸部～口縁部ヨコナデ。②凝位ハケ。頸部～口縁部ヨコナデ。③口縁端部は外傾する面をなし、上端と下端を僅かに拡張する。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	9世紀か。
7	〃	〃	土師器 **甕**	－	(1.8)	－	にぶい橙色 〃 〃	①ヨコナデ。②ナデ。③口縁部はやや外反して短く上がり、端部は丸く収める。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	
8	〃	〃	土師器 **甕**	－	(6.5)	－	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰オリーブ色	①胴上位ヘラケズリ。頸部～口縁部ヨコナデ。②ハケ。頸部～口縁部ハケ後ヨコナデ。③胎土はやや粗で 1mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
9	〃	〃	土師器 **高杯**	－	(6.4)	－	橙色 にぶい橙色 灰黄色	①ナデ。②ナデ。脚部ヘラミガキ。③脚部は中空で、ハの字状に開く。脚部と杯部の接合痕が残る。杯部は体部下位で稜をなす。胎土は粗で 1mm程度の白透色砂粒を含む。	7世紀初頭か。
10	〃	〃	土師器 **高杯**	－	(5.2)	－	橙色 〃 灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ヘラケズリ。③脚部は中空で、ハの字状に開き、裾部で角度を変えてラッパ状に開く。胎土はやや粗で 1mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
11	〃	ST1 － P7	土師器 **高杯**	－	(3.7)	－	橙色 〃 〃	①ナデ。②ナデ。裾部ヨコナデ。③脚部はハの字状に開き、裾部で角度を変えて大きく開く。脚部端部は丸く収め、接地面を形成する。胎土はやや粗。	7世紀初頭か。
12	〃	ST1	土師器 **皿**	14.8	1.8	12.8	橙色 〃 〃	①回転ナデ。底面ヘラミガキ。②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。口縁端部は丸く収める。胎土はやや密。	
13	〃	〃	土師器 **杯**	12.3	(2.8)	－	橙色 〃 にぶい橙色	①②回転ナデ。③体部はやや内湾する。口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。	
14	〃	〃	土師器 **杯**	－	(0.8)	10.2	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。底部ヘラ切り。胎土はやや密。	
15	〃	〃	須恵器 **甕**	－	(8.9)	－	灰色 〃 赤灰色	①同心円状の当具痕。②格子状タタキ。③焼成良好堅緻。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
16	〃	〃	須恵器 **甕か**	－	(4.0)	－	灰白色 〃 〃	①当具痕。②矩形のタタキ。③胴部は僅かに内湾する。焼成甘い。	
17	〃	〃	須恵器 **甕**	－	(11.4)	－	灰白色 〃 〃	①同心円状の当具痕。②格子状タタキ後ナデ。③胴部は緩やかに内湾する。胎土 0.7mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
18	〃	〃	須恵器 **高杯**	20.4	(1.9)	－	灰黄色 灰白色 〃	①摩耗。②回転ナデ。③脚部はハの字状に開く。外面裾部を肥厚させて段を形成する。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	
19	〃	〃	須恵器 **高杯**	－	(3.2)	－	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③脚部は中空で、ハの字状に開く。杯部の内面底部は平坦面を なす。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	7世紀初頭か。
20	〃	〃	須恵器 **蓋**	－	(2.4)	－	にぶい褐色 〃 〃	①②回転ナデ。③天井部はやや凹凸のある平坦面をなし、稜をなして内湾気味に下がる。焼成不良。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	7世紀初頭か。

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	法量（cm）器高	法量（cm）底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
21	北区	ST1	須恵器杯	9.8	(3.3)	–	灰白色 ＊ 黄灰色	①②回転ナデ。③体部は稜をなして屈曲する。口縁部は垂直に上がり、端部は丸く収める。胎土は密で白色砂粒を含む。	7 世紀初頭か。
22	〃	〃	須恵器杯	14.8	(2.8)	–	灰白色 ＊ 灰黄色	①②回転ナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外面緑色の自然釉が薄くみられる。胎土はやや密。	
26	〃	ST2	弥生土器壺	15.3	(10.8)	–	にぶい橙色 ＊ 暗灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②ハケ・ナデ。口縁部ヨコナデ。③頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
27	〃	〃	弥生土器甕	17.1	(20.3)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 黄灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ。胴部中位以下タタキ後縦位ハケ。口縁部ナデ。③尖気味の丸底とみられる。最大径を胴部中位に持つ。口縁端部はやや粗放な面をなす。外面胴部に煤付着。	
28	〃	〃	弥生土器甕	–	(22.3)	–	にぶい黄橙色 ＊ 暗灰黄色	①ナデ。胴部上位ハケ。②水平タタキ。胴部下位タタキ後ハケ。③尖気味の丸底とみられる。胴部は球形を指向し、最大径を中位に持つ。胎土は粗。	
29	〃	〃	弥生土器甕	13.6	22.5	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 褐灰色	①底部ハケ・ユビオサエ。胴部ナデ。頸部～口縁部ハケ。②タタキ・ハケ。底部にタタキ痕が残る。③尖気味の丸底。胴部最大径を中位やや上に持つ。口縁端部はやや粗放な面をなす。	
30	〃	〃	弥生土器甕	12.0	(14.6)	–	にぶい黄橙色 ＊ 暗灰黄色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部ハケ。②タタキ後ハケ。③頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は短く外反する。口縁端部はやや粗放な面をなす。胎土は粗。	
31	〃	〃	弥生土器甕	9.6	13.7	2.5	橙色 ＊ 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部ハケ。②水平タタキ後、胴部上位は縦位ハケ、下位はナデ。③丸底。最大径を胴部中位に持つ。頸部はくの字状。口縁端部は細く仕上げる。	
32	〃	〃	弥生土器甕	12.0	(3.4)	–	橙色 ＊ 灰色	①ハケ。口縁部ナデ。②右上がりタタキ。口縁部ナデ・ユビオサエ。③頸部はくの字状。口縁部は外上方に上がる。口縁端部は丸く収め、指により粗放に仕上げる。	
33	〃	〃	弥生土器甕	–	(7.6)	–	灰黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。②タタキ。胴部下位タタキ後ナデ。③胴部は内湾する。胎土微細ガラスを含む。	
34	〃	〃	弥生土器甕	11.3	(1.2)	–	橙色 にぶい黄橙色 ＊	①目の細かいハケ。②ナデ。口縁端部ハケ。③口縁部は外反する。口縁端部は外傾する面をなし、下端を拡張する。	
35	〃	〃	弥生土器甕	13.9	(1.6)	–	にぶい橙色 ＊ ＊	①ハケ。②タタキ・ユビオサエ。③口縁部は外反し、外側に折り返して厚く肥厚する。口縁端部は外傾する面をなす。	
36	〃	〃	弥生土器甕	–	(1.5)	–	橙色 にぶい赤褐色 にぶい橙色	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③頸部はくの字状。口縁部は外上方に短く上がり、端部は丸く収める。外面煤付着。胎土微細ガラス多含。	
37	〃	ST2 － P10	弥生土器甕	–	(3.1)	–	橙色 にぶい褐色 にぶい橙色	①横位ハケ。②タタキ後ナデ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。面内は沈線状に凹む。	
38	〃	ST2	弥生土器甕	–	(3.0)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰白色	①②ハケ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。	
39	〃	〃	弥生土器甕	–	(3.7)	–	にぶい橙色 ＊ 明赤褐色	①横位ハケ・ナデ。②縦位ハケ・ヨコナデ。③内面頸部は稜をなし、くの字状に屈曲する。胎土はやや粗で微細ガラス多含。	
40	〃	〃	弥生土器壺か甕	–	(17.1)	6.0	橙色 浅黄橙色 黒褐色	①多方向ハケ。②底部～胴部下位ヘラケズリ。タタキ後ナデ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
41	〃	〃	弥生土器鉢	6.6	2.5	2.0	にぶい橙色 ＊ ＊	①ナデ・ユビオサエ。ヘラによる成形痕が残る。②ユビオサエ。③手捏ね成形による浅い底状の鉢。口縁端部は細く仕上げる。胎土微細ガラスを含む。	
42	〃	〃	弥生土器鉢	9.9	4.4	4.0	橙色 ＊ 浅黄橙色	①②ナデ。③椀状の鉢。平底。内面底部は平坦面をなさない。口縁端部は細く仕上げる。胎土は粗。	
43	〃	〃	弥生土器鉢	11.2	5.7	3.3	橙色 ＊ 浅黄橙色	①ナデ。口縁部ハケ。②底部ナデ。胴部下位タタキ。胴部下位～口縁部タタキ後ナデ。③椀状の鉢。やや突出する平底。口縁端部は細く仕上げる。胎土 1mm 程度の不透色砂粒を含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
44	北区	ST2	弥生土器 鉢	13.5	6.1	4.2	にぶい橙色 〃 にぶい黄色	①ナデ。胴部下位にヘラによる成形痕。②タタキ後ナデ。口縁部ヨコナデ。胴部にタタキ目が薄く残る。③椀状の鉢。平底。口縁端部は丸く収める。外面口縁部に煤付着。	
45	〃	〃	弥生土器 鉢	11.3	(2.6)	－	褐灰色 黒褐色 灰黄褐色	①ハケ。口縁部ヨコナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁端部は丸く収める。口縁部の形状はやや歪む。胎土微細ガラス多含。	
46	〃	〃	弥生土器 鉢	12.5	(3.5)	－	橙色 〃 浅黄橙色	①②ナデ。口縁部ヨコナデ。③椀状の鉢。口縁端部は丸く収める。胎土 1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
47	〃	〃	弥生土器 鉢	21.0	(4.7)	－	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③胴部は緩やかに内湾し、口縁端部は面をなす。	
48	〃	〃	弥生土器 鉢	10.3	5.7	6.4	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③台付鉢。底部は歪な円盤状。外面底部～脚部上方に向け窄孔。口縁端部は丸く収める。内面に放射状の整形痕。胎土 1mm程度の白透色砂粒を含む。	
49	〃	〃	弥生土器 鉢	－	(3.4)	－	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	①②ナデ。③胴部は内湾気味に上がる。口縁端部は水平な面をなし、外側に拡張する。口縁端部外縁に間隔 6mm程度の刻目を施す。胎土は粗。	
50	〃	〃	弥生土器 高杯	16.7	(6.5)	－	橙色 〃 灰色	①ナデ。口縁部ヨコナデ。杯部底部に指頭圧痕。②ナデ・ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。③胴部は内湾し、口縁部にかけて緩やかなS字状のカーブを描く。口縁端部は丸く収める。	
51	〃	〃	弥生土器 高杯	(14.0)	(1.9)	－	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	①ナデ・ヘラミガキ。②ナデ。③高杯の杯部片。内面口縁部を貼付けにより肥厚させる。胎土はやや粗。	
52	〃	〃	弥生土器 高杯	－	(2.9)	－	にぶい橙色 〃 黄灰色	①ハケによる圧痕及び脚部中央に指頭圧痕が残る。②ハケ・ナデ。③脚部は中空で、ハの字状に開く。杯部は外上方に上がる。	
53	〃	〃	弥生土器 器台か	－	(2.9)	－	にぶい褐色 灰褐色 にぶい褐色	①ハケ・ナデ。②丁寧なナデ。③裾部は直線的に下がる。外面からの焼成前穿孔が1個認められる。胎土はやや密。	
54	〃	〃	土師器 皿	13.4	1.8	6.2	浅黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③底部は輪高台で断面三角形状を呈する。体部は内湾気味に低い角度で上がり、口縁端部は丸く収める。	
55	〃	〃	土師器 皿	－	(1.5)	－	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は内湾して上がる。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。外面口縁部に凹状の縦が1条巡る。胎土はやや密。	
56	〃	ST2 － P8	土師器 杯	－	(1.8)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は内湾気味に上がる。口縁はやや外反し、端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。	
57	〃	ST2	土師器 杯	－	(1.6)	6.2	浅黄橙色 にぶい黄橙色 灰色	①②回転ナデ。③突出する平底。体部は内湾して立ち上がる。底部糸切り痕。	
58	〃	〃	須恵器 蓋	12.0	(1.5)	－	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③天井部は平坦面をなし、口縁部は外方に短く下がる。口縁端部は丸く収める。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
59	〃	〃	須恵器 杯	－	(2.9)	－	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は内湾気味にとがり、口縁端部は丸く収める。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	
61	〃	P94 (SB2)	弥生土器 甕	－	(2.0)	－	橙色 〃 褐灰色	①ハケ・ユビオサエ。②タタキ・ユビオサエ。③口縁部はやや外反し、端部は面をなして外側を拡張する。胎土微細ガラスを含む。	
62	〃	P85 (SB2)	弥生土器 鉢	12.8	(4.6)	－	橙色 〃 〃	①丁寧なナデ。ヘラによる線状の痕跡が残る。②ナデ。③椀状の鉢。丸みを帯びた平底。口縁端部は丸く収める。口縁部は波状にやや歪む。胎土はやや粗。	
63	〃	P86 (SB2)	弥生土器 鉢	15.8	(2.0)	－	橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①ハケ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は中央がやや凹状の面をなして外側を僅かに肥厚させる。	
64	〃	SK1	弥生土器 壺	－	(55.7)	8.6	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①胴部下位多方向ハケ・ハケ痕。中～上位左上がりハケ。底部指頭圧痕。②胴部下位水平タタキ。中～上位水平タタキ後縦位ハケ。底部タタキ目。③底部よつにれた丸製痕。最大径を胴部中～上位に持つたみられる。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
65	北区	SK1	弥生土器壺	17.0	(7.3)	–	橙色 〃 灰色	①②ハケ。口縁部ヨコナデ。③二重口縁壺。口縁端部は水平な面をなす。胎土はやや粗。	
66	〃	〃	弥生土器壺	18.6	(1.1)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	①ハケ。口縁端部ヨコナデ。②ナデ。③口縁部は外方に開く。口縁端部は面をなし、上端をやや拡張する。面内に4条の櫛描波状文を2段施文する。	
67	〃	〃	弥生土器甕	14.5	(12.7)	–	橙色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。胴部下位及び底縁部ハケ。胴部中位ヘラナデ。胴部中位及び頸部ヘラケズリ。②タタキ・ユビオサエ。③口縁部は外反し、端部は外傾する面をなして下端をやや拡張する。胎土微細ガラス多含。	
68	〃	〃	弥生土器甕	11.2	(6.6)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ナデ・ヘラナデ。口縁部ハケ。②水平タタキ。③頸部はくの字状。口縁部は外反して短く上がり、端部は薄く粗放な面をなして外側をやや肥厚させる。	
69	〃	〃	弥生土器甕	13.7	(9.4)	–	にぶい黄橙色 褐灰色 にぶい橙色	①ハケ。口縁部ナデ。②タタキ。口縁部ナデ・ユビオサエ。③口縁部は外反し、端部は外傾する面をなして下端を拡張する。外面煤付着。胎土はやや粗。	
70	〃	〃	弥生土器甕	–	(8.5)	–	灰白色 〃 〃	①ナデ。口縁部ハケ。ハケ圧痕が残る。②水平タタキ。③頸部は緩やかに屈曲し、口縁部に向かい外反する。	
71	〃	〃	弥生土器甕	–	(9.0)	–	浅黄橙色 にぶい橙色 黄灰色	①ナデ。胴部上位ハケ。②タタキ後目の細かいハケ。頸部縦位ハケ。③頸部はくの字状。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	
72	〃	〃	弥生土器甕	–	(7.7)	–	灰色 灰白色 黄灰色	①ナデ。②タタキ・ユビオサエ。③胎土はやや粗。	
73	〃	〃	弥生土器甕	10.7	12.8	–	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部ハケ。②水平タタキ・ヘラナデ・ユビオサエ。③丸底。最大径を胴部中位に持つ。頸部はくの字状。口縁端部は面をなし、外側を僅かに肥厚させる。外面煤付着。	
74	〃	〃	弥生土器甕	12.6	(1.6)	–	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	①ハケ。②ナデ・ヘラケズリ・ユビオサエ。③口縁部は外反する。口縁端部は面をなし、外側をやや拡張する。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	
75	〃	〃	弥生土器甕	13.2	(4.8)	–	橙色 〃 灰色	①ナデ・ヘラナデ。②右上がりタタキ。頸部ハケ。口縁部ユビオサエ。③頸部はくの字状。口縁端部は指で摘み細く仕上げる。内面口縁部に粘土接合痕。	
76	〃	〃	弥生土器甕	13.4	(4.6)	–	橙色 明赤褐色 灰色	①ナデ。口縁部ハケ。ヘラによる圧痕。②タタキ。口縁部～頸部に向け指により粘土をナデつける。③頸部はくの字状。口縁端部は面をなし、外側にやや拡張する。	
77	〃	〃	弥生土器甕	12.4	(4.3)	–	にぶい黄橙色 橙色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は短く外反し、端部は薄い面をなす。	
78	〃	〃	弥生土器甕	17.0	(4.7)	–	浅黄橙色 灰黄褐色 黄灰色	①ナデ。口縁部～頸部ハケ。②タタキ。口縁部ユビオサエ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は強く外反し、端部は薄い面をなす。	
79	〃	〃	弥生土器甕	18.3	(2.0)	–	浅黄橙色 黒色 浅黄橙色	①ハケ・ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は僅かに外反し、端部は面をなして外側をやや拡張する。外面に煤多く付着する。胎土はやや粗。	
80	〃	〃	弥生土器甕	20.2	(2.8)	–	灰黄褐色 褐灰色 黄灰色	①口縁部横位ハケ。②口縁部縦位ハケ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は面をなして外側を拡張する。	
81	〃	〃	弥生土器甕	–	(5.6)	2.8	にぶい黄橙色 黒褐色 〃	①ハケ・ナデ。底部ユビオサエ。③タタキ。底部ナデ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。外面胴部に煤付着。胎土は粗。	
82	〃	〃	弥生土器甕	–	(9.1)	2.4	橙色 〃 オリーブ黒色	①ナデ。底部に指頭圧痕。②ナデ。胴部中位タタキ後ナデ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。外面底部に炭化物付着。胎土はやや粗。	
83	〃	〃	弥生土器甕	–	(13.0)	–	浅黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	①横位ハケ・ユビオサエ。②タタキ。③頸部はくの字状。内面胴部上位に粘土接合痕が認められる。胎土は粗で微細ガラスを含む。	
84	〃	〃	弥生土器壺か甕	–	(3.3)	4.0	灰白色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ後ナデ。③狭い平底。やや上げ底気味に中央が凹む。胎土はやや粗。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
85	北区	SK1	弥生土器 鉢	11.6	7.3	3.3	にぶい黄橙色 ″ 褐灰色	①ナデ。口縁部ヨコナデ。底部周辺にハケ。②左上がりタタキ。口縁部ヨコナデ。③底部は鉢状に突出する。口縁端部は丸く収める。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	
86	〃	〃	弥生土器 鉢	14.9	7.1	2.1	にぶい橙色 橙色 ″	①板ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③椀状の鉢。やや突出する狭い平底。口縁端部はやや粗放な面をなす。	
87	〃	〃	弥生土器 鉢	12.9	5.9	3.2	灰褐色 明赤褐色 灰褐色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。口縁部タタキ後ナデ。③丸底を指向するが、やや突出させて粗雑な平坦面とする。口縁端部は細く仕上げる。胎土は粗。	
88	〃	〃	弥生土器 鉢	8.3	6.8	–	にぶい黄橙色 ″ 褐灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③やや尖気味の丸底。口縁部は短く外方に開き、端部はやや粗放に丸く収める。内面は粗い作り。胎土はやや粗。	
89	〃	〃	弥生土器 鉢	11.8	6.1	3.0	橙色 灰黄褐色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ後ナデ・ユビオサエ。③椀状の鉢。底部は丸みを帯びた平坦面をなす。口縁部は内湾して上がり、端部は粗放な面をなす。	
90	〃	〃	弥生土器 鉢	16.8	9.0	–	浅黄橙色 にぶい橙色 黄灰色	①ナデ・ヘラナデ。胴部上位ハケ。口縁部ヨコナデ。②水平タタキ・ナデ。③ボウル状の鉢。丸底。口縁部は垂直に上がり、端部は面をなす。胎土はやや粗。	
91	〃	〃	弥生土器 鉢	12.6	(3.3)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	①横位ハケ。②ナデ。③口縁端部は面をなし、外側をやや肥厚させる。胎土はやや粗。	
92	〃	〃	弥生土器 鉢	15.6	(2.8)	–	にぶい橙色 灰黄褐色 褐灰色	①ハケ。口縁部ヨコナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁端部は面をなし、波状にやや歪む。胎土はやや密。	
93	〃	〃	弥生土器 鉢	18.8	(4.6)	–	浅黄橙色 ″ 灰黄色	①ナデ。②ハケ。③胴部は内湾気味に上がり、口縁部で角度を変えて外上方にとがる。口縁端部はやや粗放に丸く収める。胎土0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	
94	〃	〃	弥生土器 鉢	20.4	(4.2)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	①ハケ。口縁部ヨコナデ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は内湾して上がり、端部は面をなす。胎土はやや密で微細ガラスを含む。	
95	〃	〃	弥生土器 鉢	–	(2.5)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 ″	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は内湾して上がり、端部は面をなす。	
98	〃	SK2	弥生土器 甕	–	(6.1)	–	橙色 ″ 灰色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部ハケ。②タタキ。③頸部はくの字状に屈曲し、口縁部に向かい外反する。胎土はやや粗。	
99	〃	〃	弥生土器 壺か甕	–	(8.5)	–	浅黄橙色 橙色 灰色	①多方向ハケ。底部に指頭圧痕。②縦位ハケ。胴部にタタキ目が僅かに残る。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。外面胴部下位に煤付着。	
100	〃	〃	土師器 甕	21.8	(4.3)	–	にぶい褐色 橙色 にぶい橙色	①口縁部横位ハケ。ナデ。②ハケ・ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は僅かに内湾して外上方に上がり、端部は外傾する面をなして上端を拡張する。外面に煤多く付着する。	
101	〃	SK4	須恵器 杯	–	(2.3)	–	灰色 ″ ″	①②回転ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。焼成良好堅緻。胎土は密。	8世紀末～9世紀か。
102	〃	SK6	弥生土器 甕	14.0	(1.4)	–	にぶい黄橙色 ″ ″	①ハケ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は外反し、端部は外傾する面をなして下端を僅かに拡張する。胎土はやや粗。	
103	〃	〃	弥生土器 甕	–	(2.4)	–	にぶい橙色 ″ ″	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は外反し、端部は外傾する面をなして下端を僅かに拡張する。胎土はやや粗。	
104	〃	〃	弥生土器 甕	–	(2.1)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 浅黄橙色	①ハケ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は外反し、端部はやや粗放な面をなす。外面煤付着。胎土微細ガラスを含む。	
105	〃	〃	弥生土器 鉢か	–	(2.2)	–	にぶい橙色 ″ 浅黄橙色	①ハケ。②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がる。口縁端部は丸く収めた後面取りし、外側に折り返して肥厚させる。胎土はやや粗で15mm程度の白透色砂粒を含む。	
106	〃	SK7	土師器 羽釜	–	(2.8)	–	灰白色 ″ ″	①②ナデ。③口縁部は僅かに内傾して上がり、端部は面をなす。鍔部は断面三角形で水平に伸び、端部は丸く収める。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
107	北区	SK7	須恵器杯	–	(1.4)	9.2	灰白色 ＊ ＊	①②回転ナデ。③輪高台。高台はやや外方に開き、端部は丸みを帯びた面をなす。体部は内湾気味に立ち上がる。外面高台に自然釉が僅かに付着する。焼成良好堅緻。胎土は密。	
108	＊	SK9	土師器杯	–	(2.1)	–	にぶい黄橙色 ＊ 浅黄橙色	①ナデ・ヘラミガキ。②ナデ。③体部はやや内湾し、口縁部は外反する。口縁端部は丸く収める。胎土はやや密。	
109	＊	＊	黒色土器杯	–	(1.7)	–	黄灰色 ＊ 灰黄褐色	①丁寧なナデ。②ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。内外面黒色。胎土は密で微細ガラス多含。	
110	＊	＊	瓦質土器鍋	33.0	(9.4)	–	灰白色 褐灰色 ＊	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は外上方に短く上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。外面煤付着。	13世紀後半か。
111	＊	SK10	弥生土器壺	20.6	(1.0)	–	にぶい橙色 ＊ 浅黄橙色	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部はラッパ状に開く。端部は外傾する面をなし、下端をやや拡張して上端に1条沈線を巡らす。胎土はやや粗。	
112	＊	＊	弥生土器甕	–	(5.2)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 ＊	①胴部目の細かいハケ。口縁部ハケ。②タタキ。③頸部はくの字状。胎土はやや粗。	
113	＊	＊	弥生土器甕	–	(5.6)	4.0	褐灰色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。②太平タタキ後ナデ。底部はナデにより粗く整形する。③丸みを帯びた平底。内面底部は平坦面をなさない。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
114	＊	＊	弥生土器甕か	–	(6.0)	4.0	にぶい橙色 褐灰色 褐灰色／灰褐色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ後ナデ。③丸底を指向するが、平坦面を残す。胎土はやや粗で微細な白色砂粒及び微細ガラス多含。	
115	＊	＊	弥生土器鉢	11.8	5.1	–	橙色 ＊ 灰色	①ナデ。底部ヘラによる成形痕及びユビオサエ。②タタキ後ナデ。口縁部ユビナデ。③椀状の鉢。尖気味の丸底。口縁端部は粗放に薄く仕上げる。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	
116	＊	＊	弥生土器鉢	9.6	(2.9)	–	にぶい黄橙色 ＊ 褐灰色	①ハケ。②タタキ後ナデ。③胴部は直線的に外上方に上がり、角度を変えて口縁部に至る。口縁端部は丸く収める。	
117	＊	＊	弥生土器鉢	12.5	(4.2)	–	橙色 明赤褐色 褐灰色	①ハケ。口縁部ヨコナデ。③タタキ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は外上方に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
118	＊	＊	弥生土器鉢	10.5	4.0	–	にぶい黄橙色 ＊ ＊	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。ユビナデの痕跡が放射状にみられる。③手捏ね成形の鉢。底部は不整な丸底で安定性を欠く。口縁端部は細く仕上げる。胎土微細ガラスを含む。	
119	＊	SK11	弥生土器甕	9.8	(1.3)	–	にぶい黄橙色 灰黄褐色 褐灰色	①ハケ・ナデ。②タタキ後ナデ・ユビオサエ。③口縁部は外上方に短く上がる。口縁端部は面をなし、外側を僅かに拡張する。	
120	＊	SK12	土師器杯か椀	–	(2.7)	6.6	浅黄橙色 ＊ ＊	①回転ナデ・ヘラミガキ。②回転ナデ。③柱状高台風の底部。体部は内湾して立ち上がる。底部回転糸切り痕。胎土微細ガラスを含む。	
121	＊	SK14	弥生土器鉢	14.1	(3.0)	–	橙色 灰黄褐色 褐灰色	①ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ。②ナデ・ユビオサエ。③浅い椀状の鉢。口縁端部は丸く収める。	
122	＊	SK15	土師器壺	–	(4.9)	–	浅黄橙色 にぶい橙色 灰色	①ハケ・ナデ・ヨコナデ。②ハケ。口縁部段部ヨコナデ。③複合口縁壺。口縁部下段は直線的に外上方に上がり、段部を外側に拡張する。胎土はやや粗。	
123	＊	＊	土師器甕	16.0	(4.7)	–	にぶい橙色 ＊ 淡赤褐色	①②ナデ。③内面口縁部に明瞭な沈線が1条巡る。口縁端部は面をなし、上端と下端をやや拡張する。胎土はやや粗。	
124	＊	＊	土師器甕	16.4	(4.7)	–	橙色 ＊ ＊	①横位ハケ。②ハケ・ヨコナデ。③口縁部は内湾気味に外上方に上がる。口縁端部は面をなし、上端を拡張する。胎土微細な白色砂粒を含む。	
125	＊	＊	土師器甕	15.7	(2.6)	–	浅黄橙色 にぶい橙色 ＊	①②回転ナデ。③頸部はくの字状。口縁端部は中央が凹状の面をなし、上端を上方に拡張する。外面頸部に煤付着。胎土微細ガラス多含。	
126	＊	＊	土師器壺か甕	–	(4.2)	5.5	浅黄色 にぶい黄色 黄灰色	①ハケ・ナデ。②ナデ。底部～胴部下位ハケ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胴部は内湾気味に上がる。胎土は粗。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
127	**北区**	**SK15**	**土師器 高杯か杯**	**－**	**(1.6)**	**－**	**橙色 〃 〃**	**①ナデ。②ナデ。底部ヘラミガキ。③底部は円盤状にやや突出する。底部外縁は丸みを帯び、体部は外上方に立ち上がる。**	
128	〃	〃	土師器 皿	－	(0.9)	7.6	橙色 にぶい黄橙色 〃	①②回転ナデ。③平底。体部は外上方に立ち上がる。底部ヘラ切り。胎土はやや密。	
129	**〃**	**〃**	**土師器 皿**	**11.5**	**(1.0)**	**7.2**	**にぶい橙色 〃 〃**	**①②回転ナデ。③平底。体部は浅い角度で外上方に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。胎土はやや密。**	
130	〃	〃	土師器 皿	13.7	(1.5)	9.8	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。体部は外上方に上がり、口縁端部は丸く収める。胎土はやや密。	
131	**〃**	**〃**	**土師器 皿**	**－**	**(1.1)**	**－**	**明褐色 〃 〃**	**①丁寧なナデ。②ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。胎土はやや密で雲母片多含。**	**搬入品。**
132	〃	〃	土師器 杯	12.0	2.9	5.7	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③丸みを帯びた平底。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部は丸く収める。	
133	**〃**	**〃**	**土師器 杯**	**14.0**	**(2.1)**	**－**	**にぶい橙色 浅黄橙色 〃**	**①②回転ナデ。③体部はやや内湾する。口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。**	
134	〃	〃	土師器 杯	10.4	(1.8)	－	にぶい橙色 〃 橙色	①②回転ナデ。③体部は僅かに内湾する。口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。胎土はやや密。	
135	**〃**	**〃**	**土師器 杯**	**－**	**(1.3)**	**7.4**	**橙色 灰黄褐色 橙色**	**①②回転ナデ。③平底。体部は内湾気味にやや稜をなして立ち上がる。胎土はやや密。**	
136	〃	〃	土師器 杯	－	(1.3)	8.3	にぶい橙色 橙色 にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③平底。体部は内湾気味に立ち上がる。底部糸切り痕。内面底部に煤付着。胎土は密。	
137	**〃**	**〃**	**土師器 杯**	**－**	**(1.5)**	**8.6**	**黄灰色 〃 〃**	**①②ナデ。③やや丸みを帯びた平底。底部外縁は丸みを帯びる。底部ヘラ切り。胎土微細な白色砂粒を含む。**	
138	〃	〃	土師器 杯	－	(0.8)	10.5	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	①②回転ナデ。③平底。体部は外上方に立ち上がる。底部糸切り痕。	
139	**〃**	**〃**	**土師器 杯**	**－**	**(2.4)**	**－**	**にぶい橙色 黒褐色 にぶい橙色**	**①②回転ナデ。③体部は僅かに内湾して外上方に上がる。口縁端部は外側に摘んで丸く収める。胎土はやや密。**	
140	〃	〃	黒色土器 杯か椀	－	(1.1)	－	黒色 暗灰色 黄灰色	①ヘラミガキ。②回転ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は細く仕上げる。内外面黒色。胎土は密で微細ガラス多含。	
141	**〃**	**〃**	**須恵器 杯**	**－**	**(1.4)**	**9.4**	**灰白色 灰色 黄灰色**	**①②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に開く。接地面は中央が僅かに凹み、外側をやや膨厚させる。内面底部に緑色の自然釉が僅かにみられる。**	**8 世紀前半か。**
142	〃	SK17	土師器 皿	－	(2.0)	－	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部下位で稜をなして立ち上がる。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。胎土はやや密で微細ガラス含む。	
143	**〃**	**〃**	**土師器 杯**	**－**	**(1.5)**	**7.0**	**にぶい橙色 〃 〃**	**①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。体部は直線的に外上方に立ち上がる。胎土はやや密。**	
144	〃	〃	土師器 杯	13.1	2.5	8.4	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。胎土はやや密。	
145	**〃**	**〃**	**土師器 杯**	**－**	**(2.7)**	**－**	**にぶい橙色 橙色 〃**	**①②回転ナデ。③体部～口縁部は直線的に外上方に上がる。口縁端部は丸く収める。胎土はやや密。**	
146	〃	〃	土師器 杯	－	(1.2)	－	橙色 〃 〃	①ヘラミガキ。②回転ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土はやや密。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
147	北区	SK17	須恵器 高杯	11.8	(2.8)	–	灰色 暗灰黄色 にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③杯部体部は稜をなして屈曲する。口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒多含。	
148	〃	〃	須恵器 高杯	–	(3.3)	8.0	灰白色 灰色 灰白色	①②回転ナデ。③裾部はラッパ状に開き、端部は面をなす。	
149	〃	SK18	弥生土器 甕	11.5	(2.4)	–	にぶい黄橙色 〃 灰白色	①ハケ。②タタキ・ナデ・ユビオサエ。③頸部はくの字状。口縁部は外反し、端部は面をなす。	
150	〃	〃	弥生土器 甕	12.4	(1.8)	–	橙色 にぶい橙色 〃	①ハケ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。胎土はやや粗で微細ガラス多含。	
151	〃	〃	弥生土器 鉢	–	(3.6)	–	橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ハケ。②ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③口縁端部は面をなす。	
152	〃	〃	弥生土器 高杯	–	(2.4)	–	にぶい橙色 〃 黄灰色	①ハケ・ヘラミガキ。②ヘラミガキ。③杯部は体部下位で稜をなして屈曲し、直線的に外上方に上がる。胎土はやや密で微細ガラスを含む。	
153	〃	SK20	土師器 羽釜	20.0	(5.7)	–	灰褐色 〃 褐色	①②ナデ。③内面口縁部はやや凹状を呈する。口縁端部は面をなす。鍔部は上方にやや肉厚し、端部は面をなす。胎土はやや粗で微細ガラス多含。	
154	〃	SK21	土師器 羽釜	20.6	(5.0)	–	褐灰色 灰黄褐色 にぶい褐色	①②ナデ。③口縁端部は水平な面をなす。鍔部は外上方に上がり、端部は中央がやや凹状の面をなす。口縁端部に焼成前とみられる傷痕。鍔部下側に接合痕。胎土微細ガラス多含。	摂津。10世紀か。
155	〃	SK22	土師器 杯	–	(1.3)	9.8	橙色 〃 浅黄橙色	①②ナデ。③平底。外面立ち上がり付近はやや凹む。外面底部に黒書。胎土はやや密。	
156	〃	SK25	土師器 杯	12.9	(2.0)	–	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。胎土はやや密。	
157	〃	〃	土師器 杯	–	(0.9)	11.0	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。外面立ち上がり付近に沈線状の線が巡る。底部回転糸切り痕。ロクロ回転は右方向。胎土はやや密。	
158	〃	〃	土師器 羽釜	17.2	(3.1)	–	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰黄褐色	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁端部は水平な面をなす。鍔部は水平に伸び、端部は面をなす。胎土は粗で微細ガラスを含む。	
159	〃	〃	須恵器 甕	–	(1.8)	–	灰黄色 オリーブ黒色 黄灰色	①②回転ナデ。③口縁端部は外傾する面をなし、上端と下端をやや拡張する。外面緑色の自然釉が薄くみられる。焼成良好堅緻。胎土は密。	
160	〃	〃	須恵器 杯	–	(2.3)	–	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁端部は細く仕上げる。焼成良好堅緻。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
161	〃	〃	黒色土器 椀	11.7	(3.5)	–	オリーブ黒色 〃 灰オリーブ色	①②回転ナデ・ヘラミガキ。③口縁端部は丸く収める。内外面黒色。胎土微細ガラスを含む。	
162	〃	〃	青磁 椀	–	(2.8)	–	灰色 〃 灰白色	③口縁部は僅かに内湾して上がり、端部は丸く収める。内面劃花文及び口縁部に圏線。内外面施釉。	12世紀中頃か。
163	〃	〃	磁器 椀	9.0	(2.5)	–	浅黄橙色 〃 灰白色	③体部から僅かに外側に角度を変えて口縁部は外上方に上がる。口縁端部は丸く収める。外面に密状の圏線が巡る。内外面施釉。貫入あり。	
165	〃	SK26	土師器 甕	–	(3.6)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 〃	①②口縁部ヨコナデ。③口縁端部は外傾する面をなし、上端をやや拡張する。外面口縁部に工具痕。胎土はやや粗で0.7mm程度の砂粒多含。	
166	〃	〃	土師器 杯	–	(2.0)	–	にぶい橙色 橙色 にぶい橙色	①②回転ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土はやや密。	
167	〃	〃	土師器 杯	–	(1.3)	9.2	にぶい橙色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁で稜をなし、体部は内湾気味に立ち上がる。底部ヘラ切り。胎土は密。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
168	北区	SK26	土師器 杯	–	(1.4)	6.4	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	①回転ナデ。底部ヘラミガキ。②回転ナデ。③平底。底部回転糸切り痕。胎土はやや密。	
169	〃	〃	土師器 羽釜	–	(2.6)	–	にぶい黄橙色 〃 橙色	①ナデ。②鍔部ヨコナデ。③鍔部は外上方に伸び、端部は面をなして上端を僅かに拡張する。	
170	〃	〃	須恵器 甕	19.2	(4.6)	–	褐灰色 黄灰色 灰黄褐色	①回転ナデ。同心円状の当具痕。②回転ナデ。③頸部はくの字状。口縁部は外側を肥厚させる。口縁端部は中央が凹状の面をなし、外端を外上方へやや拡張する。	
171	〃	〃	須恵器 杯	13.8	(2.2)	–	灰黄色 灰白色 にぶい橙色	①②回転ナデ。③体部は内湾気味に上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。やや焼成不良。胎土はやや密。	
172	〃	SK27	弥生土器 甕	–	(2.5)	–	にぶい黄橙色 褐灰色 にぶい黄橙色	①ハケ。口縁部ヨコナデ。②タタキ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は強く外反し、端部は面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
173	〃	〃	弥生土器 壺か甕	–	(4.1)	4.0	にぶい黄橙色 橙色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ハケ・ナデ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胎土は粗。	
174	〃	〃	青磁 皿	–	(1.1)	5.7	灰黄色 浅黄色 灰白色	①平底。体部下位で稜をなして立ち上がる。内面にジグザグ状の点線文。内外面施釉。外面底部露胎。貫入あり。	同安窯系。胎土は密。
175	〃	〃	白磁 碗	11.6	(1.9)	–	灰白色 〃 〃	③体部は内湾して上がる。口縁端部はやや外側に丸く収める。内外面施釉。	
177	〃	SK28	須恵器 甕	–	(7.7)	–	黄灰色 〃 灰白色	①同心円状の当具痕。②格子状タタキ。③焼成良好堅緻。胎土はやや密。	
178	〃	SK29	土師器 甕	–	(3.5)	–	にぶい褐色 〃 〃	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②ナデ。③口縁端部は丸く収め、外側をやや面取りする。内面口縁部に1条の沈線が巡る。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	
179	〃	〃	須恵器 壺	–	(1.6)	–	灰色 〃 褐灰色	①②回転ナデ。③天井部は平坦面をなし、外縁でやや稜をなして体部は緩やかに内湾してつがる。焼成良好堅緻。胎土は密。	7世紀中頃か。
180	〃	〃	須恵器 器台	–	(2.1)	–	灰黄色 〃 〃	①②回転ナデ。③受部は直線的に外上方に上がり、外面で稜をなして屈曲し、上方に短く上がる。口縁端部は丸く収める。胎土はやや密。	
181	〃	SK31	陶器 鉢	47.6	(3.4)	–	黒褐色 黒色 にぶい橙色	①②回転ナデ。③胴部上位で角度を変えて口縁部は外上方に上がる。口縁端部は丸く収める。外面口縁部に煤付着。胎土微細ガラスを含む。	
182	〃	〃	磁器 碗	10.4	6.2	4.3	灰白色 〃 〃	③丸形碗。輪高台。内面見込みに圏線と文様、口縁部に波文。外面草花文。内外面全面施釉。	
183	〃	〃	磁器 碗	11.2	7.1	6.0	灰白色 〃 〃	③広東形碗。輪高台。内面見込みに圏線と文様、口縁部に2重圏線。外面草花文、高台に2重圏線。内外面施釉。墨付極淵き。内面に重ね焼き具痕。	
185	〃	SK37	黒色土器 椀	17.0	(2.4)	–	褐灰色 〃 にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③口縁部は内湾気味に上がり、端部は丸く収めて外側を僅かに肥厚させる。内面黒色。胎土微細ガラス多含。	
186	〃	SK46	瓦器 椀	–	(1.3)	6.0	灰色 〃 浅黄橙色	①②回転ナデ。③輪高台。断面逆台形の低い高台を貼付する。体部は内湾気味に立ち上がる。	
187	〃	SD1	弥生土器 壺	20.0	(4.5)	–	にぶい橙色 〃 橙色	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③頸部は外上方に上がる。口縁部は外反し、端部は丸く収める。	
188	〃	〃	土師器 羽釜	15.5	(3.7)	–	黒褐色 灰褐色 〃	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②ナデ。鍔部ヨコナデ。③口縁端部は外傾する面をなし、浅らかに鍔部に至る。鍔部は外上方に上がり、端部は中央が凹む面をなす。胎土は粗。	
189	〃	〃	須恵器 高杯	–	(3.0)	13.3	黄灰色 〃 灰黄色	①②回転ナデ。③裾部はラッパ状に開き、端部は面をなして接地面を丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
190	北区	SD1	須恵器 杯	－	(3.8)	15.8	灰白色 灰色 明褐灰色	①②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に開き、端部は面をなす。体部は内湾して立ち上がる。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	8世紀か。
193	〃	SD2	弥生土器 甕	13.6	(6.0)	－	灰黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。②ハケ。頸部及び口縁部ヨコナデ。③体部～口縁部にかけて緩やかなＳ字状のカーブを描く。口縁端部は丸く収める。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	
194	〃	〃	弥生土器 甕か	－	(2.7)	5.2	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	①ナデ。②胴部下位左上がりタタキ。③突出する平底。胴部は内湾気味に上がる。胎土はやや粗で 0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	
195	〃	〃	土師器 甕	－	(3.5)	－	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰黄褐色	①ハケ。口縁部ヨコナデ。②ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。頸部に指頭圧痕が残る。③内面頸部は稜をなして屈曲する。口縁端部は面をなす。	
196	〃	〃	土師器 皿	13.4	(1.5)	－	橙色 にぶい橙色 橙色	①②回転ナデ。③体部は内湾して上がり、口縁端部は丸く収める。胎土はやや密。	
197	〃	〃	土師器 杯	11.7	3.8	6.2	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。体部は直線的に外上方に上がる。口縁端部は丸く収める。底部回転糸切り痕。外面体部にロクロ目による凹凸が顕著に残る。	
198	〃	〃	土師器 杯	12.2	(1.3)	－	明褐灰色 橙色 にぶい橙色	①②回転ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がる。口縁端部は丸く収め、外縁はやや稜をなす。胎土はやや密。	
199	〃	〃	土師器 杯	－	(1.5)	7.0	にぶい橙色 〃 灰白色	①②回転ナデ。③平底。体部は内湾して立ち上がる。底部回転糸切り痕。	
200	〃	〃	土師器 杯	－	(1.9)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ。②回転ナデ。③輪高台。断面逆台形の高台を貼付する。高台端部は面をなし、外側を面取りする。胎土はやや密。	
201	〃	〃	土師器 椀	－	(1.6)	10.8	明赤褐色 橙色 灰色	①ナデ・ヘラミガキ。②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に開き、端部は水平な面をなして内側にやや拡張する。胎土はやや密。	
202	〃	〃	須恵器 甕	16.0	(3.5)	－	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部は外反し、外側に折り返して肥厚させる。口縁端部は尖気味に丸く収める。焼成良好堅緻。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	
203	〃	〃	須恵器 甕	－	(10.2)	－	褐灰色 灰色 褐灰色	①ナデ。②タタキ。③器壁は焼成時の気泡によりやや凹凸を呈する。外面に別個体の須恵器片が溶着する。胎土は密。	
204	〃	〃	須恵器 鉢	27.4	(9.3)	－	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③浅ね鉢。胴部は内湾気味に上がる。口縁端部は外傾する面をなし、下端をやや拡張する。口縁端部の面内はやや凹状を呈する。胎土はやや粗。	東播系。12世紀初頭か。
205	〃	〃	須恵器 高杯	－	(2.9)	15.0	灰黄褐色 褐灰色 灰黄褐色	①②回転ナデ。③脚部はラッパ状に開き、端部は面をなして接地面を丸く収める。焼成良好堅緻。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
206	〃	〃	須恵器 蓋	14.4	(1.2)	－	灰色 〃 〃	①②回転ナデ・回転ヘラケズリ。③天井部は平坦面をなす。口縁端部は外傾を面取りし、下方に短く伸びて端部は丸く収める。焼成良好堅緻。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	8世紀中頃か。
207	〃	〃	須恵器 杯	－	(2.7)	－	灰白色 〃 〃	①ナデ。②回転ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。内面口縁部に１条の沈線が巡る。胎土微細ガラスを含む。	
208	〃	〃	須恵器 杯	－	(1.9)	－	灰白色 黄灰色 〃	①②回転ナデ。③口縁部は内湾気味に上がり、端部は丸く収める。胎土はやや密。	
209	〃	〃	瓦質土器 羽釜	－	(3.4)	－	黒色 〃 灰白色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。鍔部及び口縁部ヨコナデ。③口縁端部は丸く収める。鍔部は断面三角形で水平に伸び、端部は丸く収める。	
210	〃	〃	瓦質土器 羽釜	－	(2.1)	－	黄灰色 〃 浅黄橙色	①ナデ。②鍔部ヨコナデ。③鍔部は水平に伸び、端部は丸みを帯びた面をなす。鍔の下側に煤付着。胎土はやや粗。	
211	〃	〃	瓦質土器 羽釜	－	(2.0)	－	オリーブ黒色 〃 浅黄色	①ナデ。②鍔部ヨコナデ。③鍔部は水平に伸び、端部は丸みを帯びた面をなす。鍔の下側に煤付着。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	法量（cm）器高	法量（cm）底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
214	北区	SD3	土師器皿か	－	(1.3)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	①回転ナデ・ヘラミガキ。②回転ナデ。③平底。体部は僅かに外反して立ち上がる。胎土はやや密。	
215	〃	SD5	弥生土器壺か甕	－	(1.9)	－	橙色 〃 〃	①②ナデ。③口縁端部は外傾する面をなし、下端を拡張する。面内に３条の沈線を巡らす。胎土はやや粗。	
216	〃	〃	土師器杯か	－	(1.0)	－	浅黄橙色 〃 灰色	①②回転ナデ。③平底。内面底部外縁に回転による凹みが顕著にみられる。底部回転糸切り痕。	
217	〃	SD8	須恵器瓶	－	(4.6)	6.8	灰白色 にぶい黄橙色 灰黄褐色	①②回転ナデ。③輪高台。高台端部は面をなし、端部の内縁は丸みを帯びて外縁は角をなす。内面底部を押し出す。内外面の一部に緑色の自然釉がみられる。胎土は密。	
218	〃	SD9	土師器杯か	－	(1.1)	8.3	橙色 〃 にぶい橙色	①回転ナデ・ヘラミガキ。②回転ナデ。③平底。体部は外上方に立ち上がる。底部ヘラ切り。胎土はやや密。	
219	〃	SD17	土師器杯	－	(1.6)	9.4	浅黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯び、体部は内湾気味に立ち上がる。底部回転糸切り痕。	
220	〃	〃	土師器供膳具	－	(1.2)	6.0	浅黄橙色 〃 〃	①②ナデ。③輪高台。断面丸みを帯びた逆台形の高台を貼付する。底部高台内に糸切り痕。	
221	〃	SD18	土師器杯	12.0	(3.0)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③体部～口縁部にかけて内湾気味に上がる。口縁端部は丸く収める。	
222	〃	〃	土師器杯	－	(1.3)	－	にぶい黄橙色 灰白色 〃	①②回転ナデ。③平底。内面底部に回転による凹みが顕著にみられる。底部回転糸切り痕。	
223	〃	〃	土師器杯	－	(1.4)	6.1	橙色 浅黄橙色 にぶい橙色	①②回転ナデ。③やや突出する平底。底部回転糸切り痕。胎土はやや密。	
224	〃	SD21	土師器杯	14.5	4.9	8.5	にぶい褐色 灰褐色 〃	①②回転ナデ。③平底。口縁部は外反し、端部は丸く収めて外面を肥厚させる。底部回転糸切り痕。内面体部に煤付着。胎土はやや密。	
225	〃	〃	土師器杯	13.5	(2.4)	－	浅黄橙色 灰白色 浅黄橙色	①②回転ナデ。③体部～口縁部にかけてやや内湾して上がる。口縁端部は丸く収める。胎土はやや密。	
227	〃	SX1	弥生土器甕か鉢	－	(4.0)	1.8	灰白色 浅黄橙色 褐灰色	①タタキ後ハケ・ナデ。②ハケ。③狭い平底。胴部は内湾気味に上がる。胎土はやや粗で 1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
228	〃	〃	土師器皿	－	(1.6)	5.0	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③柱状高台風の底部。外面底面は歪む。体部は内湾気味に立ち上がる。	
229	〃	〃	須恵器甕	17.4	(6.5)	－	褐灰色 灰白色 灰黄褐色	①回転ナデ。胴部同心円状当具痕。②回転ナデ。胴部格子状タタキ。③口縁部は外反し、外側に折り返して肥厚させる。口縁端部は面をなす。内外面に緑色の自然釉。	
230	〃	〃	青磁碗	12.5	3.2	5.9	灰白色 〃 灰黄色	③輪高台。断面三角形の高台を貼付する。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。内外面施釉。高台内及び畳付、外面高台一体部下位の一部露胎。見込に重ね焼きの痕跡。	
231	〃	〃	青磁碗	12.9	(2.3)	－	灰オリーブ色 〃 灰色	③体部はやや内湾する。口縁端部は丸く収める。外面はロクロ成形による凹凸をなす。内外面施釉。一部貫入がみられる。	
232	〃	〃	陶器碗	－	(2.4)	4.8	灰白色 極暗赤褐色 灰白色	③輪高台。高台は僅かに内傾し、端部は狭い面をなす。内面施釉。外面鉄釉を施す。高台内及び畳付露胎。外面高台に被熱がみられる。	
233	〃	〃	磁器碗	12.4	8.5	4.6	浅黄色 〃 灰白色	③輪高台。高台は垂直方向に下がり、畳付は面をなさずやや粗雑に仕上げる。口縁端部は丸く収める。内外面施釉。畳付釉剥ぎ。貫入あり。	
234	〃	〃	磁器碗	－	(6.0)	5.0	灰白色 〃 浅黄橙色	③輪高台。体部は内湾して立ち上がり、上位でやや外反する。外面草文。外面高台に２重圏線。底部高台内に圏線。畳付釉剥ぎ。貫入あり。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
236	北区	SX2	土師器 供膳具	－	(1.5)	5.4	灰白色 〃 〃	①摩耗。②回転ナデ。③輪高台。粘土紐を丸く成型した高台を貼付する。	
237	〃	〃	須恵器 杯	－	(1.7)	－	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁端部は丸く収める。内面自然釉の光沢が僅かに残る。	
239	〃	SX3	土師器 杯	13.2	(2.1)	－	橙色 〃 にぶい黄橙色	①回転ナデ。②ナデ。③体部は稜をなし角度を変えて立ち上がる。口縁部は内傾をやや肥厚させ、端部は端反気味に丸く収める。胎土はやや密。	
240	〃	〃	須恵器 杯	－	(1.0)	10.1	黄灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯び。体部は外上方に立ち上がる。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
241	〃	〃	須恵器 杯	－	(1.6)	8.4	灰黄褐色 〃 〃	①②回転ナデ。③輪高台。断面逆台形の高台を貼付する。高台端部は平坦面をなす。体部下位で屈曲して外上方に立ち上がる。焼成やや不良。胎土は密で白色砂粒を含む。	8世紀か。
242	〃	〃	陶器 鉢	22.8	(4.4)	－	黒褐色 〃 にぶい赤褐色	③胴部は内湾して上がる。口縁端部は水平な面をなし、外側に拡張する。内外面に鉄釉を施す。口縁端部の面は釉を剥ぐ。	
243	〃	〃	磁器 碗か	7.6	(2.1)	－	明オリーブ灰色 〃 灰白色	③口縁端部は丸みを帯びた面をなし、内側を拡張する。内面に文様。内外面施釉。貫入あり。	
244	〃	SX4	土師器 杯	－	(1.6)	－	にぶい橙色 にぶい黄橙色 灰白色	①②回転ナデ。③底部は大部分が欠損するが、平底とみられる。体部は内湾気味に立ち上がる。	
245	〃	〃	土師器 皿か杯	－	(0.9)	8.2	橙色 〃 浅黄橙色	①②ナデ。③底部は薄い円盤状に突出する。胎土はやや粗。	
246	〃	P18	土師器 甕	－	(2.1)	－	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	①ハケ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部はやや外反し、端部は狭く粗放な面をなす。	
247	〃	P24	土師器 壺	14.2	(2.5)	－	にぶい橙色 〃 灰黄色	①②ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は僅かに外反して上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。胎土は粗。	
248	〃	〃	土師器 鉢	15.2	(2.0)	－	橙色 〃 〃	①②ナデ。口縁部ヨコナデ。③口縁端部は内傾し、中央がやや凹む面をなす。	
249	〃	〃	須恵器 甕	20.2	(2.8)	－	黄灰色 灰色 黄灰色	①②回転ナデ。③口縁部は外反し、外側に折り返して肥厚させる。口縁端部は尖気味に丸く収める。焼成良好堅緻。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	
250	〃	P39	土師器 甕	－	(3.9)	－	にぶい橙色 〃 〃	①②ヨコナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は中央がやや凹状の面をなす。口縁部の形状はやや歪む。胎土は粗。	
251	〃	P49	土師器 杯	－	(1.1)	－	橙色 〃 にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びて体部は外上方に立ち上がる。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	
252	〃	P65	須恵器 蓋	12.0	(2.0)	－	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁端部は丸く収める。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	7世紀か。
253	〃	P72	須恵器 杯	10.4	(2.5)	－	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は内湾気味に上がる。口縁部のかえりはやや内傾して上がり、端部は細く仕上げる。受部は水平に短く伸び、端部は細く仕上げる。受部径 12.4cm。	6世紀か。
254	〃	P78	土師器 杯	－	(2.0)	－	橙色 〃 〃	①②ナデ。③体部は内湾気味に上がる。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。	
255	〃	P80	土師器 皿か杯	－	(0.5)	－	橙色 〃 にぶい橙色	①②回転ナデ。③底部糸切り痕。外面底部に墨書。	
256	〃	P106	土師器 皿か杯	－	(0.5)	－	黄橙色 にぶい橙色 〃	①②回転ナデ。③底部糸切り痕。外面底部に墨書。胎土はやや密。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
257	北区	P114	土師器杯	13.2	(1.3)	–	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。胎土はやや密。	
258	〃	〃	土師器杯	12.2	(2.6)	–	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。内外面煤付着。胎土微細な橙色砂粒を含む。微細ガラス多含。	
259	〃	〃	土師器杯	–	(2.0)	8.4	にぶい橙色 黒色 浅黄橙色	①②回転ナデ。③平底。体部は外上方に立ち上がる。底部回転糸切り痕。外面煤付着。胎土微細な橙色砂粒を含む。微細ガラス多含。	
261	〃	P151	土師器杯	–	(1.1)	9.5	浅黄橙色 〃 黄灰色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯び、体部は直線的に外上方に立ち上がる。胎土はやや密。	
262	〃	P164	土師器椀	17.8	(3.9)	–	灰白色 浅黄橙色 〃	①②回転ナデ。③体部は僅かに内湾し、口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。	
263	〃	P166	土師器甕	–	(1.6)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。口縁端部ハケ。③口縁部は短く外反し、端部は面をなして外側を拡張する。	
264	〃	P185	弥生土器甕	–	(4.8)	–	浅黄橙色 〃 〃	①ハケ・ナデ。口縁部ハケ。②タタキ。③頸部はくの字状。胎土は粗で 1mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
265	〃	P196	土師器杯	–	(1.2)	–	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯び、体部は内湾して立ち上がる。外面底部外縁に沈線状の縁が巡る。胎土微細ガラスを含む。	
268	〃	P200	土師器鉢	–	(3.1)	–	にぶい橙色 〃 灰色	①ハケ。②ハケ・ナデ。口縁部ヨコナデ。③胴部～口縁部にかけて内湾する。口縁端部は大く収め、外側を肥厚させる。肥厚面の中央は凹む。胎土はやや粗。	
269	〃	P201	土師器高杯	–	(4.0)	–	にぶい橙色 〃 褐灰色	①ハケ・ユビオサエ。②ハケ・丁寧なナデ・ユビオサエ。③脚部は中空で、脚部はラッパ状に開く。杯部内面は平坦面をなさない。胎土はやや粗。	
270	〃	P212	土師器鉢	24.0	(5.3)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①横位ハケ・ナデ。②縦位ハケ・ナデ。③胴部は直線的に外上方に上がる。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。胎土はやや粗。	
271	〃	P215	須恵器杯	–	(1.9)	11.0	褐灰色 黄灰色 〃	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びて体部は直線的に外上方に上がる。胎土褐色が斑に混じる。微細ガラスを含む。	
272	〃	P224	土師器杯	–	(1.4)	–	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部はやや内湾して上がり、端部は丸く収めて内側をやや肥厚させる。	
273	〃	P225	須恵器甕	–	(6.4)	–	灰色 〃 灰白色	①同心円状の当具痕。②格子状タタキ後ハケ。③焼成良好堅緻。胎土微細な白色砂粒を含む。	
274	〃	P234	土師器杯	–	(2.2)	–	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。胎土はやや密。	
275	〃	P235	弥生土器鉢	–	(2.6)	4.4	にぶい黄橙色 灰黄褐色 褐灰色	①②ナデ。③やや粗放な平底。胴部は内湾して上がる。内面底部～胴部下位にヘラによる放射状の成形痕。胎土はやや粗で 1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
276	〃	Ⅲ層	土師器椀	–	(2.5)	6.2	浅黄橙色 〃 〃	①②摩耗。③柱状高台。高台ははぼ垂直に下がる。外面底部は中央がやや凹む。底部回転糸切り痕。胎土はやや粗。	11 世紀か。
277	〃	〃	土師器皿	8.0	1.3	5.0	にぶい橙色 橙色 浅黄橙色	①②回転ナデ。③平底。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。内面底部外縁はやや凹む。胎土はやや密で微細ガラスを含む。	
278	〃	〃	須恵器壺か	–	(3.7)	10.6	灰色 灰白色 灰色	①回転ナデ。②回転ナデ。胴部下位回転ヘラケズり。③貼付による輪高台。高台端部は面をなして内外にやや拡張する。胎土はやや粗で微細な白色砂粒多含。	
281	〃	Ⅲ・Ⅳ層	弥生土器壺	–	(5.7)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ナデ。②丁寧なナデ。③外面頸部屈曲部の上側を粗い対向斜位の刷目を施す粘土帯により加飾する。刷目内にハケ状の痕跡が残る。胎土はやや粗。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
282	北区	Ⅲ・Ⅳ層	土師器 甕	23.0	(6.9)	–	にぶい褐色 橙色 にぶい橙色	①ナデ。胴部上位横位ハケ。口縁部ハケ・ヨコナデ。②胴部上位縦位ハケ。頸部～口縁部コナデ。③内面頸部は棱をなして屈曲する。口縁端部は面をなし、上端をやや拡張する。	
283	〃	〃	黒色土器 杯	15.0	(5.0)	–	オリーブ黒色 黒色 灰色	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③体部は内湾して上がり、口縁端部は丸く収める。内外面黒色。外面一部に煤付着。胎土微細な白色砂粒多含。微細ガラス含む。	
284	〃	〃	須恵器 甕	–	(11.6)	–	灰黄褐色 〃 黄灰色	①同心円状の当具痕が薄く残る。②タタキ後菊花状の円形文を押圧により施す。③胴部片。	
285	〃	〃	緑釉陶器 不明	–	–	–	オリーブ灰色 にぶい褐色 灰黄色	③小破片。軟質。内面緑釉、外面赤彩。	
286	〃	Ⅳ層	弥生土器 壺	17.2	(7.0)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 黄灰色	①②ハケ。口縁部段部ヨコナデ。③複合口縁壺。口縁部は段部でやや角度を変えて内湾気味に上がる。口縁端部は面をなす。胎土はやや粗。	
287	〃	〃	土師器 鉢	16.0	(4.2)	–	にぶい橙色 〃 〃	①ナデ・ヨコナデ。②口縁部ヨコナデ。口縁部にヘラによる斜位の整形痕が残る。胴部調整。③口縁端部は丸く収める。口縁部の形状はやや歪む。胎土微細ガラス多含。	
288	〃	〃	土師器 杯か	–	(0.6)	–	橙色 〃 浅黄橙色	①②丁寧なナデ。③底部糸切り痕。外面底部に墨書。	
289	〃	〃	須恵器 甕	–	(5.7)	–	灰白色 〃 黄灰色	①②回転ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がる。口縁端部は外傾する面をなし、上端をやや拡張する。胎土はやや粗で白色砂粒を含む。	
290	〃	〃	須恵器 高杯	–	(12.5)	15.5	灰白色 黒色 灰色	①②回転ナデ。③脚部～脚部はラッパ状に開き、端部は面をなして下端を拡張する。脚部に一対の長方形の2段の透かしが入る。焼成良好堅緻。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	6世紀末～7世紀初頭か。
291	〃	〃	須恵器 椀	–	(1.7)	5.6	灰黄色 灰色 〃	①②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に開き、端部はやや丸みを帯びた面をなす。内面底部に火襷。高台内に回転糸切り痕が残る。焼成良好堅緻。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
293	〃	Ⅱ′層	須恵器 甕	13.2	(4.8)	–	灰白色 灰色 灰白色	①回転ナデ。胴部同心円状の当具痕。②回転ナデ。③頸部は外反して上方に上がる。口縁部は外側を肥厚させ、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	8世紀か。
294	〃	〃	須恵器 蓋	16.1	3.2	–	黄灰色 灰白色 〃	①回転ナデ。②回転ナデ。天井部から1/2は回転ヘラケズリ。③天井部はやや凹み。摘みは径31mmで中央がやや突出する釦状。口縁部は下方に屈曲し、端部は丸く収める。	8世紀か。
295	〃	〃	埴輪 人形	全長 6.6	全幅 5.8	全厚 1.9	– 灰白色 –	③馬乗兵隊の人形。馬鎧部は軸剥ぎし、平坦に仕上げて自立する。馬には衝及び頭絡、障泥の表現がみられる。重量 40g	
296	〃	攪乱	埴輪 皿	10.6	2.1	6.2	– 白色 –	③輪高台。口縁部は丸く収める。内面口縁部に圏線。見込みの円形区画内に波文、菱形文、松・竹・梅・牡丹・菊・鼎蓋の図案を配する。	
297	〃	〃	埴輪 椀	10.3	6.1	5.2	灰白色 〃 〃	③輪高台。口縁部は垂直に上がる。外面草花文。外面体部下位に圏線。外面口縁部に5重圏線。高台内に鉋「茶」。口縁端部及び底付軸剥ぎ。貫入あり。	
298	南区	ST3	弥生土器 壺	16.8	(7.2)	–	にぶい橙色 浅黄橙色 褐灰色	①②ハケ・ヨコナデ。③複合口縁壺。口縁端部は面をなす。口縁部上段に4条及び8条の櫛描き流状文を施す。	
299	〃	〃	弥生土器 壺	26.8	(9.2)	–	灰黄色 浅黄色 灰色	①ハケ・ヨコナデ・ヘラミガキ。②頸部ハケ後ヨコナデ。口縁部上段ヨコナデ後ヘラミガキ。③二重口縁壺。口縁端部はえんを帯びた面をなす。	
300	〃	〃	弥生土器 壺	–	(31.4)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②水平タタキ。胴部上位タタキ後ハケ。底部にタタキ目が残る。③やや尖気味の丸底。胴部は球形を指向する。頸部は緩やかに屈曲する。胎土は粗。	
301	〃	〃	弥生土器 壺	17.0	(7.3)	–	橙色 〃 褐灰色	①ハケ・ナデ・ヨコナデ。ハケによる圧痕が残る。②ハケ・ナデ。口縁部ヨコナデ。③頸部はくの字状。口縁部上位で角度を変えて短く上方に上がる。口縁端部は面をなす。	
302	〃	〃	弥生土器 壺	17.6	(7.2)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ハケ・ナデ。③口縁部はラッパ状に外反し、端部は面をなして下端をやや肥厚させる。内面口縁部に深さ12mm程度、間隔5cm程度の孔列を。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
303	南区	ST3	弥生土器 壺	21.8	(7.4)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	①ハケ・ナデ。②タタキ・ハケ。口縁部ヨコナデ。③頸部はくの字状。口縁部は直線的に上がり、端部は面をなす。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
304	〃	〃	弥生土器 壺	12.3	(6.1)	–	にぶい黄橙 にぶい橙色 褐灰色	①ハケ・ナデ。②タタキ・ナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部はやや外傾して直線的に上がり、端部は面をなす。	
305	〃	〃	弥生土器 壺	15.3	(6.5)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 にぶい黄橙色	①胴部上位ナデ。頸部ハケ。口縁部ハケ・ヨコナデ。②水平タタキ。頸部緩位ハケ。口縁部コナデ。③頸部はくの字状。口縁端部は丸く収め、外側を面取りする。胎土はやや粗。	
306	〃	〃	弥生土器 壺	21.0	(2.7)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	①②ハケ。③広口壺。口縁部はラッパ状に開き、端部は面をなして下端を下方へ拡張する。	
307	〃	〃	弥生土器 甕	13.7	22.0	4.1	にぶい橙色 にぶい褐色 〃	①ナデ・ユビオサエ。頸部ハケ。底部に指頭圧痕。②タタキ・ユビオサエ。口縁部タタキ後ハケ。底部にタタキ目が残る。③狭い平底。胴部最大径を上位に持つ。頸部はくの字状。口縁端部は面をなす。	
308	〃	〃	弥生土器 甕	–	(22.2)	3.0	にぶい黄橙色 〃 〃	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ。胴部下位タタキ後ハケ。底部にタタキ目が残る。③尖気味の丸底。胴部最大径を中位に持つ。胎土は粗で微細ガラスを含む。	
309	〃	〃	弥生土器 甕	–	(24.7)	–	橙色 にぶい橙色 褐灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②胴部下位タタキ・ユビオサエ。胴部中～上位水平タタキ・ユビオサエ。③頸部はくの字状。口縁部は外反する。胎土 1mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
310	〃	〃	弥生土器 甕	15.0	(22.2)	–	にぶい赤褐色 灰褐色 褐灰色	①ハケ・ナデ。②タタキ。頸部～口縁部ハケ。胴部下位タタキ後ハケ。③頸部はくの字状。口縁部は外反する。口縁端部は粗放な面をなし、外側に折り返して肥厚させる。胎土は粗。	
311	〃	〃	弥生土器 甕	19.4	(23.0)	–	にぶい橙色 〃 黒褐色	①胴部縦位ハケ。口縁部ハケ・ナデ。②水平タタキ。胴部下位タタキ後縦位ハケ。頸部ハケ。口縁部ナデ。③胴部最大径を中位に持つ。頸部はくの字状。口縁端部は粗放な面をなす。	
312	〃	〃	弥生土器 甕	–	(20.5)	–	にぶい黄橙色 にぶい褐色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部横位ハケ。②胴部タタキ後縦位ハケ。③胴部は球形を指向し、最大径を中位に持つ。胎土はやや粗。	
313	〃	〃	弥生土器 甕	15.8	(19.2)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	①ハケ・ナデ。②タタキ。頸部ナデ。③口縁部は外反し、端部はやや粗放に丸く収める。外面胎土のひび割れがみられる。胎土 0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	
314	〃	〃	弥生土器 甕	14.8	(20.4)	–	赤灰色 灰赤色 赤黒色	①縦位ハケ。②タタキ。頸部～口縁部縦位ハケ。胴部下位タタキ後縦位ハケ。③尖気味の丸底。胴部最大径を中位に持つ。口縁部は短く外反し、端部は粗放な面をなす。胎土はやや粗。	
315	〃	〃	弥生土器 甕	13.1	(21.7)	–	にぶい橙色 〃 灰色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部ナデ。②タタキ。胴部下位タタキ後ハケ。③胴部はやや長胴形を呈する。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は面をなし、下端を若干拡張する。胎土はやや粗。	
316	〃	〃	弥生土器 甕	14.9	19.4	1.7	にぶい褐色 〃 明赤褐色	①ナデ・ユビオサエ。胴部上位縦位ハケ。口縁部横位ハケ。②タタキ・ハケ。③底部は尖底状。口縁端部は粗放な面をなし、外側に折り返して肥厚させる。内面器壁に細かいひびが認められる。	
317	〃	〃	弥生土器 甕	–	(17.3)	3.4	にぶい黄橙色 にぶい橙色 〃	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。胴部下位タタキ後ナデ。底部にタタキ目が残る。③丸みを帯びた狭い平底。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	
318	〃	〃	弥生土器 甕	16.5	(12.9)	–	橙色 明赤褐色 橙色	①胴部ナデ・ユビオサエ。口縁部ハケ。②胴部タタキ・ナデ。口縁部ヨコナデ。③頸部はくの字状。口縁端部は外傾する面をなし、下端を僅かに肥厚させる。胎土微細ガラス多含。	
319	〃	〃	弥生土器 甕	–	(19.3)	–	にぶい褐色 〃 〃	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ユビオサエ。胴部下位タタキ後ハケ。③最大径を胴部中位に持つ。頸部はくの字状。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
320	〃	〃	弥生土器 甕	11.4	(23.0)	–	にぶい褐色 橙色 にぶい橙色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ナデ。胴部下位タタキ後ハケ。③最大径を胴部中位に持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は面をなす。	
321	〃	〃	弥生土器 甕	–	(16.3)	4.0	浅黄橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ユビオサエ。胴部上位及び下位タタキ後ハケ。底部にタタキ目が残る。③底部は丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胴部最大径を中位に持つ。胎土は粗。	
322	〃	〃	弥生土器 甕	14.6	(16.5)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ハケ・ユビオサエ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は外傾する面をなす。外面胴部上位～頸部に煤付着。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
323	南区	ST3	弥生土器 甕	14.4	(14.7)	–	にぶい橙色 にぶい黄色 褐灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。胴部はヘラ状工具による縦位ナデ。②タタキ。口縁部付近までタタキ目が残る。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は丸く収める。	
324	〃	〃	弥生土器 甕	–	(16.9)	–	明褐灰色 灰黄褐色 灰色	①ナデ。②タタキ・ユビオサエ。③胴部は最大径を上位に持つ。胎土はやや粗。	
325	〃	〃	弥生土器 甕	12.6	13.9	3.4	浅黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ユビオサエ。胴部下位ハケ。底部に指頭圧痕。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胴部は球形を指向する。口縁端部は面をなす。	
326	〃	〃	弥生土器 甕	14.2	(9.8)	–	灰黄褐色 黒褐色 黄灰色	①ハケ。②タタキ・ナデ。③頸部はくの字状に強く屈曲し、口縁部は直線的に外上方に上がる。口縁端部は外傾する面をなし、上端は上方に縁く上がる。胎土微細な白色砂粒を含む。	
327	〃	〃	弥生土器 甕	13.0	(14.5)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	①ナデ・ユビオサエ。胴部上位～頸部ハケ。②タタキ・ユビオサエ。③口縁端部は面をなし、外側を僅かに肥厚させる。胎土はやや粗。	
328	〃	〃	弥生土器 甕	14.3	(9.9)	–	橙色 にぶい橙色 褐灰色	①ハケ・ナデ。②タタキ・ユビオサエ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は面をなす。胎土微細ガラスを若干含む。	
329	〃	〃	弥生土器 甕	–	(11.0)	–	明赤褐色 〃 黒褐色	①ナデ。頸部及び口縁部ハケ。②タタキ・ナデ。頸部ユビオサエ。③頸部は緩やかに屈曲し、口縁部に向かう。胎土は粗。	
330	〃	〃	弥生土器 甕	14.6	(9.9)	–	にぶい橙色 〃 〃	①ハケ。②右上がりタタキ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外上方に上がり、端部は粗放な面をなして外側をやや肥厚させる。胎土はやや粗。	
331	〃	〃	弥生土器 甕	12.0	(6.5)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 浅黄橙色	①ハケ・ナデ。②タタキ・ナデ。③頸部はくの字状。口縁部はやや外反し、端部は外傾する面をなして外側を拡張する。外面煤付着。胎土は密で微細ガラスを含む。	
332	〃	〃	弥生土器 甕	14.3	(7.5)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ユビオサエ。③頸部はくの字状。口縁部はやや外反する。口縁端部は粗放な面をなし、外側に折り返して肥厚させる。外面胴部上位及び頸部の一部に煤付着。	
333	〃	〃	弥生土器 甕	15.4	(10.2)	–	にぶい橙色 橙色 褐灰色	①胴部及び口縁部ハケ。頸部ヨコナデ。②胴部～頸部右上がりタタキ・ユビオサエ。口縁部ナデ・ユビオサエ。③口縁端部は外傾する面をなし、上端をやや拡張する。胎土はやや粗。	
334	〃	ST3 －P6	弥生土器 甕	14.6	(6.5)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 橙色	①ハケ・ナデ。②タタキ・ユビオサエ。③頸部は緩やかに屈曲し、端部は丸みを帯びた面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
335	〃	ST3	弥生土器 甕	15.4	(5.1)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 黒褐色	①ハケ・ヨコナデ・ユビオサエ。②タタキ・ユビオサエ。③頸部はくの字状。口縁部は外反し、端部は外傾する面をなす。	
336	〃	〃	弥生土器 甕	15.3	(7.8)	–	橙色 灰褐色 褐灰色	①ハケ・ナデ。頸部ユビオサエ。②タタキ。③頸部はくの字状。口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は薄く丸みを帯びた面をなす。	
337	〃	〃	弥生土器 甕	19.8	(5.3)	–	黒褐色 にぶい橙色 黒褐色	①ハケ。②タタキ。③頸部はくの字状に強く屈曲する。口縁部は外反し、端部は薄い面をなして下端を僅かに拡張する。胎土微細ガラスを含む。	
338	〃	〃	弥生土器 甕	15.7	(5.4)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 〃	①ハケ。②タタキ。頸部縦位ハケ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は大きく外反し、端部は細く仕上げる。	
339	〃	〃	弥生土器 甕か	–	(4.5)	2.5	にぶい黄橙色 〃 〃	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ。底部にタタキ目が残る。③丸底を指向するが、狭い平坦面が残る。	
340	〃	〃	弥生土器 甕	–	(10.3)	5.0	浅黄橙色 にぶい黄橙色 黒色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ。胴部下位タタキ後ハケ。底部にタタキ目が残る。③平底。胴部は丸みを帯びて立ち上がる。	
341	〃	〃	弥生土器 甕	–	(12.4)	4.3	褐灰色 にぶい黄橙色 〃	①粗いナデ。②外面タタキ・ナデ。底部にタタキ目が残る。③平底。胴部は緩やかに内湾して上がる。	
342	〃	〃	弥生土器 甕	–	(14.1)	6.0	明赤褐色 〃 にぶい橙色	①ナデ・ヘラナデ・ユビオサエ。②水平タタキ・ユビオサエ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胴部は内湾気味に上がる。胎土は粗で1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
343	南区	ST3	弥生土器 甕か	–	(11.8)	5.6	灰白色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。	
344	〃	〃	弥生土器 甕	–	(18.7)	–	橙色 にぶい橙色 黄灰色	①ナデ。胴部下位に指頭圧痕。②水平タタキ。③底部は狭い平坦面を残す。胎土は粗で微細な白色砂粒を含む。	
345	〃	〃	弥生土器 甕	–	(8.2)	1.6	にぶい橙色 〃 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③丸底を指向するが、狭い平坦面を僅かに残す。胎土微細ガラスを若干含む。	
346	〃	〃	弥生土器 甕	–	(7.4)	3.5	浅黄橙色 〃 〃	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ接縫位ハケ。底部にタタキ目が残る。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。内面底部は狭い平坦面をなす。	
347	〃	〃	弥生土器 甕	–	(12.3)	3.2	橙色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ・ヘラナデ・ユビオサエ。②タタキ・ユビオサエ。底部にタタキ目が残る。③底部は丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胎土はやや粗。	
348	〃	〃	弥生土器 甕	–	(8.7)	–	灰白色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ハケ・ナデ。③底部は丸底を指向する。	
349	〃	〃	弥生土器 甕	–	(8.7)	3.1	橙色 にぶい赤褐色 褐灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③丸底。胴部は球形を指向する。	
350	〃	〃	弥生土器 甕	–	(11.8)	–	にぶい褐色 灰黄褐色 にぶい黄橙色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。底部に指頭圧痕が残る。②タタキ接縫位ハケ。③矢気味の丸底。胴部は緩やかに内湾する。胎土はやや粗。	
351	〃	〃	弥生土器 甕	–	(6.6)	4.3	にぶい橙色 橙色 にぶい橙色	①ナデ・ユビオサエ。②胴部下位タタキ接縫位ハケ。底部外縁にタタキ目が残る。③底部は丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胎土は粗。	
352	〃	〃	弥生土器 甕	–	(2.8)	2.0	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。底部にタタキ目が残る。③丸底を指向するが、やや突出する狭い平坦面を残す。胎土微細ガラス多含。	
353	〃	〃	弥生土器 甕か	–	(2.9)	4.5	にぶい褐色 橙色 〃	①ハケ・ナデ。②タタキ・ナデ。③丸底を指向するが、やや凹凸状の平坦面を残す。	
354	〃	〃	弥生土器 甕か	–	(3.8)	3.4	にぶい褐色 灰黄褐色 褐灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③底部は丸みを帯びてやや突出する。	
355	〃	〃	弥生土器 甕か	–	(3.7)	4.4	にぶい黄橙色 〃 〃	①ヘラナデの痕が放射状に残る。②タタキ。③突出する平底。底部は丁寧なナデにより平坦面を形成する。胴部は立ち上がりの角度が一定でない。胎土微細ガラスを含む。	
356	〃	〃	弥生土器 甕	–	(10.7)	–	褐色 橙色 褐灰色	①ナデ・ヘラナデ・ユビオサエ。②タタキ。③矢気味の丸底。胎土は粗で微細な白色砂粒及び微細ガラス多含。	
357	〃	〃	弥生土器 甕	–	(12.7)	1.1	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③底部は尖底状。胴部は砲弾形を呈する。底部の中央付近に径8mmの内面からの焼成前穿孔。	
358	〃	〃	弥生土器 壺か甕	–	(5.8)	–	黒色 褐灰色 〃	①粗いナデ・ユビオサエ。②タタキ・ナデ。③底部は大部分が欠損するが、平底とみられる。胎土微細ガラスを含む。	
359	〃	〃	弥生土器 鉢	16.8	7.2	4.4	橙色 〃 黄灰色	①ナデ。口縁部横位ハケ。底部に指頭圧痕。②水平タタキ・ユビオサエ。底部ナデ。口縁部ココナデ。③椀状の鉢。底部はつぶれた円盤状にやや突出する。口縁端部は面をなす。	
360	〃	〃	弥生土器 鉢	18.3	12.1	6.5	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ。口縁部ハケ。②タタキ・ナデ。底部にタタキ目が残る。③丸みを帯びた平底。内面底部は平坦面をなさない。口縁端部は水平な面をなす。	
361	〃	〃	弥生土器 鉢	15.1	6.7	3.2	橙色 〃 浅黄橙色	①②ナデ。③やや突出する平底。胴部は椀状を呈する。口縁端部は面をなす。内面底部～胴部下位にヘラによる線状の整形痕が放射状にみられる。	
362	〃	〃	弥生土器 鉢	16.5	7.3	3.0	赤褐色 橙色 青黒色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部ココナデ。②ナデ・ユビオサエ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胴部は椀状を呈する。口縁端部は面をなす。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
363	南区	ST3	弥生土器 鉢	16.8	8.2	6.1	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰褐色	①②ナデ・ユビオサエ。③突出する平底。底部はヘラによりナデつけて整形する。胴部は緩やかに内湾して上がる。立ち上がりの角度が一定でない。口縁端部は面をなす。	
364	〃	〃	弥生土器 鉢	9.6	5.9	2.6	にぶい黄橙色 浅黄橙色 〃	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。底部～胴部下位に工具痕。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③狭く突出する平底。胴部は梅状。口縁端部は丸く収める部分と面をなす部分がある。	
365	〃	〃	弥生土器 鉢	–	(6.9)	6.5	橙色 〃 にぶい橙色	①ハケ・ナデ。底部に指頭圧痕。②ナデ。底部に指頭圧痕。③突出する平底。底部外縁を外方に拡張する。胴部は緩やかに内湾して上がる。	
366	〃	〃	弥生土器 鉢	17.1	(6.4)	–	橙色 にぶい橙色 〃	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ。口縁部ヨコナデ。③底部は上げ底気味の高台状。胴部は梅状。口縁端部は丸く収める。胎土0.7mmの白透色砂粒を若干含む。	
367	〃	〃	弥生土器 鉢	–	(2.2)	3.6	橙色 にぶい橙色 〃	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。③僅かに突出する平底。	
368	〃	〃	弥生土器 鉢	10.2	6.3	4.3	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部内面ヨコナデ。②タタキ・ナデ。③僅かに丸みを帯びた平底。胴部は内湾して立ち上がり、口縁端部は細く仕上げる。	
369	〃	〃	弥生土器 鉢	11.7	5.5	7.3	橙色 〃 〃	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ナデ・ユビオサエ。③梅状の鉢。平底。口縁端部は丸く収める。胎土0.7mmの白透色砂粒を若干含む。	
370	〃	ST3－P1	弥生土器 鉢	16.4	(5.1)	–	橙色 〃 黄灰色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③梅状の鉢。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。	
371	〃	ST3	弥生土器 鉢	17.4	(4.3)	–	浅黄橙色 にぶい黄橙色 黒褐色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③胴部は内湾する。口縁部は上方に上がり、端部は細く仕上げる。	
372	〃	〃	弥生土器 鉢	9.3	3.8	1.5	にぶい橙色 〃 黒色	①②ナデ・ユビオサエ。③浅い皿状の鉢。底部は丸底を指向するが僅かな平坦面を残す。胴部は内湾して上がる。口縁部は上方に上がり、端部は細く仕上げる。	
373	〃	〃	弥生土器 鉢	10.4	4.8	4.6	明赤褐色 〃 褐灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③浅い皿状の鉢。丸底。口縁部は上方に上がり、端部は細く仕上げる。	
374	〃	〃	弥生土器 鉢	11.3	5.7	2.3	にぶい黄橙色 〃 〃	①②ナデ・ユビオサエ。③梅状の鉢。丸底。口縁端部は細く仕上げる。	
375	〃	〃	弥生土器 鉢	15.7	7.0	3.4	にぶい橙色 橙色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③底部は細い柱状で、外縁部を下方に張り出す。胴部は梅状を呈し、口縁端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。	
376	〃	〃	弥生土器 鉢	10.3	7.4	3.9	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ。口縁部ハケ。②ナデ。③やや突出する平底。梅状の胴部～口縁部は外上方に短く上がる。口縁端部は丸く収める。	
377	〃	〃	弥生土器 鉢	8.9	6.8	2.7	にぶい橙色 浅黄橙色 黄灰色	①②ナデ。口縁部ヨコナデ。③狭い平底。梅状の胴部～口縁部は外上方に短く上がる。口縁端部は丸く収める。丁寧な作り。内面胴部上位に煤付着。	
378	〃	〃	弥生土器 有孔鉢	–	(4.4)	4.6	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	①ハケ・ナデ。②タタキ・ナデ。③突出するやや丸みを帯びた平底。底部中央に内面からの焼成前穿孔。内面底部外縁にヘラによる圧痕が残る。胎土は粗。	
379	〃	〃	弥生土器 高杯	12.4	(4.7)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③杯部は梅状を呈する。口縁端部は面をなす。胎土は密で0.7mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
380	〃	〃	弥生土器 高杯	–	(4.9)	11.6	明黄褐色 〃 褐灰色	①丁寧なナデ。脚部中心に指頭圧痕。②ハケ。③脚部は短く、裾部は外方に広がる。裾部の残存部に21個の外面からの焼成前穿孔が認められる。	
381	〃	〃	弥生土器 高杯	–	(8.5)	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①ハケ・ナデ。②ヘラミガキ。③脚部は中空で裾部は外反する。裾部に外面からの径7mmの焼成前穿孔が1個認められる。	
382	〃	〃	弥生土器 高杯	–	(9.1)	12.5	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	①ハケ・ナデ。ハケによる圧痕が残る。脚部絞り目。②丁寧なナデ。裾部ヨコナデ。③裾端部は丸く収める。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	法量（cm）器高	法量（cm）底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
383	南区	ST3	土師器 甕	15.6	(7.6)	－	灰黄褐色 〃 〃	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②目の細かいタタキ。口縁部ヨコナデ。③頸部はくの字状。口縁部はやや外反し、端部は面をなして上端を上方に細く摘む。外面に煤付着。胎土微細ガラス多含。	庄内式。
384	〃	〃	須恵器 鉢か	－	(4.2)	－	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁端部は面をなす。	
390	〃	ST4	弥生土器 壺	15.0	(3.6)	－	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①ハケ・ヨコナデ。②ヨコナデ・ユビオサエ。③複合口縁壺。口縁部は外反した後屈曲して上方に上がり、端部は肥厚気味に丸く収める。口縁部上段の接合痕が観察される。	
391	〃	〃	弥生土器 壺	16.2	(6.6)	－	橙色 にぶい橙色 黄灰色	①②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③頸部ヨコナデ。③二重口縁壺。口縁端部は面をなす。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
392	〃	〃	弥生土器 甕か	12.1	(3.2)	－	浅黄色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は内湾して上方に上がり、端部は丸く収める。胎土微細ガラスを若干含む。	
393	〃	〃	弥生土器 甕	10.9	(5.2)	－	にぶい黄褐色 〃 浅黄橙色	①胴部ハケ。口縁部ヨコナデ。②タタキ。③頸部はくの字状。口縁部は外上方に上がり、端部は粗放になく収めて外側にやや摘む。胎土は粗で1mm程度の白透色砂粒を含む。	
394	〃	〃	弥生土器 甕	12.0	(4.9)	－	灰黄褐色 〃 黄灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。頸部にハケによる圧痕。②水平タタキ・ユビオサエ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
395	〃	〃	弥生土器 甕	15.8	(5.8)	－	橙色 赤褐色 灰褐色	①ナデ・ヨコナデ。②タタキ。③頸部はくの字状。口縁部は外上方に上がり、端部は丸みを帯びた面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
396	〃	〃	弥生土器 甕	15.2	(7.0)	－	橙色 にぶい橙色 褐灰色	①ハケ。②タタキ。口縁部ナデ・ユビオサエ。③口縁部は短く外反する。口縁端部は粗放な面をなし、外側を肥厚させる。胎土はやや粗で1mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
397	〃	〃	弥生土器 甕	14.0	(3.0)	－	橙色 にぶい橙色 〃	①ナデ・ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。②ヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。③頸部はくの字状。口縁部は外上方に上がり、端部は面をなして上端を拡張する。胎土は密。	
398	〃	〃	弥生土器 甕	15.3	(3.3)	－	にぶい赤褐色 橙色 にぶい黄橙色	①ナデ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
399	〃	〃	弥生土器 甕	16.6	(4.4)	－	にぶい橙色 〃 〃	①口縁部横位ハケ・ナデ。②ハケ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は丸く収めて外側をやや面取りする。	
400	〃	〃	弥生土器 甕	18.0	(3.9)	－	浅黄橙色 にぶい橙色 黄灰色	①ハケ・ナデ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③頸部はくの字状。口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は外傾する面をなして下端を僅かに拡張する。	
401	〃	〃	弥生土器 甕	20.4	(3.8)	－	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	①ヨコナデ。②ヨコナデ・ユビオサエ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。胎土微細ガラス多含。	
402	〃	〃	弥生土器 鉢	22.2	(5.0)	－	にぶい橙色 〃 〃	①ナデ・ヘラケズリ。②ナデ・ヨコナデ・ユビオサエ。③胴部上位から緩やかに外反して口縁部に至る。口縁端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。	
403	〃	〃	弥生土器 壺か甕	－	(2.5)	7.6	黄灰色 橙色 暗灰黄色	①②ナデ。③突出する平底。胴部は内湾して上がる。外面に煤付着。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
404	〃	〃	弥生土器 甕か	－	(2.2)	2.0	にぶい黄橙色 黒褐色 〃	①ナデ・ユビオサエ。②ハケ。底部にタタキ目が僅かに残る。③丸底を強胸するが、狭い平坦面を僅かに残す。胎土1mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
405	〃	〃	弥生土器 甕か	－	(3.5)	3.9	灰白色 浅黄橙色 灰色	①ナデ。②ナデ。胴部下位タタキ後ナデ。③狭く突出する平底。	
406	〃	〃	弥生土器 甕か	－	(4.0)	4.0	灰白色 にぶい黄橙色 〃	①ハケ・ユビオサエ。②タタキ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。胎土は粗。	
407	〃	〃	弥生土器 甕か	－	(5.0)	5.6	橙色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。②タタキ。底部外縁にタタキ目が残る。③丸底。胴部は緩やかに内湾して上がる。胎土は粗で微細ガラスを若干含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
408	南区	ST4	弥生土器 甕	–	(7.4)	–	にぶい黄橙色 ＊ 褐灰色	①目の細かいハケ。ハケによる圧痕。②タタキ・ハケ・ナデ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胎土微細ガラスを含む。	
409	＊	＊	弥生土器 甕	–	(3.4)	1.6	灰白色 黄灰色 黒褐色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③やや歪気味の丸底。胎土微細ガラスを若干含む。	
410	＊	＊	弥生土器 甕か	–	(3.0)	5.2	橙色 黒褐色 暗灰黄色	①ハケ・ナデ。底部ハケによる圧痕。②タタキ。底部ナデ。③平底。外面胴部下位に煤付着。	
411	＊	＊	弥生土器 甕か	–	(3.5)	5.4	にぶい黄橙色 ＊ 灰黄褐色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ後ハケ・ナデ。③丸底を指向するが、平坦面を残す。胎土微細ガラス多含。	
412	＊	＊	弥生土器 甕か	–	(5.1)	1.9	にぶい黄橙色 ＊ 褐灰色	①ナデ・ヘラナデ。②タタキ・ナデ。③底部は尖底を指向するが、狭い平坦面を残す。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
413	＊	＊	弥生土器 甕か鉢	–	(3.3)	4.7	浅黄橙色 ＊ 灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。底部ナデ。③底部はつぶれた円盤状に突出する。胴部は緩やかに内湾して上がる。胎土は粗で微細ガラスを含む。	
414	＊	＊	弥生土器 甕か鉢	–	(1.5)	4.2	にぶい黄橙色 ＊ ＊	①多方向ハケ。②タタキ後ナデ。③底部はつぶれた円盤状に突出する。胎土微細ガラス多含。	
415	＊	＊	弥生土器 甕か鉢	–	(4.3)	4.8	橙色 ＊ ＊	①ナデ・ユビオサエ。②ヘラミガキ・ユビオサエ。③平底。胴部は外上方に上がる。内面底部は平坦面をなす。	
416	＊	＊	弥生土器 甕か鉢	–	(3.6)	5.3	橙色 にぶい橙色 黄灰色	①ヘラナデ。②ナデ・ユビオサエ。③底部はヘラによりナデつけて平底に仕上げる。胴部は内湾して上がる。内面底部は平坦面をなさない。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
417	＊	＊	弥生土器 鉢	–	(2.1)	3.0	橙色 灰色 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③丸底を指向するが、狭い平坦面を残す。胴部は緩やかに内湾して上がる。胎土微細ガラスを含む。	
418	＊	＊	弥生土器 鉢	–	(3.2)	4.0	橙色 にぶい橙色 ＊	①ハケ。②ナデ・ユビオサエ。③狭く突出する平底。胴部は外上方に上がる。胎土は密。	
419	＊	＊	弥生土器 鉢か	–	(1.9)	4.0	にぶい橙色 にぶい黄橙色 灰白色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③底部はつぶれた円盤状に突出する。胴部は外上方に上がる。胎土微細ガラスを若干含む。	
420	＊	＊	弥生土器 鉢	–	(5.7)	4.8	明赤褐色 ＊ 黒褐色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③丸みを帯びた平底。胴部は内湾気味に上がる。	
421	＊	＊	弥生土器 高杯	–	(2.6)	–	浅黄橙色 ＊ 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。ヘラによる圧痕。②ナデ・ユビオサエ。③脚部は太く短い。脚部は外方に大きく広がるとみられる。杯部の内面底部は尖気味のボウル状を呈する。	
422	＊	＊	弥生土器 高杯	–	(4.6)	–	にぶい黄橙色 ＊ 黄灰色	①ハケ。②ナデ・ヘラミガキ。③脚部上位で僅かな段をなす。胎土1mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
423	＊	＊	弥生土器 器台	–	(7.2)	–	橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	①ナデ・ヘラケズリ。②ハケ。③脚部片。脚部はハの字状に直線的に下がる。外面からの焼成前穿孔が1個認められる。孔径6mm程度。胎土微細ガラスを含む。	
424	＊	＊	土師器 杯	–	(0.9)	8.8	にぶい黄橙色 ＊ ＊	①②回転ナデ。③内面底部は凸状にやや上がる。底部ヘラ切り。胎土は密で微細ガラスを含む。	
425	＊	＊	土師器 羽釜	(15.7)	(4.3)	–	にぶい橙色 褐灰色 にぶい橙色	①②ナデ・ヨコナデ。③鍔部は水平にのび。端部は下半がやや凹む面をなす。口縁端部は水平な面をなす。外面に煤付着。胎土微細ガラス多含。	
426	＊	＊	須恵器 壺	–	(4.9)	–	黄灰色 ＊ にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③胴部から直角に屈曲し、頸部は強かに外反して上方に上がる。外面に緑色の自然釉がみられる。胎土は密で微細な黒色砂粒を含む。	8世紀後半～9世紀か。
427	＊	＊	須恵器 甕	9.6	(6.9)	–	灰白色 黄灰色 灰白色	①胴部同心円状の当具痕。口縁部回転ナデ。②胴部格子状タタキ・ハケ。口縁部回転ナデ。③頸部は屈曲する。口縁部はやや外反し、端部は面をなして内側に拡張する。胎土は密。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
428	南区	ST4	須恵器 甕	－	(12.3)	－	灰色 〃 〃	①同心円状の当具痕後ナデ。②格子状タタキ後ハケ。③胴部は緩やかに内湾する。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
429	〃	〃	須恵器 高杯	－	(7.3)	－	灰白色 〃 〃	①②ナデ。③脚部は中空で、裾部は外反する。脚部杯部境界は稜をなさず緩やかに仕上げる。杯部の内面底部は平坦面をなす。焼成不良。	
430	〃	〃	須恵器 蓋	－	(1.4)	－	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③摘みは直径1.8cmの擬宝珠状を呈する。天井部は平坦面をなす。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	7世紀後半か。
431	〃	〃	須恵器 蓋	14.6	3.6	－	にぶい黄橙色 にぶい橙色 明オリーブ灰色	①回転ナデ。②回転ナデ・ユビオサエ。③天井部は平坦面をなす。体部～口縁部は内湾する。口縁端部は丸く収める。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	7世紀前半か。
432	〃	〃	須恵器 杯	－	(1.0)	8.0	明褐灰色 にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③平底。体部は緩やかに内湾して立ち上がる。胎土はやや密で微細な白色砂粒多含。	
433	〃	〃	須恵器 杯	12.2	(3.2)	－	灰色 〃 灰白色	①②回転ナデ。③口縁部のかえりは垂直に上がり、端部は細く仕上げる。受部にはほぼ水平にのび、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。受部径14.0cm。	7世紀前半か。
434	〃	〃	須恵器 杯	13.6	(3.4)	－	にぶい橙色 にぶい黄橙色 〃	①②回転ナデ。③体部は内湾する。口縁部は垂直に上がり、端部は丸く収める。焼成甘い。胎土は密で微細な黒色・白色砂粒及び微細ガラスを含む。	7世紀か。
435	〃	〃	須恵器 杯	－	(3.6)	－	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部は緩やかに内湾して上がり、端部は丸く収める。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
438	〃	ST5	弥生土器 甕	11.8	(4.4)	－	にぶい橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ハケ・ユビオサエ。②タタキ・ユビオサエ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土微細ガラスを若干含む。	
439	〃	〃	弥生土器 甕	－	(2.7)	3.8	浅黄橙色 〃 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。底部にヘラによる線状の整形痕が残る。②タタキ・ナデ。③底部はつぶれた円盤状に僅かに突出する。	
440	〃	〃	土師器 壺	11.4	(5.8)	－	浅黄橙色 〃 褐灰色	①ナデ・ヘラナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。②ナデ。頸部及び口縁部上位ヨコナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部はヨ内湾気味に上方にとがり、端部は丸く収める。胎土は粗。	
441	〃	〃	土師器 壺	－	(6.1)	－	灰黄褐色 にぶい橙色 黄灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③短頸壺。底部は扁平な丸底状で安定性を欠く。頸部は外方に張る。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は上方に短く上がる。胎土は粗。	
442	〃	〃	土師器 甕	18.6	(16.0)	－	明褐灰色 にぶい黄橙色 〃	①ナデ・下→上ヘラケズリ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③頸部は球形を指向する。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。胎土は粗。	
443	〃	〃	土師器 甕	23.7	(15.0)	－	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	①ナデ・ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ。②ハケ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③口縁端部は粗couple面をなし、外側をやや肥厚させる。胎土はやや粗。	
444	〃	〃	土師器 甕	－	(29.3)	－	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①ナデ・ユビオサエ。頸部下→上ヘラケズリ。②ハケ・ナデ。頸部ヨコナデ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。頸部は長頸を呈し、最大径を中位に持つ。	
445	〃	〃	土師器 甕	14.8	(4.8)	－	にぶい橙色 〃 橙色	①頸部ヨコナデ・ヘラケズリ。口縁部ナデ。②ハケ・ヨコナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内面頸部に粘土接合痕が残る。	
446	〃	〃	土師器 甕	－	(8.8)	－	にぶい橙色 橙色 褐灰色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②ハケ・タタキ後ナデ・ユビオサエ。③小型の甕。頸部は球形を指向し、頸部上位がやや張る。頸部は強く屈曲する。胎土微細ガラスを含む。	
447	〃	〃	土師器 鉢か	21.8	(5.3)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ・ヨコナデ。②ナデ・ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ。③頸部上位は直線的に上がる。口縁部はやや外反し、端部は面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
448	〃	〃	土師器 鉢	30.0	(8.6)	－	褐灰色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	①ナデ・ヘラケズリ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。③胴部上位～口縁部は緩やかなS字状のカーブを描く。口縁端部は丸く収める。胎土はやや粗で0.7mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
449	〃	〃	土師器 鉢か	－	(4.8)	4.3	黄灰色 にぶい橙色 褐灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③平底。胴部は直線的に外上方に上がる。内面底部は平坦面をなす。胎土は粗。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
450	**南区**	**ST5**	**土師器 鉢か**	**－**	**（2.9）**	**4.5**	**灰色 にぶい橙色 灰色**	**①ナデ・ユビオサエ。②ハケ・ユビオサエ。③底部は柱状に突出する。外面底部は中央がやや凹み、上げ底状を呈する。内面底部は平坦面をなさない。胎土は密で微細ガラスを若干含む。**	
451	〃	〃	土師器 鉢	－	（3.1）	3.8	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①多方向のハケ。②丁寧なナデ。③狭く突出する平底。胴部は浅い角度で上がる。胎土微細ガラスを若干含む。	
452	**〃**	**〃**	**土師器 鉢**	**－**	**（7.3）**	**8.1**	**にぶい橙色 〃 〃**	**①ナデ・ヘラケズリ・ユビオサエ。底部に指頭圧痕が残る。②ナデ・ユビオサエ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。胴部上位は緩やかに外反する。胎土は粗。**	
453	〃	〃	土師器 高杯か	－	（2.4）	－	にぶい橙色 〃 灰白色	①②ナデ。③脚部は中空。杯部の内面底部は平坦面をなす。胎土は粗。	
454	**〃**	**〃**	**土師器 甑**	**－**	**（2.7）**	**－**	**－ にぶい黄橙色 褐灰色**	**②ユビオサエ。③甑の把手部。把手は水平に伸び、端部は粗放に丸く収める。胎土はやや粗。**	
455	〃	〃	須恵器 蓋	－	（1.6）	－	灰色 〃 黄灰色	①②回転ナデ。③天井部は平坦面をなし、稜をなさず滑らかに下がる。胎土微細な黒色・白色砂粒を含む。	
456	**〃**	**〃**	**須恵器 蓋**	**13.8**	**4.1**	**－**	**灰白色 〃 灰黄色**	**①回転ナデ。②回転ナデ。天井部から1/2まで回転ヘラケズリ。③天井部は丸みを帯びる。全体がやや歪む。口縁部は垂直に下がり、端部は丸く収める。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。**	**7 世紀初頭か。**
457	〃	〃	須恵器 蓋	14.2	4.3	－	灰白色 〃 〃	①回転ナデ。②回転ナデ。天井部から1/3まで回転ヘラケズリ。③天井部は丸みを帯びる。全体がやや歪む。口縁部は垂直に上がり、端部は丸く収める。胎土は密で微細ガラスを含む。	7 世紀初頭か。
459	**〃**	**ST6**	**土師器 甕**	**17.0**	**（5.8）**	**－**	**にぶい黄橙色 〃 〃**	**①②ナデ・ユビオサエ。③頸部は緩やかに外反し、口縁端部は丸く収める。内面頸部に粘土接合痕が残る。**	
460	〃	〃	土師器 甕	17.3	（13.6）	－	にぶい橙色 橙色 〃	①②ナデ・ユビオサエ。③口縁部にかけて緩やかなＳ字状のカーブを描く。口縁端部は丸く収める。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	
461	**〃**	**〃**	**土師器 甕**	**17.7**	**（6.8）**	**－**	**にぶい橙色 〃 浅黄橙色**	**①ナデ・ヘラケズリ・ユビオサエ。頸部ヨコナデ。②ハケ・ヨコナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。**	
462	〃	〃	土師器 甕	18.0	（6.1）	－	にぶい黄橙色 〃 〃	①ハケ・ヨコナデ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。頸部ヨコナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。内面胴部上位にハケによる圧痕が残る。胎土微細ガラスを含む。	
463	**〃**	**〃**	**土師器 甕**	**－**	**（14.5）**	**－**	**橙色 にぶい黄橙色 橙色**	**①ナデ・ユビオサエ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③丸底。胴部は球形を呈する。外面底部及び胴部に煤付着。胎土微細ガラス多含。**	
464	〃	〃	土師器 甕	－	（22.8）	－	にぶい橙色 灰褐色 にぶい橙色	①ナデ・ユビオサエ。胴部中～上位右→左ヘラケズリ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③丸底。胴部最大径を上位に持つ。外面底部及び胴部に煤付着。胎土微細ガラス含む。	
465	**〃**	**〃**	**土師器 甕か鉢**	**－**	**（7.5）**	**－**	**灰黄褐色 にぶい黄橙色 にぶい橙色**	**①ナデ・ヘラケズリ・ユビオサエ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③丸底。胴部下位はボウル状に丸みを帯びる。胎土微細ガラスを含む。**	
466	〃	〃	土師器 供膳具	－	（1.3）	6.6	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③円盤状の高台。底部回転糸切り痕。	
467	**〃**	**〃**	**須恵器 高杯**	**15.4**	**（5.2）**	**－**	**灰白色 〃 〃**	**①②回転ナデ。③体部は内湾して立ち上がり、弱く屈曲した後、口縁部に向かい直線的に外上方に上がる。口縁端部は丸く収める。**	
468	〃	〃	須恵器 杯	13.1	（4.3）	－	灰白色 〃 にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③口縁部のかえりは外反気味に内方に上がり、端部は丸く収める。受部は短く伸び、端部は丸く収める。器壁に焼成時の気泡がみられる。受部径 15.1cm。	6 世紀後半～7 世紀前半か。
472	**〃**	**ST7**	**土師器 甕**	**16.3**	**（4.5）**	**－**	**にぶい橙色 〃 橙色**	**①ハケ・ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は外反する。口縁端部は丸く収め、外側をやや肥厚させる。胎土は密で微細ガラスを含む。**	
473	〃	〃	土師器 甕	18.2	（3.6）	－	にぶい橙色 〃 灰黄色	①ナデ・ヨコナデ。②ハケ・ヨコナデ。③内面頸部は稜をなして屈曲する。口縁部は外反し、端部は丸く収める。内面頸部及び断面に粘土接合痕。胎土微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
474	南区	ST7	土師器 甕	17.2	(6.9)	－	にぶい褐色 橙色 灰黄色	①②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③内面頸部は稜をなして屈曲する。口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。	
475	〃	〃	土師器 甕	22.3	(6.0)	－	にぶい黄橙色 灰黄褐色 にぶい橙色	①ナデ・ユビオサエ。頸部～口縁部コヨナデ。②ハケ・ナデ。頸部～口縁部ヨコナデ。③口縁部は外上方に短く上がり、端部は丸く収める。胎土微細ガラス多含。	
476	〃	〃	土師器 甕	26.0	(17.4)	－	にぶい橙色 〃 〃	①ナデ。胴部下→上へラケズリ。口縁部ヨコナデ。②多方向ハケ。頸部及び口縁部ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。	
477	〃	ST7－P5	土師器 甕か	－	(4.9)	5.9	にぶい黄橙色 黄灰色 オリーブ黒色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胎土微細ガラスを含む。	
478	〃	ST7－SD1	土師器 鉢	－	(2.3)	－	橙色 〃 灰白色	①ナデ。②タタキ後ナデ。③胴部上位は直線的に外上方に上がり、口縁部は屈曲して外方に開く。口縁端部は外傾する面をなし、下端をやや拡張する。	
479	〃	ST7	土師器 鉢か	－	(3.3)	－	橙色 〃 黄灰色	①②ナデ・ヨコナデ。③口縁部は僅かに内湾して上がる。口縁端部は外傾する面をなし、外端を断面三角形状に肥厚させる。胎土微細ガラスを含む。	
480	〃	〃	土師器 高杯	－	(1.7)	－	橙色 〃 黄灰色	①②ヨコナデ。③杯部の破片。杯部は底部から稜をなして体部は外上方に立ち上がる。胎土 1mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
481	〃	ST7－P10	土師器 杯	13.0	(2.2)	－	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は内湾して上方で屈曲する。口縁部は外上方に上がり、端部は丸く収める。胎土は密。	
482	〃	ST7－P9	土師器 杯	－	(1.9)	6.1	浅黄橙色 にぶい黄橙色 灰色	①ナデ・ヘラミガキ。②回転ナデ。③輪高台。体部は緩やかに内湾して立ち上がる。胎土は密。	
483	〃	ST7－P1	土師器 杯か椀	－	(1.5)	6.8	黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③柱状高台風の底部。底部回転糸切り痕。	
484	〃	ST7－P8	土師器 羽釜	25.4	(4.6)	－	にぶい橙色 黒褐色 にぶい橙色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。鍔部コヨナデ。③胴部～口縁部はやや内湾して上がり、口縁端部は水平な面をなす。鍔は外上方にのびる。外面胴部に煤付着。	
485	〃	ST7	須恵器 壺	9.5	8.1	－	灰色 〃 灰白色	①②回転ナデ。③短頸壺。胴部上位～口縁部は器壁大きく張る。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は上方へ短く上がり、端部は丸く収める。胎土は密で微細な黒色砂粒を含む。	
486	〃	ST7－P8	須恵器 鉢か	－	(3.7)	17.3	灰色 〃 明褐色	①ナデ。②回転ナデ。底部ヘラミガキ。③平底。底部外縁は外側にやや拡張する。内面底部は平坦面をなす。胎土微細な白色砂粒多含。	
487	〃	ST7	須恵器 高杯	13.0	(4.7)	－	灰黄色 にぶい黄橙色 灰白色	①②回転ナデ。③有蓋高杯の杯部。脚部上位は垂直に下がる。杯部は浅く、口縁部のかえりは傾して端部は細く仕上げる。受部は水平に伸び、端部は丸く収める。受部径 14.9cm。	6世紀末～7世紀初頭か。
488	〃	〃	須恵器 蓋	13.0	4.5	－	にぶい褐色 〃 〃	①②回転ナデ。③天井部は平坦面をなし、体部中位でやや稜をなして口縁部に至る。口縁端部は丸く収める。焼成ややせい。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
489	〃	〃	須恵器 蓋	13.6	4.0	－	褐灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③天井部はややもみを帯びた平坦面をなす。口縁部は垂直に近い角度で下がり、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
490	〃	〃	須恵器 蓋	15.2	(4.6)	－	黄灰色 〃 灰白色	①②回転ナデ。③口縁部に向かい外方に開き気味に下がる。口縁端部は丸く収める。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
491	〃	〃	須恵器 杯	12.8	(3.9)	－	にぶい黄橙色 〃 灰白色	①②回転ナデ。③口縁部のかえりは内傾して短く上がり、端部は丸く収める。受部は水平に伸び、端部は丸く収める。胎土は密。受部径 15.0cm。	7世紀初頭か。
492	〃	〃	須恵器 杯	12.0	3.9	6.2	褐灰色 黄灰色 〃	①②回転ナデ。③平底。口縁部のかえりは内傾して短く上がり、端部は丸く収める。受部はほぼ水平にのび、端部は丸く収める。胎土は密。受部径 14.6cm。	
493	〃	ST8	土師器 甕	16.4	(14.0)	－	にぶい橙色 〃 〃	①ハケ・ユビオサエ。頸部ハケ。口縁部ヨコナデ。②目の細かいハケ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収めて下方を僅かに肥厚させる。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
494	**南区**	**ST8**	**土師器 甕**	**21.0**	**(10.2)**	**－**	**にぶい橙色 ＊ 浅黄橙色**	**①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②ハケ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。**	
495	〃	〃	土師器 甕	25.8	(2.8)	－	にぶい橙色 灰黄褐色 にぶい橙色	①②ヨコナデ。③頸部は屈曲し、口縁部は僅かに内湾して上がる。外面口縁部は断面三角形状に肥厚し、端部は上方へ拡張する。	
496	**〃**	**〃**	**土師器 甕**	**－**	**(2.6)**	**－**	**にぶい黄橙色 にぶい橙色 ＊**	**①ナデ・ヨコナデ。②ヨコナデ・ユビオサエ。頸部ヨコナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。胎土は密で微細ガラスを含む。**	
497	〃	〃	土師器 甕	－	(13.7)	－	にぶい黄橙色 ＊ ＊	①ハケ・ユビオサエ。ハケによる圧痕。②多方向の日の細かいハケ。③胴部は球形を指向する。胎土は密で微細ガラス多含。	
498	**〃**	**〃**	**土師器 甕**	**－**	**(12.6)**	**3.0**	**橙色 ＊ ＊**	**①ハケ・ユビオサエ。②ハケ・ユビオサエ。底部に指頭圧痕。③丸底。胴部は球形を指向する。外面胴部に煤付着。胎土は粗で微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。**	
499	〃	〃	土師器 甕か	－	(3.4)	7.5	にぶい黄橙色 にぶい橙色 灰黄色	①②ナデ。③厚く突出する平底。胴部は内湾気味に上がる。	
500	**〃**	**〃**	**土師器 甕か**	**－**	**(4.3)**	**－**	**にぶい橙色 橙色 にぶい橙色**	**①剥離。②ハケ。③平底。底部は中央が凹状を呈する上げ底気味の形状。胴部は緩やかに内湾して立ち上がる。**	
501	〃	〃	土師器 甕か 壺	－	(5.6)	8.5	橙色 にぶい黄橙色 にぶい褐色	①剥離。②ナデ。③突出する平底。底部外縁は稜をなし、胴部は外反気味に立ち上がる。胎土は粗。	
502	**〃**	**〃**	**土師器 鉢**	**15.8**	**(5.8)**	**－**	**にぶい橙色 ＊ ＊**	**①ナデ。横位線状の工具痕あり。②ハケ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③椀状の鉢。口縁端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。**	
503	〃	〃	土師器 鉢か	22.8	(7.8)	－	にぶい橙色 ＊ にぶい黄橙色	①ナデ。下→上へラケズリ。口縁部ハケ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は緩やかに外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。断面に粘土接合痕が残る。	
504	**〃**	**〃**	**土師器 甕か鉢**	**－**	**(5.3)**	**－**	**にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色**	**①ナデ・ユビオサエ。底部に指頭圧痕が残る。②ナデ。③丸底。胴部は緩やかに内湾して上がる。**	
505	〃	〃	土師器 高杯	－	(3.2)	23.8	にぶい黄橙色 ＊ 褐灰色	①②ナデ・ヘラミガキ。③裾部は直線的に外方に開き、端部は丸く収めて接地面をやや面取りする。	
506	**〃**	**〃**	**土師器 高杯**	**－**	**(5.3)**	**－**	**にぶい橙色 ＊ 灰色**	**①ナデ。②ナデ。ヘラミガキ。③高杯の脚部とみられる筒状の破片。内径2.5cm前後。**	
507	〃	〃	土師器 高杯	－	(1.6)	－	にぶい橙色 ＊ オリーブ黒色	①②丁寧なナデ。③太く短い脚部。裾部は大部分が欠損するが外方に大きく開くとみられる。	
508	**〃**	**〃**	**土師器 高杯**	**－**	**(2.3)**	**－**	**にぶい橙色 ＊ にぶい黄橙色**	**①ナデ。②脚部縦位ハケ。脚部杯部境界ヨコナデ。脚部はハの字状に開く。胎土は密で1mm程度の白透色砂粒を若干含む。**	
509	〃	〃	土師器 高杯	－	(4.2)	－	にぶい黄橙色 ＊ 黄灰色	①ハケ・ナデ。脚部にヘラによる痕跡が残る。②ハケ・ナデ。③脚部は中空で太く短い。裾部は端部が欠損するが、外反して広がる。	
510	**〃**	**〃**	**土師器 皿**	**13.9**	**(2.7)**	**9.2**	**灰白色 浅黄橙色 灰白色**	**①②ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。口縁部は内湾気味に上がり、端部は細く仕上げる。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。**	
511	〃	〃	土師器 杯	－	(1.1)	5.8	橙色 黄灰色 灰黄褐色	①②回転ナデ。③底部へラ切り。胎土は密で微細ガラスを含む。	
512	**〃**	**〃**	**土師器 杯**	**－**	**(1.3)**	**6.8**	**灰黄褐色 浅黄橙色 黄灰色**	**①②回転ナデ。③柱状高台風の底部。底部ヘラ切り。胎土は密。**	
513	〃	ST8 － P1	土師器 杯	12.6	(4.3)	－	橙色 ＊ 浅黄橙色	①②回転ナデ。③輪高台とみられる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。底部糸切り。胎土は密。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
514	南区	ST8	土師器 杯	15.8	(3.1)	–	にぶい黄橙色 〃 灰白色／褐灰色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は緩やかに内湾して上がり、端部は面をなす。胎土0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	
515	〃	〃	土師器 皿か杯	–	(1.1)	6.7	橙色 〃 淺黄橙色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は稜をなす。底部回転糸切り痕。胎土はやや密で微細ガラスを含む。	
516	〃	〃	土師器 皿か杯	–	(1.7)	5.9	黒色 にぶい橙色 黒色	①ヘラミガキ。②ナデ。③底部は円盤状の高台内を浅く削り出し輪高台風に仕上げる。体部は緩やかに内湾して立ち上がる。	
517	〃	〃	土師器 杯か椀	–	(1.4)	6.6	にぶい赤褐色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	①②回転ナデ。③柱状高台風の底部。底部回転糸切り痕。胎土は密で微細ガラスを含む。	
518	〃	〃	土師器 杯か椀	–	(1.7)	6.0	橙色 黒褐色 橙色	①②回転ナデ。③丸みを帯びた平底。体部は内湾気味に立ち上がる。外面底部及び体部下位に炭化物付着。胎土は密。	
519	〃	〃	土師器 供膳具	–	(2.3)	6.2	淺黄橙色 淺黄橙色／褐灰色	①②回転ナデ。③輪高台。断面三角形状の高台を貼り付ける。胎土微細ガラス若干含む。	
520	〃	〃	土師器 甑	26.8	(21.7)	–	にぶい橙色 〃 〃	①ナデ・ヘラケズリ・ユビオサエ。②縁部ハケ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。把手の接合面与ニハケ。口縁部ヨコナデ。③胴部～口縁部にかけて緩やかなS字状のカーブを描く。口縁端部は丸く収める。	
521	〃	〃	土師器 甑	–	(4.2)	–	橙色 〃 〃	①ナデ。②ユビオサエ。③甑の把手部。把手は端部にかけて湾曲して上方に上がる。	
522	〃	〃	土師器 甑	–	(4.2)	–	– にぶい黄橙色 灰黄褐色	②ハケ・ユビオサエ。③甑の把手部。把手は端部にかけて斜め上方に上がる。把手は粗雑に整形し、先端の一部に空隙がみられる。胎土微細ガラスを含む。	
523	〃	〃	土師器 甑	–	(7.4)	–	にぶい橙色 〃 灰白色	①ナデ。②ハケ・ユビオサエ。③甑の把手部。把手は端部にかけて斜め上方に上がる。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
524	〃	〃	土師器 鍋	27.2	10.0	–	橙色 にぶい橙色 〃	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③丸底。胴部はボウル状に内湾する。口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。外面胴部上位～口縁部に煤付着。胎土はやや粗。	
525	〃	〃	須恵器 甕	–	(7.1)	–	褐灰色 〃 灰褐色	①同心円状の当具痕。②多方向の目の細かいハケ。③胴部片。外面に緑色の自然釉がみられる。胎土は密。	
526	〃	ST8 – P8	須恵器 高杯	–	(3.1)	–	灰白色 灰黄色 にぶい橙色	①②回転ナデ。③脚部はハの字状に開く。脚部から緩やかな曲線を描いて杯部に至る。胎土微細な白色砂粒を含む。	
527	〃	ST8	須恵器 蓋	13.5	3.3	–	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③天井部は平坦面をなす。体部は稜をなして内湾する。口縁部は垂直に近い角度で下がり、端部は細く仕上げる。胎土微細な黒色・白色砂粒を含む。	6世紀後半～7世紀前半か。
528	〃	〃	須恵器 蓋	15.8	3.0	–	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③天井部は平坦面をなす。口縁部は垂直に近い角度で下がり、端部は丸く収める。胎土は密で、微細な白色砂粒を含む。	7世紀前半か。
529	〃	〃	須恵器 蓋	12.8	3.5	–	灰白色 灰色 灰白色	①②回転ナデ。③天井部は平坦面をなし、口縁端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
530	〃	〃	須恵器 蓋	–	(1.3)	–	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③天井部は平坦面をなし、体部で稜をなす。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	
531	〃	〃	須恵器 杯	13.2	(2.9)	–	にぶい黄橙色 灰白色 にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③口縁部のかえりは内傾して上がり、端部は細く仕上げる。受部はやや上方に上がり、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。受部径15.2cm。	
532	〃	〃	須恵器 杯	13.3	3.6	9.0	黄灰色 灰黄褐色 黄灰色	①②回転ナデ。③平底。口縁部のかえりは短く内傾して上がり、端部は細く仕上げる。受部は僅かに上方に上がり、端部は丸く収める。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。受部径15.8cm。	
533	〃	〃	須恵器 杯	16.2	(3.7)	–	灰黄色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部のかえりは僅かに内傾して立ち上がる。受部は端部を丸く収め、やや肥厚させる。胎土微細な白色砂粒を含む。受部径18.1cm。	7世紀前半か。

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
534	南区	ST8	須恵器杯	–	(2.1)	8.0	灰色 ＊ 灰黄褐色	①②回転ナデ。③平底。外面体部下位にヘラによる沈線が1条巡る。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
535	＊	＊	緑釉陶器皿か	–	(1.9)	5.4	灰白色 ＊ ＊	①②回転ナデ。③硬質、柱状高台風の底部。外面底部はやや凹状を呈する。高台を含めた内外面全体に緑色の釉が薄くみられる。胎土微細な白色砂粒を含む。	
538	＊	ST9	土師器壺	24.0	(3.5)	–	橙色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。口縁端部ハケ。③口縁端部は面をなし、下端を拡張する。胎土はやや粗で微細な白色砂粒を含む。	
539	＊	＊	土師器壺	23.0	(4.5)	–	橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	①②ナデ・ユビオサエ。口縁部はコナデ。③口縁部はラッパ状に開き、端部は丸く収める。胎土1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
540	＊	＊	土師器甑	–	(21.0)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 灰白色	①ナデ・ユビナデ。胴部上位にヘラによる圧痕。②ナデ・ユビオサエ。③胴部は球形を指向する。把手の剥落痕が認められる。胎土はやや粗。	
541	＊	＊	須恵器蓋	–	(1.5)	–	灰白色 ＊ ＊	①②回転ナデ。③天井部は平坦面をなし、屈曲して下がる。胎土は密。	
542	＊	P443 (SB4)	弥生土器甕か鉢	–	(3.1)	5.8	にぶい橙色 ＊ 灰黄褐色	①ヘラナデ。②ナデ。③平底。胎土微細ガラスを含む。	
543	＊	P363 (SB4)	土師器甕	–	(3.6)	3.0	にぶい橙色 ＊ 橙色	①ナデ・ユビオサエ。底部に強い指頭圧痕。②ナデ・ヘラケズリ。工具による線状の痕跡が残る。③実気味の丸底。胎土微細ガラス多含。	
544	＊	P351 (SB4)	須恵器杯	19.7	6.0	10.8	灰黄褐色 にぶい黄橙色 ＊	①②回転ナデ。③輪高台。高台は垂直に下がり、端部は丸みを帯びた面をなす。体部は内湾気味に上がる。口縁端部は丸く収める。	
545	＊	P429 (SB4)	須恵器杯	–	(2.5)	11.0	灰オリーブ色 灰白色 ＊	①回転ナデ。②回転ナデ。底部ヘラナデ。③輪高台。高台はハの字状に開き、端部はやや凹状の面をなしてを内側と外側に拡張する。内面及び外面高台に緑色の自然釉がみられる。	8世紀前半か。
546	＊	P443 (SB4)	須恵器杯	–	(2.9)	–	灰色 ＊ ＊	①②回転ナデ。③体部は緩やかに内湾して口縁部に至る。口縁端部は丸く収める。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
547	＊	SK73 (SB7)	土師器壺	–	(3.2)	–	灰白色 浅黄橙色 灰白色	①ナデ。頸部ハケ。②ハケ・ナデ。③胴部上位でくの字状に屈曲して口縁部に向かう。胎土微細ガラスを含む。	
548	＊	SK72 (SB7)	土師器甕か	–	(2.8)	–	にぶい橙色 ＊ 明赤褐色	①口縁部コナデ。②ハケ・ナデ。③口縁部は外上方に上がり、端部は丸みを帯びた面をなして外側をやや肥厚させる。胎土は粗で微細ガラスを含む。	
549	＊	P732 (SB7)	土師器甕	–	(2.3)	–	にぶい橙色 橙色 ＊	①ヨコナデ。②ナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。	
550	＊	P675 (SB7)	土師器高杯	–	(5.8)	–	橙色 ＊ 灰色	①②ナデ。③脚部は中空で、下位にかけてやや外方に開き、裾部で屈曲して外方に開く。杯部の内面底部は平坦面をなさない。	
551	＊	SK72 (SB7)	土師器杯	–	(2.0)	–	橙色 ＊ にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。胎土は密。	
552	＊	SK73 (SB7)	須恵器鉢か	–	(5.8)	22.0	灰色 にぶい黄橙色 灰色	①回転ナデ。底部ヘラによるナデが放射状に残る。②回転ナデ。底部ナデ・ユビオサエ。③僅かに突出する平底。胴部は外上方に立ち上がる。胎土微細な白色砂粒多含。	
553	＊	P801 (SB8)	土師器甕	16.8	(5.0)	–	にぶい褐色 ＊ ＊	①ナデ。口縁部ハケ。②ナデ。口縁部ヨコナデ。③頸部で屈曲し、口縁部はやや外反する。口縁端部は外傾する面をなす。胎土微細ガラス多含。	
554	＊	P805 (SB8)	須恵器甕	–	(17.5)	–	灰色 ＊ 灰褐色	①同心円状の当具痕。②タタキ後縦位ハケ。③胴部は緩やかに内湾する。	
555	＊	＊	須恵器杯	14.1	3.1	9.0	黄灰色 ＊ ＊	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	7世紀後半か。

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
557	南区	P824 (SB9)	弥生土器 甕	14.8	(5.0)	–	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ナデ。口縁部ハケ。②タタキ。③口縁部ナデ・ユビオサエ。③口縁部は外上方に短く上がり、外側を僅かに肥厚させる。口縁端部は外傾する面をなす。	
558	〃	P838 (SB9)	須恵器 蓋	12.8	(2.5)	–	黄灰色 〃 〃	①②2回転ナデ。③口縁部のかえりはやや内傾し、端部は丸く収める。受部は水平に短く伸び、端部は丸く収める。焼成堅緻。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	7世紀中頃～後半か。
559	〃	P818 (SB11)	須恵器 壺	–	(1.7)	9.8	灰白色 〃 〃	①②2回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に開き、接地面はやや凹状の面をなす。内面底部は凹凸をなす。焼成堅緻。胎土微細な白色砂粒を含む。	
560	〃	SK49	陶器 鉢	–	(13.1)	20.4	赤褐色 灰赤色 赤褐色	③上げ底気味の平底。内面胴部に縄目状の圧痕が残る。外面鉄釉。胎土微細な白色砂粒多含。	
561	〃	〃	磁器 碗	10.2	(4.1)	–	灰白色 〃 〃	③口縁部はやや外反する。残存部の体部下位より上は全面施釉。	
564	〃	SK52	弥生土器 甕	–	(3.4)	3.2	浅黄橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	①②ナデ。③丸底を指向するが、平坦面を残す。	
565	〃	SK53	土師器 羽釜	22.0	(3.8)	–	にぶい黄橙色 〃 にぶい橙色	①ナデ・ヨコナデ。②ハケ・ナデ・ヨコナデ。③口縁部は内傾し、端部は水平な面をなす。鍔部はやや上方に伸び、端部は面をなす。胎土0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	
566	〃	SK54	土師器 杯	–	(1.5)	6.3	橙色 にぶい橙色 橙色	①②2回転ナデ。③円盤状の高台。体部は緩やかに内湾して立ち上がる。底部切り離しは摩耗により不明瞭。胎土はやや密。	
568	〃	SK55	土師器 皿	10.3	2.1	5.3	橙色 〃 〃	①②2回転ナデ。③輪高台。体部は外上方に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。胎土はやや密で微細な白色砂粒を含む。	
569	〃	〃	土師器 杯	–	(3.7)	–	浅黄橙色 〃 〃	①②2回転ナデ。③体部は緩やかに内湾して上がる。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。胎土はやや密。	
570	〃	SK56	弥生土器 甕	–	(4.5)	3.0	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ後ナデ。底部タキ。底部周縁に深い溝状の工具痕が残る。③丸底を指向するが、狭い平坦面を残す。胴部は緩やかに内湾する。胎土微細ガラスを含む。	
571	〃	SK58	弥生土器 甕	–	(2.9)	–	灰黄褐色 〃 にぶい黄橙色	①ヨコナデ。②タタキ・ユビオサエ。③面部はくの字状。口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土微細ガラス多含。	
572	〃	〃	弥生土器 甕か	–	(3.4)	3.6	にぶい橙色 〃 〃	①ナデ。底部に指頭圧痕。②タタキ後ハケ。③狭い平底。胎土は粗。	
573	〃	SK59	土師器 杯	–	(1.2)	8.0	にぶい橙色 橙色 〃	①②2回転ナデ。③平底。体部は緩やかに内湾して立ち上がる。胎土はやや密。	
574	〃	〃	土師器 皿か杯	–	(1.3)	7.0	橙色 〃 にぶい橙色	①②回転ナデ。③平底。体部は直線的に外上方に立ち上がる。胎土は密。	
575	〃	〃	須恵器 杯	14.2	(3.8)	–	灰黄褐色 灰白色 〃	①②2回転ナデ。③体部は僅かに内湾して上がり、口縁部はやや外反する。口縁端部は丸く収める。焼成不良。胎土はやや密。	
576	〃	〃	青磁 碗	–	(1.3)	6.9	浅黄色 〃 灰白色	③輪高台。内外面畳付含め全面施釉。内面見込みに劃花文とみられる文様。	
577	〃	SK60	弥生土器 甕	17.6	(5.9)	–	橙色 にぶい橙色 灰色	①ハケ・ナデ。口縁部にハケによる圧痕。②タタキ・口縁部ユビオサエ。③口縁部は外反し、端部は外傾する面をなして下端をやや拡張する。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
578	〃	SK61	土師器 甕か	–	(4.0)	4.0	黒色 にぶい橙色 黒色	①ナデ・ユビオサエ。②ハケ。③丸底を指向するが、平坦面を残す。胎土微細ガラスを含む。	
579	〃	SK62	弥生土器 甕か	–	(6.5)	3.6	にぶい黄橙色 黒色 浅黄橙色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③丸底を指向するが、僅かな平坦面を残す。胎土1mm程度の白透色砂粒を若干含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
581	南区	SK65	弥生土器 甕	16.2	(4.4)	–	灰黄褐色 ＊ 黄灰色	①ナデ.口縁部ハケ.胴部上位にヘラによる縦位の擬状痕が残る。②タタキ。③頸部はくの字状。口縁部は外上方に上がる。口縁端部は面をなし、下端をやや拡張する。胎土微細ガラスを含む。	
582	〃	〃	弥生土器 甕	16.6	(8.4)	–	にぶい橙色 ＊ 橙色	①ナデ・ヘラケズリ。板状工具による横位ナデ及び圧痕あり。②ハケ後ナデ。口縁部ヨコナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。	
583	〃	〃	弥生土器 甕	18.2	(5.0)	–	明赤褐色 にぶい赤褐色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③頸部はくの字状。口縁部は僅かに内湾して上がり、端部は丸く収めて内側を僅かに肥厚させる。胎土微細ガラス多含。	
584	〃	〃	弥生土器 甕	24.0	(9.2)	–	にぶい橙色 ＊ 浅黄橙色	①ハケ・ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ユビオサエ。③頸部はくの字状。口縁部は外上方に上がり、端部は外傾する面をなす。	
585	〃	〃	弥生土器 甕	18.6	(3.6)	–	橙色 ＊ 黄灰色	①ナデ。口縁部ハケ。②タタキ・ユビオサエ。③頸部は屈曲する。口縁部は外反し、端部は面をなして下端をやや拡張する。	
586	〃	〃	弥生土器 甕か鉢	–	(7.2)	0.8	にぶい黄橙色 灰黄褐色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ後ハケ・ナデ。③底部は鋭い尖底状。胴部は楕弾形を呈する。	
587	〃	〃	弥生土器 甕か鉢	–	(4.6)	4.2	にぶい黄橙色 ＊ 浅黄橙色	①ハケ。②タタキ。底部ナデ。③底部は円盤状に突出する。胎土は粗。	
588	〃	〃	土師器 甕	17.6	(4.6)	–	にぶい黄褐色 褐灰色 にぶい黄褐色	①ナデ・ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ。②日の細かいタタキ。頸部及び口縁部ヨコナデ。③頸部はくの字状。口縁端部は外傾する面をなし、上端を上方に拡張する。外面煤付着。	庄内式。
589	〃	〃	土師器 鉢	–	(4.4)	7.9	にぶい黄橙色 ＊ ＊	①②ナデ。③ボウル状の鉢。丸底。内外面の器壁に細かいひびがみられる。	
590	〃	〃	土師器 鉢	–	(2.7)	3.0	にぶい橙色 橙色 灰黄色	①ハケ。②ヘラケズリ・ヘラミガキ。③上げ底気味の狭い平底。胎土は密。	
591	〃	〃	土師器 杯か椀	–	(3.2)	8.1	にぶい黄橙色 ＊ 灰色	①②回転ナデ。③柱状高台風の底部。体部は直線的に外上方に上がる。胎土は密。	
592	〃	〃	須恵器 蓋	14.0	(2.4)	–	灰白色 ＊ ＊	①②回転ナデ。③体部は緩やかに内湾する。口縁部は下方に下がり、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
593	〃	〃	須恵器 杯	–	(3.8)	–	灰色 黄灰色 ＊	①②回転ナデ。③口縁端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
595	〃	SK66	弥生土器 甕	–	(2.0)	–	にぶい黄橙色 ＊ ＊	①ナデ。②タタキ。③口縁部は外上方に上がる。口縁端部は面をなし、外側をやや肥厚させる。胎土1mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
596	〃	〃	土師器 鉢	10.8	(3.7)	–	浅黄橙色 にぶい黄橙色 オリーブ黒色	①②ナデ。口縁部ヨコナデ。③胴部は緩やかに内湾して口縁部に至る。口縁端部は丸く収める。胎土はやや密。	
597	〃	〃	土師器 鉢	17.0	(3.0)	–	橙色 ＊ にぶい黄橙色	①ナデ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③胴部は緩やかに内湾して口縁部に至る。口縁端部は面をなす。	
598	〃	SK67	弥生土器 甕	13.9	(8.7)	–	橙色 にぶい橙色 灰色	①ナデ.ユビオサエ。頸部及び口縁部ハケ。②タタキ.ユビオサエ。③口縁部はやや外反する。内面頸部は強をなして屈曲する。口縁端部は外傾する面をなす。胴部上位に粘土接合痕が明瞭に残る。	
599	〃	〃	弥生土器 甕	21.6	(4.6)	–	にぶい橙色 橙色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。②タタキ・ナデ。③頸部はくの字状。口縁部は外反し、端部は面をなす。	
600	〃	〃	土師器 甕	21.0	(3.9)	–	にぶい黄橙色 ＊ 灰色	①②ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は僅かに外反し、端部は外傾する面をなして下端を僅かに拡張する。	
601	〃	〃	土師器 甕	–	(2.6)	–	橙色 にぶい橙色 灰色	①②ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収めて外側をやや肥厚させる。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
602	南区	SK67 － P1	土師器 甕か	－	(6.0)	－	浅黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	①ハケ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。③胴部下位の破片とみられる。外面に煤付着。胎土は密で0.7mm程度の白透色砂粒を含む。微細ガラス多含。	搬入品か。
603	〃	SK67	土師器 鉢	13.2	(2.7)	－	橙色 にぶい橙色 黄灰色	①ハケ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。③掩状の鉢。口縁端部は面をなし、外側をやや拡張する。	
604	〃	〃	土師器 鉢か	13.8	(2.8)	－	にぶい橙色 にぶい橙色 にぶい橙色	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②タタキ後ナデ。口縁部ヨコナデ。③胴部上位で弱く屈曲する。口縁部は外上方に短く上がり、端部は外傾する面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
605	〃	〃	土師器 鉢か	－	(2.6)	5.4	にぶい橙色 〃 明褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。底部付近に整形時の爪痕が残る。②ナデ。③平底。胴部下位はやや外反して立ち上がる。	
606	〃	〃	土師器 鉢か	－	(2.5)	3.3	灰黄褐色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。②丁寧なナデ。③底部は円柱状に突出する。底部外縁は外側へやや拡張する。胴部下位は緩やかに内湾して立ち上がる。胎土微細ガラスを含む。	
607	〃	〃	土師器 鉢	－	(2.7)	－	にぶい橙色 橙色 黄灰色	①ハケ・ユビオサエ。②ナデ。③胴部上位から緩やかに内湾して口縁部に至る。口縁端部は外傾する面をなし、面の中央付近に沈線状の縁が巡る。胎土微細ガラスを含む。	
608	〃	〃	土師器 高杯	－	(1.7)	－	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①②ヘラミガキ。③脚部片。脚部は内湾気味に下がる。胎土0.7mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
609	〃	SK67 － P1	土師器 椀	13.9	6.0	6.4	にぶい橙色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	①②回転ナデ。③円盤状の高台。高台はやや上げ底でハの字状に短く開く。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。底部回転糸切り痕。胎土は密。	
611	〃	SK68	弥生土器 甕	－	(3.3)	－	橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①ナデ。口縁部に工具痕が残る。②タタキ・ユビオサエ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は僅かに外反し、端部は面をなして外側をやや肥厚させる。	
612	〃	〃	土師器 器台	－	8.5	6.7	橙色 〃 赤橙色	①②ナデ・ユビオサエ。③底部～受部は中空。底部は円環状で平坦面をなす。体部中位でくびれ、上位で外方に開く。受部は内傾する広い円環状を呈する。	
613	〃	〃	土師器 椀か	－	(2.1)	7.8	橙色 〃 〃	①ナデ。②回転ナデ。③底部は断面三角形の輪高台。内厨底部は中央付近が凹み、器壁が下方に下がる。高台に煤付着。胎土微細ガラスを含む。	
614	〃	SK69	弥生土器 甕	18.4	(2.7)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②タタキ・ユビオサエ。③頸部はくの字状。口縁部は外上方に上がり、端部は面をなす。	
615	〃	〃	土師器 甕	16.2	32.4	－	にぶい橙色 〃 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。胴部下→上へラケズリ。口縁部ヨコナデ。②ハケ・ナデ・ヘラケズリ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③丸底。胴部最大径を中位に持つ。口縁端部は丸く収める。	
616	〃	〃	土師器 甕	13.4	(10.2)	－	灰黄褐色 にぶい黄褐色 〃	①ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。②ハケ・ナデ・ユビオサエ。頸部及び口縁部ヨコナデ。③口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。外面胴部～口縁部に煤付着。胎土微細ガラスを含む。	
617	〃	〃	土師器 甕か	16.6	(2.4)	－	にぶい褐色 にぶい橙色 浅黄橙色	①②ヨコナデ。③口縁部は僅かに内湾して外上方に上がる。口縁端部は面をなし、上端を上方に丸く拡張する。	
618	〃	〃	土師器 甕か鉢	－	(1.6)	5.4	にぶい黄橙色 〃 オリーブ黒色	①ナデ。底部にヘラによる線状痕が放射状に認められる。底部中央に指頭圧痕。②ナデ。③底部は丸みを帯びた平底。内面底部は平坦面をなさない。	
619	〃	〃	土師器 羽釜	－	(1.8)	－	にぶい黄橙色 灰黄褐色 にぶい黄橙色	①②ナデ。③鍔部の破片。鍔部は短くやや外上方に上がり、端部はやや凹みのある面をなす。鍔の下面が下方に丸く肥厚する。鍔の下面に煤付着。	
621	〃	SK70	弥生土器 甕	17.3	(2.4)	－	灰黄褐色 〃 にぶい橙色	①ハケ。②タタキ。③口縁部はやや外反して上がり、端部は面をなす。	
622	〃	〃	土師器 鉢	13.0	(3.4)	－	橙色 〃 黄灰色	①丁寧なナデ。②ナデ・ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③胴部は緩やかに内湾して上がる。口縁端部は面をなし、上端を僅かに拡張する。	
623	〃	〃	土師器 鉢	8.2	(1.9)	－	にぶい黄橙色 〃 灰白色	①②ナデ・ユビオサエ。③浅い皿状の鉢。胴部は内湾して上がり、口縁部に至る。口縁端部は細く仕上げる。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
624	南区	SK71	弥生土器 甕	14.8	(5.6)	–	明黄褐色 にぶい赤褐色 灰色	①胴部上位縦位ハケ・ユビオサエ、口縁部横位ハケ。②タタキ・ユビオサエ。③頸部はくの字状に強く屈曲し、口縁部は短く外反する。口縁端部は面をなし、面内に沈線状の縁が巡る。	
625	〃	〃	弥生土器 甕か	–	(1.8)	4.6	橙色 〃 浅黄橙色	①ナデ。②タタキ。底部ナデ。③丸底を指向するが、平坦面を残す。	
626	〃	〃	弥生土器 甕	16.4	(2.5)	–	橙色 にぶい橙色 〃	①ハケ・ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は僅かに外反し、端部は面をなして外側を肥厚させる。	
627	〃	〃	弥生土器 甕か	–	(3.0)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ハケ・ナデ。底部周辺に整形時の爪痕が残る。③実気味の丸底。胎土微細ガラスを含む。	
628	〃	〃	弥生土器 鉢	10.0	(2.3)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	①②ナデ・ユビオサエ。③浅い皿状の鉢。口縁部は内湾して上がり、端部は丸く収める。	
629	〃	〃	弥生土器 鉢	13.0	(2.6)	–	橙色 〃 浅黄橙色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③浅い皿状の鉢。口縁部は内湾して上がり、端部は細く仕上げる。胎土0.7㎜程度の白透色砂粒を若干含む。	
630	〃	〃	弥生土器 鉢	14.9	(3.0)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	①ナデ。②ナデ・ヨコナデ。③胴部は緩やかに内湾して口縁部に至り、端部は水平な面をなす。	
631	〃	〃	弥生土器 甕か鉢	–	(4.5)	4.9	にぶい黄橙色 〃 灰色	①ハケ。底部に指頭圧痕。②タタキ後ナデ・ユビオサエ。③底部は円盤状に突出し、外縁を外側にやや拡張する。	
634	〃	SK76	土師器 杯	–	(2.6)	–	浅黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は内湾して口縁部に至る。口縁端部は丸く収める。胎土はやや密。	
635	〃	SK77	磁器 皿	13.4	(2.6)	–	緑灰色 灰黄色 灰白色	③体部は緩やかに内湾して上がり、口縁端部は丸く収める。残存部は全面施釉。内面青緑色の釉薬。外面貫入あり。	
636	〃	SK78	土師器 甕	14.8	(3.3)	–	橙色 〃 灰褐色	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②ヨコナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は外縁する面をなして外側を薄く肥厚させる。	
637	〃	〃	土師器 甕	16.2	(2.7)	–	橙色 〃 にぶい橙色	①摩耗。②ヨコナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は面をなす。	
638	〃	SD1	土師器 甕	–	(2.6)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 暗灰黄色	①ナデ。②ヨコナデ。③口縁部は外反気味に短く上がり、端部は面をなす。胎土は粗。	
639	〃	〃	土師器 鉢	21.4	(5.5)	–	橙色 〃 〃	①ナデ。②ナデ。口縁部ユビオサエ。③口縁部は外側に折り返して肥厚させる。肥厚面は中央がユビオサエによりやや凹む。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。胎土はやや粗。	
640	〃	〃	土師器 鉢	–	(1.7)	4.1	浅黄橙色 にぶい黄橙色 灰色	①ナデ。底部に工具痕。②ナデ。③丸みを帯びた平底。	
641	〃	〃	土師器 高杯	–	(6.3)	–	浅黄橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。杯部の底部中央に指頭圧痕。②ナデ。③脚部は緩やかに外反して脚部に至る。杯部の内面底部は平坦面をなさない。胎土は粗。	
642	〃	〃	土師器 杯	–	(2.1)	6.0	にぶい褐色 灰褐色 にぶい褐色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。体部は緩やかに内湾して立ち上がる。胎土はやや密で微細ガラス多含。	
643	〃	〃	土師器 杯	–	(1.4)	7.8	橙色 〃 にぶい橙色	①ナデ。②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に短く開き、端部は丸みを帯びた面をなす。	
644	〃	〃	土師器 杯	–	(2.2)	–	橙色 〃 にぶい黄橙色	①ナデ。②回転ナデ。③底部は輪高台。体部は内湾して立ち上がる。胎土微細な白色砂粒多含。	
645	〃	〃	土師器 杯か椀	–	(1.8)	6.8	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰色	①回転ナデ。②摩耗。③柱状高台。底部回転糸切り痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
646	南区	SD1	須恵器 鉢	–	(1.6)	15.6	褐灰色 〃 〃	①回転ナデ。②回転ナデ。底部ナデ。③平底。胎土微細な白色砂粒を含む。	
647	〃	〃	須恵器 蓋	14.0	(1.6)	–	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部は屈曲した後、内傾して短く下がり、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	8 世紀前半か。
648	〃	〃	須恵器 杯	7.8	(2.0)	–	灰白色 にぶい黄橙色 灰色	①②回転ナデ。③小口径の杯。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。内面に淡緑色の自然釉がみられる。胎土は密。	
649	〃	〃	須恵器 杯	–	(1.5)	8.8	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状にやや開き、端部は平坦面をなす。体部は内湾して立ち上がる。胎土微細な白色砂粒を含む。	8 世紀中頃か。
650	〃	〃	須恵器 杯	–	(3.0)	10.8	灰色 黄灰色 〃	①②回転ナデ。③輪高台。高台は垂直に下がり、端部は平坦面をなす。体部は僅かに内湾して立ち上がる。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	8 世紀中頃か。
651	〃	〃	須恵器 杯	–	(2.1)	–	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は緩やかに内湾して上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
652	〃	〃	須恵器 椀	–	(1.3)	–	明オリーブ灰色 灰白色 灰色	①②回転ナデ。③口縁部は玉縁状に肥厚し、端部は丸く収める。内外面に緑色の自然釉が薄くみられる。	
655	〃	SD26	土師器 甕	–	(2.8)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 黒褐色	①ハケ・ナデ。②タタキ後ハケ・ナデ。頸部に指頭圧痕。③頸部はくの字状に屈曲する。	
656	〃	SD29	土師器 壺	15.6	(1.5)	–	にぶい橙色 〃 〃	①ナデ・ヨコナデ。②ヨコナデ。③口縁部はラッパ状に開く。口縁端部は丸みを帯びた面をなし、下端を僅かに拡張する。	
657	〃	〃	土師器 甕	–	(3.4)	–	にぶい褐色 灰黄褐色 にぶい橙色	①横位ハケ。②縦位ハケ。頸部ヨコナデ。③頸部は緩やかに屈曲する。胎土微細ガラスを含む。	
658	〃	〃	須恵器 甕	–	(9.1)	–	灰白色 灰黄色 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ナデ。③頸部は強く屈曲する。焼成不良。	
659	〃	SD30	弥生土器 壺	–	(10.3)	–	黄橙色 橙色 黄橙色	①ナデ・ユビオサエ。頸部ハケ。②ハケ・ナデ・ヘラミガキ。③頸部～口縁部に向かい外反する。頸部胴部境界に7条の櫛描文が巡る。胎土0.5mm程度の白透色砂粒を若干含む。	
660	〃	〃	土師器 甕	–	(12.2)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。胴部縦位ハケ。③頸部は緩やかに屈曲し、外反して口縁部に向かう。胎土は粗。	
661	〃	〃	土師器 甕	21.2	(3.7)	–	明黄褐色 にぶい橙色 灰色	①ナデ。②ハケ・ナデ。口縁部ユビオサエ。③口縁部は外反し、端部は面をなして外側を肥厚させる。外面に煤付着。胎土微細ガラスを含む。	
662	〃	〃	土師器 甕	18.2	(2.8)	–	にぶい橙色 〃 〃	①ハケ・ユビオサエ。②ナデ。口縁部ユビオサエ。③口縁部は外反し、端部は面をなして外側を肥厚させる。	
663	〃	SD31	土師器 壺	11.5	(6.3)	–	橙色 〃 浅黄橙色	①ハケ・ユビオサエ。②縦位ハケ。頸部ハケの後横位ナデ。③口縁端部は丸く収め、外側に折り返して肥厚させる。外面頸部～口縁部に煤付着。胎土微細ガラス多含。	
664	〃	〃	土師器 甕か	–	(2.6)	7.1	灰色 橙色 黄灰色	①ナデ。②ヘラミガキ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。胎土はやや密。	
665	〃	〃	土師器 鉢	11.0	(1.8)	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③浅い皿状の鉢。胴部は緩やかに内湾して口縁部に至る。口縁端部は細く仕上げる。胎土微細ガラスを含む。	
666	〃	SD33	土師器 甕	–	(3.0)	–	にぶい橙色 〃 〃	①②ヨコナデ。③口縁部は外反して短く上がる。口縁端部は外傾する面をなし、面の中央はやや凹状を呈する。	
667	〃	〃	土師器 皿	–	(1.3)	–	にぶい橙色 橙色 浅黄橙色	①②回転ナデ。③体部上位で屈曲する。口縁部はやや外反し、端部は丸みを帯びた面をなす。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
668	南区	SD34	土師器鉢	35.0	(5.1)	–	にぶい橙色 灰褐色 にぶい黄橙色	①②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は直線的に外上方に上がる。内面口縁部は稜をなして屈曲する。口縁端部は外傾する面をなし、外側を僅かに肥厚させる。胎土微細ガラス多含。	
669	〃	〃	土師器杯	15.8	(2.6)	–	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は丸く収める。	
670	〃	〃	土師器杯	–	(1.9)	–	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰白色	①回転ナデ。②摩耗。③円盤状に突出する粗い作りの底部。体部は内湾気味に立ち上がる。胎土微細ガラスを含む。	
671	〃	SD35	土師器杯	–	(1.8)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土はやや密。	
672	〃	SD36	土師器杯	14.6	(2.3)	–	橙色 〃 にぶい橙色	①②回転ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。	
673	〃	〃	土師器杯か	–	(1.7)	8.6	橙色 〃 にぶい黄橙色／橙色	①②回転ナデ。③平底。体部は外上方に立ち上がる。底部回転糸切り痕。胎土は密で微細ガラスを含む。	
674	〃	SX5	弥生土器壺	12.8	(2.3)	–	にぶい橙色 にぶい褐色 灰黄褐色	①横位ハケ。②ヨコナデ。③口縁部はラッパ状に開き、端部は面をなして断面三角形状に肥厚する。胎土微細ガラスを含む。	
675	〃	〃	弥生土器甕か	–	(2.4)	3.4	灰黄褐色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ後ナデ。③やや尖気味の丸底。胴部は緩やかに内湾して上がる。	
676	〃	P244	土師器皿	12.1	(2.4)	–	浅黄橙色 〃 暗灰黄色	①②回転ナデ。③体部下位で緩やかに屈曲し、口縁部にかけて外上方に上がる。口縁端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。	
677	〃	〃	土師器杯	15.3	5.5	6.5	浅黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ・ヘラミガキ。③輪高台。高台はハの字状にやや開き、端部は面をなす。体部は緩やかに内湾して上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。外面体部下位に煤付着。	
678	〃	〃	土師器杯	–	(1.1)	8.0	にぶい橙色 〃 灰白色	①②回転ナデ。③円盤状の高台。底部回転糸切り痕。胎土微細ガラスを含む。	
679	〃	P245	弥生土器甕	16.2	(5.5)	–	橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。口縁部にハケが薄く残る。②タタキ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は薄い面をなす。	
680	〃	P246	須恵器壺	26.0	(6.7)	–	黒色 暗灰色 褐灰色	①回転ナデ。②回転ナデ。胴部上位タタキ。③胴部から直角に近い角度で屈曲し、頸部は外上方に上がる。口縁端部は外反して短く上がり、端部は外傾する面をなす。胎土微細ガラス多含。	8世紀前半～中頃か。
681	〃	P249	弥生土器甕	–	(6.5)	–	橙色 〃 褐灰色	①ハケ・ユビオサエ。②ハケ。頸部屈位ハケ。③内面頸部で稜をなして緩やかに屈曲する。口縁部に向かい外反する。胎土は粗で微細ガラスを含む。	
682	〃	P253	土師器甕	18.0	(5.9)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	①胴部粗いナデ・ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ。②胴部ナデ。頸部～口縁部ユビオサエ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は外反して短く上がり、端部は外傾する面をなす。胎土微細ガラス多含。	
683	〃	P256	土師器椀	15.8	5.3	6.2	にぶい橙色 橙色 褐灰色	①回転ナデ・ヘラミガキ。②回転ナデ。③輪高台。高台端部はえみを帯びた面をなす。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。高台内に回転糸切り痕。	平安後期～末か。
684	〃	P260	土師器杯	–	(1.6)	5.4	灰白色 浅黄橙色 灰白色	①丁寧なナデ。②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状にやや開き、端部は緩やかな段をなして外傾を失く収める。体部は内湾気味に立ち上がる。内面に火襷。	
685	〃	P267	土師器羽釜	–	(1.8)	–	にぶい黄橙色 〃 にぶい橙色	①ナデ。②口縁部・鍔部ヨコナデ。③鍔部は外上方に上がり、端部はやや凹状の面をなす。口縁部の立ち上がりは極低い。胎土0.7mm粒度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
686	〃	P270	土師器皿	–	1.7	–	橙色 〃 にぶい橙色	①②回転ナデ。③平底とみられる。底部外縁は稜をなし、体部は外上方に立ち上がる。口縁端部は丸く収める。胎土は密で微細ガラスを含む。	
687	〃	P273	土師器供膳具	–	(1.7)	–	灰白色 にぶい黄橙色 灰白色	①ナデ。②摩耗。③輪高台。高台はハの字状に開き、端部は丸みを帯びる。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	法量（cm）器高	法量（cm）底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
688	南区	P276	須恵器鉢	－	(4.9)	9.6	灰褐色 灰黄褐色 褐灰色	①ナデ・ヘラケズリ。②回転ナデ。胴部下位回転ヘラケズリ。③平底。底部外縁は丸みを帯び、胴部は僅かに内湾して上がる。	
690	〃	P284	土師器杯か椀	－	(1.0)	6.6	橙色 にぶい橙色 〃	①②回転ナデ。③柱状高台風の底部。内面底部に同心円状の成形痕が明瞭に残る。底部回転糸切り痕。胎土は密で微細ガラスを含む。	
691	〃	P294	須恵器杯	12.5	(4.1)	－	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は直線的に外上方に上がる。口縁端部は丸く収める。	8世紀か。
692	〃	P296	弥生土器壺	15.5	(1.8)	－	橙色 〃 〃	①口縁部ハケ。②口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。③口縁部は外方に開き、端部は外傾する面をなして下端を拡張する。外面口縁部に粘土接合痕が残る。	
695	〃	P314	弥生土器甕	－	(1.8)	4.8	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ。②タタキ。底部にタタキ目が残る。③突出する平底。	
696	〃	P318	土師器杯	－	(1.7)	11.3	にぶい橙色 橙色 にぶい橙色	①回転ナデ。②回転ナデ・ヘラミガキ。③平底。底部外縁は丸みを帯び、体部は内湾気味に立ち上がる。外面底部に墨書。胎土は密。	
697	〃	P327	土師器蓋	－	(0.9)	－	－ 橙色 灰白色	②丁寧なナデ。③蓋の摘み部。摘みは釦状を呈し、中央が山形に突出する。胎土は密。摘み径 2.7cm。	
698	〃	P338	須恵器甕	－	(13.6)	－	灰白色 灰黄色 黄灰色	①ハケが薄く残る。②やや目の細かいタタキ。③胴部は緩やかに内湾する。器壁には気泡による凹凸がみられる。	
699	〃	P342	土師器杯	－	(1.8)	9.8	にぶい橙色 〃 灰褐色	①②回転ナデ。底部外縁に指頭圧痕。③やや突出する平底。底部回転糸切り痕。胎土微細ガラス多含。	
700	〃	〃	須恵器杯	－	(1.6)	(10.2)	灰白色 灰色 灰白色	①②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状にやや開き、端部は中央が凹状の面をなす。胎土微細な白色砂粒を含む。	
701	〃	P352	土師器杯	12.8	3.0	9.5	黄橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。体部は内湾気味に上がり、口縁端部は丸く収める。底部ヘラ切り。外面底部に墨書「中敷ヵ仁」。	
702	〃	〃	土師器杯	13.8	3.0	8.6	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びて体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。底部ヘラ切り。外面底部中央付近に墨書。	
703	〃	〃	土師器杯	12.8	3.5	7.5	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯び、体部は直線的に外上方に上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。底部ヘラ切り。	
704	〃	P362	土師器杯	－	(1.1)	6.6	橙色 〃 〃	①②ナデ。③上げ底気味の平底。底部外縁は丸みを帯びる。	
705	〃	P365	須恵器杯	15.4	(2.1)	－	灰白色 〃 〃	①②ナデ。③体部はやや内湾して上がる。口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土微細な角閃石を含む。	
706	〃	P366	土師器杯	－	(2.9)	5.4	にぶい橙色 〃 褐灰色	①回転ナデ。②回転ナデ・ヘラミガキ。③輪高台。高台はやや内側に下がる。高台端部は丸みを帯び、内側に巻き込むように成形する。体部は緩やかに内湾して立ち上がる。胎土は密。	
707	〃	P380	須恵器杯か	－	(1.3)	8.4	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びて体部は上方に立ち上がる。胎土は密で微細な白色砂粒を含む。	
708	〃	P393	弥生土器甕	－	(14.9)	－	にぶい褐色 黒褐色 にぶい橙色	①ナデ・ユビナデ。②タタキ後凝位ハケ。タタキ目が薄く残る。③実気味の丸底とみられる。胴部は長胴を呈する。	
709	〃	P396	土師器皿	13.8	1.3	10.2	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。底部外縁はやや稜をなす。口縁部は外反し、端部は丸く収める。胎土は密。	
710	〃	P412	土師器高杯	－	(3.1)	－	にぶい褐色 にぶい橙色 〃	①ナデ。②ハケ・ナデ。③脚部～杯部にかけて緩やかに屈曲する。杯部の内面底部は平坦面をなさない。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
711	南区	P422	須恵器 杯	–	(1.3)	7.8	黄灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③貼付による輪高台。高台は垂直に短く下がり、端部は丸みを帯びた面をなす。底部を内側にやや押し上げる。胎土微細な白色砂粒を含む。	
712	〃	P436	土師器 杯	–	(1.1)	7.4	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	①回転ナデ。②ナデ。③柱状高台風の底部。底部外縁は丸みを帯びる。底部ヘラ切り。胎土は密。	
713	〃	P437	弥生土器 甕	14.8	(3.8)	–	灰褐色 〃 〃	①ハケ。口縁部ヨコナデ。②タタキ。口縁部ヨコナデ。③頸部はくの字状に強く屈曲し、口縁部は外反する。口縁端部は外傾する面をなし、下端を拡張する。	
715	〃	P441	土師器 杯	–	(2.7)	6.4	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①②ナデ。③底部はつぶれた円盤状。体部は内湾して立ち上がる。外面底部～体部下位の一部に煤付着。	
716	〃	P452	弥生土器 甕	15.0	(2.2)	–	橙色 黒色 浅黄橙色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。外面口縁部に煤が厚く付着する。	
718	〃	P459	土師器 杯	–	(1.4)	8.0	橙色 〃 浅黄橙色	①回転ナデ。②ナデ。③平底。底部外縁に粘土のナデ付けがみられる。底部ヘラ切り。胎土は密。	
719	〃	P462	弥生土器 壺	–	(4.0)	–	明赤褐色 橙色 灰黄褐色	①ハケ・ナデ。②ナデ。③内面頸部はやや稜をなして上がる。外面胴部上位～頸部に残存部で３段の刺突文が認められる。刺突文は竹管状工具で水平に深さ 15 ～ 2mmまで窄つ。	弥生中期前半か。
720	〃	P469	土師器 鉢	–	(11.7)	6.2	灰黄褐色 にぶい橙色 〃	①ナデ・ヘラケズリ。底部に指頭圧痕。②凝位ハケ。底部ナデ。③やや上げ底気味の平底。胴部は僅かに内湾して外上方に上がる。	
721	〃	P472	弥生土器 甕	13.8	(4.5)	–	にぶい橙色 黄灰色 褐灰色	①ナデ。②右上がりタタキ。③頸部はくの字状。口縁部は外反する。口縁端部は面をなして外方に反り、先端を下方に拡張する。胎土微細ガラスを含む。	
722	〃	〃	弥生土器 甕か	–	(1.8)	5.4	浅黄橙色 にぶい黄橙色 灰色	①ナデ。底部に指頭圧痕。②タタキ。底部ナデ。③丸底を指向するが、突出する僅かな平坦面を残す。	
723	〃	P542	弥生土器 甕	14.5	(4.5)	–	浅黄橙色 〃 灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③頸部はくの字状。口縁部は外上方に上がり、端部は丸く収める。	
724	〃	〃	土師器 杯	13.9	4.4	8.8	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びて立ち上がり、体部は内湾して口縁部に至る。口縁端部は丸く収める。胎土微細な白色砂粒を含む。	
725	〃	P544	弥生土器 壺か甕	–	(3.7)	7.0	褐灰色 にぶい橙色 黄灰色	①ナデ。②ハケ・ナデ。③突出する平底。	
726	〃	P545	土師器 甕	16.6	(2.1)	–	オリーブ褐色 黒色 暗灰黄色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ。③口縁部は外反して短く上がる。口縁端部は面をなし、外側に折り返して肥厚させる。外面煤付着。	
727	〃	P546	弥生土器 甕	17.1	(11.2)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	①②ハケ・ナデ。③胴部～口縁部にかけてS字状のカーブを描く。口縁端部は丸く収める。外面胴部上位に３条の粗雑な凹線が巡る。胎土 1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
728	〃	P549	土師器 供膳具	–	(1.7)	–	橙色 〃 にぶい橙色	①丁寧なナデ。②回転ナデ。③輪高台。高台は断面三角形で端部は細く仕上げる。胎土は密。	
729	〃	P552	土師器 供膳具	–	(1.6)	–	浅黄橙色 灰黄褐色 灰白色	①摩耗。②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状にやや開き、端部は丸みを帯びた面をなす。	
730	〃	P560	弥生土器 甕か	–	(2.8)	2.1	浅黄橙色 にぶい褐色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。底部にタタキ目が残る。③底部は尖底を指向するが狭い平坦面を残す。	
731	〃	P563	弥生土器 壺	–	(1.6)	–	褐灰色 にぶい黄橙色 褐灰色	①②ナデ。③口縁部はラッパ状に開き、端部は面をなす。口縁端部外縁に刺目。外面に２条とみられる筋状の隆線紀旁帯。突帯の間をナデで僅かに凹まする。外面口縁部に煤付着。	弥生中期か。
732	〃	P569	弥生土器 壺	21.8	(13.8)	–	にぶい橙色 〃 褐灰色	①ハケ・ナデ。口縁部ロナデ。②ハケ・ヘラミガキ。口縁部肥厚部ユビオサエ。③口縁部はラッパ状に開く。口縁端部は面をなし、外端に折り返して肥厚させる。外面頸部胴部境界に押圧による刺し	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
733	南区	P572	土師器高杯	－	(1.8)	－	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①ナデ・ヘラミガキ。②ナデ。③杯部。脚部から緩やかに屈曲して杯部に至る。体部は緩やかに内湾する。	
734	〃	P574	土師器皿か杯	－	(1.9)	7.4	にぶい黄橙色 灰白色 〃	①回転ナデ。②摩耗。③やや突出する平底。体部は内湾して立ち上がる。底部回転糸切り痕。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
735	〃	P588	弥生土器甕	14.4	(5.5)	－	浅黄橙色 にぶい橙色 黄灰色	①ハケ・ナデ。②タタキ。①口縁部ナデ・ユビオサエ。③頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し、端部は面をなす。	
736	〃	〃	弥生土器壺か	15.0	(1.8)	－	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	①ハケ・ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部は外反し、端部は面をなす。	
737	〃	P593	弥生土器甕	18.4	(8.4)	－	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	①ヘラミガキ。口縁部横位ハケ。②頸部縦位ヘラミガキ。口縁部コテナデ。③頸部～口縁部は外反する。口縁端部は面をなし、外側をやや肥厚させる。胴部上位に突帯及びその上下に刺目。	
738	〃	P596	弥生土器甕か鉢	－	(4.2)	8.0	橙色 〃 〃	①ナデ。底部に指頭圧痕が明瞭に残る。②ナデ。③平底。胴部下位は直線的に外上方に上がる。胎土微細ガラスを含む。	
739	〃	P597	弥生土器壺	－	(3.7)	－	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①②ナデ。③口縁部はラッパ状に開き、端部は面をなす。口縁端部外縁に刺目。外面２段の鋸状の微隆起突帯。突帯間をナデで凹状に仕上げる。	
740	〃	P604	土師器鉢	－	(4.5)	4.6	灰黄褐色 黒褐色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。底部に指頭圧痕。②ナデ・ユビオサエ。③底部は柱状に突出する。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
741	〃	P611	土師器杯	－	(2.4)	－	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は直線的に上がり口縁部に至る。口縁端部は丸く収める。胎土はやや密で微細ガラスを含む。	
742	〃	P630	土師器杯	－	(1.8)	－	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部は直線的に外上方に上がる。口縁端部は丸く収め、外側にやや反る。胎土はやや密。	
743	〃	P641	弥生土器甕	－	(16.6)	－	浅黄橙色 〃 灰色	①ハケ・ナデ。②タタキ後ハケ・ナデ。③尖気味の丸底。胴部はやや長胴形を呈し、最大径を中位に持つ。	
744	〃	P642	弥生土器甕か鉢	－	(5.7)	7.0	浅黄橙色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ後ハケ。底部ナデ。③平底。胴部は内湾気味に上がる。	
745	〃	P650	土師器皿	－	(1.0)	－	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③体部～口縁部にかけて直線的に外上方に上がる。口縁端部は丸く収め、内側をわずかに肥厚させる。胎土はやや密。	
746	〃	P659	土師器杯	－	(1.4)	6.0	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③底部は円盤状にやや突出する。底部ヘラ切り。	
747	〃	P662	土師器甕	18.7	(2.5)	－	にぶい黄橙色 〃 〃	①ハケ。②ナデ・ユビオサエ。③頸部で屈曲し、口縁部は外上方に短く上がり、端部は面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
748	〃	P663	土師器皿	9.2	1.9	6.0	にぶい橙色 〃 灰黄褐色	①回転ナデ。底部に回転によるユビナデ痕が残る。②回転ナデ。③平底。口縁部は外上方に上がり、端部は丸く収める。底部ヘラ切り。胎土1mm程度の石透色砂粒を含む。微細ガラス多含。	
749	〃	P699	土師器杯	－	(1.4)	－	にぶい褐色 〃 にぶい橙色	①②回転ナデ。③口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。胎土は密で微細ガラスを含む。	
750	〃	P711	土師器杯	－	(1.3)	7.1	にぶい橙色 橙色 灰白色	①②回転ナデ。③平底。体部は直線的に外上方に立ち上がる。胎土はやや密。	
751	〃	P715	土師器杯	－	(1.2)	－	橙色 〃 にぶい橙色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。底部ヘラ切り。胎土は密で微細ガラスを含む。	
752	〃	P718	土師器杯	－	(3.8)	－	にぶい黄橙色 灰白色 〃	①②ナデ・ヘラミガキ。③体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部はやや外反し、端部は丸く収める。胎土はやや密で微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
753	南区	P719	土師器皿	10.0	1.5	7.4	浅黄橙色 ＊ 浅黄橙色／黄灰色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁はえんみを帯びる。体部は内湾し、口縁端部は細く仕上げる。胎土 1.5mm程度の白透色砂粒を含む。	
754	＊	P734	土師器皿	16.1	(1.7)	－	にぶい橙色 橙色 ＊	①②回転ナデ。③底部外縁はえんみを帯びる。口縁端部はえく収める。胎土微細ガラスを含む。	
755	＊	＊	土師器杯か椀	－	(1.1)	6.0	褐灰色 灰黄褐色 褐灰色	①②回転ナデ。③柱状高台風の底部。回転糸切り痕。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
757	＊	P739	土師器甕	－	(3.0)	－	橙色 にぶい橙色 灰色	①ハケ・ナデ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は緩やかに外反し、端部は面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
758	＊	P741	土師器器台	9.6	(1.5)	－	橙色 ＊ ＊	①②回転ナデ。③口縁部は直線的に外上方に上がり、端部は尖気味に丸く収める。外面に煤付着。胎土 1mm大の角閃石を含む。	
759	＊	＊	土師器杯	9.4	2.2	6.5	橙色 にぶい橙色 橙色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁はえんみを帯びる。口縁端部は丸く収め、内側をやや肥厚させる。底部回転糸切り痕。胎土微細な褐色・黒色砂粒及び微細ガラスを含む。	
760	＊	P743	土師器杯	－	(1.6)	－	橙色 ＊ にぶい橙色	①②回転ナデ。③体部は緩やかに内湾し、口縁部はやや外反する。口縁端部は丸く収め、内側をやや肥厚させる。胎土はやや密。	
762	＊	P745	土師器皿	－	(1.3)	－	橙色 ＊ ＊	①②ナデ。③体部は直線的に外上方に上がり、口縁端部は丸く収める。胎土微細ガラスを含む。	
763	＊	P747	弥生土器壺	－	(1.1)	－	にぶい橙色 ＊ にぶい黄橙色	①ナデ。②ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部はラッパ状に開く。口縁端部は外傾する面をなし、下端を段和に拡張する。口縁端部に５本ないし６本の櫛描き波状文を施す。	
764	＊	P749	土師器壺	17.4	(2.2)	－	にぶい黄橙色 ＊ 浅黄橙色	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部は内湾気味に外上方に上がる。口縁端部は中央が凹状の面をなし、上下にやや拡張する。	
765	＊	P751	須恵器杯	－	(1.3)	5.9	灰黄色 ＊ ＊	①②回転ナデ。③柱状高台風の底部。回転糸切り痕。	
766	＊	P757	土師器杯	12.4	2.7	7.2	にぶい黄褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	①②回転ナデ。③平底。体部は僅かに内湾して立ち上がる。口縁端部は細く仕上げる。底部回転糸切り痕。胎土 1mm程度の褐色砂粒及び黒褐色白色砂粒多含。	搬入品か。
767	＊	＊	須恵器杯	－	(1.1)	6.7	灰色 ＊ ＊	①②回転ナデ。③底部は短い柱状を呈し、ハの字状にやや開く。底部回転糸切り痕。胎土は密で微細ガラスを含む。	
768	＊	P765	土師器皿	8.6	(1.3)	－	にぶい橙色 明黄褐色 橙色	①②回転ナデ。③体部はやや内湾し、口縁端部は丸く収める。	
769	＊	P766	黒色土器供膳具	－	(1.3)	7.3	暗灰色 ＊ 黄灰色	①ヘラミガキ。②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に開き、端部はえんみを帯びた面をなす。内外面黒色。胎土は密で微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
770	＊	P767	土師器鉢	－	(5.3)	－	にぶい橙色 黄灰色 灰白色	①ナデ。②ナデ・ユビオサエ。③口縁部はやや外反し、端部は中央が凹状の面をなして外側をやや肥厚させる。外面口縁部に粘土接合痕。外面に煤付着。胎土微細ガラスを含む。	
771	＊	P773	土師器鉢	－	(4.1)	4.2	にぶい黄橙色 ＊ 灰色	①ハケ。底部ナデ。②ナデ。③底部は丸底を指向するが僅かな平坦面を残す。胴部は内湾して上がる。胎土 1mm程度の白透色砂粒及び微細ガラスを含む。	
772	＊	P774	土師器壺	13.2	(1.8)	－	橙色 ＊ 灰色	①②口縁部ヨコナデ。③口縁部はラッパ状に開き、端部は丸く収める。胎土 0.5mm程度の白透色砂粒及び微細な白色砂粒を含む。	
773	＊	P781	弥生土器ミニチュア土器	6.0	4.6	3.0	にぶい黄橙色 ＊ ＊	①②ナデ・ユビオサエ。③手捏ね成形による鉢形の土器。底部は柱状に突出する。胴部は緩やかに内湾して上がる。口縁端部は丸く収める。胎土はやや粗で微細ガラスを含む。	
774	＊	P784	弥生土器鉢	8.0	(2.6)	－	にぶい橙色 ＊ 灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③体部は緩やかに内湾して上がる。口縁端部は丸みを帯びた面をなす。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
775	南区	P795	土師器鉢	19.0	(2.0)	–	浅黄橙色 橙色 灰白色	①丁寧なナデ。②丁寧なナデ。口縁部ヨコナデ。③体部は緩やかに内湾して上がり、口縁端部は面をなす。外面器壁に焼成に伴う凹凸が認められる。胎土はやや密。	
776	〃	P812	弥生土器甕	10.3	(3.6)	–	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①ハケ。口縁部ヨコナデ。②タタキ。③内面頸部で稜をなして屈曲する。口縁部は外反し、端部は中央がやや凹状の面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
777	〃	P813	弥生土器甕	–	(3.9)	8.6	にぶい黄橙色 橙色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②縦位ハケ。ナデ。③平底。胴部は内湾気味に上がる。	
778	〃	P817	土師器杯	10.4	(1.9)	–	橙色 明赤褐色 橙色	①②回転ナデ。③体部は内湾気味に上がり、上位でくびれる。口縁端部は丸く収め、内側と外側をやや肥厚させる。胎土微細ガラスを含む。	
779	〃	P823	土師器甕	–	(2.3)	–	明黄褐色 浅黄橙色 灰黄色	①ナデ。②ナデ。口縁部ユビオサエ。③口縁部は外反する。口縁端部は丸みを帯びた面をなし、外側に折り返して僅かに肥厚させる。	
780	〃	P829	土師器椀	14.3	5.9	6.9	橙色 明赤褐色 浅黄橙色	①ナデ・ヘラミガキ。②ナデ・ヘラミガキ。体部下位ヘラケズリ。③輪高台。高台は僅かに外方に開き、端部は面をなす。体部は緩やかに内湾する。口縁部は僅かに外反し、端部は丸く収める。	平安末か。
781	〃	〃	土師器椀	15.2	6.5	5.6	灰白色 浅黄橙色 灰白色	①②ナデ。③輪高台。高台は垂直に短く下がり、端部は丸みを帯びた面をなす。体部は緩やかに内湾し、口縁部はやや外反する。口縁端部は薄く丸く収める。内面に黒色色素付着。	
783	〃	P866	土師器蓋	15.2	(2.2)	–	にぶい橙色 〃 灰褐色	①②ナデ・ヘラミガキ。③体部は緩やかに内湾して口縁部に至る。口縁端部は丸みを帯びた面をなし、下端をやや拡張する。胎土は密で微細な褐色・黒色砂粒を含む。	
784	〃	〃	須恵器杯	–	(3.3)	10.0	灰色 〃 灰黄色	①②回転ナデ。②輪高台。③高台はハの字状に短く開き、端部は面をなす。体部下位で稜をなして立ち上がる。焼成堅緻。胎土は密で白色砂粒を含む。	
785	〃	P878	土師器鉢	15.6	8.3	4.5	にぶい黄橙色 〃 灰黄色	①ヘラナデ。底部に指頭圧痕が残る。②ナデ・ユビオサエ。③不整な丸底。底部は指により粗雑に整形する。口縁端部は面をなす。胎土2mm程度の白透色砂粒を含む。	
786	〃	Ⅲ層	弥生土器ミニチュア土器	4.7	4.9	2.9	灰色 灰白色 オリーブ黒色	①②ナデ・ユビオサエ。③手捏ね成形による鉢形の土器。突出する平底。胴部上位は外方に張り出す。口縁端部は粗放に丸く収める。胎土0.7mm程度の白透色砂粒を含む。	
787	〃	〃	土師器甕	18.4	(6.8)	–	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	①ナデ。口縁部ヨコナデ。②胴部縦位ハケ。口縁部ヨコナデ。③口縁部は外上方に短く上がり、端部は中央が凹状の面をなして上端を拡張する。胎土微細ガラスを含む。	
788	〃	〃	土師器高杯	–	(4.2)	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	①ハケ。②ナデ。③裾部は外反して開く。内面裾部に径6.5～7mmの円環状の圧痕が残る。胎土微細ガラスを含む。	
789	〃	〃	土師器皿	9.5	1.5	6.3	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	①②回転ナデ。③平底。外面体部上位で稜をなして上がり、口縁端部は丸く収める。受部は水平に伸び、端部は丸く収める。焼成不良。受部径18.0cm。	
790	〃	〃	須恵器蓋	–	(1.8)	–	灰白色 〃 〃	①回転ナデ。②回転ナデ・回転ヘラケズリ。③天井部は平坦面をなす。摘みは径2.7cmの鈕状で中央が上方にやや突出する。	8世紀中頃か。
791	〃	〃	須恵器杯	15.6	4.2	9.2	灰白色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。口縁部のかえりは上方に上がり、端部は丸く収める。受部は水平に伸び、端部は丸く収める。焼成不良。受部径18.0cm。	
792	〃	〃	須恵器杯	12.6	4.7	8.0	黄灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③底部は丸みを帯びた平底。口縁部のかえりはやや内傾して短く上がり、端部は細く仕上げる。受部はやや上方に短く上がり、端部は丸く収める。受部径14.6cm。	6世紀末か。
793	〃	〃	製塩土器	–	(3.9)	–	にぶい黄橙色 〃 灰色	①右目圧痕。②ナデ。③胴部片とみられる。胎土微細な白色砂粒多含。	
794	〃	Ⅲ・Ⅳ層	弥生土器壺	16.8	(2.8)	–	浅黄橙色 〃 灰色	①ナデ。②ナデ。口縁部ハケ。③口縁部はラッパ状に開く。口縁端部は外傾する面をなし、面が2期に分離す。刻目が内外にハケ状工具による痕跡が残る。胎土1.5mm程度の石透色砂粒を含む。	
795	〃	〃	弥生土器鉢	–	(6.1)	1.6	にぶい黄橙色 〃 黄灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③丸底を指向するが、円形に粘土を盛り僅かに突出さる。胴部は緩やかに内湾して上がる。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	法量（cm）器高	法量（cm）底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
796	南区	Ⅲ・Ⅳ層	土師器 壺	20.2	(3.6)	–	オリーブ黒色 にぶい褐色 灰黄褐色	①口縁部ヨコナデ。②口縁部縦位ハケ・ヨコナデ。③複合口縁壺。口縁端部は中央がやや凹む面をなし、内側をやや拡張する。胎土微細ガラス多含。	
797	〃	〃	土師器 高杯	–	(3.5)	–	灰黄褐色 〃 浅黄橙色	①②ハケ・ヘラミガキ・ユビオサエ。③脚部は太く短い。裾部は外反する。杯部の内面底部は漏斗状を呈する。胎土微細ガラスを含む。	
798	〃	〃	土師器 杯	14.3	4.5	7.7	にぶい橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。体部は直線的に外上方に上がる。口縁部は角度を変えてやや開き、端部は丸く収める。底部回転糸切り痕。	
799	〃	〃	土師器 供膳具	–	(2.3)	7.0	にぶい橙色 〃 灰黄色	①ナデ・ヘラミガキ。②回転ナデ。③輪高台。高台は僅かに外反し、ハの字状に開く。体部下位は稜をなして立ち上がる。胎土微細ガラスを含む。	
800	〃	〃	土師器 羽釜	19.8	(3.9)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	①口縁部ヨコナデ。②ナデ。口縁部及び鍔部ヨコナデ。③口縁端部は水平な面をなし、内側を拡張する。鍔部は外上方に上がり、端部は面をなして上端を拡張する。胎土微細ガラス多含。	
801	〃	〃	土師器 羽釜	18.0	(3.9)	–	にぶい褐色 〃 灰黄褐色	①口縁部横位ハケ。②鍔部及び口縁部ヨコナデ。③口縁端部は中央が凹状の面をなす。鍔部は水平に近い角度で伸びず、端部は中央がやや凹状の面をなす。胎土雲母片及び微細ガラスを含む。	
802	〃	〃	須恵器 壺	19.1	(4.5)	–	にぶい黄橙色 〃 〃	①回転ナデ。②頸部タタキ後回転ナデ。③口縁部は外反する。口縁端部は面をなし、上端をやや拡張する。焼成不良。	
803	〃	〃	須恵器 蓋	9.3	(2.2)	–	灰色 〃 〃	①②回転ナデ。③口縁部のかえりは垂直に近い角度で下がり、端部は細く仕上げる。受部は水平に伸び、端部は丸く収める。焼成良好堅緻。胎土雲母片多含。	7 世紀後半か。
804	〃	〃	須恵器 椀	–	(2.6)	6.2	にぶい橙色 〃 にぶい褐色	①②回転ナデ。③柱状高台。高台はハの字状に開く。体部下位は稜をなして上がる。底部回転糸切痕。内外面底部及び体部に火襷。焼成やや不良。胎土微細な白色砂粒多含。	
805	〃	〃	青磁 椀	–	(2.4)	–	浅黄色 〃 灰黄色	③体部下位から緩やかに内湾して立ち上がる。内面斜花文。内外面に釉を薄く施す。貫入あり。	
806	〃	〃	白磁 椀	–	(2.5)	6.9	灰白色 〃 〃	③柱状高台の外周部を浅く削り出し輪高台風に仕上げる。畳付は外縁を面取りし、完全輪に仕上げる。内面体部立ち上がり付近に1条の沈線が巡る。内外面施釉。外面体部下位～底部露胎。	
809	〃	Ⅳ層	弥生土器 壺	–	(7.1)	–	橙色 にぶい橙色 褐灰色	①ハケ・ヨコナデ。②ナデ・ヨコナデ・ユビオサエ。③複合口縁壺。頸部はくの字状。口縁部の低由部は外側に張り出し段をなす。胎土微細ガラスを含む。	
810	〃	〃	弥生土器 壺	17.0	(3.5)	–	浅黄橙色 〃 褐灰色	①ナデ。口縁部ユビオサエ。②ハケ。口縁部ユビオサエ。③口縁部はラッパ状に開き、端部は面をなして上端と下端をやや拡張する。	
811	〃	〃	弥生土器 甕	–	(5.1)	5.2	にぶい黄橙色 〃 灰白色	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ・ユビオサエ。底部ナデ。③底部はつぶれた円盤状に突出する。胎土は緻やかに内湾して上がる。胎土 1mm程度の石透色砂粒を若干含み、微細ガラスを含む。	
812	〃	〃	弥生土器 鉢	18.4	(4.9)	–	にぶい橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ハケ。②タタキ。③胴部は緩やかに内湾して上がる。口縁端部は丸く収め、外側を僅かに肥厚させる。	
813	〃	〃	弥生土器 鉢	10.9	6.7	2.5	橙色 〃 黄灰色	①ハケ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。体部下位タタキ。③狭く突出する平底。口縁部は粗放に細く仕上げる。胎土微細ガラスを含む。	
814	〃	〃	弥生土器 鉢	7.3	2.0	2.8	橙色 〃 にぶい黄橙色	①②ナデ・ユビオサエ。③浅い皿状の鉢。胴部は緩やかに内湾して上がり、口縁端部は粗放に細く仕上げる。胎土微細ガラスを含む。	
815	〃	〃	弥生土器 有孔鉢	–	(3.2)	6.6	灰黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	①ナデ。底部ユビオサエ。②ナデ。胴部下位下→上主体のヘラケズり。③平底。底部中央付近に穿孔。焼成後に外部から穿たとみられる。胎土 1mm大の石透色砂粒を含む。微細ガラス多含。	
816	〃	〃	弥生土器 鉢	–	(4.4)	4.1	にぶい黄橙色 灰色 〃 黄灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。胴部下位にヘラによる整形痕が残る。③平底。胴部は緩やかに内湾して上がる。胎土微細ガラスを含む。	
817	〃	〃	弥生土器 高杯	–	(3.4)	–	にぶい橙色 〃 黄灰色	①ナデ。②丁寧なナデ・工具ナデ。③脚部片。脚部は下方から径 8mm程度の円柱状に穿孔を施し中空とする。胎土 1mm程度の白透色砂粒を含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）口径	法量（cm）器高	法量（cm）底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
818	南区	Ⅳ層	弥生土器 高杯	–	(3.8)	–	にぶい橙色 橙色 浅黄橙色	①脚部ナデ。杯部へラミガキ。②脚部へラミガキ。③脚部は中空でハの字状に短く下がり、屈曲して裾部は外方に大きく開く。裾部の残存部に穿孔が2個認められる。	
819	〃	〃	弥生土器 高杯	–	(4.8)	–	橙色 〃 にぶい橙色	①脚部ハケ・ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ヘラミガキ。③脚部はハの字状に下がり、裾部で角度を変えて外方に開く。脚部に径5.5mm程度の外面からの焼成前穿孔。	
820	〃	〃	弥生土器 高杯か器台	–	(3.8)	–	灰黄褐色 〃 にぶい褐色	①②ナデ・ユビオサエ。③脚部上位は直線的に外方に下がる。受部あるいは内面底部は中心に向け僅かに傾斜する面をなす。胎土微細な白色砂粒及び微細ガラスを含む。	
821	〃	〃	土師器 皿	8.7	2.6	4.5	橙色 にぶい橙色 〃	①②回転ナデ。③柱状高台。高台はハの字状に若干開く。高台側面に沈線状のロクロ整形痕が残る。口縁端部は丸く収める。底部回転糸切り痕。ロクロ回転は右切り痕。	
822	〃	〃	土師器 皿	9.8	1.7	5.8	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	①②回転ナデ。③丸みを帯びた平底。底部外縁は丸みを帯びる。口縁端部は丸く収める。底部ヘラ切り。胎土微細ガラスを含む。	
823	〃	〃	土師器 皿	8.8	2.9	5.1	浅黄橙色 橙色 浅黄橙色	①②回転ナデ。③輪高台。体部下位に高台を貼付した際の粘土接合痕が明瞭に残る。高台はハの字状に開き、端部は面をなす。胎土微細ガラス多含。	
824	〃	〃	土師器 杯	14.2	3.0	9.4	橙色 〃 〃	①②回転ナデ。③平底。体部は直線的に上がる。口縁端部は丸く収める。底部ヘラ切り。胎土1mm程度の褐色砂粒を含む。	
825	〃	〃	土師器 杯	9.8	2.1	6.6	橙色 〃 にぶい橙色	①②回転ナデ。③平底。底部外縁は丸みを帯びる。口縁部は外反し、端部は丸く収める。内面底部に工具による緩沈痕。底部ヘラ切り。胎土微細ガラスを含む。	
826	〃	〃	土師器 杯	9.2	1.8	6.9	にぶい橙色 橙色 灰白色	①②回転ナデ。③平底。体部は直線的に上がる。口縁端部は丸く収める。底部ヘラ切り。	
827	〃	〃	土師器 杯	–	(3.0)	–	橙色 〃 〃	①ヘラミガキ。立ち上がり付近に鋭利な工具による緩位の痕跡。②回転ナデ。③底部は欠損するが、高台を有するとみられる。体部は緩やかに内湾して立ち上がる。内面体部下位に暗文。	
828	〃	〃	土師器 杯	–	(1.3)	7.5	橙色 〃 にぶい黄橙色	①②回転ナデ。③やや丸みを帯びた平底。底部外縁は丸みを帯びる。底部糸切り痕。胎土は密。	
829	〃	〃	土師器 杯	–	(2.6)	7.0	浅黄橙色 〃 灰白色	①丁寧なナデ。②回転ナデ。③輪高台。高台は外方にやや開き、端部は粗放な平坦面をなして内側にやや低落する。体部は緩やかに内湾して立ち上がる。胎土微細ガラスを含む。	
830	〃	〃	土師器 椀	13.4	4.4	5.6	灰白色 〃 〃	①回転ナデ。底部ナデ。②回転ナデ。③輪高台。高台端部は面をなす。口縁部は外反し、端部は丸く収める。高台内に糸切り痕が薄く残る。内面底部、外面底部及び体部に火襷。	
831	〃	〃	土師器 甑	–	(4.1)	–	にぶい黄橙色 黄灰色	①ナデ。②ハケ・ユビオサエ。③甑の把手部。把手は外上方に伸び、端部は上方にやや湾曲する。	
832	〃	〃	土師器 羽釜	18.5	(3.1)	–	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	①②ヨコナデ。鍔部上・下面ユビオサエ。③口縁端部は水平な面をなす。鍔部は水平に近い角度で伸び、端部は丸く収める。丸みを帯びた面をなす。鍔部下側に接合痕。胎土微細ガラスを含む。	
833	〃	〃	須恵器 壺	10.1	(3.6)	–	にぶい黄橙色 灰オリーブ色 灰白色	①②回転ナデ。③短頸壺。頸部はくの字状。口縁端部は中央がやや凹状の面をなす。外面に緑色及び青色の自然釉が見られ、内面口縁部に透明の自然釉が若干みられる。焼成良好堅緻。	
834	〃	〃	須恵器 壺	–	(2.5)	14.7	黄灰色 灰色 黄灰色	①ナデ。②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に開き、端部は面をなす。内面底部は粗く仕上げ、緑色の自然釉が薄くみられる。胎土微細な白色砂粒を含む。	
835	〃	〃	須恵器 鉢	–	(3.7)	11.1	灰色 黄灰色 灰白色	①回転ナデ。②回転ナデ。底部ナデ。③平底。胴部は張かに内湾して上がる。焼成良好堅緻。胎土微細な白色砂粒を含む。	
836	〃	〃	須恵器 杯	–	(1.8)	9.2	灰白色 灰色 〃	①②回転ナデ。③輪高台。高台はハの字状に開く。高台端部は面をなし、内側と外側にやや拡張する。体部下位は屈曲して立ち上がる。胎土微細な白色砂粒を含む。	8世紀前半か。
837	〃	〃	須恵器 杯か	–	(3.3)	8.8	灰黄色 灰白色 灰黄色	①②回転ナデ。③輪高台。高台は垂直に近い角度で下がり、端部は面をなす。高台から体部下位にかけて後をなさず滑らかに立ち上がる。胎土微細な白色砂粒を含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量（cm）			色調	特徴	備考
				口径	器高	底径	内面・外面・断面	①内面調整 ②外面調整 ③形状等	
838	南区	Ⅳ層	須恵器杯	－	(1.7)	6.6	灰白色 黄灰色 灰白色	①②回転ナデ。③柱状高台風の底部。高台はハの字状に開く。底部回転糸切り痕。胎土微細な白色砂粒を含む。	9世紀か。

番号	調査区	遺構層位	器形	法量（cm）口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
23	北区	ST1	支脚	－	(6.1)	6.1	にぶい橙色 明黄褐色 灰黄色	①②ナデ・ユビオサエ。③脚部は中空で、ハの字状にやや開く。底部は円環状で平坦面をなす。胎土1mm程度の白透色砂粒を含む。	
60	〃	ST2	支脚	－	(7.8)	－	灰黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②水平タタキ・ユビオサエ。③脚部は中空で裾部は外側に開く。胎土微細ガラス含む。	
96	〃	SK1	支脚	－	(6.4)	9.1	にぶい黄橙色 〃 〃	①ナデ・ユビオサエ。②タタキ。③脚部は中空で、ハの字状に開く。底部は環状の粗放な平坦面をなす。	
97	〃	〃	支脚	全長 (8.9)	－	－	－ にぶい黄橙色 黄灰色	②ハケ・ナデ。③角部片。角部はやや湾曲して伸び、端部はやや粗放に丸く仕上げる。胎土微細ガラス多含。	
176	〃	SK27	支脚	－	(7.3)	－	灰黄褐色 黄灰色 にぶい黄橙色	①ヘラケズリ・ナデ・ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。③脚部は中空。裾部は角度を変えて開く。胎土は粗。	
192	〃	SD1	平瓦	全長 (8.6)	全幅 (7.0)	全厚 1.7	にぶい黄橙色 浅黄橙色 にぶい黄橙色	①凹面布目圧痕。②凸面タタキ目。③焼成やや不良。胎土白色砂粒を含む。	
212	〃	SD2	平瓦	全長 (6.6)	全幅 (6.0)	全厚 2.6	黄灰色 〃 灰白色	①凹面布目圧痕。②凸面格子状タタキ目。③焼成良好。胎土微細な白色砂粒を含む。	
213	〃	〃	平瓦	全長 (13.2)	全幅 (8.3)	全厚 2.2	灰色 灰白色 灰色	①凹面布目圧痕。②凸面縄目圧痕。③短辺側面に工具痕。焼成良好堅緻。胎土微細な白色砂粒を含む。	
226	〃	SD22	支脚	－	(4.5)	8.4	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	①ナデ。②ユビオサエ。③脚部は中空。底部は平坦面をなし、外縁を外側に大きく拡張する。体部は上方に立ち上がる。胎土は粗。	
238	〃	SX2	支脚	－	(6.4)	－	にぶい橙色 浅黄橙色 褐灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ハケ・ナデ。ハケ圧痕が残る。③円筒状とみられる。脚部は外方に開く。	
266	〃	P197	支脚	－	(5.3)	7.2	灰黄褐色 褐灰色 にぶい黄橙色	①②ナデ・ユビオサエ。③脚部は中空でやや外方に開き、底部は段をなして外側に大きく張り出す。接地面は粗放な扶い面をなす。胎土は粗で微細ガラス多含。	
267	〃	P199	土錘	全長 (3.3)	全幅 1.1	全厚 1.2	－ にぶい黄橙色 灰色	③管状土錘。中央付近が僅かに張る。孔は長径4mm程度の楕円形で、中心軸からややずれた位置に穿孔される。重量3.8g	
279	〃	Ⅲ層	平瓦	全長 (9.3)	全幅 (6.6)	全厚 2.4	にぶい黄橙色 〃 〃	①凹面布目圧痕。②凸面縄目圧痕。指頭圧痕が残る。③堅緻。やや焼成不良。	
385	南区	ST3	支脚	(13.4)	(5.8)	－	橙色 〃 褐灰色	①底部ハケ・ナデ・ユビオサエ。②ユビオサエ。③底部は上げ底状。体部上位は角部の反対側にとレ状の突起を形成する。	
386	〃	〃	支脚	－	(4.1)	8.8	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	①ユビオサエ。②ナデ・ユビオサエ。③底部は上げ底状。裳形を呈する。胎土微細ガラス若干含む。	
387	〃	〃	支脚	－	(7.3)	8.4	にぶい橙色 〃 にぶい黄橙色	①ナデ・ユビオサエ。②ユビオサエ。③底部は薄く外側に拡張する。	
436	〃	ST4	支脚	－	8.7	9.2	にぶい橙色 浅黄橙色 褐灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③脚部は中空で外方に開き、端部は丸く収める。受部頂面は円状を呈する。	
437	〃	〃	支脚	－	(3.2)	10.0	黄灰色 灰黄色 黄灰色	①②ユビオサエ。③脚部は中空。脚部端部は平坦面をなす。胎土微細ガラスを含む。	
458	〃	ST5	支脚	－	(8.6)	－	にぶい黄橙色 黄灰色	①②ナデ・ユビオサエ。③体部から屈曲して角部に至る。角部は先端が欠損するが、斜め上方に上がる。	
469	〃	ST6	支脚	－	(7.4)	7.7	にぶい黄橙色 〃 灰色	①ナデ・ユビオサエ。②凝位タタキ・ユビオサエ。③底部は円環状の面をなし、外方に張り出す。脚部は中空。体部ははぼ垂直に上がる。	

番号	調査区	遺構層位	器形	法量（cm） 口径	器高	底径	色調 内面・外面・断面	特徴 ①内面調整 ②外面調整 ③形状等	備考
536	**南区**	**ST8－P5**	**土錘**	**全長(3.5)**	**全幅1.1**	**全厚1.1**	**黒褐色 〃 〃**	**③管状土錘。体部の膨らみは無くほぼ円筒形。孔径3.0×2.5mmの楕円形。胎土は密で微細ガラスを含む。重量4g**	
562	〃	SK50	土錘	全長(4.2)	全幅1.5	全厚1.5	橙色 〃 浅黄橙色	③管状土錘。紡錘形を呈する。孔径5.0mm。胎土砂粒を含む。重量10g	
563	**〃**	**SK51**	**土錘**	**全長(4.7)**	**全幅1.2**	**全厚1.0**	**にぶい黄橙色 〃 〃**	**③管状土錘。細長い形状で、端部がやや屈曲する。孔径3.0mm。胎土砂粒を含む。重量4g**	
580	〃	SK63	土錘	全長5.0	全幅1.9	全厚1.7	－ 浅黄橙色 〃	③ほぼ完形の管状土錘。紡錘形を呈する。孔径6.0mm。胎土砂粒を若干含む。重量14g	
594	**〃**	**SK65**	**支脚**	**－**	**(8.4)**	**10.7**	**灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰黄褐色**	**①②ナデ・ユビオサエ。③脚部～受部は中空。脚部は外側にやや開く。底部は円環状を呈し、接地面は平坦面をなす。受部頂面は内傾する面をなす。**	
610	〃	SK67	土錘	全長(3.5)	全幅1.1	全厚1.0	－ 橙色 〃	②丁寧なナデ。③棒状土錘の破片。両端部は欠損するが、片側に穿孔の一部が確認される。粘土紐を切断して両端に横位の孔を各一つ穿ち整形したものと考えられる。重量4g	弥生後期か。
620	**〃**	**SK69**	**支脚**	**－**	**(2.2)**	**8.2**	**にぶい黄橙色 にぶい橙色 灰黄褐色**	**①②ナデ・ユビオサエ。③脚部は縦状に外反して開き、底部は平坦面をなす。**	
632	〃	SK71	支脚	－	(4.8)	9.4	にぶい橙色 〃 灰色	①ナデ・ユビオサエ。②ユビオサエ。底部ナデ。③脚部はハの字状に下がり、角度を変えて縦状に開く。底部は円環状の平坦面をなす。胎土はやや粗。	
653	**〃**	**SD1**	**平瓦**	**全長5.2**	**全幅4.9**	**全厚1.6**	**灰白色 〃 〃**	**①凹面布目圧痕。②凸面格子状タタキ目。③焼成不良。摩耗。胎土砂粒を含む。**	
693	〃	P299	平瓦	全長(7.2)	全幅(6.4)	全厚1.5	灰白色 〃 〃	①凹面布目圧痕。②凸面は板状工具により横方向にナデた後、縦方向にナデる。③胎土砂粒を含む。焼成不良。	
694	**〃**	**P301**	**土錘**	**全長(2.7)**	**全幅1.3**	**全厚1.3**	**褐灰色 橙色 褐灰色**	**③管状土錘。やや紡錘形を呈する。孔径4.0mm。孔は中心軸からややずれる。重量4g**	
714	〃	P439	支脚	－	(6.8)	7.0	にぶい黄橙色 にぶい橙色 黄灰色	①ユビオサエ。②ユビオサエ。底部ナデ。③底部は平坦面をなす。脚部は中空で、体部は内傾して立ち上がった後緩やかに外反する。	
717	**〃**	**P455**	**支脚**	**－**	**(12.3)**	**－**	**にぶい橙色 〃 黒褐色**	**①②ハケ・ナデ・ユビオサエ。③脚部はやや内湾してドーム状に開く。体部は直線的に上がる。背面にヒレ状の突起を横方出して形成する。**	
756	〃	P738	土錘	全長(2.8)	全幅1.4	全厚1.3	－ 橙色 灰白色	③管状土錘。短い紡錘形を呈する。孔径約3.5mm。重量4g	
782	**〃**	**P847**	**土錘**	**全長(4.4)**	**全幅1.9**	**全厚1.8**	**浅黄橙色 褐灰色**	**③管状土錘。紡錘形を呈する。孔径約7.0mm。胎土微細な白色砂粒を含む。重量12g**	
839	〃	Ⅳ層	支脚	全長(7.0)	全幅(5.5)	全厚(4.6)	にぶい黄橙色 灰色	②ユビオサエ。③脚部と角部は欠損する。体部中位以下は中空。受部は面をなす。	
840	**〃**	**〃**	**支脚**	**－**	**(7.0)**	**9.5**	**浅黄橙色 灰色 黄灰色**	**①②ユビオサエ。③裁形の支脚。底部は上げ底気味で凹凸が顕著。底部中央に指による窪みを形成する。受部頂面は傾斜した面をなす。胎土1mm程度の石色砂粒及び微細ガラスを含む。**	
841	〃	〃	土錘	全長3.5	全幅1.9	全厚1.8	－ にぶい橙色	③管状土錘。紡錘形を呈する。孔径約7.0mm。重量9g	
842	**〃**	**〃**	**土錘**	**全長4.0**	**全幅2.0**	**全厚1.9**	**－ 浅黄橙色 〃**	**③管状土錘。紡錘形を呈する。孔径約6.0mm。重量11g**	
843	〃	〃	土錘	全長4.1	全幅2.1	全厚2.1	浅黄橙色 にぶい黄橙色	③管状土錘。紡錘形を呈する。孔径約6.0mm。外形に対してやや斜めに穿孔される。重量14g	

番号	調査区	遺構層位	器形	法量（cm）			色調	特徴	備考
				全長	全幅	全厚	内面・外面・断面		
24	北区	ST1	叩石	13.1	5.3	3.7	－	砂岩の円礫を利用する。両側面には使用による凹みがみられ、端部は剥離及び摩耗がみられる。微細ガラスを含む。重量 282g	
25	〃	〃	砥石	8.8	4.3	3.2	－	角柱状の砥石。両端は欠損。側面は四面とも使用により凹状の面をなし、向二面が顕著に凹む。石材は黄褐色の砂岩で、0.7mm程度の砂粒を含む。重量 142g	
184	〃	SK31	砥石	9.4	4.5	1.9	－	短冊状の砂岩製砥石。長軸の一端を欠き、側面は垂直に加工する。片面使用により凹む。黒色砂粒を含む。重量 100g	
191	〃	SD1	石包丁	10.2	5.9	1.3	－	打製石包丁。剥片背面に原礫面を残す。刃部は使用により鈍化し、微細剥離が認められる。重量 91g	
260	〃	P134	砥石	9.7	8.3	3.5	－	砂岩の礫を利用した砥石。一端が欠損するが、平行四辺形状を呈する。一端の側面がやや凹む。角部は摩耗により丸みを帯びる。微細ガラスを含む。重量 273g	
280	〃	Ⅲ層	硯	12.3	8.0	2.4	灰黄褐色 〃 浅黄橙色	表裏面で方向が対称となる海と磯を作り出す。両面とも摩擦による若干の凹みが認められる。表面の海・磯部に墨痕。裏面も使用したとみられる。微細ガラスを含む。重量 263g	
292	〃	Ⅳ層	砥石	11.0	5.8	3.3	－	砂岩の礫を利用した砥石。両面及び側面三面が使用により凹む。片面に使用痕が明瞭に認められる。縁辺部はやや剥離する。重量 305g	
388	南区	ST3	石包丁	8.7	5.0	1.2	－	打製石包丁。敲打により獲得した扁平な剥片を素材とする。短軸の両側縁を打ち欠き、抉り部を形成する。剥片形成時にできた縁辺を刃部とする。重量 61g	
389	〃	〃	石包丁	8.7	4.9	1.5	－	打製石包丁。剥片背面に原礫面を残す。刃部に微細剥離が認められる。頁岩製とみられる。微細ガラスを含む。重量 86g	
470	〃	ST6 カマド	支脚	11.0	10.0	9.3	－	砂岩の自然礫をカマド中央部の支脚として利用したもの。側立した二角錐状を呈し、上面は水平な面をなす。上面の一部が被熱により赤変し、煤が付着する。重量 1,088g	
537	〃	ST8	台石	14.7	11.7	3.7	－	砂岩の扁平な円礫を利用した台石。中心からやや外れた位置が、敲打を伴う使用により凹む。重量 831g	
556	〃	P802 (SB8)	叩石	14.5	5.7	4.8	－	砂岩の円礫を利用した叩石。平坦面を一面有する。側面に敲痕とみられる凹みが認められる。片側の端部に微細な剥離痕が認められる。微細ガラスを若干含む。重量 583g	
567	〃	SK54	叩石か	10.3	8.1	6.8	－	楕円球状の砂岩礫。片側の先端中央よりやや外れた位置に微細な剥離及び摩滅とみられる痕跡が認められる。重量 758g	
654	〃	SD1	石包丁	7.3	4.4	0.8	－	打製石包丁。背面に原礫面を残す。短軸の両側縁を打ち欠き、抉り部を形成する。刃部は微細剥離が認められ、やや摩耗する。泥質片岩製か。重量 36g	
807	〃	Ⅲ・Ⅳ層	砥石	5.3	2.8	1.9	－	表裏面の長軸片側側面寄りが使用により顕著に摩耗し、両側面も摩耗により凹む。泥岩製。重量 42g	
844	〃	Ⅳ層	石包丁	8.1	5.0	1.9	－	打製石包丁。両面は剥離し、原礫面を残さない。短軸の両側縁を打ち欠き、浅い抉り部を形成する。刃部は鋭利で微細な剥離が認められる。微細ガラスを含む。重量 90g	
845	〃	〃	石斧	13.1	5.7	3.3	－	磨製の扁平片刃石斧。片面の先端を研磨して刃部を形成する。側面に原礫面をやや残す。刃部の先端は欠損する。緑色片岩製。重量 425g	
846	〃	〃	石斧	12.9	5.7	1.4	－	扁平片刃石斧。全面を丁寧に研磨する。研磨により鋭い刃部を形成する。側面は垂直に近い面をなす。刃部先端に微細剥離が認められる。輝緑凝灰岩製とみられる。重量 213g	

番号	調査区	遺構層位	器形	法量（cm）			特徴	備考
				全長	全幅	全厚		
164	北区	SK25	不明鉄製品	(4.5)	(0.9)	(0.4)	柄部の断片か。断面形は隅丸長方形。片側先端は玉状に丸く成形する。重量 4g	
235	〃	SX1	不明鉄製品	(5.8)	(1.4)	(0.8)	残存部の中央付近が幅広となる。断面形は長方形。重量 9g	
471	南区	ST6	鉄鎌	(5.2)	2.2	0.4	鉄鎌の破片。基部に近い部位とみられる。残存部は直線的で、基部方向に厚みを増す。刃部は峰から若干厚さを減じて刃先に至る。重量 11g	
633	〃	SK71	鉄鏃	(3.8)	2.3	0.5	鉄鏃の鏃身部。平面形は菱形を指向する長三角形、断面形は平造り、鏃身関部はナデ関とみられる。重量 13g	
689	〃	P282	鉄鏃	11.8	1.6	0.5	有頸鉄鏃。鏃身部は平面形が菱形を指向する長三角形、断面形は平造り、鏃身関部はナデ関。頸部は断面形がほぼ正方形、頸部関は台形関に近い形状。茎部の断面形はほぼ正方形。重量 13g	
761	〃	P744	鉄鏃	(2.9)	(0.6)	(0.4)	有茎鉄鏃の茎部。断面形は隅丸方形。重量 2g	
808	〃	Ⅲ・Ⅳ層	鉄鎌か	(5.2)	(3.6)	(1.7)	鉄鎌の刃部の破片とみられる。刃部は湾曲する。重量 14g	

写真図版

北区　遺構完掘状態（垂直）

図版２

調査区周辺　空中写真（南より）

調査区周辺　空中写真（北東より）

北区 西部　遺構完掘状態(南より)

北区 中部　遺構完掘状態(南より)

図版4

北区 東部　遺構完掘状態（南より）

北区　北壁セクション（南西より）

ST1　セクション（南より）

ST2　遺物出土状態（北より）

図版6

SK1　セクション・遺物（64他）出土状態（東より）

SK1　遺物出土状態（東より）

SK10　遺物（113・115・118他）出土状態（南東より）

SK25　セクション（西より）

SK26　円礫出土状態（南東より）

SK35　機能面検出状態（北より）

SD1（北区）検出面　石列出土状態（南より）

SD1（北区）　セクション（南より）

図版10

南区　遺構完掘状態（垂直）

南区　遺構検出状態(垂直)

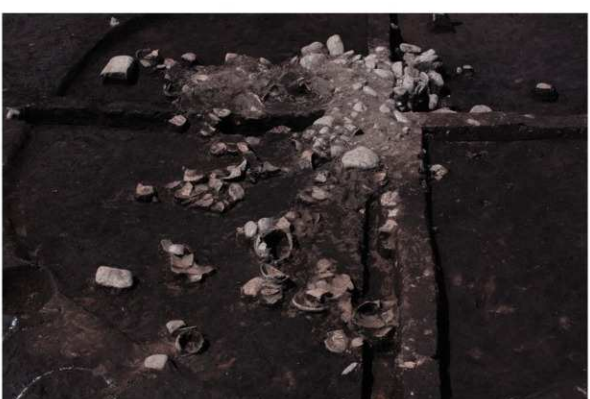
南区 南部　遺構完掘状態(南より)

図版12

南区 西部　遺構完掘状態（北より）

南区 東部　遺構完掘状態（垂直）

南区 西部　南壁セクション（北西より）



ST3　遺物出土状態（南より）

図版14

ST3　北半セクション（東より）

ST4　セクション（南より）

ST5　遺物(444・445・457)出土状態(東より)

ST6 カマド　遺物(460・464)出土状態(西より)

図版16

ST6 カマド　半裁状態（南西より）

ST7　北半セクション（西より）

ST8　西半セクション（南より）

ST9　セクション（西より）

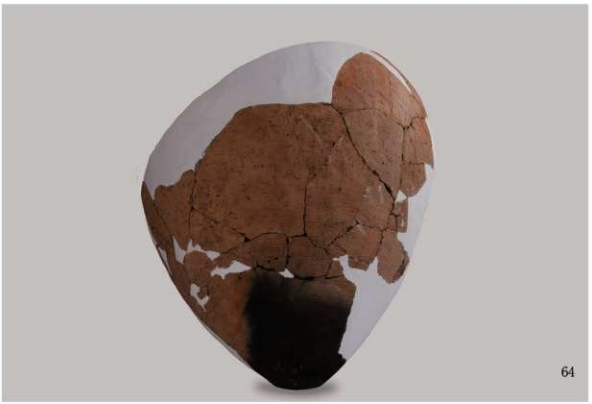
SD1（南区）　セクション（南より）

P282　遺物（689）出土状態（南より）

P829　遺物(780)出土状態(西より)

南区 Ⅳ層　遺物(846)出土状態(南西より)

図版20



27

28

29

30

31

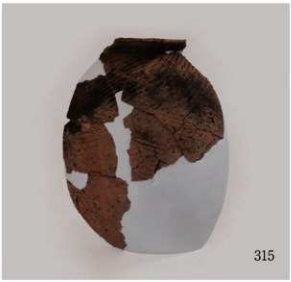
73

307

310

311

314


315

316

317

327

385

442

444

458

460

463

464

470

476

520

582

586

612

615

616

660

図版26

689

708

717

720

732

846

6

9

10

15

23

24

25

26

図版28

40

48

67

69

82

88

90

96

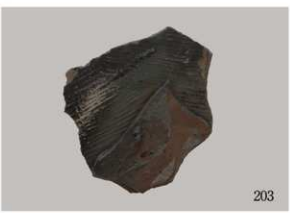
99

182

183

184

192


203

204

213

図版30

229

230

233

260

266

279

280

284

290

292

295

304

305

325

328

330

図版32

331

342

350

357

360

377

380

382

387

399

408

420

426

427

429

436

図版34

441

446

456

465

468

469

471

485

498

506

509

513

521

523

524

図版36

532

537

540

550

567

609

659

677

737

738

780

781

785

786

790

845

図版38

12

19

33

41

42

43

44

50

52

60

62

66

75

85

86

87

89

97

110

113

図版 40

115

118

137

153

176

190

191

197

205

217

224

226

231

235

267

276

281

282

283

285

図版 42

293

298

299

301

303

340

343

346

354

355

359

361

362

364

365

368

369

372

373

374

図版44

375

378

381

383

388

391

409

411

414

421

422

425

431

433

439

440

448

450

452

467

図版46

484

486

492

502

519

525

526

531

535

536

538

544

545

552

562 563

576

580

588

610

624

図版48

631

633

639

653

654

661

668

680

682

683

693

697

701

702

703

706

710

724

740

748

図版50

798

800

803

804

805

806

807

808

815

817

818

819

821

823

828

830

831

832

842 843

844

①昭和 47 年（1972 年）採集遺物（弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、土製品、丸瓦）

②昭和 49 年（1974 年）採集遺物（弥生土器）

③昭和57年（1982年）採集遺物（弥生土器、土師器、須恵器）

④昭和60年（1985年）採集遺物（弥生土器、土師器）

報告書抄録

ふりがな	にしのいせき
書名	西野遺跡Ⅲ
副書名	宅地開発に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	高知県香南市発掘調査報告書
シリーズ番号	第21集
編著者名	松井喬行
編集機関	香南市文化財センター（香南市教育委員会）
所在地	〒781－5453　高知県香南市香我美町山北1553－1
発行年月日	2024年2月29日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
西野遺跡（にしのいせき）	〒781-5232 高知県（こうちけん） 香南市野市町（かなんしのいちちょう） 西野1549番地他（にしの）	39211	200023	33° 33′ 50″	133° 41′ 11″	2021.4.1 ～ 2021.9.10	1,316.27㎡	記録保存調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西野遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 古代 中世	竪穴建物跡　9棟 掘立柱建物跡　11棟 土坑　77基 溝跡　37条 性格不明遺構　5基 ピット　872個	弥生土器 土師器 須恵器 黒色土器 瓦器 瓦質土器 貿易陶磁器 陶器 磁器 土製品 石製品 鉄製品	弥生時代、古墳時代、古代、中世の遺構・遺物を検出した。 弥生時代後期末～古墳時代初頭、古墳時代後期の竪穴建物跡を検出した。

要約

西野遺跡は、平成17年から継続的に発掘調査が実施され、弥生時代後期末～古墳時代初頭、及び古墳時代後期の竪穴建物跡を現在までに約60棟検出している。南に隣接する弥生時代中期の集落跡である北地遺跡が衰退した後、集落は北側に拠点を移し、古墳時代前期に集落の形成は一度断絶する。以降は古墳時代後期に再び集落は盛期を迎え、その後は古代、中世に至るまで断続的に生活が営まれたことが推察される。これまでの調査に加え、六次調査となる本調査において検出された竪穴建物跡をはじめとする遺構の分布を俯瞰することで、各時期の集落の規模や密度の推移が明らかになりつつある。

本書は、令和3年度に実施した発掘調査の調査成果である。

高知県香南市発掘調査報告書第21集

西 野 遺 跡 Ⅲ

宅地開発に伴う発掘調査報告書

2024年2月

発行　高知県香南市教育委員会
香南市文化財センター
〒781－5453
高知県香南市香我美町山北1553－1
Tel. 0887－54－2296

印刷　川北印刷株式会社